

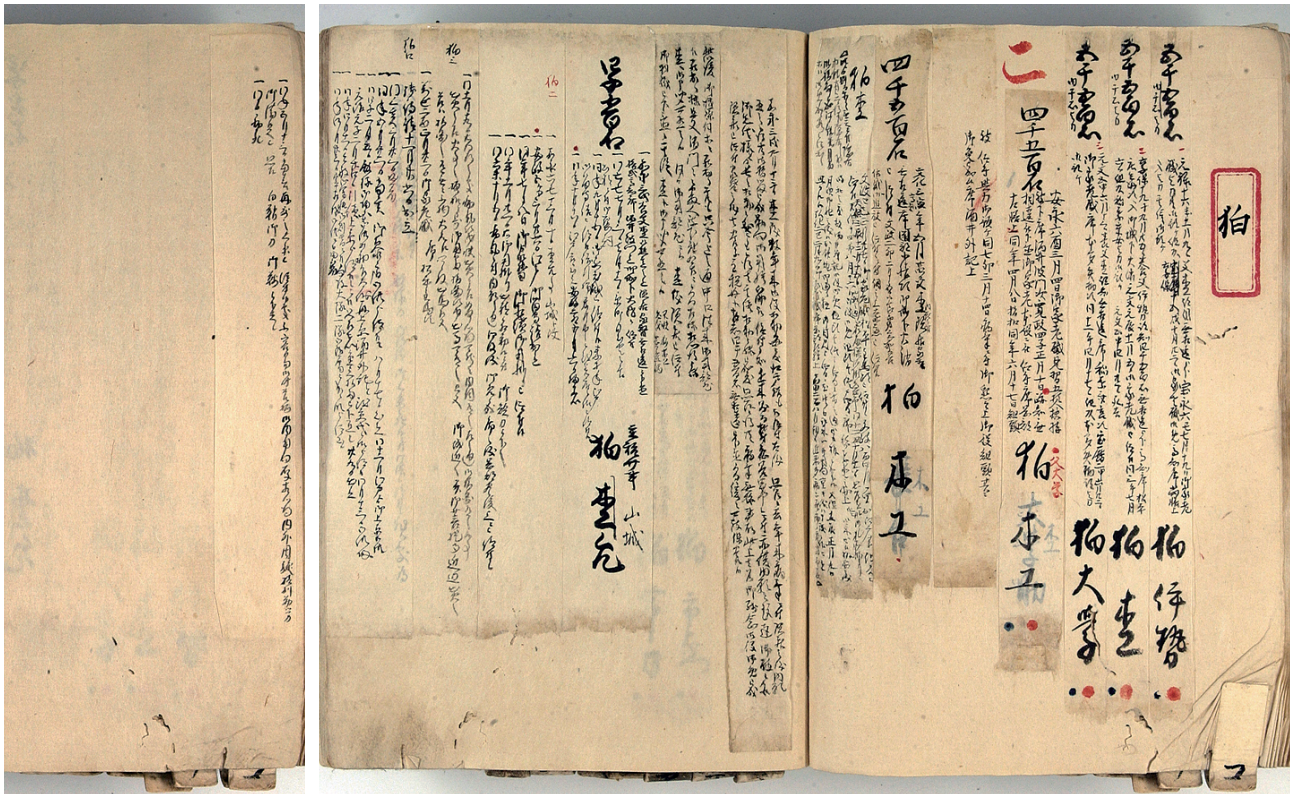
福井県文書館資料叢書11

福井藩士履歴

3

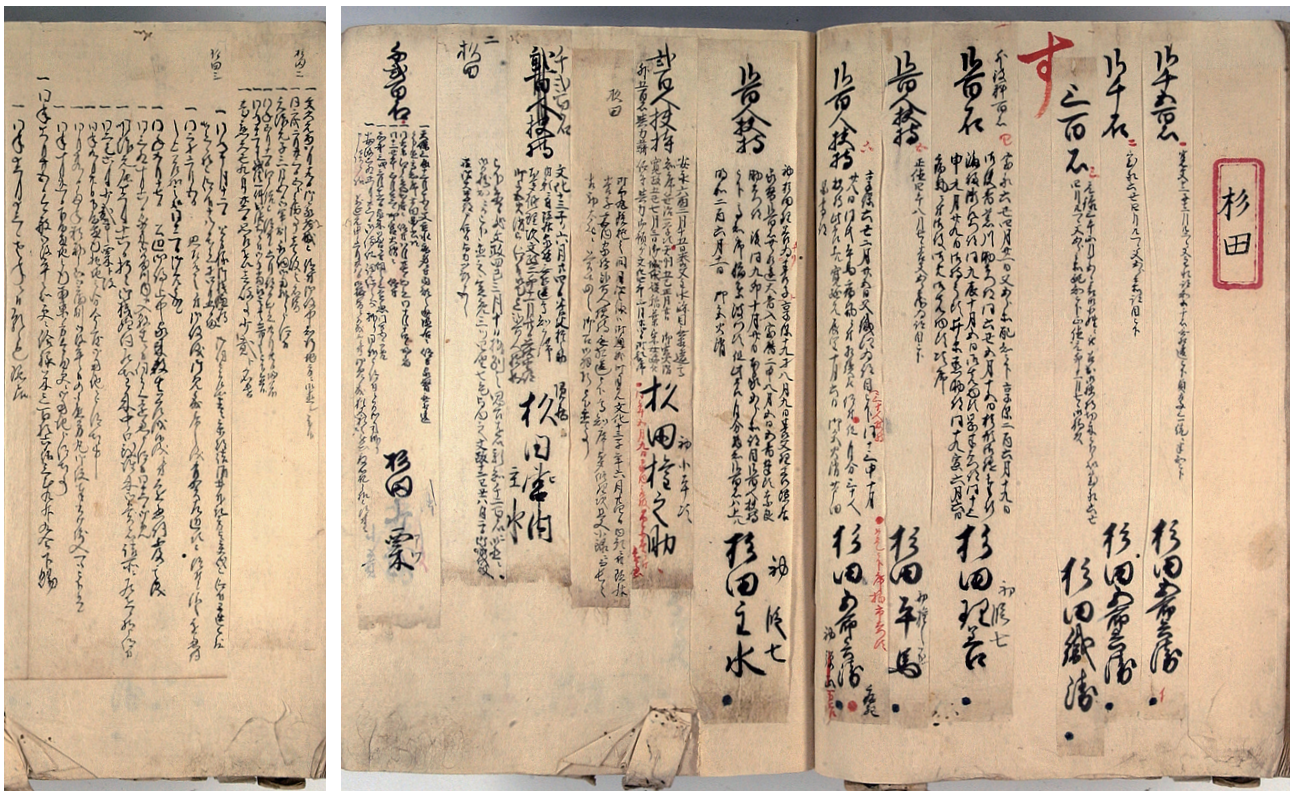
け  
そ





1 「剥札」 狛 1

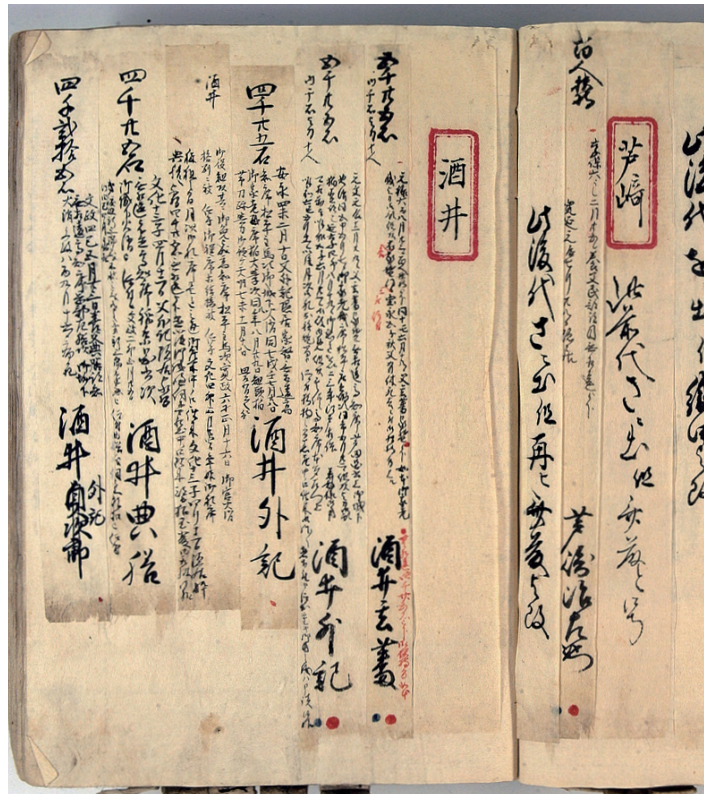
松平文庫 福井県立図書館保管



2 「剥札」 杉田 1

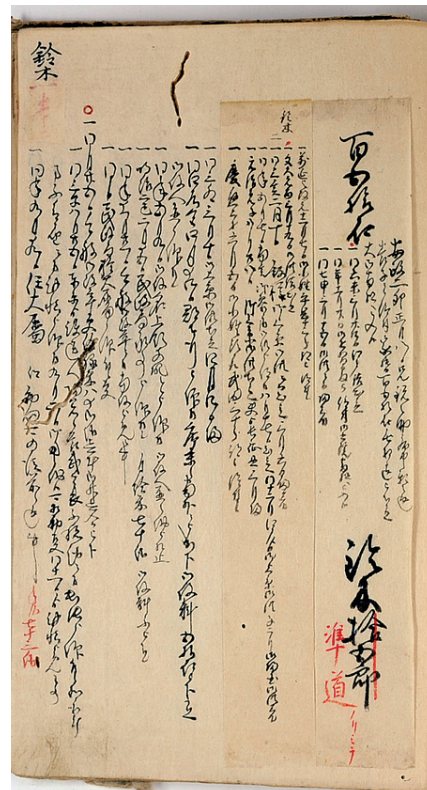
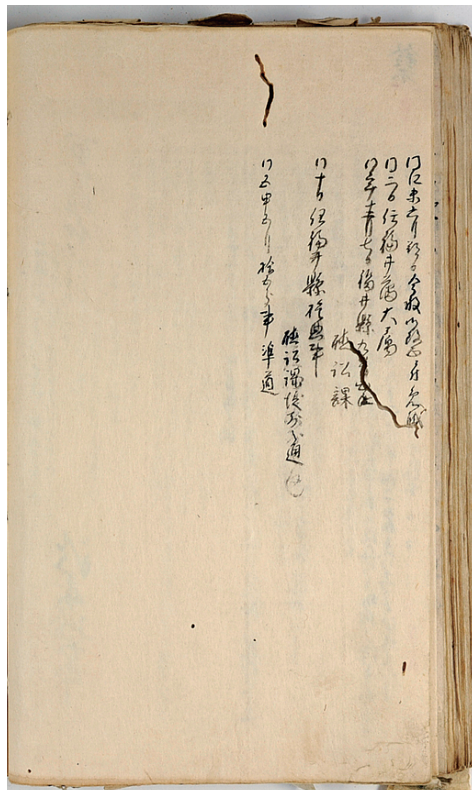
松平文庫 福井県立図書館保管





3 「剥札」酒井 1 他

松平文庫 福井県立図書館保管



4 「士族」鈴木準道

松平文庫 福井県立図書館保管



## 凡例

一、本巻は、福井県文書館資料叢書の第一冊目であり、『福井藩士履歴』全六巻中の第三冊目である。

一、本書の原本は、福井県立図書館に保管されている「松平文庫」のなかの「剝札」「士族」である。「剝札」は上・下、「士族」は一〜七で構成されている（三は欠）。このうち本巻では、けゝそまでを翻刻した。ただし「そ」については、「士族」三の「かよたれそ」が欠落しているため、「（士族略履歴）」（以下「略履歴」）にて補った。

一、資料の利用に資するため、巻末に参考資料を付した。

一、編集にあたっては次のように取り扱った。

(1) 「剝札」と「士族」または「略履歴」を連結して『福井藩士履歴』とし、翻刻、刊行することにした。その際、各家は原則として「剝札」の記載順とし、利用の便を考慮して五十音順に組み替えた。さらに同姓が複数ある場合は、家名にアラビア数字を付した。

(2) 原本の藩士名には貼紙・訂正・朱書などがあるが、次のように取り扱った。

・見出しの藩士名は現役最後の名前を示した。

・改名は藩士名に付されているもののみを、原則として古い順に並べて見出しの藩士名の下に記した。

・続柄など名前以外の記載については名前の下に記した。

・藩士名の次に石高・扶持米を記した。

(3) 出典が「剝札」以外のものは、藩士名の下に「士族」または「略履歴」と付した。

(4) 「剝札」の巻末および「こ」の終わりなどに貼られていた家は、該当する場所に入れて、※で原本の場所を示した。

(5) 「士族」のみに出てくる藩士は、該当する五十音の最後に配列した。

(6) 柱は、原則としてそのページの最初の段落における家名を示した。

一、翻刻にあたっては、原本の体裁にそうよう努めたが、読みやすくするために、また検索の便宜を図るため、次のように取り扱った。

(1) 使用字体は原則として常用漢字を用い、異体字は原則として正字に改めた。また変体仮名や合字は通常の仮名に改めたが、次に掲げるような仮名・俗字・慣用字句は残した。

躰(体)    斗(ばかり)    𠂔(より)    而已(のみ)    而(て)

江(え)    者(は)    与(と)    茂(も)

(2) 全文にわたって読点をつけ、あわせて文意が通じないものには(マヽ)などの傍注を付した。また明らかな誤字・脱字は訂正したものもある。

(3) 欠損・虫損等によって文字が判読できない場合には、□や□□で示した。

(4) 原本の平出・闕字などはすべて省略した。

(5) 追記・訂正など朱書はそのことを断らずに、適宜本文に反映した。

一、本書には、現在からみると基本的人権に関わる歴史的事象も含まれているが、地域の歴史的事実を正しく理解するために原文をそのまま翻刻することを原則とした。本書は人権尊重をめざし、史実にもとづく研究を進める立場から刊行するもので、この趣旨を理解し、利用していただきたい。

一、翻刻にあたっては田原健子氏(福井県文書館運営懇話会委員)が筆耕し、校合は吉田健氏(元福井県文書館文書専門員)と当館職員が行った。編集は吉田健氏のアドバイスをうけ、当館職員が行った。

一、資料の所蔵者である松平宗紀氏、筆耕に多大なご協力をいただいた田原健子氏に深く感謝申しあげる。



目次

口絵

凡例

一	福井藩士履歴	け	.....	1
二	福井藩士履歴	こ	.....	7
三	福井藩士履歴	さ	.....	53
四	福井藩士履歴	し	.....	151
五	福井藩士履歴	す	.....	189
六	福井藩士履歴	せ	.....	245
七	福井藩士履歴	そ	.....	267

解説

大妻女子大学短期大学部名誉教授

高木不二

参考資料

# 細目次

[illegible]





菅治権右衛門……	72	芦崎治左衛門……	79	榊原1	榊原孫作……	95	佐々木一雄……	103
菅治権右衛門……	73	斎藤喜五郎……	79	榊原助左衛門……			佐々木一有……	104
菅治権右衛門……	73	斎藤数馬……	79	榊原十郎左衛門……	88		佐々木一雄……	104
菅治兵庫……	73	斎藤源五郎……	79	榊原六右衛門……	89	坂野治部右衛門……	佐々木一雄……	104
菅治環……	73	斎藤数馬……	79	榊原助左衛門……	89	坂野兵吉……	佐々木曠……	105
菅治兵庫……	73	斎藤敏……	80	榊原助左衛門……	89	坂野八右衛門……	佐々木源左衛門……	105
菅治兵庫……	73	斎藤実……	82	榊原助左衛門……	89	坂野八右衛門……	佐々木倫助……	105
菅治環……	74	斎藤2		榊原十郎太夫……	89	坂野龜吉……	佐々木源三郎……	105
佐野1		斎藤利右衛門……	82	榊原一夫……	90	坂野丹吾……	佐々木庸行……	106
佐野又太郎……	75	斎藤次右衛門……	83	榊原7左衛門……	91	坂野四郎兵衛……	佐々木4	
佐野又太郎……	75	斎藤利右衛門……	83	榊原三左衛門……	91	坂野常善……	佐々木千尋……	107
佐野又太郎……	75	斎藤門太夫……	83	榊原七左衛門……	91	佐々木大之進……	佐々木5	
佐野内膳……	75	斎藤門太夫……	83	榊原仲八……	91	佐々木小左衛門……	佐々木衛士……	107
佐野内膳……	76	斎藤太門……	84	榊原幸八……	91	佐々木小左衛門……	榊木1	
佐野式部……	76	斎藤市右衛門……	85	榊原孫兵衛……	92	佐々木藤左衛門……	榊木治右衛門……	109
佐野影規……	76	斎藤鉄次郎……	86	榊原交八……	92	佐々木小左衛門……	榊木長左衛門……	109
佐野2				榊原3		佐々木権六……	榊木作之助……	110
佐野伊八……	78			榊原仁右衛門……	93	佐々木2	榊木2	
佐野文左衛門……	78	相馬		榊原十郎右衛門……	94	榊木休貞……	榊木七左衛門……	110
佐野主水……	78	相馬隼人……	86	榊原七郎右衛門……	94	榊木貞雄……	榊木七左衛門……	110
佐野弥三郎……	78	相馬久弥……	87	榊原生之助……	94	榊木貞隆……	榊木七左衛門……	110
佐野雄蔵……	78	相馬一九郎……	87	榊原孫作……	94	榊木貞雄……	榊木七右衛門……	111
斎藤1		相馬隼人……	87	榊原新兵衛……	94	佐々木栄順……	榊木登代太……	111
斎藤民部……	79	相馬恒……	87					



[illegible]

坂本平左衛門……	佐藤適斎……	洪谷權左衛門……	下山清左衛門……	嶋津勝右衛門……	171
坂本平兵衛……	佐藤甫……	洪谷權左衛門……	下山清左衛門……	嶋津十太夫……	171
坂本平兵衛……	佐藤 <sup>2</sup> ……	洪谷權左衛門……	下山彦三……	嶋津十太夫……	172
坂本佐之助……	佐藤專介……	洪谷權左衛門……	下山尚……	嶋津庄左衛門……	172
坂本岩雄……	佐藤寅三郎……	洪谷弥税……	下山 <sup>2</sup> ……	嶋津武門……	172
佐伯	佐久間	洪谷均……	下山半左衛門……	嶋津 <sup>2</sup> ……	173
齋木左次右衛門…	佐久間直……	洪谷外人……	下山半左衛門……	嶋津運平……	173
齋木左次右衛門…		洪谷 <sup>2</sup> ……	下山半左衛門……	嶋津右太夫……	173
齋木佐次右衛門…		洪谷与五左衛門…	下山半左衛門……	嶋津右太夫……	174
佐伯次郎助……	し	洪谷与五左衛門…	下山半左衛門……	嶋津右太夫……	174
才川	嶋田 <sup>1</sup> ……	洪谷五郎右衛門…	下山七郎左衛門…	嶋津水門……	174
才川又兵衛……	嶋田内藏助……	洪谷五郎右衛門…	下山登……	下川	175
才川市左衛門……	嶋田宇右衛門……	洪谷与五左衛門…	四王天……	下川弥次右衛門…	176
才川又兵衛……	嶋田清左衛門……	洪谷字平……	四王天又兵衛……	下川武太夫……	176
才川又八……	嶋田清左衛門……	洪谷精……	四王天又兵衛……	下川武右衛門……	176
才川曾登次郎……	嶋田清左衛門……	白石	四王天又兵衛……	下河三右衛門……	176
佐藤 <sup>1</sup>	嶋田清左衛門……	白石十郎右衛門…	四王天又兵衛……	下河半蔵……	176
佐藤貞順……	嶋田近江……	白石十郎右衛門…	四王天又兵衛……	下河三右衛門……	176
佐藤淳甫……	嶋田重民……	白石十郎右衛門…	四王天潔……	下河治平……	176
佐藤宗仙……	嶋田 <sup>2</sup> ……	白石十郎右衛門…	四王天数馬……	嶋川	177
佐藤宗甫……	嶋田九郎左衛門…	白石小十郎……	塩谷	嶋川門太夫……	177
佐藤尚敬……	嶋田九郎左衛門…	下山 <sup>1</sup> ……	塩谷貞右衛門……	嶋川源右衛門……	177
佐藤宗仙……	嶋田雪谷……	下山清左衛門……	嶋津 <sup>1</sup> ……	嶋川千太郎……	178
佐藤昌甫……	洪谷 <sup>1</sup> ……	下山甚兵衛……	嶋津庄左衛門……	嶋川源右衛門……	178



嶋川源八……………	嶋川耕造……………	白井茂左衛門……………	白井茂左衛門……………	白井荒四郎……………	白井斎宮……………	白井茂兵衛……………	白井久人……………	白崎……………	白崎甚兵衛……………	白崎源右衛門……………	白崎清左衛門……………	白崎甚兵衛……………	白崎仁内……………	嶋瀬……………	嶋瀬東右衛門……………	嶋瀬源哉……………	嶋崎1……………	嶋崎伝右衛門……………	嶋崎伝右衛門……………	嶋崎伝太夫……………	嶋崎長右衛門……………	嶋崎汎……………
178	178	179	179	179	179	180	180	180	181	181	181	182	182	182	182	182	183	183	183	183	184	
嶋崎2……………	嶋崎由右衛門……………	嶋崎竜哉……………	篠原……………	篠原長次郎……………	篠原長次郎……………	篠原八百太郎……………	篠原安津志……………		す……………	杉田1……………												
184	184	185	185	185	185	186	186	186														
杉田2……………	杉田五太夫……………	杉田小平次……………	杉田五太夫……………	杉田孫一郎……………	杉田五太夫……………	杉田五郎太夫……………	杉田五太夫……………	杉田成章……………	杉田清……………	菅沼1……………								菅沼2……………	菅沼市左衛門……………	菅沼与三……………	菅沼松次郎……………	
192	192	192	192	192	193	193	193	193	194	195								197	198	198	198	
菅沼市左衛門……………	菅沼十左衛門……………	菅沼次郎左衛門……………	菅沼主水……………	菅沼司馬……………	菅沼3……………	菅沼平兵衛……………	菅沼三十郎……………	菅沼小十郎……………	菅沼平兵衛……………	菅沼宗……………	菅沼4……………	菅沼五郎太夫……………	菅沼作平……………	菅沼五郎太夫……………	菅沼次郎四郎……………	菅沼巧……………	鈴木1……………	鈴木彦太夫……………	鈴木忠八……………	鈴木藤十郎……………	鈴木藤十郎……………	
198	199	199	199	199	200	200	200	200	201	201	201	202	202	202	202	203	204	204	204	204	205	
鈴木彦太夫……………	鈴木主税……………	鈴木伝之丞……………	鈴木重弘……………	鈴木2……………	鈴木忠右衛門……………	鈴木源兵衛……………	鈴木忠右衛門……………	鈴木清左衛門……………	鈴木源兵衛……………	鈴木忠太夫……………	鈴木力之助……………	鈴木牛兵衛……………	鈴木忠夫……………	鈴木3……………	鈴木甚五太夫……………	鈴木又吉……………	鈴木又左衛門……………	鈴木甚十郎……………	鈴木健吉……………	鈴木清八……………	鈴木五右衛門……………	
205	205	206	206	206	206	207	207	207	207	207	207	207	208	208	210	210	210	210	211	211	211	

鈴木新八郎……	212
鈴木藤吉……	212
鈴木新八郎……	212
鈴木政太郎……	213
鈴木藤吉……	212
鈴木新八郎……	212
鈴木仁太夫……	213
鈴木十左衛門……	214
鈴木小兵衛……	214
鈴木十左衛門……	214
鈴木十左衛門……	215
鈴木銳之助……	215
鈴木準道……	215
鈴木惣太夫……	216
鈴木忠左衛門……	216
鈴木忠左衛門……	217
鈴木源三郎……	217
鈴木平馬……	217
鈴木平馬……	218
鈴木外作……	219
鈴木百助……	219
鈴木百助……	219

鈴木百助……	219
鈴木礪二……	220
鈴木宇左衛門……	221
鈴木又左衛門……	221
鈴木市右衛門……	222
鈴木市右衛門……	222
鈴木市右衛門……	222
鈴木市藏……	222
鈴木金弥……	223
鈴木弥助……	224
鈴木弥右衛門……	224
鈴木弥五左衛門……	224
鈴木弥左衛門……	224
鈴木丹藏……	224
鈴木小弥太……	225
鈴木理兵衛……	226
鈴木門左衛門……	226
鈴木理兵衛……	226
鈴木作太夫……	226
鈴木利平……	227

鱸市郎左衛門……	227
鱸九郎右衛門……	228
鱸九郎右衛門……	228
鱸半五郎……	228
鱸九郎右衛門……	228
鱸長左衛門……	228
鱸重……	229
杉浦九郎右衛門……	230
杉浦幸右衛門……	230
杉浦源太夫……	230
杉浦雄藏……	230
杉浦九門……	231
杉浦正木……	232
須崎三郎右衛門……	232
須崎三太夫……	232
須崎市郎右衛門……	232
須崎与助……	233
須崎三郎右衛門……	233
須崎三郎右衛門……	233
須崎三郎右衛門……	234
須崎鷺助……	234

周防伊左衛門……	234
周防伊左衛門……	235
周防長右衛門……	235
周防三右衛門……	235
周防長兵衛……	235
周防猪左衛門……	235
周防謙介……	236
陶山六郎兵衛……	237
陶山与五左衛門……	237
陶山彦右衛門……	237
陶山左五太夫……	237
数賀山彦右衛門……	237
数賀山郡平……	238
数賀山彦右衛門……	238
数賀山久門……	238
杉山求馬……	239
杉山八三郎……	240
杉山階三郎……	240
杉山源十郎……	240
杉山寛……	241

末松覺兵衛……	241
末松覺兵衛……	242
末松嘉平……	242
末松久根……	243
菅坂養道……	244
菅原元春……	244
仙石喜左衛門……	248
仙石逸平……	248
仙石庄右衛門……	248
仙石出石……	247
仙石万右衛門……	246
仙石万右衛門……	246
仙石三左衛門……	246
仙石権右衛門……	246
仙石万右衛門……	246
仙石右近……	246
仙石右近……	246
仙石1	
せ	

仙石弥三郎……	248
仙石喜左衛門……	248
仙石喜熊……	249
千本	
千本長右衛門……	249
千本藤左衛門……	250
千本長右衛門……	250
千本長右衛門……	250
千本長右衛門……	250
千本長右衛門……	250
千本長右衛門……	250
千本長右衛門……	250
千本東岫……	251
千本弥三郎……	252
妹尾	
妹尾与左衛門……	255
妹尾次郎左衛門……	255
妹尾次郎左衛門……	255
妹尾与左衛門……	256
妹尾太郎左衛門……	256
妹尾与左衛門……	256
妹尾平八……	256
妹尾浜三郎……	256
関 <sup>1</sup>	
関甚五右衛門……	257
関甚五右衛門……	258

関甚五右衛門……	258
関平太夫……	258
関若三郎……	258
関与三吉……	258
関平太夫……	258
関良平……	258
関英治……	259
関 <sup>2</sup>	
関又十郎……	260
関藤太夫……	260
関藤左衛門……	260
関忠太夫……	260
関忠太夫……	260
関小善次……	261
関 <sup>3</sup>	
関幸左衛門……	261
関恒三郎……	262
関百太郎……	262
関忠次郎……	262
関 <sup>4</sup>	
関竜輔……	262
瀬尾	
瀬尾権八……	263

瀬尾権八……	263
瀬尾八左衛門……	263
瀬尾権八……	263
瀬尾卯之平……	263
瀬尾規代太……	264
清田	
清田文平……	264
清田謙蔵……	265
清田丹蔵……	265
清田基……	265
蘭田	
蘭田七郎……	268
蘭田七郎……	268
蘭田七五郎……	268
蘭田藤左衛門……	268
蘭田藤左衛門……	268
蘭田豊之助……	268
そ	

口  
絵

1 「剥札」 狛<sub>1</sub>

2 「剥札」 杉田<sub>1</sub>

3 「剥札」 酒井<sub>1</sub> 他

4 「士族」 鈴木準道



福井藩士履歴 3

け  
ゝ  
そ



一  
福井藩士履歴  
け



劍持久右衛門

百五拾石 外役料百石

元禄元辰二月十四日父久右衛門家督無相違被下、御長柄役之時五拾石御加増

宝永五子三月六日御長柄鍵奉行被仰付

劍持久右衛門

百五拾石

享保三戌三月六日父久右衛門隱居、家督無相違被下

劍持弥七

百五拾石

享保十七子十一月十一日養父久右衛門家督無相違、大番入

宝曆二申十二月廿七日死

劍持弥右衛門

百五拾石

宝曆三酉二月廿二日養父弥七跡知無相違、大番入

同十三未三月廿五日御手廻御書院番入

明和五子七月廿日御次詰

安永三年八月六日御近習番御免、大番入

文化元子六月十九日御纏奉行生駒藤兵衛跡

文化五辰五月廿一日隱居

劍持久右衛門 源八

百五拾石

文化五辰五月廿一日親弥右衛門隱居、家督無相違、大御番入  
文政四巳二月晦日相沢九郎右衛門跡筆頭被仰付

同十三寅十二月十日御留守物頭大谷一右衛門跡

天保四巳ノ七月五日御先物頭中山藤右衛門跡、御役料百石

天保十亥二月廿五日隱居

劍持久右衛門 弥作 弥八郎

百五拾石

一天保十亥二月廿五日養父久右衛門隱居、家督百五拾石無相違被下置、大御番組江被入

一同十三寅年江戸詰、三月廿三日出立

一嘉永元年申年江戸詰、四月十日出立

一同年五月 田安一位様御病氣二付、浅羽小左衛門殿差添罷越候処、六月五日御供二而出立

一同年十二月十五日田安一位様御様躰二付、田安様方御使浅羽小左衛門へ被差添、江戸表方御国表へ罷越、直ニ御出府御供相勤太儀二付御褒詞

一同五子六月十六日御金奉行被仰付候

一同七寅年五月九日江戸詰出立

一安政元寅十二月廿九日御軍制御改正二付、役儀其儘御留守番組へ被入候

一同四巳八月廿日役儀二付不念之儀有之、伺之上遠慮、同廿六日御免



一同六未六月十一日御勘定拝借奉行御趣意金取扱、松江三郎右衛門跡被仰付候

一文久二戌十二月十一日格式末之番外二被仰付、役儀之儀者御免被成候

一同三亥八月廿九日家屋敷浅見七郎右衛門家屋敷江替被下候

一同年十月七日御使番格二被成下、御役料之趣を以廿五石被下置候

一元治元子二月廿日有賀弁十郎家屋敷へ替被下候

一元治元子十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一同二丑二月廿二日隠居

### 劍持久太郎

百五拾石

文久三亥十月十三日中将様御上京御供被仰付、出立

一元治元子四月廿三日御供二而帰

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤候二付、銀壹枚被下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月帰

一同二丑二月廿二日親久右衛門年寄候二付隠居被仰付、家督百五拾石無相違被下置、大御番組へ被入候

一慶応二寅十二月廿六日仕長被仰付

一同三卯三月十日御上京御供出立、直御警衛詰、七月十八日帰

一同年八月十一日御趣意二付御留守番組へ被入候

一同四辰閏四月十九日弟已之助御咎二付伺之上指扣、同廿二日御免

一同年五月十一日今般御趣意二付無役組二被仰付候

一明治二己五月二日病身二付内願之通隠居

### 劍持弥三郎 久太郎弟

百五拾石

安政四己四月十四日年中荒川支合皆勤二付御褒詞

一万延元申十一月十一日御趣意通りも有之二付、来酉年太田御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置候、且又御都合も有之二付詰引揚、十二月十一日出立、文久二戌四月廿五日帰、同月三日太田御陣屋詰中長々横浜表江致出張候二付、御褒詞之上銀式枚被下置候

一文久二戌十月六日今度農兵御端立二付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候

一同三亥正月廿五日廿五歳罷成候二付三人扶持御扶助被成下候

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑三月帰

一同年九月十二日農兵教授手伝御免被成候

一慶応二寅四月十一日本多興之輔へ増御附属被成、大坂表江出張被仰付候、支度罷在御指図次第出立被仰付候

一同年六月十一日御差図次第出張被仰付置候処御免被成候

一同年十二月廿六日御先第三小队指添被仰付

一同三卯十二月廿六日支度出来次第上京被仰付、廿九日出立

一同四辰正月六日在京中参与附属并軍事方手伝之儀も相心得、大谷儀左衛門申談相勤候様被仰付

一同年三月十一日在京中第一遊撃隊御雇被仰付候

一同年四月廿五日遊撃隊へ被召出五人扶持被下置候、但當春以来格別骨折

二付御褒詞

一同年閏四月十二日從京帰

〔士族〕

一同月十九日弟已之助御咎二付伺之上指扣、同廿二日御免  
 一同年六月十一日同姓久太郎実子無之二付相統願之通被仰付、依之遊撃隊  
 江被召出候義ハ御免被成候

一同十七日遊撃隊へ被召出、五人扶持被下置候

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、已二月廿二日出張二付十三  
 両被下、外二五百疋

一明治二已五月二日同姓久太郎病身二付内願之通隠居被仰付、家督百五拾  
 石無相違被下、遊撃隊江被入候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米八十式俵壹斗式升壹合被下

一同三年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉勵二付、御賞典之内十石十ヶ  
 年令頒授候事

一同年五月廿四日第一大隊四番小隊入被仰付候事

一同年十二月 予備二番隊 年給貳俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

一同年六月五日依願給禄之内貳拾五俵弟甚三郎へ分禄之事  
 米五拾七俵壹斗式升壹合

慶増

慶増安太夫 山県大学方与力方

廿三石五人

一嘉永五子十一月十四日内願之趣も有之代々師役相勤来、此後猶更家業引  
 立方格別之御評議を以被召出、新番組へ被入候、乍併御充行之儀ハ御時  
 節柄之儀二付、廿三石五人扶持被下置候

一安政四已四月廿二日数代指南相勤、別而近来出精相勤太儀思召候、依之  
 御目録銀五枚被下置候  
 一同年十月十一日病死

慶増左内 亮助 安太夫 実土屋市左衛門弟

廿三石五人

〔士族〕

一安政四已十二月三日慶増安太夫病中願之通養子二被仰付、家督廿三石五  
 人扶持無相違被下置、新番組へ被入候

一同日家督被下置候得共家業未熟之趣二付、指南之義ハ追而可被及御沙汰  
 候、依之山田伝右衛門へ相手寄可致修行、其上大橋金兵衛後見被仰付候、  
 右兩人始功者成弟子共江も厚申談、流儀致修練候様被仰付候

一同日先代安太夫次代安右衛門鎗術拔群之名譽有之候二付被召出候、其後  
 代々流儀致相伝来事二候得者、愈家声を落し不申様流儀可致精練候、若  
 等閑二相成候而ハ不相済候間、此段厚相心得候様被仰付候

一同六未三月廿日流儀之鎗指南被仰付候

一文久三亥正月十六日宮塚源吾家屋敷与相对替願之通被仰付候

一同年九月廿七日家屋敷山本敬次郎家屋敷へ替被下候

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月四日帰

一慶応二寅十月廿二日役新番組二被仰付候

一同年十二月安太夫与名替

一同四辰五月十一日今般御趣意二付、役中御留守番組江被入候

一同年六月廿日役御番組江被入候

一明治二已二月廿日槍術師役已来被免候

但相手寄候者へ相談可為勝手事

一年來流儀致世話勤勞被思召候、仍式千五百疋被下候

一御広間当番相勤可申事

一同年六月廿一日安太夫事左内卜改

一同年十一月廿五日今般御改革二付、更給禄米五十俵壹斗五升被下

一同年十二月五日修業隊被仰付候事

一同三年六月廿二日第一大隊五番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備三番隊 年給六俵

一同四未四月十五日依願給禄之内式拾俵養子喜太郎へ分禄被仰付候事

米三拾俵壹斗五升

一同年十月十三日解隊

一同年十二月十五日養子喜太郎合禄願之通

米五拾俵壹斗五升





二 福井藩士履歴 こ



狛伊勢

五千五百石 内千石与力

元禄十六未十一月九日父木工跡目無相違被下

宝永六丑七月十九日御家老職、与力共御預ケ、組頭

享保十五戌十月廿二日御家老職御免、高知席尚膳上へ入、与力其儘御預

ケ

狛木工

五千五百石 内千石与力

享保十九寅九月廿五日養父伊勢跡知四千五百石無相違被下、高知席松平

庄兵衛次へ入、御城下火消

元文元辰十一月五日御家老職被仰付

同三年七月六日組頭稲葉采女与力御預ケ

元文五申四月廿一日死去

狛大学

五千五百石 内千石与力

元文五申六月十三日養父木工跡知無相違、席稲葉扇宮次

宝曆二申六月廿二日御家老職、席本多矢柄次

同十二年四月十七日組頭本多矢柄跡、与力御預ケ

狛木工 大学助

四千五百石

安永六酉三月四日御家老職見習五拾人扶持被下、席酒井波門次

寛政四子正月十日父大学跡知無相違被下置、御家老本役二被仰付、席岡

部左膳上

同年四月八日指扣

同年六月十七日組頭被仰付、与力御預ケ

同七卯三月十四日病氣二付御懇之上御役組頭共二御免被成候、席酒井外

記上

狛木工 長吉

四千五百石

文化三寅年五月廿四日父木工内願二付隠居、家督無相違、高知席岡部小

膳次、御城下火消被仰付

文政二卯二月十五日養弟多賀谷佐織御追放被仰付候二付、伺之上遠慮被

仰付候

文政四巳正月廿七日御家老職松平主馬跡被仰付候

文政八酉四月十四日於江戸表組頭被仰付

天保三辰十二月十五日若殿様御附兼帶

同十二丑十月十六日思召を以御札所掛り

天保十四卯八月十六日御役御免、組頭其儘被仰付、席稲葉愛之助上、但

シ以来御取扱筋之義、明和之度故酒井外記御役御免、組頭其儘被仰付候

節之通、御取扱被成下候

天保十五辰正月九日月次御札之儀ハ於鉄砲御通り懸御目見被仰付候、尤

中ノ口往来ハ御用向重キ儀ハ申渡候様ニと思召候

弘化二巳二月九日御家老職、席岡部左膳上

嘉永二酉八月朔日近來多病ニ罷成候處、当夏初頃々別而爾々無之二付、隱居内願有之候得共隱居之義ハ御指留被成、江戸詰并月番等ハ御免被成候段被仰出候

嘉永三戌九月十三日木工儀數年來御役相勤、每度江戸詰も被仰付太儀思召候、去年來病氣ニ付隱居之儀内願有之候得共、御指留被成勤向御用捨筋被仰付候處、近來別而鬱症差募候ニ付、亦復内願之趣達御聴候處、御先代様方長々相勤候義ニも候得者、其儘相勤候様被成度思召候得共、病氣無拋事故、此上者乍御残念御役御免被成隱居被仰付、家督之儀者養子主税介江拜知四千五百石無相違被下置候間、緩々可致保養候、此以後御機嫌伺等ニ罷出候節も、只今迄之通中ノ口往來御用部屋江罷出候様、且又御門々々番人致下座等ニ候間、左様相心得候様木工へ御申聞可有之候、同日御用部屋ニ而木工儀隱居被仰付、御羽織被下置候、其段木工江御申聞可有之候、不快、狛木工、名代、養子造酒

狛山城 主税介事 木工允

四千五百石

一嘉永三戌養父木工御懇意之上隱居、家督無相違被下置、格式高知席酒井波門上、御城下火消被仰付

一同六丑七月三日去月十二日京町方出火之節、出精ニ付御褒詞

一同年九月十五日御家老職被仰付候、來寅年江戸御留守詰被仰付、詰引揚來月中被致着府候様被仰付候

一同年十月十八日江戸表へ出立、安政二卯五月六日帰着

一嘉永六丑十二月十日木工允事山城卜改

一安政五午三月廿六日江戸御留守詰出立

一同年七月八日御家督御相続御用掛り被仰付候

一同年十一月廿一日右御用掛り出精被相勤候ニ付、御短刀被下之

一同六未十月五日病氣ニ付、内願之通御役儀御免被成、席之儀岡部豊後上ニ被仰付候

一同十一月十九日右同断之處、病氣次第快、出火之節如何心得可然与内伺有之、左之通御指図有之候事、出火之節火事之模様ニ寄御用番指図次第出馬可有之、且又御城近く并御菩提寺近辺出火之節ハ、指図之有無ニ不拘火元江可被致出馬事

一万延二酉正月廿二日御家老職、席松平主馬次

一文久元与改、八月十九日組頭被仰付候

一同二戌十月廿八日來春御上洛之節殿様為御待請御上京被遊候ニ付、御供被仰付候、然ル處為御待請十一月廿六日出立

一同三亥三月廿三日帰着

一同年五月廿二日当亥御参府御供被仰付候、八月十七日出立、同十二月江戸方御上京御供

一同四子二月五日殿様御帰国御供相勤、乍太儀再上京酒井外記と致交代候様被仰付、同月十三日御供帰

一元治元子二月廿四日引続上京被仰付候ニ付、思召を以金三拾兩被下置候、廿九日出立

一同年四月十一日今般御軍帳御割替ニ付、向後大隊二隊御附属被成候段被仰出候

一同年四月廿三日宰相様御供ニ而帰着

一同年五月十三日当春再度之上京被仰付候處、不容易御時節柄御内用向厚

相心得、内外周旋格別勤勞御満足被思召、白鞘御刀御鞍被下置候

一同日病死

狛元<sup>ハジメ</sup> 主税助<sup>アツシ</sup> 淳士

〔士族〕

四千五百石

一元治元子七月二日親山城家督四千五百石無相違被下置、高知席岡部豊後上、御城下火消被仰付候

一同年七月十一日調練掛り被仰付、且又酒井外記方芦田信濃与農兵一組ツ、御附被成候間、厚申談致世話候様被仰付候

一同年十二月賊徒一件出張、右ニ付御手当銀式貫式百匁被下置候

一慶応元丑七月十二日臨時御先手手頭代り可被仰付候間、調練之義兼而組頭へ申談致世話候様被仰出候

一同二寅九月十七日公辺御停止中家来殺生差越候ニ付、遠慮伺不及其儀

一同年十一月五日願之上江戸表江出立、卯三月六日帰

一同三卯三月十二日定座以上調練之儀致世話候様被仰付

但右ニ付兵学所江も罷出致修行候様被仰付

一同年七月廿一日調練掛り御備頭申談相勤候様被仰付

一同年九月廿九日調練掛り被仰付置候処御免被成候

一同四辰八月晦日今度越後表江出兵之儀弁事務局方御達ニ付、二番狙撃隊引纏早々出張被仰付、九月六日出立、巳二月六日帰、同廿二日右出張ニ付

御手当七両被下候

一明治二巳五月十六日兵学所詰被仰付

一同年六月十七日主税介事淳士ト改

一同年十一月廿五日今般御改革之処、更ニ給禄米七百三十拾壹俵壹斗壹升四

合被下候

一同日触頭支配被仰付

一同年十二月五日修業隊被仰付候事

一同三午三月二日下屋敷地可致返上候事

一同月八日今般両屋敷之内一ヶ所返上被仰出候処、往々下屋敷江移転仕度、右下屋敷御用之地所御取除之上跡志願之通被仰付

一同年五月廿四日第一大隊四番小隊入被仰付候事

一同年八月十四日は迄之建物御用被仰付候事

一同年十一月 屋敷御用ニ被仰付候ニ付金五百両被下候事

一同年十二月 予備一番隊

一同四未二月十五日依願給禄之内百俵弟林之助江分禄被仰付候事

米六百三十拾壹俵壹斗壹升四合

一同年三月十九日依願給禄之内百俵弟重馬も分禄被仰付候事

米五百三十拾壹俵壹斗壹升四合

一同年十一月三日今般由緒之有無ニ不拘朱印地除地一般上地被仰出候ニ付、

従来所持之石間歩可致返上事

一同五申五月淳士事元<sup>ハジメ</sup>



狛林之助 林之助 熊勝 淳士弟 明治三午廿三歳

〔士族〕

文久三亥三月廿七日今度蒸氣船御出来ニ付、為運用長崎表江罷越候様被仰付、四月三日出帆、五月十四日帰

一元治元子十月 長征出立、丑二月帰



一同年十二月 熊勝ト名替、然ル処洋行中林之助ト改由

一慶応元丑閏五月十八日補兵隊被仰付

一同二寅三月十日定座番外以上、補兵隊之義ハ御趣意ニ付被相止候

一同年八月十一日調練掛り被仰付

一同年同月廿九日文武共未熟ニ付志願之旨も有之、当秋方来卯ノ秋迄長崎

表江罷越広□致度旨願之通被仰付、翌晦日出立

一明治二巳八月十三日東京ニおゐて外務省方左之通御達

一昨年秋已来英国竜動ニ留学罷在候処、於彼地専勉精勤学之旨相

聞候ニ付、壹ケ年為学費英金百五十ポント為宛行被下候事

一同四未二月十五日被召出、同姓淳士給禄之内百俵被下、非役江被入候事

米百俵



# 狛市右衛門

千五百石 内五百石与力五人

元禄二巳八月十一日百人扶持被下

享保八卯三月十五日新知七百石、有賀隼人次、松岡為惣締被遣候旨

同十巳四月二日三百石役料被下、御城代萩野孫右衛門跡

同十九寅七月十九日御役料本知ニ御ムスビ、都合千石ニ被成下

元文五申五月十六日隠居

## 狛帶刀

千四百石

元文五申五月十六日養父市右衛門隠居、家督無相違、高知席有賀内記次

寛保二戌十一月十六日御家老職、貳百石御加増本多縫殿跡

延享二丑三月朔日御預所御用掛り

延享三寅八月十八日貳百石御加増

## 狛帶刀 茂十郎

二千六百石 内千石与力

宝曆九卯三月十日父帶刀跡知無相違、席有賀極人次、御城下火消

明和四亥三月七日御家老職、席酒井与三左衛門次

安永二巳十二月十日御勝手懸り

同三年十二月十四日組頭酒井与三左衛門跡、与力御預ケ

同六酉三月四日貳百石御加増

同八亥七月十七日思召有之、御職組頭共御免、遠慮、席稻葉采女次

寛政四子三月廿五日御家老職、席岡部左膳次

同年六月十七日組頭被仰付、与力御預ケ被成

同十一未屋敷添地拝領

文化三寅十月十二日隠居、十人扶持被下

## 狛帶刀

千六百石 外二千石与力

文化三寅十月十二日父帶刀年寄内願ニ付隠居、家督無相違、高知席酒井

外記次、御城下火消

同年同月廿三日御家老職、酒井縫殿之助次

文化十二亥八月十六日組頭被仰付、江戸表方奉書

文政七申四月廿八日思召を以御札所懸り、江戸へ奉書  
同十三寅十月十三日隠居

狛帶刀 茂十郎

千六百石

文政十三寅十月十三日親帶刀年寄耳遠二相成、内願之上隠居被仰付、家督千六百石無相違被下置、高知席本多筑後上  
天保五年二月病死

狛帶刀 茂十郎事

千六百石

一天保五年三月廿九日親帶刀家督千六百石無相違、高知席稲葉采女次、御城下火消被仰付

一同六未年江戸立帰出府、八月廿五日出立

一同十四卯三月廿一日夜出火二付伺遠慮被仰付

一同年八月十九日御家老職、席有賀内記方次

一弘化二已江戸詰、御供二而三月廿一日出立、翌午五月十二日御供二而帰着

一同三年閏五月廿六日於御前組頭被仰付

一嘉永五子閏二月十四日病死

狛讃岐 仲

千六百石

一嘉永五子四月三日養父帶刀家督、千六百石無相違被下置、高知席酒井波

門次、御城下火消被仰付候

一同年十二月廿八日讃岐与名替

一同六丑七月三日去月十二日京町へ出火之節、出精二付御褒詞

一同七寅六月十三日御城下塩町へ出火之處及大火候節、出精之段御褒詞

一同年九月六日病死

狛帶刀 釜作 茂十郎 実岡部豊後次男

千六百石

一嘉永七寅年十月廿一日狛讃岐病中願之通養子二被仰付、家督千六百石無相違被下置、高知席岡部豊後次、御城下火消被仰付候

一安政元寅十二月廿八日茂十郎与名替

一同五年十一月六日帶刀与名替

一万延元申六月廿八日御備組調練掛り同様被仰付候

一文久二戌正月十六日当夏御帰国御札使者御内意被仰付候、五月十七日出立、七月廿六日帰

一同年十二月廿五日支度出来次第上京被仰付候

一同三亥二月十一日上京出立、三月五日帰

一同年四月五日今般農兵御派立二付一組御附被成、其手之面々并掛り西尾十左衛門等江厚申談、万端引受被致世話候様被仰付候

一同四子二月廿日御家老職、農兵之儀是迄之通

一元治と改元、四月十一日、昨年農兵一組御附被成候處、今般御軍帳御割替二付御免被成候、且又狛山城方在京留守中、山城方江御附之農兵二組共万端引請被致世話候様被仰付

一同年六月十四日農兵一組御附被成候

一元治元子七月四日京都へ出立、同十四日帰着

一同年七月十八日今度於御道中先再命有之儀を致違背、自己之了簡を以押  
而及上京候段、重々不届至極ニ被思召候、急度も可被仰付処、其後引戻  
し候儀も有之、且代々之内勤功も有之二付、格別之御憐愍を以蟄居被仰  
付候

一同年十二月六日今般非常之儀ニ付、格別之思召を以於家内一家対面御免  
一慶応三卯六月廿五日以来隠居之御取扱ニ被成下候様、逸也与号

狛与祚松 政之助 帶刀 政之助

〔士族〕

千六百石

一元治元子七月八日同姓帶刀儀今度於御道中先再命有之義を致違背、自己  
之了簡を以押而及上京候段、重々不届至極ニ被思召候、急度も可被仰付  
処、其後引戻候儀も有之、且代々之内勤功も有之二付、格別之御憐愍を  
以蟄居被仰付、政之助へ家督相続被仰付、千六百石被下置、高知席本多  
修太郎次へ被入、御城下火消被仰付遠慮被仰付、八月八日御免  
一同年十二月賊徒一件出張、右二付御手当銀貳貫貳百匁被下置候  
一慶応元丑七月十二日臨時御先手手頭代り可被仰付候間、調練之分兼而組  
頭へ申談致世話候様被仰出候

一同二寅八月十一日当分御旗本調練致世話候様被仰付

一同年九月十七日公辺御停止中家来殺生差越候儀ニ付、遠慮伺不及其儀

一同年十一月四日政之助事帶刀与名替

一同五日願之上江戸表江出立、卯三月六日帰

一同三卯三月十二日定座以上調練之儀致世話候様被仰付

但兵学所江も罷出致修行候様被仰付

一同年七月廿一日調練掛り御備頭申談相勤候様被仰付

一同年九月廿九日調練掛り被仰付置候処御免被成候

一同年十二月十四日殿様御上京御供被仰付、且又子弟輩御供之面々差配被  
仰付

一同四辰四月廿九日軍事方被仰付

一同年八月十六日三番之御備頭松平貫之助跡被仰付、御城下火消之儀ハ御  
免被成候

年始を初御礼席之儀高知嫡席ニ被成下候

一御座所御門下馬御門三ノ丸御座所御門致下座候事

但小筒組致下座候事

一中ノ口往来可致事

一折々御機嫌伺罷出候様被仰付候事

一明治ト改元、九月廿六日庄内口江戦地為斥候被遣候ニ付出立、十月十七  
日帰

一明治二巳二月十六日今般御改革ニ付御備頭被廢候、仍御役義御免被成候

一同日大隊長被仰出候事 月給百俵

一同年三月十七日酒井孫四郎上京ニ付附添被仰付、大隊長之儀ハ被免候、

同十九日出立、夫方東京江罷越、七月十一日帰

一同年六月 帶刀事政之助ト改

一同年八月二日大隊長被仰出候事

但月給米一年分百俵被下候事

一山県三郎次

一同月十日政之助事与祚松ト改

一同年十一月廿五日今般御改革之処、更ニ給禄米四百廿貳俵貳斗貳升八合

下賜

一同月廿七日今般御改革ニ付解隊被仰出、当役被免  
一同年十二月五日修業隊被仰付候事

一同三午七月三日今度開成所開館之節入学、来未七月迄東京江罷越度旨願  
之通被仰付、同十六日出立

一同年閏十月廿五日修業列名目被廢非役卜唱

一同年十二月十八日屋敷地之内西南ノ方ニ而式百四十六坪御用地相成候事

但委細之儀ハ監正寮江可承合事

一同四未三月十九日依願給禄之内式百十俵同姓逸也江分禄被仰付候事

米式百拾式俵式斗式升八合

一同月 実母大病ニ付対面願之通再上京

一同年十一月廿五日養父逸也へ式百俵分禄之处合禄願之通

米四百廿式俵式斗式升八合如元被下

一同 東京府貫属願之通、十二月出立

小林<sup>1</sup>

小林又右衛門 初田嶋

百五拾石 外役料百石

元禄十四巳三月七日於江戸御切米被下、御部屋附

正徳元卯十一月七日新知被下

同二辰五月廿九日江戸ニ而御腰物奉行

享保四亥二月廿五日小馬印奉行坂井善八アト

同八卯八月六日五拾石御加増御先物頭長ノ八太夫跡

同十三申五月九日江戸御目付被仰付、望月八郎右衛門跡  
元文三午四月廿一日御役御免、席御先物頭次被仰付、御役料上ル  
同五申五月十六日隠居

小林直記 金藏

百五拾石

元文五申五月十六日養父又右衛門隠居、家督無相違、大番入

同年閏七月九日奥御小性被仰付候

寛保二戌十二月朔日死

小林又右衛門

二百石 役料百石

寛保三亥正月廿一日養父直記跡目無相違被下、大番

宝曆十一巳正月十六日江戸御聞番、御役料百石、御使番順席津田九右衛

門跡

明和三戌正月晦日御先物頭順席

同五子七月十三日横田作太夫跡、弓組御預ケ

同年十一月二日長袴格中根九右衛門次

安永五申十一月五日御奉行服部吉左衛門跡

同八亥正月廿八日御足高五十石

同年七月廿日御預所元締渥美新右衛門跡

同九子五月廿七日御奉行兼帶

天明二寅正月廿日兼帶御免

同四辰五月廿四日当秋町奉行渥美新右衛門跡、与力御預

寛政六寅正月十六日年来重キ御役義共出精相勤候ニ付五十石御加増、都合貳百石ニ被成下

小林又右衛門 金兵衛

貳百石

安永七戌七月七日御小姓見習被召出、御合力銀十五枚被下置

天明二寅十一月廿四日御小姓本役

同六年十二月廿日御小姓頭取

同七年八月十二日御近習番御書院番入

寛政三亥十一月廿九日御裏役

(同五正月廿八日)  
部屋住ニ付被召出、御趣意ニ付父子勤御免、親へ御返し被成候

寛政九巳九月廿日父又右衛門隠居被仰付、家督無相違、大番入

同月廿五日御小性

同十年三月廿四日於江戸御小性頭取

同十一年九月十八日中将様御附御用人支配被仰付

同十二年二月廿九日末ノ番外御時宜役

文化四卯二月六日御留守作事奉行小木藤右衛門跡

文化八未二月七日杉形御鍵奉行下山半左衛門跡、役料百石

同十四二月廿七日御持弓頭屋敷奉行兼下山半左衛門跡

文政五年六月廿四日御奉行小宮山伝七跡

文政六未十二月二日病身内願ニ付御役御免、御役料其儘被下、席高橋吉

兵衛跡

文政七、二月六日病死

小林又右衛門 作助

貳百石

一文政七申年三月十五日親又右衛門家督貳百石無相違被下置、大御番組江被入

一同十二年丑年二月十六日御近習番被仰付、御書院番組江被入

一同年江戸詰被仰付、三月廿八日出立

一同十三年寅年十一月七日御小姓被仰付、席下ノ三人目江被入

一天保三辰年 内願ニ付御小姓御免被成、大御番組江被入

一弘化二巳年三月十六日御書院番組江被入

一嘉永五子七月十九日格式末之番外ニ被仰付候

一同七寅十月 病死

小林直記 勘之助

貳百石

〔士族〕

一嘉永七寅年十一月廿日親又右衛門家督貳百石無相違被下置、大御番組へ被入候

一安政四巳四月十四日鎗術出精之段御沙汰ニ候

一同年五月廿九日御製造方見習被仰付、火薬製法振退相勤候様被仰付候

一同年十月三日幼年ノ多病罷在文武修行足張り候稽古も出来兼、漸一兩年

病氣致平癒候処、近來文武之儀ニ付而ハ重キ被仰出も有之候折柄、今一

際文武致精勤度候得共、当夏御製造方見習被仰付、右役所之儀ハ当節日

々繁多ニ付文武修行も難出来、然処文武共下地未熟之事ニ候得ハ心底不

安ニ付、当巳年ノ来ル亥年迄七ヶ年之間、右役所勤向之儀御用捨被成下

候様内願之通被仰付候

一同七申閏三月十一日御近習番被仰付、御書院番組江被入候  
一文久元酉三月十九日御供詰出立

一同年十月廿日御小姓中根喜三太跡被仰付候

一同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日帰着

一同年五月七日当亥御参府御供被仰付、八月十七日出立、同十二月江戸<sup>方</sup>

御上京御供、子二月御帰国御供二而帰着

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫<sup>方</sup>長征、丑三月帰

一慶応三卯三月十日御上京御供出立、四月四日帰

一同年十二月廿六日弟作助儀先達而今庄宿陣中心得違有之、遠慮被仰付候

二付伺之上差扣、廿九日御免

一同四辰八月廿五日御移を以勘之助事直記卜改

一明治卜改元、十二月十三日殿様御上京御供出立、巳二月六日帰

一同二巳十一月七日御家従被仰付候事

但庶務取扱

一四等官鈴木忠夫次

一月給一年分十俵被下候事

一同月廿五日今般御改革、更給禄米百五俵式斗八升五合被下

一同三年十月廿八日今般御趣意二付御近習被仰付候事

但大奥江関係之御用向も相心得候様

一是迄之通十三俵

一席小嶋逸八上

一同四未四月五日当分年給 式拾八俵三斗六升四合八勺 十三級也

一同五申五月晦日御家従被免候事

小林<sup>2</sup>

小林只右衛門

式拾五石五人

寛文二寅八月只右衛門為跡目五人扶持被下

延宝六年此通被下置

小林善八 亀之助

廿石三人

享保九辰四月五日父只右衛門為跡目被下、御留守番

延享三寅七月五日御切米二被成下、御土蔵番、相沢庄助跡

寛延三年六月十一日病氣二付御役御免、大番入

同年七月廿九日病氣二付休息

小林又兵衛 喜右衛門

廿石三人

寛延三年七月廿九日養父善八休息跡目無相違、大番入

明和七寅九月十四日御広式御用達役、御留守番入

安永七戌八月十二日御代官川地平次右衛門跡

小林久兵衛

廿五石五人

安永八亥七月廿日養父又兵衛跡目無相違、大番入

天明六年八月五日御広式御用達役加納孫太夫跡、御留守番入



寛政二戊五月廿八日御広式御用達致姫様附

寛政三亥十二月廿四日於江戸御足擬作被下置

同六寅七月三日御近習番格之通二被仰付

同十年七月十二日於江戸奥御納戸役御書院番入

同十一未九月十八日御附御用人支配

享和元酉八月三日役義取扱不宜旨、御役御免、大御番入、遠慮被仰付、

御足擬作御取揚

享和三亥閏正月朔日御附御近習番

同年四月十三日五石式人扶持御足擬作

文化五辰ノ閏六月十五日御足擬作御加増、都合廿五石五人扶持

同六巳八月廿一日此度隆徳院様御逝去二付御附御近習番御免被成、大番

組へ被入

但去月廿八日御国元へ家内共引越被仰付候

同年八月廿五日御国元へ引越之儀御差留被成候

文化八未二月廿日御裏役草尾庄兵衛跡、御書院番入

文化十一戌四月病死

### 小林久兵衛

百石

寛政十二申正月十五日御合力銀拾五枚被下、御側御小性へ被召出

同年六月十六日中将様御附御近習番被仰付

同八月廿二日御合力銀之上三人扶持被下置

文化六巳八月廿一日此度隆徳院様御逝去二付御附御近習番御免被成、親

へ御返し被成候

同年九月四日被召出、御内御用御右筆見習被仰付、五人扶持被下置、御

留守番入

同九申四月廿八日若殿様御附御近習番御書院番入

文化十一戌五月廿七日父久兵衛跡目廿五石五人扶持無相違、是迄之通御

附御近習番其儘

文化十二亥十一月十九日若殿様奥御納戸中沢隼人跡、且又恒五郎様御附

兼帶勤

文政三辰十月廿五日若殿様御膳番奥御納戸役其儘兼帶被仰付候

文政七申十月十三日若殿様御附御膳番奥御納戸兼帶其儘、御附御近習番

頭取

文政九戌七月十九日新知百石

文政十二丑六月六日於江戸表末ノ番外、御時宜役被仰付

同廿七日御国元へ家内共引越

天保四巳六月十五日浅姫君様御附御広式御用人助、御役料五十石、御水

主頭次席

天保九戌七月廿二日病身内願二付御役御免、御使番次席

### 小林又兵衛 孫之丞事

百石

一天保十亥二月廿七日親久兵衛儀病身二付内願之通隠居被仰付、家督無相

違被下置、大御番組へ被入候

一同年九月十九日松栄院様御附御広式御用達天野又作跡被仰付候

一同十四卯三月五日昨年公辺方御住居御入用巨細相調指出候様被仰出、右

御用掛り出精二付銀壹枚被下置候



一同十五辰四月廿二日表御納戸役被仰付候

一嘉永元申正月十五日鳥子紙御献上之節出精二付御褒詞

一同二酉十二月十五日今般御前様御引移御用懸り二付、御紋上下袴被下置

候

一同三戌正月廿五日出精相勤候二付、役儀其儘御書院番組江被入候

一同年六月廿二日表御納戸役其儘、靈岸島御屋敷奉行被仰付候

一同四亥三月十三日御広敷御用人見習、御徒頭次席被仰付、御役料五拾石被下置候

一同年四月九日先達而神田橋御住居江両御丸様御立寄二付御褒詞、但先役中也

一同六丑年正月六日慎姫様御縁組御用懸り被仰付候

一同年十二月廿五日謚姫様御婚姻被為濟候、右御用掛り出精二付御召御上下一具被下置候

一同七寅二月十九日当分神田橋御住居方相勤候様被仰付候、然ル処同年同月廿日高間文四郎江戸表へ到着候二付御免被成候

一同年四月廿日此度思召を以大奥向御人減御趣法替被仰出候二付、右御用掛り被仰付候

一安政五午二月十四日勤方御広敷御用人本役同様相心得候様被仰付、御水主頭次席二被成下、御役料五十石御増、都合百石被下置候

一安政五午十一月廿一日今般御家督御相続、御引移等御用多相勤候二付御褒詞

一文久元酉五月廿日靈岸島御屋敷御目付仮被仰付候

一同二戌正月十八日御広敷御用人本役被仰付、御役料都合百五拾石被下置候

一同年七月十九日嘉代姫様御縁組御熟談二付、御用掛り被仰付候

同年十一月十二日右御用掛り御免

一同年閏八月廿三日靈岸島御屋敷御広敷向、折々見廻り入念取扱候様被仰付候

一同日右二付御目付仮之義ハ御免被成候

一同三亥三月六日御前様安姫様御国江被為入候二付御供出立、廿三日着、

同廿七日折返シ江戸へ出立

一元治元子四月八日家内召連江戸表へ引越着

一同年五月十四日賀代姫様御入奥御用掛り被仰付候

一同年八月九日於河南小路新規出来之家屋敷被下置候

一同年九月十四日病死

小林太仲 与一郎

〔士族〕

百石

文久元酉五月十一日砲術訓練修行被仰付候

一同年八月十八日中将様御附御近習御雇被仰付、年々銀拾五枚ツ、被下置候

一同二戌三月十日繁勤罷在候二付、御扶持方五人扶持被下置候

但年々被下置候銀五枚之儀ハ以後不被下置候

一同年四月三日横浜表江臨時出張二付、御褒詞之上金百疋被下置候

一同三亥正月廿三日中将様御上京被遊候二付御供、三月廿五日右御供二而

御国表江罷越

一同年十月十三日中将様御供二而上京

一同四子正月九日御附御近習番御雇被仰付候

一元治と改元、四月廿三日御供ニ而帰着

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀ニ思召候、依之御酒被下置候

一同年九月五日宰相様御馬廻り被仰付候

一同年十一月五日親又兵衛家督百石無相違被下置、大御番組江被入候

一同六日宰相様御馬廻り被仰付候

一同年十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑五月廿五日宰相様御裏役御書物方兼大谷千熊跡被仰付候

一同年十月朔日宰相様御出坂御供出立、同三日今庄方御引戻ニ付帰

一同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月同断帰

一同年十月廿六日御附御膳番奥御納戸役兼御裏役御書物方之儀も相心得候様被仰出候

一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰着

一同年十一月二日右同断出立、辰三月十一日帰

一同四辰閏四月 上京、八月十一日帰、十月四日又々上京

一明治ト改元、十二月廿八日与一郎事太仲ト改

一同月廿四日御内用有之ニ付早速東京江罷越候様被仰付、同廿六日出立、

已正月廿一日東京方西京江着、三月六日中納言様御供ニ而御国江帰

一同二巳四月九日御供ニ而東京江出立、同三年正月三日帰 月給米十俵

一同年九月廿四日從二位様内務局頭取被仰付

但等級并月給米是迄之通

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同三年八月十五日内務局頭取被免、庶務主事被仰付候事

但内務局ニ而取扱来候御用向從前之通可相心得候事

一同年十二月九日靈泉寺へ返却之地面指支之訳も有之故、再借受ノ示談仕

候ニ付、別紙図面之辺ニ而同坪御振替願之通被仰付

一同四未二月三日東京江出立

一同月十六日執事被仰付候事

一同年四月五日当分年給 十式俵 四十三俵九升壹合式匁

一同年五月七日造営方被仰付候事

但等級是迄之通

一同五申八月晦日御書下ケニ而免職

一同年十月三日司法省十二等出仕

### 小林<sup>3</sup>

小林八郎左衛門

式拾石三人

安永七戌八月十二日小役人方御取立、新番入、在方掛り其儘

同九子六月五日御貝役

寛政八辰正月十二日御書院番組へ被入

文化三寅十二月十六日年来相勤候ニ付御紋御上下拝領

文化十一戌正月廿日数年来相勤候ニ付式石御加増

同十三子三月五日休息

小林源五太夫

式拾石三人

文化十三子三月五日親八郎左衛門休息、家督無相違二十石三人扶持、無

## 役御留守番入

同十三子三月廿九日御書院番入御具役

## 優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同年十二月十五日老年二付願之通隠居

小林八郎平 弾士 八郎助 八郎左衛門 八左衛門

廿石三人

小林弥之助 金次郎 弥之助 八左衛門倅

〔士族〕

一文政十亥五月十三日養父源五太夫家督無相違被下置、無役御留守番組へ

被入

一天保五年九月三日大御番組へ被入

一弘化三年八月廿九日年数相満候二付相身体末

一安政二卯三月十一日玉葉奉行竹沢藤太夫跡被仰付、御書院番組へ被入候

一同四巳四月廿九日仕立御納戸役久保村祐七跡被仰付、御留守番組へ被入

候

一文久二戌三月十一日御預所御代官役川地権内跡被仰付候

一同年六月十六日御代官役鈴木藤吉跡被仰付候

一同年十二月廿八日八左衛門与名替

一元治元子九月二日御趣意二付御役御免被成、其儘御留守番組二被指置、

是迄出精相勤候二付銀七枚被下置候

一同年十二月賊徒一件出張御手当銀三百匁被下

一慶応元丑十月十六日、昨年御趣意二付御役御免被成候処、是迄出精相勤

候二付御書院番組江被入、年々銀五枚ツ、被下置候

一同二寅十一月三日今度御軍制御變革之御趣意二付、御広間当番勤被仰付

候

一明治二巳六月廿一日八左衛門事八郎平卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾貳俵六升被下

## 優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同年十二月十五日老年二付願之通隠居

小林弥之助 金次郎 弥之助 八左衛門倅

〔士族〕

慶応元丑閏五月十八日三番之補兵隊被仰付

一同二寅三月十一日右補兵隊御免被成候

一同年十二月金次郎事弥之助卜改

一同三卯二月廿一日二番之補兵隊江被入候

一同年四月十二日宰相様御上京御供出立可致之処、不快二付願之上居残り、

五月七日出生、八月九日婦

一同年九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候

一同四辰正月八日二番之補兵隊被仰付、此度御上京之節御供被仰付

一同年四月十一日御法通も有之処、他藩江立寄不束之趣相聞候二付御叱被

成候、伺之上指扣、同十六日御免

一同年七月七日今度越後表へ御出陣被仰出候二付、補兵隊被仰付出張被仰

付候処、難洪之訳も有之二付為御手当銀七百匁被下置候

一同年九月六日補兵隊二而会征出立、巳二月六日帰、同廿二日右出張二付

御手当五両被下候

一明治二巳 御備入被仰付、巳八月十四日予備隊卜改、十一月廿八

日修業隊卜改

一同三午五月廿四日第一大隊六番小隊御雇被仰付、給禄米十俵被下候事、

但年給三俵

一同年十二月八日煩手 年給六俵

米四拾貳俵六升

一同年同月十五日父八郎平老年ニ付願之通隱居、家督米四拾貳俵六升無相違被下候事

一同日常備砲隊江被入候事 年給六俵

一同四未十月十三日解隊

小林<sup>4</sup>

小林有作 素輔

拾五石三口

〔士族〕

一安政二卯五月廿五日此度學問所御取建之處、御時節柄未夕全備ニも相成兼候得ハ、是迄素読致世話居候ニ付、当分是迄之通致世話候様被仰付候間、尚又委細之儀ハ教授始江承り候様被仰付

一同三辰四月廿一日外塾之趣被仰付候ニ付銀五拾匁被下置候

一同四巳二月朔日外塾師手伝被仰付

一同五年十一月十三日外塾師手伝御免被成、明道館役配同様被仰付

一元治元子正月十六日被召出御徒目付見習被仰付、五人扶持被下置候

但是迄御右筆部屋御帳書方手伝ニ付、月々被下置候銀五拾匁之儀

ハ以後不被下候事

一同年六月廿七日御内御用有之、早驅ニ而立帰上京出立

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑三月御供帰

一慶応元丑四月十五日中国筋江出立、同廿九日京方帰

一 上京、閏五月十四日帰

一同年九月廿八日御道中調御用ニ而出坂、十月五日大津駅方引返シ帰

一同二寅二月廿九日御徒目付見習被指免、親江御返シ被成候、且又同日外塾師被仰付、御扶持方三人扶持被下置候

一慶応四辰閏四月十六日明道館訓導被仰付、勤中式人扶持御増都合五人扶持被下置、外塾師之儀ハ御免被成候

一同年八月四日早速越後表江出張被仰付、同七日出立、十一月十三日帰

一明治卜改元、十二月十四日明道館訓導其儘御附書記方被仰付

但書記方支配之儀ハ御附御側向頭取ニ被仰付

一同二巳正月九日上京、巳三月六日帰

一同年二月廿二日長々出張ニ付六兩被下

一同年三月二日被召出月俸五口被下、職務可為是迄之通候事、席山本平太郎次

郎次

一同年同月十日親源右衛門及老年候ニ付願之通隱居、御充行十五石三口被下小役人ニ被仰付

一同日明道館訓導三ノ丸内務局書記方兼被仰付、役中新番格ニ御取立被成下候

但御礼席山本平太郎次

一月給八俵是迄之通

一同年十一月九日月給十俵被下候事、但在京中ハ是迄之通八俵被下候事

一同月廿五日今般御改革、更給禄米三拾五俵四斗五升下賜

一同月廿八日文学所大訓導被仰付候事

一同三年閏十月廿五日任文学助教 但十三等

一同年十二月 二等教授 文学掛り 五十四俵

一同四未七月十七日歴史兼経学

一同年九月二日文学教官

一 同年十二月十五日任二等教授 支那学兼国学

一 同月素輔事有作卜名替

一 同五申五月十五日准一等教授

一 同年九月廿四日勝山へ出張、同所小学校改正之見込可相立事

權太

嚴田惣七

百五拾石 外役料百石

宝永六丑七月廿九日帰参、表御小性

但同四亥十一月養父卜一所二御暇也

享保六丑四月二日於江戸新知百石、御膳番、海福忠左衛門跡

同七寅二月廿八日番外御膳番

同九辰六月十六日御役御免、大番入

同十三申四月十一日与内吟味役香西弥右衛門跡

寛保二戌六月朔日御留守作事奉行津田源之丞跡

延享元子十月廿五日御先作事奉行、同人跡、五拾石御加増、御役料百石

同四卯十二月廿八日御部屋付御目付笹川藤内跡

嚴田平七

百五拾石

寛延三年十月廿五日養父惣七隠居、家督無相違、大番入

權太彦兵衛 七左衛門

百五拾石

安永八亥七月十一日養父平七跡知無相違、大番入

同九子十一月廿一日表御小性見習

天明八申六月十四日表御小性本役

寛政九巳十月五日御小性

同十二申二月廿九日中将様御附御不用二付御免被成、大御番入

寛政十二庚申五月五日御近習番御裏役武田平太夫跡被仰付候

享和三亥十一月十八日奥御納戸

權太宗七 金十郎 彦兵衛

百五拾石

文化元子九月十一日養父彦兵衛跡知無相違、御番入

同三寅六月十六日閉門

天保五年十二月十六日格式末之番外被仰付候

權太權太夫 祐市

百五拾石

一天保七申八月十六日養父宗七家督百五拾石無相違被下置、大御番組江被入

一同十亥年江戸詰、四月十五日出立

一同十一子九月十六日弟隼之助当春不慎二付遠慮

一弘化二巳年江戸詰、三月出立

一嘉永二酉年三月廿三日御供二而出立

一安政二卯正月廿八日与内檢地奉行村田新八跡被仰付、御留守番組へ被入

候

一安政七申三月廿九日御書院番組へ被入、役義之儀ハ御免被成候

一万延元申六月廿九日近年耳遠罷成候二付、内願之通休息

權太宗七

百五拾石

一万延元申六月廿九日養父權太夫儀近年耳遠罷成候二付、内願之通休息被仰付、家督百五拾石無相違被下置、大御番組へ被入候

一文久二戌閏八月廿日江戸詰出立

一同三亥正月廿三日中将様御船二而御上京被遊候二付御供、三月廿五日御供二而京都方着

一元治元子四月十三日上京、八月十二日帰着

一同年七月十四日御含御用有之二付振退勤被仰付

一元治元子八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、相働其上御纏取参候段達御聴一段之事二被思召候、依之為御賞御小柄壹被下置候

一同年九月十八日大御番六番之筆頭役富田弥兵衛跡被仰付候

一同年十月十五日長征出立、丑二月三日帰

一慶応元丑十一月晦日大坂表江出張

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付公儀方被下配当金千疋、且又戦功二付式千五百疋被下置候

一同年九月十八日帰

一同年十一月三日御趣意二付一番之筆頭役被仰付

一同三卯正月十六日病氣内願二付御役御免被成、御書院番組江被入候

但御礼席之義ハ御膳番格次二被仰付候

一同年九月四日病死

權太祐市 小太 宗七養子

百五拾石

安政三辰五月廿二日鰐淵昨寒稽古出精二付御褒詞

一同四巳四月十四日同昨年中皆勤、殊ニ右同断二付御持御扇子二本被下置候

一万延元申十一月十一日御趣意通りも有之二付、来酉年太田御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置候

一同二酉二月廿一日御都合も有之二付支度出来次第出立被仰付、廿八日出立

一文久二戌四月廿四日帰、同三日太田御陣屋詰中横浜表江致出張候二付銀壹枚被下置候

一同年十二月廿八日祐市与名替

一同三亥正月四日親介抱願之上上京

一同四子二月二日当春芝御陣屋詰被仰付、右詰中御扶持方五人ふち被下置候、相止

一元治元子二月廿三日支度出来次第上京被仰付、滞京中五人ふち被下置、

三月五日出立

一同年四月当分滞京

一同年同月廿二日御番士御雇詰被仰付、右詰中御扶持方五人ふち被下置候、八月廿二日帰着

一同年十月長征出陣、丑正月廿九日帰



一同二丑四月十一日宰相様御上京中格別骨折相勤候二付、御褒詞之上銀壹枚被下置候

一慶応卜改元、五月廿八日大砲方御免被成候

一同年十一月晦日大坂表江出張

一同二寅三月十一日三番之補兵隊へ附属被仰付候

一同年四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年九月十八日帰

一同三卯七月五日京都御警衛詰中大砲方御雇被仰付

但詰中銀五枚被下置候

一同月十一日上京、然ル処九月九日親病氣二付対面願之上帰着

一同年九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候

一同年十月廿九日養父宗七家督百五拾石無相違被下置、御留守番組江被入候

一同四辰正月七日第一遊撃隊江被入候

一慶応四辰正月八日急々出立上京、閏四月十二日帰

一同年九月八日上京、十一月十六日帰

一明治二巳二月廿九日上京、三月六日中納言様御供帰

一同年四月九日中納言様御供東京江出立、十月十二日帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米八十式俵壹斗式升壹合被下

一同三午五月廿四日第一大隊四番小隊後絶被仰付候事

一同年十二月 常備歩兵隊一番伍長二年給八俵

一同四未四月二日東京詰出立

一同年十月十三日解隊、在京中は迄之通、十一月帰

近藤<sup>1</sup>

近藤十兵衛

百五拾石

享保十巳五月十三日於江戸御帳付方御取立、新番三石御加増、御家老中

御用留御右筆部屋下請込

同十二未正月十五日五石二人扶持御加増、御家老中御用可相勤旨御書院

番入順席

同十九寅四月十八日新知於江戸

元文二巳六月十八日御右筆請込、御家老中御用加役

同三午八月廿四日役義二付座輿役次へ御上ケ被下

延享元子十二月廿五日五十石御加増

此後代ま二出、但前波与改

近藤<sup>2</sup>

近藤八右衛門

百石

元禄四未十一月廿九日父八右衛門跡知無相違被下

正徳五未七月十一日御貯金奉行被仰付、雨森儀右衛門跡

享保二酉七月廿九日御取揚閉門被仰付

同九月十二日御免、大番入

同九辰二月十九日明姫様附被仰付、御役料五十石被下、河村郷右衛門跡

同十五戌五月七日明姫様御逝去二付、同九月十四日京都より帰り、御留



守番組へ被入、御役料上ル

同十七子九月廿一日大番へ被入

延享元子十一月七日休息

# 近藤八右衛門

百石

延享元子十一月七日父八右衛門休息、家督無相違、大番入

同月十五日御次詰

同三寅五月十八日御腰物方

同四卯三月十六日御書物奉行中村庄左衛門同役、此以後兩人二被仰付

明和五子七月廿日年来相勤ニ付末之番外、役義御免

# 近藤吉左衛門

百石

明和八卯六月十一日養父八右衛門隠居、家督無相違、大番入

寛政元酉七月廿日与内立合土谷市兵衛跡

同八辰正月廿五日与内検地奉行落合条右衛門跡、御留守番入

# 近藤八郎左衛門 兵太夫

百石

寛政九巳十月五日養父吉左衛門休息被仰付、家督無相違、大御番入

文化七午六月十日御預所御金奉行嶋津喜太郎跡、御留守番入

文政六未三月廿九日役義取扱不宜、不埒之趣有之ニ付急度御咎可被仰付

処、御憐愍を以役義御取扱閉門被仰付

同八酉九月廿日内願休息

# 近藤八右衛門 次右衛門 左弥太

百石

一文政八酉九月廿日父八郎左衛門家督無相違、大御番組へ被入

一同十一子二月十一日表御小性被仰付

一天保二卯江戸詰被仰付、三月十日出立

一同七申八月五日楷五郎様御附御近習被仰付、御書院番組へ被入

一同十四卯閏九月廿五日魏光院様御逝去ニ付御役御免、大御番入被仰付

一弘化元辰九月十六日遠慮伺之上指扣御免

一同年十一月十一日御預所御金奉行中村庄左衛門跡、御留守番組江被入

一嘉永五子十月四日末之番外御時宜役被仰付

一同年十二月廿八日八右衛門与名替

一安政七申正月十六日御使番格ニ被成下、御役料之趣を以廿五石被下置、

役儀之儀ハ御免被成候旨

一万延二酉二月九日御役料其儘、御留守物頭嶋川源右衛門跡被仰付候

一元治元子二月廿日金津定番榊原幸八跡、御役料都合百五拾石被下置候、

且又家屋敷是迄幸八罷在候御役屋敷へ替被下候

一同年十二月賊徒一件ニ付出張、依之御手当銀八百匁被下置候

一同二丑三月十一日年寄候ニ付隠居

# 近藤篤<sup>アツシ</sup> 篤太郎

百石

安政三辰五月廿二日同年中支合皆勤ニ付同断

〔士族〕

同四巳四月十四日荒川昨辰年も皆勤二付御褒詞

一文久元酉八月廿日太田御陣屋御番士御雇詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置、支度出来次第出立被仰付候、廿八日出立

一同二戌四月三日太田御陣屋詰中横浜表江出張二付御褒詞

一同年十月四日当戌ノ冬ノ来亥春迄学問為修行上方筋へ罷越、立花飛驒守殿藩中池部藤左衛門与申者大坂表罷在候二付、此者へ相手寄修行、此度願濟之处九日願下ケ

一同十二日此儘罷在来春御上洛之御供相勤申度旨、願之通被仰付

一同三亥正月朔日御用有之横井平四郎指添江戸方着、同三日千本弥三郎同道、早駆ニ而折返シ出立

一同十九日右立帰被仰付候二付、別段之訳を以銀三枚被下置候

一同廿三日中将様御船ニ而御上京被遊候二付御供、同三月廿五日帰着

一同年五月十六日農兵掛り被仰付、郡方吟味役勤方之儀も相心得候様被仰付、御扶持方三人扶持被下置候

一同年九月廿一日支度出来次第上京被仰付、同廿三日出立

一同年十一月十六日於京都表御滞京御用向取扱被仰付

一同四子正月十八日山階宮被任御頼、当分御附人被仰付

一同年四月十日失却も有之二付月々金三両ツ、御手当被下置候

一元治元子六月廿五日宰相様再度之御上京中格別骨折相勤太儀ニ思召候、依之銀式枚被下置候

一同年九月廿日御附人其儘御含御用被仰付候

一同年十月十七日御含御用其儘征長御供被仰付罷越、丑二月十一日帰、但立帰内達

一同月十九日今度応接方被仰付

一同二丑三月十一日親八右衛門年寄候二付隠居被仰付、家督百石無相違被下置、大御番組江被入候

一同日此度油町地所之内ニ而新規出来之家屋敷被下置候

一慶応卜改元、十一月廿九日武芸厚出精之趣師役方内達も有之二付、修行中銀式枚被下置候

一同二寅八月廿日農兵差配役被仰付、役御番組へ被入候、且又役儀被仰付候二付、是迄武芸修行中被下置候銀式枚之義ハ以後不被下候

一同三卯正月廿九日新撰隊教授方并指揮役兼被仰付

一同年十二月十三日御含御用有之大津宿へ出張被仰付、十五日出立、夫方京江

一慶応四辰正月廿六日第一大隊四番小隊之分隊長被仰付、御書院番組江被入候

一同年四月四日昨冬已来格別骨折相勤候二付御褒詞

一同月十日京方帰

一同廿五日在京中不埒之趣相聞候二付御役御免被成、遊撃隊へ被入遠慮、閏四月十六日御免

一同年五月廿五日六番之遊撃隊後拒役中村禄三郎跡被仰付、勤中分隊長次席ニ被成下候、但席妹尾浜三郎次

一同年六月廿五日会征出立、巳二月廿二日出張二付十三両被下、外二百疋

一明治卜改元、十月 出張中七番遊撃隊長被仰付、早速新発田表江出張被仰付

一同月十五日出張中七番遊撃隊長被仰付候二付御取扱末ノ番外格、御役料廿五石被下置居残被仰付



- 一同月十九日若狭伯母御守衛中御用掛兼被仰付
- 一同年十月廿九日民政局江出役勤被仰付
- 一同二巳二月廿九日歩隊半隊長被仰付 月給廿俵 御役料ハ相止、後整衛隊ト改
- 一同年七月二日整衛隊心得違之儀有之夫々御咎被仰付、恐入伺之上指扣、同五日御免
- 一同年十一月廿五日今般御改革、更給祿米六十俵四斗三升六合被下
- 一同月 御改革ニ付当役被免
- 一同三年四月廿五日戊辰北越出張、各所攻撃勉勵ニ付御賞典之内十石ツ、十ヶ年令頒授候事
- 一同年五月廿四日第二大隊一番小隊長被仰付候事
- 一同年六月十二日今度大館源紀拝地之内上地ニ相成候地所ト、私西ノ方拝地ト振替拝地ニ被仰付被下候様願之通被仰付
- 一同年九月十日任第一大隊六番小隊長
- 一同年十二月八日任中尉 年給七十三俵
- 但常備第四小隊
- 一同四未十月十三日今般解隊被仰出候ニ付職務被免候事
- 一同五申 修行願東京
- 一同年 東京府権大属
- 一同年四月十二日第六区検査大属
- 一同年五月篤太郎事篤<sup>アツシ</sup>

近藤助右衛門

廿石三人

享保十九寅五月廿八日役人格<sup>カ</sup>御取立、新番入、三石御加増、巢鴨御屋敷奉行

延享四卯八月廿九日本番御留守番入

近藤太郎兵衛

貳拾石三人

寛延二巳十二月十六日養父助右衛門跡目無相違、大番入、当分巢鴨御屋敷奉行仮役

同年十二月廿日仮役御免

宝暦五亥四月七日御広敷御用達

同六子四月廿二日仕立弘御納五石貳人扶持御加増、大番入、有沢勘助跡、

江戸定

近藤助右衛門

百石

宝暦七うし三月十七日養父太郎兵衛跡無相違、大番入

同八寅十二月十九日武具奉行横川定六跡、御留守番入

明和七寅四月十日靈岸島御屋敷奉行兼

同八卯九月廿日表御納戸竹田仁左衛門跡、大番入

明和九辰十一月廿九日相身跡末

天明元うし四月十五日御勘定吟味役、御留守番入

同四辰十月八日新知百石

同六年四月十六日江戸御作事奉行兼

### 近藤太郎兵衛

百石 役料五拾石

安永二巳八月廿八日御内用御右筆見習五人扶持被下置、御留守番入

同八亥九月廿日於江戸御合力銀五枚被相増、都合拾枚被成下

天明元丑十二月五日日本役被仰付、銀拾五枚五人扶持被成下、御留守番其

儘順席

同五巳十一月廿日御右筆部屋兼帶、御書院番入

同八申九月廿七日養父助右衛門跡知無相違被下、御書院番御右筆其儘

寛政六寅八月廿八日格式末ノ番外

同七卯八月九日御目付御供助御徒頭仮役、且又御目付共不快等之節御番

相勤可申旨、右御用無之節ハ是迄之通御用部屋へも立入可申旨

同八辰四月十五日格式御使番格、御目付助本役同様相心得可相勤候

同年九月十五日御徒頭、御役料五拾石被下置、御目付御番助被仰付候、

尤御時宜役も可相勤旨、御目付不快等之節ハ御供助可相勤旨

同九月廿日御腰物御数寄方奉行、御部屋附兼帶前波十兵衛跡、当分仮

文化元子五月五日御広式御用人助、御水主頭次席福山藤右衛門跡

### 近藤助右衛門 吉次郎

百石

寛政十二申正月十五日御合力銀拾五枚被下、御附御小性江被召出

同年八月廿二日御合力銀之上三人扶持被下置

文化元子十月朔日父太郎兵衛跡知無相違被下置、是迄之通御附御小性被

仰付

同二丑二月廿八日御附御近習番

同六巳八月廿一日此度隆徳院様御逝去二付、御附御近習番御免被成、大

御番入

文政二卯正月十五日表御納戸笹木長左衛門跡

文政十一子二月病死

### 近藤雄藏 猶次郎事 勇藏事 雄藏 左太夫

百石

一文政十一子四月五日養父助右衛門跡知百石無相違被下置、大御番組へ被入

一同十二丑二月七日御近習番被仰付、御書院番へ被入

一同年九月廿八日御趣意二付御国表へ引越被仰付候

一天保五年七月十九日御小姓鈴木五三郎跡被仰付、役席川瀬安五郎次

一同六未江戸詰被仰付、八月廿三日出立

一同年九月五日今度御代替二付御小姓御免被成、御側支配御近習二被差置、

勤方之義ハ追而可被仰付候、御用筋之義ハ先是迄之通可申談旨

一同年同月十四日御小姓被仰付候

一同九戌十月廿五日今度御代替二付御小性御免被成、御側支配御近習二被

差置候、勤方之義ハ追而可被仰付候、御用筋之義ハ是迄之通可申談旨

一同年同月廿九日御小性被仰付候

一同十亥年十月廿五日御小姓頭取高村藤兵衛跡被仰付候

一同十二丑江戸詰被仰付、八月廿五日出立

一同十五辰江戸御供詰二而正月十三日出立、同五月十一日御供二而帰着

一弘化二巳江戸詰被仰付、三月廿三日出立

一同三年十月朔日御近習番頭取御膳番被仰付、御書院番二番之筆頭村田竜之進跡

一嘉永元申九月十五日役義其儘末之番外被仰付候

一同二酉江戸詰被仰付、三月廿三日出立

一同年十二月十五日今度御前様御引移御式正掛り出精二付、御召御上下一銀壹枚被下之

一同三戌六月三日御使番役御供頭兼帶村田竜之進跡被仰付、御役料百五拾石被下之

一同四亥年江戸御供詰、但詰中神田橋御屋敷御屋形御預ケ被成候

一同六丑三月廿二日御供出立

一同年十二月廿五日雄藏事左太夫与名替

一同七寅六月十九日御先物頭鰐淵次郎左衛門跡

一安政二卯三月十四日御広式御用人被仰付

一同年五月朔日当秋江戸詰被仰付置候処詰引揚、支度出来次第致出府候様被仰付、同九日出立

一安政三辰二月十五日当秋迄詰延被仰付候

一同六未三月廿六日江戸詰出立

一同七申正月十八日当秋迄詰延被仰付候、十一月廿六日帰着

一文久三亥二月廿三日昼立江戸表へ急々出立、三月廿三日御前様御供二而帰着

一同年八月十九日今度於三ノ丸御普請御用掛り被仰付候

一同年九月廿三日賀代姫様来春御入興二付御用掛り被仰付候

一元治元子十二月賊徒一件之節御留守御用相勤候二付、御手当弍百六拾六

匁被下

一慶応元丑七月十一日三ノ丸御普請御用掛り出精、御褒詞

一同二寅正月二日雄藏与名替

一同三卯六月廿九日殿様御縁組之儀二付取調御用掛り被仰付

一同年七月廿六日今度於御座所御建継御普請被仰出候二付、御用懸り被仰付

一同年十二月廿六日倅源太郎儀、先達而今庄宿陣中心得違相聞、遠慮被仰付候二付伺之上差扣、廿八日御免

一明治元辰十月五日今度幸姫様御簾中様御手許へ御引取二付、御用掛り被仰付

一同月廿二日幸姫様御引越二付御道中御供被仰付、依之立帰上京被仰付、十一月十日出立、同月廿九日帰

一同二巳二月十五日年寄候二付隠居

一三月朔日折々御機嫌可相伺候

近藤源太郎 直太郎

〔士族〕

百石三口

安政二卯三月十六日昨寒稽古中剣術数多之支合玉附二而御覧被遊、御褒詞

一文久元酉八月廿日太田御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置候、廿九日出立

一同二戌四月三日太田御陣屋詰中横浜表江出張二付御褒詞

一同年四月七日修行方当秋迄江戸詰被仰付、御扶持方は迄之通被下置、芝御陣屋詰之儀ハ御免被成候

一同年十月十二日来春迄罷在御上洛御供相勤申度旨、願之通被仰付  
一同年十二月廿三日来春中将様御船二而御上京被仰出候二付、陸廻り御先出立

一同三亥三月廿五日御供二而帰着

一同年七月八日上京被仰付、相止

一同年八月五日御参府御供被仰付、詰中御扶持方五人ふち被下置候、八月十七日出立、同十二月江戸方御供二而上京

一同四子正月十六日御在京中無息致世話候様被仰付候、同二月御供二而帰着

一元治元子二月廿日支度出来次第上京被仰付、同廿三日出立

一同三月二日在京中無息伍長被仰付

一同年六月廿五日宰相様御上京中格別骨折相勤太儀二思召候、依之銀壹枚被下置候

一同日当春宰相様御職被為蒙候二付早速上京、取調等致心配太儀之段御褒詞

一同廿六日御含御用有之、早速上京被仰付五人ふち被下置、同廿八日出立、八月廿三日帰

一同年八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、相働候段達御聴格別之事二被思召候、依之為御賞御鎗之身一平御扶持方三人扶持被下置、家督之節御加増被成下候

一同年十月十四日長征出立、丑正月帰

一同二丑正月廿七日賊徒警衛敦賀江出張、三月朔日帰

一慶応下改元、閏五月十八日三番之補兵隊伍長被仰付

一同二寅四月廿四日堺町戦争二付公儀方被下配当金千疋、且又戦功二付三

千五百疋被下置候

一同年八月廿日役御持筒指揮役助被仰付候

一慶応二寅十二月廿六日御持第四小隊指添被仰付

一同三卯正月廿二日砲術所世話役被仰付

一同年二月七日松原信太郎先達而郊外調練罷越候節心得違之儀有之、御役御免遠慮被仰付、其節同道罷越恐入伺之上指扣、同十日御免

一同年三番之補兵隊分隊司令士被仰付

一同年七月十二日京都御警衛詰出立

一同年九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候

一同年十月十四日帰

一同年十月廿二日第一遊撃隊御雇被仰付候

一同年十二月十二日急々上京被仰付、十三日出立之处御模様二付途中方引返帰

一同廿六日先達而今庄宿陣中心得違之趣相聞遠慮、正月七日今般非常之儀二付御免

一同四辰正月八日又々急々出立

一同年二月廿一日第一遊撃隊御雇御免被成、軍事方附属被仰付

一同年四月廿五日遊撃隊江被召出式人扶持御足、都合五人扶持被下置候

一同年閏四月十二日京方帰

一同年同月十六日二番大隊一番小隊之分隊長今村坦跡被仰付、御書院番組へ被入、勤中御足式人扶持御増、都合四人扶持被下置候

一同年七月六日上京、十一月十八日帰

一明治二巳二月十八日親雄藏年寄候二付隠居被仰付、家督百石三人扶持無相違被下置、小隊之分隊長其儘御書院番組江被入候



一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾八俵三升三合被下

一同三午五月廿五日第一大隊九番分隊長被仰付候事

一同年十月三日東京江出立

一同年十二月八日任権曹長 但常備第七小隊 年給貳拾俵

一同四未四月廿八日東京江帰着

一同年十月十三日解隊



※小木幡太左衛門の後にあり

### 近藤多助

廿石三人

享保五子七月廿一日御徒目付江御取立、大番入、上水奉行織田仙右衛門跡、此節三石御加増

同十六亥四月廿一日御役御免

### 近藤多助

廿石三人

元文元辰九月十九日養父多助休息、家督無相違、大番入

宝曆三酉六月十一日相身躰末

明和六うし八月五日御土藏番御留守番入

安永五申十二月十一日順席

同六酉三月廿日御先武具奉行中山十兵衛跡、大番入

### 近藤六右衛門

廿石三人

天明二寅四月五日養父多助跡目無相違、大番入

文化七午五月廿九日休息

### 近藤十兵衛

貳拾石三人

文化六巳五月廿九日親六右衛門内願休息、家督無相違、大御番入

### 近藤重平 岩之丞事 十兵衛

廿石三人

一天保十二丑九月廿日親十兵衛儀眼病二付内願之通休息被仰付、家督廿石

三人扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一嘉永七寅年十一月廿九日筒井小太郎稽古納之節、菅沼主水宅江罷越候始

末、酒狂与ハ乍申不宜致業二候得共、此度之儀ハ御沙汰二不被及候間、

以来右様之儀無之様番頭江移りを以被仰付候

一文久二戌九月廿日番改役大河原作左衛門跡被仰付

一同三亥十月廿日病身二付内願之通御役御免被成候

一元治元子七月廿一日京都表江出立、夫方征長、丑正月帰

一同二丑二月朔日賊徒警衛敦賀江出張、同九日帰

一慶応元丑十月八日小荷駄造営方被仰付候

一同二寅三月十六日次男源八不届之所業有之、侍御削御国十三里四方御追

放被仰付、然ル処御趣意二付入牢被仰付、兼而締り方不参届不調法二付

遠慮被仰付、四月六日御免

一同三卯五月十一日御書院番組江被入候、御広間番



一明治二己六月廿一日十兵衛事重平卜改

一同年九月廿九日多年精勤之处御藩制御改革二付、為御慰勞式十五両被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾貳俵六升被下

一優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同四未十一月廿三日隱居

近藤宇金吾 重平倅 明治三午廿九歳

〔士族〕

文久二戊閏八月十七日支度出来次第芝御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、右

詰中御扶持方五人扶持被下置候、同廿二日出立

一同三亥九月廿四日帰着

一元治元子六月十日御含有之、早速上京被仰付五人扶持被下置、同十四日出立、八月廿三日帰

一同年十月二日京都詰中不容易御時態之处、致心配候二付御酒被下置候

一同年十月十四日長征出立、十二月帰

一同二丑二月朔日賊徒警衛敦賀江出張、同九日帰

一慶応二寅三月十一日三番之補兵隊へ附属被仰付候

一同年四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年八月廿五日境町御門為御警衛上京被仰付北川亘之介へ御附属、早速

致出立候様、同晦日出立

一同年十月十二日賀陽宮様御附人被仰付

一同三卯四月十四日御先方御断二付帰

一同年五月二日三番之補兵隊江被入候

一同年七月十二日御警衛詰上京、十月十四日帰

一同年九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候

一同四辰正月八日二番之補兵隊被仰付、此度御上京之節御供被仰付

一同年四月廿五日遊撃隊へ被召出、五人扶持被下置候

一同年閏四月七日上京、九月十八日帰

一明治二己三月三日東京へ出立之处、御呼戻二付同五日途中方帰

一同年四月九日中納言様御供東京江出立、六月八日御人減二付帰

一同三午五月廿四日第一大隊一番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備一番隊 年給六俵 十貳俵高

一同四未四月朔日東京詰出立

一同年十月十三日解隊、十一月 帰

一同年十一月廿三日父重平老年二付家督

一米四拾貳俵六升

近藤

5

格下ケ

※「剥札」こ末にあり

近藤四郎右衛門

拾八石三人

明和七寅八月廿五日御勝手請込方御取立、新番入、役儀其儘

同八亥正月十六日御留守番入

天明元丑十二月十一日御役御免、新番入遠慮、同十四日御広敷添役被仰

付候

同四辰九月廿九日役義御免、侍格御取上ケ小役人格へ御下ケ被成

此アイ表御記録ニ有之

近藤四郎右衛門

拾五石三人 外二三石御足

一安政元寅十二月十六日出精相勤候ニ付御取立被成、新御番格ニ被仰付候

但御取立以前之儀ハ御記録ニ有之

一同二卯五月三日御広式添役被仰付候

一同六未十二月十六日出精相勤候ニ付新御番組へ被入候

一元治元子十二月賊徒一件、御留守御用御手当百匁被下

一慶応元丑七月十一日三ノ丸御普請掛り出精御褒詞

一同二寅十月廿二日役新番組へ被仰付候

一同年十一月十六日年寄候ニ付休息

近藤<sup>ツトメ</sup>懋

金五郎 了介 小右衛門 四郎右衛門俵

〔士族〕

拾八石三人

天保十一子三月十六日御徒被召出、御充行近年御定之通如此被下置候

一嘉永四亥江戸御供詰

一同年十二月十六日中将御拜任ニ付為御使榊原十郎太夫儀御国表江被遣、

右為指添罷越同廿四日着、不快ニ付翌子ノ二月三日出立

一同月廿五日金五郎事了介ト改

一安政四巳二月廿五日御徒目付見習被仰付、右勤中御充行拾式石三人扶持

被下置候

但是迄被下置候五人扶持之儀ハ已後不被下候

一同五年六月十八日御内用有之二付京坂表江出立

一同六未七月三日御徒目付本役被仰付、右勤中御足充行三石被下置候

但江戸詰之節ハ詰中御足充行共都合拾八石三人扶持被下置候事

一同月八日江戸詰出立

一同月廿二日了介事小右衛門ト改

一同月廿三日横浜御警衛御持場内御台場并御陣屋等御取建ニ相成候ニ付、

掛り被仰付

一同年十月十四日母大病氣ニ付対面相願帰着

一同年十一月十一日右罷越居候処太田御陣屋御普請も追々御出来、御用薄

ニ相成候ニ付詰御免被成

但詰ニ御立被下

一同七申二月十一日御初入御迎出立

一同月廿六日太田御陣屋御普請出来、右御用掛出精ニ付金三百匁被下置候

一文久二戌四月八日御帰国御迎為御用出立、五月十六日御供ニ而帰、同廿

日又々折返シ立帰出府被仰付出立、七月七日御用無之趣ニ付折返シ帰着

一文久二戌 京都江出立

一同三亥二月十八日御内御用有之、京都表方早速出府被仰付

一同年三月廿三日御前様御供ニ而江戸表方帰

一同年五月廿二日出精相勤候ニ付役中御足充行三石御増、都合六石被下置

候

一同年七月九日京都表江出立

一同年十月十三日中将様御供ニ而上京

一元治元子四月十四日京都方帰

一同年五月十八日先年之度々出京御用向出精相勤候ニ付、桐御紋御上下并

金式千疋被下置候

一 同年七月五日宿割御用ニ而上京、但御上京御延引ニ付十三日帰  
 一 同年八月廿六日上京、夫々征長、十二月十五日府中迄帰、夫々廿四日帰宅

但右ニ付御手当銀五拾匁被下置候

一同二丑正月五日近來格別御用弁且訳合も有之ニ付、新番組之御取扱ニ被仰付、且又支配之儀ハ是迄之通被仰付

一同月十八日京都表江出立、三月廿三日帰

一 慶応ト改元、五月廿五日御含御用被仰付、且又征長御用別段心配ニ付銀壹枚被下置候

一同二寅九月十六日御内用有之敦賀表江早急罷越候様被仰付出立、十九日帰

一 同年十一月十六日親四郎右衛門年寄候ニ付休息被仰付、家督拾五石三人扶持無相違被下置、御目付方調役被仰付、役中御足充行五石被下置、役新御番組江被入候

一同四辰五月十一日今般御趣意ニ付役中役御番組江被入候

一同月廿五日御足充行其儘評定局調役被仰付

一 同年六月廿三日寺社町役所調役被仰付、且又年來出精相勤候ニ付御足充行之内三石御加増都合拾八石三人扶持ニ被成下、御留守番組江被入候

一 明治ト改元、九月廿九日加州金沢迄御含御用ニ而出立、十月七日帰

一同年十二月五日近來役所向御用多ニ付小者給被下置候

一同二巳二月十七日社寺局庶務方ト被仰付 月給米十式俵 小者給ハ不被下候、御足式石被廢

一同年六月十七日民政局庶務方引立方被仰付、月給是迄之通

一同月廿日小右衛門事懋ト改

一同年十一月廿一日今般御改革ニ付役義被免

但付送り之義ハ追而御指図相待可申事

一同日民政局大属被仰付候事 年給七十三俵

一同月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米三十九俵四斗三合被下

一同年十二月十七日役中給禄四拾俵高二被成下候事、未正月任官給被廢

一同月廿日引立主務被仰付候事

一同月廿四日總會所御改正後引立方勤方不淺、依之金式千疋被下、尚又致

精勵候様被仰付候事

一同三午八月廿二日以本官武生町支配被仰付候事

一同年十月三日居屋敷地更ニ拝地ニ被成下候事

一同四未六月朔日今般御改正ニ付免職

一同十四日任福井藩少属

但聴訟局印紙方

一同年七月廿八日印紙方被廢止候事

一同年八月十四日戸籍掛り兼印紙方被仰付候事

一同年十二月十日任福井県権大属

社寺貫属戸籍

一同五申二月八日任足羽県大属

大野出張所詰

一同年六月十二日白山麓十八ヶ村地理之儀ニ付石川県官員ト立合、検査掛り申付候事



6

※近藤八右衛門の後にあり

近藤市与右衛門

拾七石三人 内式石御足

天保十四卯正月十九日小役人格御住居御附御広敷添役方御取立、新番格  
江

小宮山

此前代い二出、但出浦と号、此初村上とも号

小宮山三左衛門 初出浦戸右衛門

百石

延享四卯十二月十一日養父右近右衛門跡知被下、大番入  
安永元辰六月十一日家内不締り二付御呵逼塞

小宮山伝七

百石

天明四辰六月五日父三左衛門休息、家督無相違、大御番入  
寛政七卯六月廿五日山奉行御留守番入、川地平次右衛門跡  
享和元酉八月三日御附御近習番御用人支配  
同二戌十月八日奥御納戸高村新五兵衛跡、御書院番入  
文化元子十二月二日御膳番  
同五辰十月十九日役義其儘御書院番筆頭  
同七年六月十一日郡奉行寺沢藤左衛門跡、御役料五十石  
文化九壬申七月三日上領江領替被仰付  
同十一戌十二月三日御奉行小川次兵衛跡、御役料都合百五拾石  
文化十三子九月十六日江戸詰中雜用請取不締り之處、取斗方等閑之趣二  
仰付

付遠慮

文政五年六月廿四日御預り所元締役宮北長左衛門跡  
文政九戌七月廿日年寄内願二付隠居、折々御機嫌伺中ノ口往来、御坂札  
被下置

小宮山周藏

百石

一文政九戌七月廿日親伝七年寄内願二付隠居被仰付、家督百石無相違被下  
置、大御番組へ被入  
一同十三寅六月六日御近習番被仰付、御書院番組へ被入  
一天保二卯江戸詰被仰付  
同六未御供詰  
一同六未九月十五日御代替二付御役御免被成、御書院番其儘御近習二被差  
置、御用筋之義ハ是迄之通可申談旨  
一同年同月十六日御近習番被仰付候  
一同七申八月廿八日江戸詰被仰付出立  
一同年十二月十九日御書物方高島市郎右衛門跡被仰付候  
一同八酉四月十五日御裏役高島市郎右衛門跡被仰付候  
一同九戌江戸詰被仰付、九月二日出立  
一同年十月廿五日今度御代替二付御役御免被成、御書院番組其儘御近習二  
被差置、勤方之義ハ追而可被仰付候、御用筋之義ハ先是迄之通可申談旨  
一同年同月廿九日御裏役被仰付  
一同十亥八月十九日奥御納戸役真田五郎兵衛跡被仰付候、来子年迄詰越被  
仰付

一同十三寅三月十六日御側向頭取見習御水主頭次席被仰付、御役料五拾石被下置、支度出来次第江戸詰被仰付、同月廿六日出立

一同十五辰江戸詰被仰付、正月十四日御供二而出立、同五月十一日御供二而帰着

一同年五月廿三日御役御免、御近習二被差置、御役料以後不被下候旨

一弘化四未正月十三日御留守物頭被仰付、高村長作罷在候御役屋敷江替被下

一嘉永二酉六月廿九日御先物頭林忠兵衛跡被仰付、御役料百五拾石被下置候、高村長作屋敷江替被下候

一同五子六月九日御目付役石原甚十郎跡被仰付候

一同六丑年五月三日国兼村瓜生野村先年来山論之儀二付不容易申挑二相成、右取調掛り被仰付候

一同年七月三日、去月十三日シヲ町方出火之節出精二付御褒詞

一同七寅六月十九日支度出来次第江戸詰被仰付、同廿六日出立

一安政二卯八月廿五日除痘館掛り被仰付候

一同三辰七月朔日御旗奉行山田藤兵衛跡被仰付候

一同五午正月四日病死

### 小宮山伝 伝太郎

百石

一安政五午二月廿五日親周藏家督百石無相違被下置、大御番組江被入候

一同六未十一月十六日御趣意二付句読師御免被成、尚又是迄之通厚致修行候様被仰付候

一文久元酉三月十三日炮術所世話役被仰付候

一同年十二月十六日来成年芝御陣屋詰被仰付候

一同二戌三月晦日出立

一同年八月七日御近習番岩城恕平跡被仰付、御書院番組へ被入候、同月廿五日帰着

一同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日御供二而帰着

一同年八月十七日御参府御供二而出立、十二月江戸方御上京御供、子二月御帰国御供着

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑三月帰

一同年十二月伝卜名替

一慶応二寅二月五日御馬廻被仰付

一同年六月廿四日御裏役御書物方兼帶渡辺元之助跡被仰付

一同年十月廿三日御膳番奥御納戸役兼御裏役御書物方之儀も相心得候様被仰付候

一同三卯三月十日御上京御供出立、同年四月四日帰

一明治元辰十二月十三日殿様御上京御供出立、巳二月六日帰

一同二巳十一月七日今般御改革二付役儀被免、御広間当番勤被仰付候事、

席山田藤重郎次

一同月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一 優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同年十二月五日病死

### 小宮山定夫 小伝太 未ノ十六歳

米六拾俵四斗三升六合

〔士族〕

一明治四未正月廿五日父伝家督被仰付、給禄米六拾俵四斗三升従前之通被

下候事

一同日非役江被入候事

一同年七月小伝太事定夫卜名替



小木藤右衛門

百石

宝永三戌七月五日養父六次郎跡目被下

先御代祖父六郎兵衛御取立、新番入

正徳三巳正月十六日於江戸五石式人扶持御加増被下、都合廿五石五人扶持被下、江戸御屋敷奉行被仰付、御留守番入、此節役義二付三人扶持被下

享保二酉五月十五日新知被下

同七寅御番割之節順席被仰付

元文二巳二月十七日於江戸御役御免

同三年五月十四日大番入

小木藤右衛門

百石

宝暦五亥十月十一日養父藤右衛門休息、家督無相違、大番入

明和五子四月五日道奉行三岡助右衛門跡

小木藤右衛門

百石

安永六酉九月十六日養父藤右衛門跡知無相違、大番入

天明八申六月廿一日御金奉行滝六藏跡

寛政十一未五月十六日御勘定拝借奉行周防長兵衛跡

文化二丑十月廿九日御留守作事奉行寺沢藤左衛門跡

文化四卯二月六日御先作事奉行真田五郎兵衛跡、御役料百五十石被下

同十二乙亥正月廿七日御先物頭大井長十郎跡被仰付

同十三子八月廿日御金奉行役中心得違二付閉門

文政五年六月十日御側物頭太田三郎兵衛跡被仰付

文政十亥六月廿三日隠居

小木六郎兵衛

百石

一文政十亥六月廿三日父藤右衛門家督無相違被下置、大御番組江被入

一同十二丑十月六日謙五郎様御附御近習番被仰付、御書院番組へ被入

一同年江戸詰十月十二日出立

一天保十亥五月十一日楷五郎様御附奥御納戸役被仰付

一同十四卯閏九月廿五日魏光院様御逝去二付御役御免被成、御書院番組江

被指置候

一弘化四未二月十四日御膳番格被仰付

一嘉永五子二月十六日末之番外御時宜役被仰付

一安政四巳二月十五日御使番格二被成下、御役料之趣を以廿五石被下置、

役儀之儀ハ御免被成候



一同七申正月十六日年寄候ニ付隠居

小木左平次

〔士族〕

百石

安政六未六月十四日横浜御警衛ニ付御雇詰支度出来次第出立被仰付、詰中三人扶持被下置候

一同七申正月十六日養父六郎兵衛年寄候ニ付隠居被仰付、於江戸表家督百石無相違被下置、大御番組へ被入候

一同年四月廿日帰着

一万延元申七月十一日太田御陣屋詰中臨時横浜へ出張ニ付御褒詞、且又御雇詰被仰付候ニ付銀式枚被下置候

一文久元酉六月十一日家内多人数之処、一和致し難洪を凌相勤候趣ニ付、為御手当米拾式俵被下置候

一同二戌閏八月九日支度出来次第江戸詰被仰付、出立

一同年十二月廿三日来春中将様御船ニ而御上京被仰出候ニ付、陸廻り御先出立

一同三亥三月廿五日右御供ニ而着

一同年四月五日次男拾九郎逼塞被仰付候ニ付、伺之上指扣被仰付、同十日御免

一同年八月十七日御参府御供ニ而出立、同十二月江戸方御上京御供、子二月御帰国御供着

一元治元子三月二日上京、四月十二日帰

一元治元子六月廿五日倅登老郎義在京以来不埒至極之儀有之ニ付、夫々異見等相加へ候得共、更ニ改心鉢ニも不相成趣士操も無之不廉恥至極ニ付、

侍御削之上押込被仰付候、且又其方義も取斗方不参届ノ趣相聞不調法之事ニ候、依之遠慮被仰付、七月十六日御免

一同年十月十五日長征出立、丑二月二日帰

一慶応二寅正月十六日道奉行川地権内跡、御留守番組へ被入候

一明治二巳二月十七日今般御掃除奉行被廢候ニ付、是迄支配之儀道方附屬被仰出候

一同年十一月朔日今般御改革ニ付役義被免、御広間当番勤被仰付候事

一同月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下候

一同三年九月十五日任権少属

但監正寮勤 堀土居上水道方振退

一同年十二月十二日権少属心得勤 年給十九俵

但監正寮出仕

一同四未六月朔日御改正ニ付免職



小木甚助

拾八石三人

享保三戌五月廿八日役人方御取立、新番入、御勝手受込役

同五子七月十三日御預所下請込

同十一年七月廿一日御留守番入

同十三申十月廿一日御預所御代官下請込ハ兼帯

同十七子十月十六日御預ケ所御所務方御免、御代官其儘



小木甚助

拾八石三人

享保十九寅三月廿五日養父甚助跡目被下、大番入

寛延三年七月廿三日相身鉢末

安永三年十月十七日御定之年数相満候二付順席

同六酉三月十六日用水奉行御留守番入、川地平次右衛門跡

天明五巳六月十一日御代官松原藤右衛門跡

小木三郎平 死

拾八石三人

寛政五丑九月朔日父甚助年寄候二付休息被仰付、家督無相違被下置、大御番組江被入

小木三郎兵衛 熊三郎 甚蔵 三郎右衛門

拾八石三人

文化元子三月五日父三郎平家督無相違、大番入

同十三寅七月廿日不埒二付遠慮

天保四巳三月十六日御番改羽中田善兵衛跡被仰付

天保十二丑二月五日御鷹場へ致鳥殺生不調法二付、御役御免遠慮

弘化三年閏五月廿五日御留主武具奉行吉池角左衛門跡、御留主番組へ被入候

小木軒太左衛門 軒八郎

拾八石三人

一嘉永元申八月十一日親三郎兵衛休息被仰付、家督拾八石三人無相違被下置、無役御留守番組へ被入候

一安政元寅十二月廿八日軒太左衛門与改

一同五子十月十六日病身二付内願之通休息被仰付候

小木小五郎 土用吉 造酒

拾八石三人

一安政五午十月十六日親軒太左衛門病身二付内願之通休息被仰付、家督拾八石三人無相違被下置、大御番無役組へ被入候

一文久二戌閏八月八日御番割二付大御番入

一同年十一月廿四日来春殿様御上京被遊候二付為御待請出立、同三亥三月御供二而帰

一同三亥六月三日御番頭引纏上京、九月五日帰

一同年十二月廿四日京都表動揺之節為御守衛出張二付、朝廷方為御褒美式百五十疋被下置候

一元治元子七月廿一日京都表へ出立、夫方長征、十二月帰

一同年十二月造酒卜名替

一同二丑二月朔日賊徒警衛敦賀江出張、同九日帰

一慶応二寅十二月小五郎与名替

一同三卯三月十日御上京御供出立、直ニ御警衛詰、七月十九日帰

一同四辰四月三日京都御警衛詰出立、九月十八日帰

一明治二巳四月九日中納言様御供、東京江出立、六月十三日御人減二付帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三十九俵四斗三合被下

一同三年五月廿四日第一大隊一番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備一番隊 年給六俵  
一同四未十月十三日解隊、十一月帰



小寺作左衛門

百五拾石 外役料百石

元祿四未二月十一日於江戸五拾石御加増、都合百五拾石ニ被成下、同日  
御姫様附被仰付

宝永四亥五月十五日梅姫様へ被為附役料被下

小寺次左衛門 作左衛門

百五拾石

正徳二辰五月九日於江戸中奥御小姓被召出

享保六丑五月十五日御腰物奉行飯沼九太夫跡、同日新知百石被下、御書

院番入

同七寅二月十三日若殿様御腰物奉行

同年七月廿六日父作左衛門跡知無相違被下、御役御免、自分知上ル、大  
番入

寛延四未正月十三日末之番外表御取次

小寺作左衛門

百五拾石

宝曆三酉六月九日養父治左衛門隠居、家督無相違、大番入

安永六酉五月廿九日格式末ノ番外

同九子四月二日御留守中御腰物奉行飯役

小寺作左衛門 死

廿五石五人

天明三卯十一月晦日父作左衛門隠居被仰付、家督百五拾石無相違被下置、  
大番入

寛政六寅六月三日不埒至極之趣有之拜知御取上被成、御擬作廿五石五人  
扶持被下置、閉門被仰付

小寺儀左衛門 市太郎

廿五石五人

享和三亥十二月廿八日父作左衛門跡目無相違、大御番入  
文政三辰十一月病死

小寺儀左衛門 右次事

百石

一文政三辰十二月廿四日養父儀左衛門家督無相違被下置、大御番入被仰付  
一同十亥四月廿九日浅姫様御附御広式御用達被仰付

一天保三辰閏十一月廿九日御広式御勘定吟味役兼帶被仰付

一同六未年十一月七日今般御家督御引移御用多相勤候ニ付御褒詞

一同八酉四月八日表御納戸役小関市郎太夫跡被仰付、大御番入

一同九戌三月十九日謹姫様御婚姻被為濟右御用掛リニ付、金五百疋被下

一同年十二月廿八日今般御家督御引移御用掛リ出精ニ付、御紋御上下壺具

被下

一同十一子年八月廿八日松栄院様御附御広敷御用達并御勘定吟味役兼帶、御書院番入

一同十四卯年三月廿五日、昨年公辺<sup>ろ</sup>御住居御入用巨細相調被差出候様被仰出、右御用掛り出精二付金百疋被下

一同年十二月廿八日当秋神田橋御立寄御用掛り二付御褒詞

一弘化元申年三月十四日神田橋御立寄二付右同断

一同四未年九月十二日右同断

一嘉永三戌正月廿九日出精相勤候二付、役中年々銀三枚ツ、被下置

一同四亥四月九日今般両御丸様神田橋御住居へ御立寄之節、御用掛り出精

二付御褒詞

一同年十二月十一日出精相勤候二付役儀其儘格式末之番外被仰付、御充行拾七人扶持二御直被下候、但是迄役中年々被下置候銀三枚以後不被下候

一同五子四月廿五日御住居御普請御用懸り出精二付、御目録金貳百疋

一同六丑二月九日松栄院様花之頃浜御庭へ被為入候御沙汰被仰出候二付、御用掛り被仰付候

御用掛り被仰付候

一同七寅十月廿三日松栄院様御附御広敷御用人見習被仰付、御徒頭次席二被成下、御役料五拾石被下置、勤向之義ハ当分是迄之通相勤候様被仰付候

候

一同年十一月廿二日当分勤向松栄院様御附御広敷御用達并御勘定吟味役兼、是迄之通相勤候様被仰付置候処、右勤向之儀ハ御免被成候

一安政四巳九月十四日松栄院様御逝去二付御役御免被成、席御役料其儘被下置候、且又是迄出精相勤太儀二思召候、此段申聞候様被仰付候

一同五午十二月 神奈川御警衛場御人数出張被仰出候二付、御物頭被仰

付、出張中御留守居代り

一万延元申七月廿八日先達而臨時横浜表江出張二付御褒詞

一同年十一月十日勤方御広式御用人本役同様被仰付、御水主頭次席二被成下、御役料五拾石御増、都合百石被下置候

一文久二戌閏八月二日賀代姫様御縁組二付、取調掛り同様被仰付候

一同月廿三日靈岸島御屋敷御広敷向折々見廻り入念取扱候様被仰付候

一同三亥三月六日御前様安姫様御国江被為入候二付御供二而出立、廿三日着、同廿七日折返シ江戸へ出立

一同年六月十二日今度御国表江引越被仰付着

一同年九月廿九日賀代姫様来春御入興二付御用掛り被仰付

一元治元子二月廿九日新知百石被下置候

一同年六月廿五日年寄候二付隠居被仰付候

小寺ヨシミ義実 官之丞

〔士族〕

百石

一万延元申六月六日靈岸島御屋敷學問所役配年々銀貳枚ツ、被下置候

一文久元酉五月十一日砲術訓練修行被仰付候

一同年九月七日學問所役配之儀ハ御免被成、尚又御用透之節ハ厚心懸候様被仰付候

一同二戌四月三日横浜表江臨時致出張候二付、御褒詞之上三百疋被下置候

一同年九月十四日中将様御附御近習御雇被仰付、御扶持方五人ふち被下置候

候

一同三亥正月廿三日中将様御上京被遊候二付御供、三月廿五日御供二而御

国表へ罷越

一同年八月三日御近習番御雇被仰付、御扶持方五人ふち其儘被下置、右御雇中御近習番同様御書院番頭支配ニ被仰付、御参府御供被仰付候、八月十七日出立、同十二月江戸へ御上京御供、子二月御帰国御供着

一元治元子六月廿五日親儀左衛門年寄候ニ付隠居被仰付、家督百石無相違被下置、大御番組へ被入候

一同廿六日御近習番被仰付、御書院番組へ被入候

一同年八月九日於毛屋町新規出来之家屋敷被下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫々長征、丑三月帰

一慶応二寅二月五日御馬廻被仰付

一同三卯三月十日御上京御供出立、四月四日帰

一同四辰三月十四日上京、五月廿七日帰

一明治卜改元、九月廿二日戦地為斥候若松口并庄内口江被遣、同廿六日出立、十月廿三日帰

一同年十二月十三日殿様御上京御供出立、巳二月六日帰

一同二巳三月廿六日御近習庶務執事被仰付、信次郎様御相手振退勤被仰付

一同年十一月七日御家従被仰付候事

但奥詰

一年給式俵被下候事

一同月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同三年十月廿八日御家従被免候事

一同日修業列江被入候事

一同日は迄御手許御用相勤太儀ニ被思召候ニ付、為御酒代金千疋被下置候

一同年閏十月廿五日修業列名目被廢非役卜唱

一同五申五月官之承事義実<sup>ヨシシ</sup>

国分

国分三右衛門

百石 外二銀拾枚

延宝四辰八月十五日被召出、金貳枚五人扶持被下

同七未六月廿九日新知百五拾石被下、御馬方組

貞享三一統半知二成

同四卯六月廿七日新番被仰付

享保十一午三月廿九日新番へ御留主番組へ被入、相身躰末席被仰付、家業精出シ老年迄相勤候ニ付

国分三右衛門

廿五石五人

享保十二未七月五日養父三右衛門跡目御扶持方拾人フチ被下、御留守番入

同十五戌八月御番割之節大番ニ被入

元文三年五月廿五日御馬方

延享元子十二月朔日御切米廿五石五人御直し被下

寛延三年七月廿三日順席

国分次郎太夫

百石

寛延四未四月十一日養父三右衛門病氣ニ付休息、家督無相違、大番入、

御馬方養父之通

天明六年十二月十四日御書院番入

同七年七月廿日御厩別当役関甚五右衛門跡

寛政十年正月十六日年来相勤家業出精二付、新知百石被下置

国分伝右衛門 彦七

百石

文化元甲子八月九日父次郎太夫休足被仰付、家督無相違、大御番入、御馬方

文化十三年十月廿日養子又太郎家督無相違被下置

国分次郎太夫 又太郎 勝之助

百石

文化十三年十月廿日養父伝右衛門病中願之通養子被仰付、家督無相違被下、大御番入、御馬方被仰付

文政十二丑四月廿九日不慎之義有之遠慮

天保十亥ノ六月廿五日御厩別当役山田藤内跡被仰付、御書院番入

天保十一子五月廿五日不慎之趣相聞二付、於江戸遠慮

嘉永三戌九月十六日窺之上遠慮被仰付、廿二日御免

嘉永三戌年病死

国分千里 他次郎 彦七 三弥 実中村宗兵衛次男

〔士族〕

廿五石五人

一嘉永三戌十一月廿五日養父次郎太夫家督無相違被下置、大御番組江被入、

御馬方被仰付候

一安政元寅十二月廿八日彦七与改

一同三辰十二月廿七日不埒至極之趣相聞、依之拝地御取揚被成、御充行廿

五石五人扶持被下置、閉門被仰付、同四巳二月十六日御免被成候

一同四巳二月廿五日家屋敷松尾外太郎屋敷地之内御用地二被下置、居宅之義も建被下候

一同六未二月野治平八郎屋敷与相對替

一同年三月廿五日江戸詰出立、同七申三月十五日御供二而帰着

一文久二戌十二月廿八日三弥与名替

一同三亥八月十七日御参府御供二而出立、同十二月江戸方御上京御供、子

二月御帰国御供着

一元治元子七月四日京都へ出立、八月十四日病氣願之上帰

一同年十月十四日長征出立、丑正月帰

一同二丑正月廿七日賊徒警衛敦賀江出張

一慶応与改元、閏五月十四日御趣意二付役御番組へ被入候

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同三卯三月十日御上京御供出立、四月四日帰

一明治二巳正月廿九日御趣意二付家業之儀ハ御免被成、御広間当番勤被仰付、御留守番組江被入候

一同年九月廿九日多年精勤之处御藩制御改革二付、為御慰勞廿五両被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五十三俵壹斗四升三合被下

一 予備隊

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同四未十二月三弥事千里卜名替

古石

古石郡左衛門

廿石三人

寛延二巳二月廿五日御徒小頭方御取立、用水奉行御留守番入、三石御加増、大久保利助跡

古石郡右衛門 庄次左衛門

廿石三人

宝曆十辰二月廿九日養父郡右衛門休息、家督無相違被下、大番入、但其身御擬作ハ上ル

古石百右衛門 病死

廿石三人

宝曆十三未六月廿二日父郡右衛門跡目無相違、大番入

安永三年十月十七日御定之年数相満、相身躰末

天明二寅正月廿日用水奉行青山弥五右衛門跡、御留守番入

寛政二戌二月廿日御代官松山次郎右衛門跡

同七卯七月廿日遠慮

同十年八月晦日御定之年数相満候ニ付順席

古石助五郎

式拾石三人

文化四卯六月十六日養父百右衛門家督無相違、大御番入  
同十二亥七月病死、家督方九年目ニ而跡目榮五郎相身躰末ニ被仰付

古石次郎兵衛 榮五郎

式拾石三人

文化十二亥八月十六日古石助五郎病中願之通養子被仰付、跡目無相違、無役御留主番入、御趣意ニ付席御下ケ相身躰末席

同十四七月十五日病死ニ付、家督方三年目ニ而跡目清三郎御取立席被仰付候

古石百右衛門 清三郎

式拾石三人

文化十四丑年九月五日古石次郎兵衛病中養子被仰付、跡目無相違、無役御留守番入、御趣意ニ付席御下、御取立席

天保十二丑三月晦日倅豊太郎難見届義有之、御国為立退、伺之上指扣被仰付、四月三日御免

嘉永元申五月十六日内願之通休息

古石郡平 彈右衛門 作之助事

廿石三人

〔士族〕

一嘉永元申五月十六日親百右衛門病身内願ニ付休息被仰付、家督廿石三人  
ふち無相違被下置、無役御留守番組江被入候

一同年十二月廿八日御趣意ニ付先年相身躰末席江御下ケ被成候処、此度思



召を以以前之順席ニ被成下候

一同三戌六月廿九日兄金太郎儀猥ニ鉄砲持参、野先へ度々鳥殺生ニ罷出不埒ニ付蟄居被仰付、依之作之助伺之上遠慮被仰付候

一安政六未六月十七日横浜御警衛詰被仰付出立、万延元申四月十九日帰着  
一万延元申六月廿六日御番精出候ニ付羽織被下

一同年七月十一日太田御陣屋詰中臨時横浜へ出張ニ付御褒詞

一元治元子四月十三日上京、六月八日帰

一同年五月廿五日御留守武具奉行并彈藥方兼帶横山吉太夫跡被仰付、御留守番組へ被入候

一元治元子八月廿六日御先武具奉行彈藥方兼帶被仰付、大御番組へ被入候

一同年十月十五日長征出立、丑二月三日帰

一慶応元丑閏五月十二日昨年来非常之御用繁相勤候ニ付、銀式枚被下置候

一同晦日家屋敷堀武左衛門家屋敷へ替被下、建曲之分御直シ被下候

一同年十一月十六日御趣意ニ付役御番組江被入候

一同年十一月廿九日大坂表江出張

一同二寅七月五日御番両度皆勤ニ付御紋御帷子被下置候

一同年十月朔日帰

一同年十一月十一日御武具御修復御改正中出精相勤候ニ付、金式百疋被下置候

一同三卯二月十六日御趣意ニ付御役御免被成、御書院番組江被入候、御広間番

一明治二巳六月廿一日彈右衛門事郡平卜改

一同年九月廿九日多年精勤之处御藩制御改革ニ付、為御慰勞廿五両被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾貳俵六升被下

一同三午七月廿五日会計寮権少属被仰付候事 但造営方

一同年十二月十二日職務被免候事

一同日非役江被入候事

### 小堀

小堀元右衛門

廿石三人

元禄十六未四月五日養父七右衛門跡目無相違、新番入

正徳四年三月五日御土蔵番青木与右衛門跡、御留守番入

享保七寅冬順席

小堀伝右衛門

廿五石五人

享保十九寅十月廿五日父元右衛門跡目被下、大番入

宝歴三酉二月十一日御土蔵番御留守番入

同九卯三月五日御留守武具奉行野村長藏跡

明和五子七月廿日表御納戸大番入

安永六酉正月四日五石式人扶持御加増、都合此通り

小堀伝右衛門

廿五石五人

安永八亥九月廿日父伝右衛門休息、家督無相違、大番入

天明六年六月十一日番改松山藤助跡

小堀伝右衛門

廿五石五人

寛政九巳正月廿日父伝右衛門跡目無相違、大番入

小堀伝右衛門 末三郎

廿五石五人

一享和三亥十一月廿九日兄伝右衛門病中願之通養子ニ被仰付、家督無相違被下置、大御番組へ被入

一文政七申七月十一日御番改皆崎次右衛門跡

一同十三寅八月廿五日用水奉行安川弥三右衛門跡

一天保八酉二月廿九日御代官役津田藤左衛門跡

一弘化二巳十月廿九日用水奉行木内甚兵衛跡、役席仙石喜右衛門上へ被入

一同三午閏五月廿五日出精相勤候ニ付、銀三枚ツ、年々被下置候

一嘉永三戌十一月廿九日御預所御代官役中沢七兵衛跡被仰付候

一同四亥十一月三日御預所并御領分村々、丸岡領樋爪為安岡村与十郷用水

路論出訴一件、先役中出精ニ付御褒詞

一同五子六月十六日年寄候ニ付休息被仰付候処、年來相勤候ニ付金三百疋

被下置候

小堀伝太夫 勝太郎

廿五石五人

一嘉永五子六月十六日養父伝右衛門年寄候ニ付休息被仰付、家督廿五石五

人扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入候

一安政元寅十二月廿八日伝太夫与改

一同四巳四月廿二日明道館内へ武芸稽古所御集被成候ニ付、久野猪兵衛稽

古所詰被仰付候

一同年十二月十一日用水奉行小野太郎太夫跡被仰付、御留守番組へ被入候旨

一元治元子十二月賊徒一件出張ニ付、御手当銀三百匁被下

一慶応三卯四月十一日出精相勤候ニ付、年々銀五枚ツ、被下置候

一同年十一月十一日倅尚ニ御叱ニ付伺之上指扣被仰付、同十四日御免

一明治二巳二月十六日年寄ニ付休息

ナラジ  
小堀尚二 小伝太 伝太夫倅

廿五石五人

元治元子十二月賊徒一件出張、御手当式百匁被下

一同二丑正月十六日京都堺町御門為御警衛上京被仰付、十九日出立

一慶応与改元、十月九日京都詰其儘一番之補兵隊被仰付候、寅正月廿九日

帰

一同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月同断帰

一同年十二月尚二与名替

一同三卯三月廿四日昨年来御人少之処、鳴物教授方出精相勤候ニ付銀三枚

被下置候

一同年五月朔日御持第五小隊差添被仰付、勤中年々銀拾枚ツ、被下置候

一同年十一月五日心得違之趣相聞候ニ付御叱被成候

但右ニ付伺之上遠慮被仰付、同十八日御免

後藤

一同年十二月十五日補兵隊被仰付、今度御上京御供被仰付、相止

一同四辰四月廿五日遊撃隊へ被召出、五人扶持被下置候

一同年九月八日御警衛詰上京、十一月十六日帰

一明治ト改元、十二月十六日明道館居寮生被仰付

一同二巳二月十六日親伝太夫年寄ニ付休息被仰付、家督廿五石五人扶持無相違被下置、遊撃隊江被入候

一同月廿九日上京、三月六日中納言様御供帰

一同年四月九日中納言様御供東京出立、十月十三日帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾三俵壹斗四升三合被下

一同三年五月十五日、去ル十日夜行之節永見敷馬義町人体之者江突当り組合候節、大勢ニ而致打擲候次第心得方不宜、已来右体心得違無之様支配

頭江御移リヲ以御異見被成候事

但伺指出候得共不及其儀旨

一同月廿四日第一大隊一番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵

一同四未十月十三日解隊

一同廿五日病死

小堀徳藏 実弟

〔士族〕

明治四未十月廿五日養父尚二病死ニ付家督相統

一米五拾三俵壹斗四升三合

後藤文五右衛門

拾八石三人

文化十五寅正月十五日小役人御台所頭目付同頭兼方御取立、新番格是迄之通り御奉行支配

文政十亥四月廿六日御預所御勝手役篠原長次郎跡被仰付

同十一月九日出精相勤候ニ付新番組へ被入

後藤文五右衛門 右橋事

拾八石三人

一文政十二丑六月九日親文五右衛門跡目無相違被下置、新御番組江被入候

一天保十五辰四月廿四日出精相勤候ニ付、御紋御上下被下置候

一弘化二巳四月十一日本庄中ノ郷御屋敷奉行仮被仰付候

一嘉永二酉四月廿一日御台所目付同頭兼帶被仰付、是迄為失却年々被下候

銀三枚其儘被下置候

一同年十二月十五日御前様御引移御用懸り出精相勤候ニ付、御上下壹被下置候

置候

一同三戌六月廿二日御台所目付同頭兼帶其儘、御武具奉行仮兼帶石川市郎

左衛門跡被仰付候

一同四亥四月九日今般神田橋御住居両御丸様御立寄ニ付御褒詞

一同五子正月十日御台所定使小遣多四郎与申者火之元等閑之義有之、依之遠慮伺之上指扣被仰付、同十二日御免

一同六丑七月朔日御武具御修復中并此度御人数被指出候節、御武器出シ入

レ心配行届、始終御都合能相勤候ニ付、御目録之通御召御帷一金三百疋

被下置候

一同年十二月廿五日謚姫様御婚姻被為濟、右御用掛り出精二付銀拾五匁被下置候

一同七寅年三月廿三日御固御人数被差出候節、始終心配相勤候二付御下緒

耆掛々金式百疋被下置候

一安政三辰五月十七日御武具奉行仮其儘、靈岸島御屋敷奉行仮兼帶被仰付候

一同七申正月十八日近來御用多之處、出精相勤候二付御足充行式石被下置候

一万延与改元、六月六日病死

後藤<sup>ヒロトモ</sup>広胖 鉄太郎

〔士族〕

拾八石三人

万延元申七月廿六日親文五右衛門跡目拾八石三人扶持無相違被下置、新

番組末席へ被入候

一文久元酉三月廿五日元席へ被入候

一同二戌四月三日横浜表江臨時出張二付、為失却百疋被下置候

一同三亥三月廿八日靈岸島御屋敷飯御台場大砲打方被仰付、当分御番御使者御用捨被成候

一元治元子四月十一日御上屋敷學問所定詰学生致世話候様被仰付

一慶応二寅十月廿二日役新番組二被仰付候

一同四辰正月廿五日今般御趣意二付御国表江引越被仰付、然ル処直二詰

一同年三月六日御趣意二付支度出来次第御国表江罷帰候様被仰付、四月四日着

一同年四月七日第一遊撃隊へ被入候

一同廿五日遊撃隊江被入候

一同月廿九日家屋敷中ノ馬場元御花畑ニおゐて、東方四番新規之家屋鋪被下置候

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張二付十三兩被下候、外三百疋

一明治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

一同三午四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉強二付、御賞典之内十石十ヶ年令頒授候事

一同年五月廿四日第一大隊四番小隊入被仰付候事

一同年十二月 予備一番隊 年給式俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

一同五申五月鉄太郎事広胖

上月

高坂

香西

右各か二出

小嶋

小嶋宗津

百石

元禄十一寅三月十三日良甫跡目無相違被下、但此節迄自分ニ御扶持方被下

享保九辰七月五日新知被下

小嶋良甫 知策 宗印

百石 外二銀十枚

享保十巳十二月五日養父宗津跡目無相違、御茶道

明和七寅六月廿九日年来相勤候ニ付格式奥医格

安永五申十一月七日年来出精ニ付銀拾枚ツ、每年被下

同六酉十月廿日養子良琢不埒之義有之ニ付高間九兵衛方へ相返シ、父子縁を切可指戻旨

小嶋知策 良策 病死

百石

安永七戌六月十一日養父良甫跡目無相違、御茶頭

小嶋宗長

百石

天明三卯六月十一日養父知策跡目無相違被下置、御茶道

文政三辰年十二月病死

小嶋宗印 知策事

百石

一文政四巳年二月十六日養父宗長跡目無相違被下置、御茶道被仰付候

一弘化二巳年九月十六日心得違之趣相聞候ニ付遠慮  
一安政五午二月廿九日病身ニ付内願之通休息

小嶋左織 宗博 実久保一郎右衛門次男

百石

〔士族〕

一安政五午二月廿九日養父宗印儀病身ニ付内願之通休息被仰付、家督百石無相違被下置、御茶道ニ可被仰付処、武術心掛候ニ付新御番組江被入候  
一同年三月五日左織与名替

一同年十一月廿九日洋学修行被仰付置候処、尚又江戸表江罷出致修行候ハ、可然との御沙汰之旨被仰出候、但修行中御扶持方三人扶持被下置候、十二月十日出立

一文久二戌十月六日今度農兵御端立ニ付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候

一同三亥十月十三日中将様御供ニ而上京、子四月廿三日同断帰

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之御酒被下置候

一同年十月十七日京詰出立、十二月帰

一同年十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀六百匁被下置候

一同二丑正月廿五日上京、五月七日帰

一慶応二寅正月十六日製造方小銃方被仰付候

一同年十月廿二日役新番組へ被入候

一同四辰正月十日製造局為御用上京、同年三月十一日帰

一同年五月十一日今般御趣意ニ付役中役御番組江被入候

一同月廿五日出精相勤候ニ付年々銀七枚ツ、被下置候

一同年八月朔日小銃方其儘製造方吟味役兼勤被仰付

一明治卜改元、十月廿五日今度御武具局製造局江御附属相成、現物仕訳方心配相勤候ニ付御褒詞被成下候

一同二巳二月十八日 月給十俵

一同日東京詰被仰付、同廿五日京都江立寄夫江東京江出立、十月十九日帰

一同月廿二日奥羽越御人数出張中格別勤勞ニ付金貳両被下

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下

一同月廿七日御改革ニ付製造局被廢候、依之役儀被免予備隊江被入候、但

翌廿八日修業隊卜可相唱

一同年十二月廿四日今般御改革ニ付役儀被免候処、是迄出精相勤ニ付金千疋被下候事

一同三年閏十月廿五日予備隊名目被廢非役卜唱

### 兎玉

但御徒目付方御取立ニ付、御取立以前之儀ハ御記録ニ有之

※「剝札」末にあり

### 兎玉平兵衛

拾八石三人 御徒目付頭取役中御足貳石

一安政三辰十一月十一日御取立被成下、大御番入被仰付、勤方之儀ハ是迄之役筋可相勤旨被仰付、且又頭取之儀ハ是迄之通、右ニ付役中貳石其儘被下置候

一同四巳四月朔日御調筋有之ニ付役儀御免被成、依之御役料貳石以後不被下候

一同年五月十六日其方義御徒目付頭取勤中、金談為御内用泉州堺表へ被指越候処、金段不調ニ付御為筋之存念とハ乍申、右金子於御国元及才覚、

先方江出銀之躰ニ取成、欺上候始末不届至極ニ付、侍御削被成御城下立

退被仰付、御領分ニ罷在他国へハ罷出候様被仰付候、且又御徒目付年

来相勤候ニ付、格別之御憐愍を以家名御立被下、倅熊吉御徒ニ被仰付、

御充行拾五石三人扶持被下置、押込

### 小村

御取立以前御記録ニ有之

小村績 イサヲ 耕輔

拾五石三人

〔士族〕

慶応三卯正月十六日出精相勤候ニ付御取立被成、新御番格ニ被仰付候

一同年八月二日今度於御座所御建継御普請被仰付候ニ付、御用掛り被仰付

一明治元辰十二月廿七日御用有之ニ付支度出来次第出立、京都表江立寄直

ニ東京江罷越候様被仰付

一同二巳正月朔日加州粟ヶ崎表江出立、同七日帰

一同月十二日上京、夫江東京江罷越

一同年二月十八日月給十俵、御足充行相止、但三石也

一同年七月廿五日近來格別出精相勤ニ付、役中新番席被仰付、司計局大橋

半蔵次

一同年同月廿八日先般東京御屋敷御普請出精相勤ニ付、御褒詞被成下候事

一同年十月十七日当春以來格別出精相勤候ニ付、御紋御上下一具被下候事

一同年十一月朔日今般御改革ニ付、役義被免

一同日出納方主務被仰付候事

但四等官橋本彦也次

一月給米一年分廿俵被下候事



一同年十一月十八日東京ヨリ帰

一同月廿一日司計局権大属被仰付候事 出納也 未正月より年給五十四俵

一同月廿五日今般御改革、更給禄米三拾五俵四斗五升被下

一同三年十一月廿八日稻荷町裏持地之内二而九十六坪拝地被下候

但八月廿一日拝地自分抱地之内二而振替願之通二相成候事

一明治四未六月朔日御改正二付免職

一同二日任福井藩権大属

一同年十月廿九日任福井県大属

但勤向従前之通

一同年十二月七日福井県九等出仕

出納課

一同十日任福井県権典事

出納課従前之通

一同五申五月耕輔事續卜名替

一同六年一月十八日老年二付隠居

小村祐 実西沢丈右衛門次男

〔士族〕

一拾六石四斗壹升



三 福井藩士履歴 さ

酒井<sup>1</sup>

酒井玄蕃

五千廿五石 内千石与力十人

元禄六酉八月廿三日百人扶持被下

同十丑六月十八日父玄蕃家督無相違四千廿五石被下、御扶持方如本被下、如本御家老職、与力御預組頭、右各家督同日二被仰付  
宝永五子秋父有休死去二付御扶持方上ル

酒井外記

五千廿五石 内千石与力十人

元文元辰十二月廿九日父玄蕃家督無相違、高知席芦田図書上、御城下火消

同五申五月七日御家老職、席松平庄兵衛次

同年五月廿二日組頭与力御預狛木工跡也

延享四卯八月十九日御懇意を以二三年江戸相詰、若殿様御用可相勤旨

明和五子六月廿一日御役御免、組頭其儘高知席本多左門上

明和六丑五月十一日以後月次御礼於鉄砲間被仰付、指物之間着座、中ノ

口往来御門々々惣下座被仰出、重キ御用之儀ハ申談候様

酒井外記

四千廿五石

安永四未二月十日父外記隠居、家督無相違、高知席松平主馬次、御城下

火消

同七戌閏七月廿八日御家老職、席狛大学次

同八年八月廿九日組頭狛帶刀跡、与力御預ケ

天明七未十一月十八日思召有之二付御役組頭共二御免被成、高知席松平主馬次

寛政六寅正月十六日御宮火消格別二被仰付、御礼席等結構被仰付

文化四卯正月廿四日年始御礼席韃靼之間、月次御礼席是迄之通、御座所中ノ口往来

文化十三子四月十二日隠居、倅典膳へ家督四千廿五石無相違被下置、以後御機嫌伺二可罷出、中ノ口往来、都而狛玉巖御取扱同様

酒井典膳

四千廿五石

文化十三子四月十二日父外記隠居、家督無相違被下置、高知席稲葉図書次、御城下火消被仰付候

文政二卯三月廿五日弟渡辺新三郎義不慎之義有之、弟新三郎遠慮被仰付、

典膳義伺之上指扣被仰付

同四巳四月病死

酒井外記 貞次郎

四千貳拾五石

文政四巳五月廿三日養父典膳跡知無相違、高知席岡部左膳次、御城下火消

文政八酉九月十六日病死

酒井外記

四千廿五石

一文政八酉十一月四日養父外記跡知無相違被下置、高知席有賀極人次、御城下火消被仰付

一同九戌江戸立帰出府被仰付、正月十日出立

一天保七申八月四日御家老職、席本多筑後次

一同九戌年江戸立帰出府被仰付、十一月八日出立

一同十一子江戸詰被仰付、八月廿四日出立、翌寅三月十三日帰着

一同十四卯八月十九日組頭被仰付

一同十五辰江戸詰被仰付、正月十四日御供二而出立、翌巳年五月七日帰着

一嘉永二酉正月廿六日病氣内願二付御役組頭共御免、松平庄兵衛次、月次

御札鉄砲之間御通掛御目見、右二付指物之間着座中ノ口往来被仰付

一同三戌十月十日出火之節下馬御門内江相詰、右二付仲ケ間取扱被差除御

坂札三枚被下

一同六丑二月廿八日病身二付先年内願之通御役儀御免被成候節、御取扱茂

別段被仰出候処、追々全快之趣二付、御寺御参詣御用多之節、御先詰相

勤候様被仰出候、依之左之通被仰付候

一御門所之内下座被仰付候事

一臨時拝領物可被仰付義二付可有之事

一同七寅六月四日病身二付内願之通隠居被仰付、別紙之通御取扱被成下候

一年始御札韃鞢之間、独礼被為請候事

一恐悦中御座所へ罷出申上并暑寒不時御機嫌伺同断之事

一中ノ口往来可致事

別段之思召を以御門所之内四ヶ所下座被仰出候

酒井温タヅヌ 小隼人 外記 隠居後静水霧

四千式拾五石

一嘉永七寅六月四日養父外記病身二付内願之通隠居被仰付、家督無相違被

下置、高知席、御城下火消被仰付、席之儀ハ思召を以岡部豊後次へ被入

一同年六月十三日塩町方出火之処及大火候節、出精之段御褒詞

一安政元寅十二月廿八日外記と名替

一同二卯正月廿二日御備組調練之儀掛り同様被仰付候間、御用掛り申談候

様被仰付候

一同五午八月廿一日殿様御相続之御札被仰上候節、御供被召連候二付、立

帰出府被仰付、来月廿六日頃迄ニ参着致候様九月八日出立、同十月廿三

日帰着

一同六未四月廿二日御家老職被仰付候

一同七申二月六日江戸御留守詰出立

一同年十二月 来々戌年迄詰越被仰付候

一万延二酉正月九日来戌年迄詰越被仰付候二付、当春御参勤御道中為御迎

立帰御供被仰付候

一同二月十二日帰着、同廿八日方(マ、)

一文久与改元、三月十九日御供二而折返シ出立

一同三亥七月廿六日組頭被仰付候

一同年九月廿二日御用有之、支度出来次第立帰上京被仰付、廿五日出立

一元治元子三月十三日帰

一同月十五日賀代姫様御縁組御用掛り被仰付、且又同日御軍制取調御用掛

り被仰付

一 同年四月十一日今般御軍帳御割替ニ付、向後大隊二隊御附属被成候段被仰出候

一 同年五月十八日、昨秋御用向有之上京、引続宰相様御在京中御用多相勤御満足ニ被思召候、依之御小鑿一御二所物被下候

一 同年十月十五日長征出立、丑二月六日帰

一 慶応元丑五月五日御用有之支度出来次第上京被仰付、同九日出立、十月廿九日帰着

一 同年六月廿四日御趣意ニ付組頭御免被成候

一 同三卯八月十二日今般御縁組御用掛り被仰付候

一 同年九月廿五日定式掛り

一 明治二巳二月十三日先般從朝廷被仰出之趣も有之、御藩治職制御改革ニ付、是迄之御職務御免被成候

一 同十四日守城管事被仰出候事、但一等官可為軍政総管後候事

一 同年六月十二日外記事温<sup>タヅ</sup>ト改

一 同年八月十一日下屋敷当分更ニ御借受被成候事

一 同年十月十一日下屋敷地之内西北ノ方、今度御用地被仰出候事

一 同年十一月二日表座敷之分御用ニ付当分御借受ニ相成候、学校幹事可申

談候事

一 同月廿五日今般御改革ニ付守城管事被廢、依之職務被免候段被仰出候事

一 同日今般御改革之処、更ニ給禄米六百九拾三俵壹斗三升九合被下候

一 同日触支配被仰付

一 同年十二月九日優待之面々触支配被仰付候事

一 同月廿二日下屋敷御用相済候ニ付御返シ被成候

一 同月廿八日当夏以来下屋敷御用相成候ニ付金五千疋被下

但疊替之儀ハ造営方ニ而取扱可申事

一 同三午正月十日日本多興之輔願取次并通達事取扱被仰付候事

一 同月廿九日表座敷御用相済候ニ付御返シ被成候事

一 同年二月十四日下屋敷北ノ方、昨年御用地ニ被仰付候地所並同所飛地ニ相成候坪数共、今度願之通下屋敷南ノ方ニ而振替地ニ被仰付候事

一 同月廿七日川中敷地一円御用地ニ被仰出候事

一 同月廿八日門前番小屋出来候節、水引悪敷ニ付取払、右地所御用ニ被仰付候事

一 同年七月四日先前之居宅、表之分御用ニ被仰付候事

一 同年閏十月廿五日優待列名目被廢非役ト唱

一 同日非役上席、但軍務寮支配之事

一 同日同触支配被仰付候事

一 同年十一月 先達而屋敷御用ニ被仰付候ニ付、會計寮<sup>カ</sup>之伺ニ而金五百兩被下候

一 同月廿五日家来御坂江過員ニ登山ニ付、伺之上謹慎三日

一 同四未正月十七日老年ニ付願之通隠居

同年二月廿三日酒井温事静水霧ト改

但御坂杭壹本

一 御留川両度拝領

酒井嘉多志

〔士族〕

一 明治二巳五月十六日兵学所詰被仰付

一 同年六月廿日小隼人事嘉多志ト改



米六百九拾三俵壹斗三升九合

一明治四未正月十七日父溫老年二付願之通隱居、家督被仰付、給祿米六百

九拾三俵壹斗三升九合從前之通被下候事

一同日非役江被入候事

一同年十一月三日今般由緒之有無二不拘朱印地除地一般上地被仰出候二付、

從來所持之石間歩可致返上事

一同五申二月東京へ遊歴

## 酒井<sup>2</sup>

酒井与三兵衛

貳千五拾石 内五百石与力五人

宝永二酉五月廿五日父与三左衛門跡目無相違、千三百五十石被下

同七寅正月廿九日御城代被仰付節、自分貳百石与力知五百石御加増被下、

御城代年月右二有ル

酒井与三左衛門

千五百石

宝永二酉五月廿五日父与三左衛門配知三百石被下処

同七寅十月十三日酒井与三兵衛家督千三百五拾石被下、自分知上ル

同月廿六日火消被仰付

享保九辰五月廿六日御家老職被仰付、百五拾石御加増、都合此通千五百

石

酒井与三左衛門

二千五百石 内千石与力十人

享保十八丑九月廿五日父与三左衛門家督無相違、高知席松平庄兵衛次

同十九寅七月十三日御城下火消

宝曆十辰三月十九日御家老職席岡部造酒助次

明和五子六月廿四日若殿様附御家老

同七寅七月十三日御表御家老職、組頭稻葉采女跡与力御預

酒井主水

二千五百石 内千石与力十人

安永三年十二月十四日養父与三左衛門隱居、家督無相違、席本多孫作次

同日御城下火消

同四未二月朔日若殿様御家老職、席御表御家老本多修理次

同九子五月廿七日御表御家老職、席岡部左膳次

天明八申五月廿八日組頭酒井外記跡、与力御預ケ

寛政三亥二月廿九日組頭御免、伺之上遠慮

同七卯三月十五日組頭被仰付、与力御預ケ

酒井与三左衛門 縫殿助

二千六百石 内千石与力

寛政十年十一月十四日養父主水内願有之隱居被仰付、家督無相違、高知

席酒井外記次、御城下火消被仰付

文化元子六月廿八日御家老職被仰付、席稻葉図書次

同四卯四月十日於江戸組頭被仰付、与力御預

文政七申四月廿八日思召を以御預所掛り、江戸へ奉書

天保六未二月廿七日年来相勤候二付、百石御加増被成下候

天保十四卯七月廿一日病死

酒井与三左衛門 数馬

千六百石

天保十四癸卯年九月十日父与三左衛門家督無相違、席粕木工次、御城下

火消被仰付

弘化四正月病死

酒井波門 柏之助事

千六百石

一弘化四丁未年三月廿三日親与三左衛門家督無相違、席岡部左膳次、御城

下火消、前髪有之内ハ出馬月番不及被相勤

一嘉永六丑七月三日去月十二日京町方出火之節、出精二付御褒詞

一同七寅正月十六日当夏御帰国御礼使者御内意被仰付候、然処五月十二日

出立

一安政五午六月廿九日病身二付内願之通隠居被仰付候

酒井孫四郎 禄助 与三左衛門 実明石将監養方之伯父

千六百石

安政五午六月廿九日養父波門儀内願之通隠居被仰付、家督千六百石無相

違被下置、高知席粕茂十郎次、御城下火消被仰付候

一同七月五日明道館学諭被仰付候

一同六未十一月十六日御趣意二付学諭御免被成、修行之儀ハ是迄之通相心得候様被仰付候

一万延元申十二月廿八日与三左衛門与名替

一文久三亥六月朔日今般農兵御派立二付一組御附被成候間、其手之面々并

掛り西尾十左衛門等江厚申談、万端引受致世話候様被仰付

一同四子二月廿日御家老職、農兵之儀是迄之通

一元治与改元、四月十一日昨年農兵一組御附被成候処、今般御軍帳御割替

二付御免被成候、且又稲葉采女方江御附之農兵二組共、万端引受被致世話候様被仰出候

話候様被仰出候

一同年六月十四日農兵一組御附被成候

一同年八月二日京都江早かけ出立、同十一日早かけ帰

一同年八月十四日組頭被仰付

一同年十月十四日長征出立、同二丑正月十日帰着

一元治元子十二月十九日小倉ニ有之、此度常野脱走之浮浪輩、兵器を携京

地へ罷登候趣相聞二付、一備被引纏帝都為御警衛被差登候間、早急出立

被仰付直様出立、京都へ立寄、夫方正月十日帰着

一同二丑正月敦賀賊徒御警衛出張、二月九日帰

一同年三月七日征長御供り罷帰、無間も敦賀表江出張、太儀之段御褒詞

一慶応与改元、閏五月九日御軍制掛り被仰付候

一同二寅九月三日御内用有之二付立帰上京、早々被致出立候様被仰付、同

五日出立、廿三日帰

一同年十一月十四日真田信濃守殿赤松小三郎儀兵学巧者之趣ニ候処、当時

在京ニ付右兵学被取調候様思召候、依之早速上京被仰出、同廿六日出立、

卯正月廿一日帰

一同三卯二月七日組頭之儀御備頭与被仰付候

一同年五月十四日御備頭其儘、御軍事奉行之儀も相心得候様被仰付

一同年九月廿五日御軍事惣奉行被仰付

一同年十二月十三日急々上京被仰付出立、辰五月廿六日早駆ニ而帰着

一同四辰六月廿五日与三左衛門事孫四郎卜改

一慶応四辰六月 会征出立

一明治卜改元、十月十八日若松表出立、江戸表江罷越、巳ノ二月帰

明治元年十一月十日御達有之、十二日朝参朝拝竜顔御酒肴頂戴有之、左之通御書付御渡、但島崎勘右衛門同道

酒井孫四郎

久々之出張苦勞被思召候、今般帰陣ニ付不取敢為慰勞賜酒肴候事

十一月

行政官

一同二巳二月十三日先般從朝廷被仰出候趣も有之御藩治職制御改革ニ付、

是迄之御職務御免被成候

一同十四日軍政総管被仰出候事、但一等官可為執政職後候事

一同月廿二日昨夏討会之出兵被仰出候趣、迅速発途兇賊卜連戦無虚日、諸

隊勇奮同心戮力到处奏戦功、其次第達朝廷候段、全万般之指揮行届候故

卜御感賞不斜被思召候、於中納言様毛深御満足被為遊候、依之賞典可被

挙之处、思召被為在、今般ハ不被及御沙汰ニ候仍聊被慰功勞御召馬并御

鞍鎧御刀、外ニ從中納言様御紋御三所物御鐔ニ被下候、但御簾中様ニ毛

段々不容易骨折太儀ニ思召金五千疋被下候

一同日長々出張太儀思召、仍三十金被下

一同年三月十八日早駆御用上京、暫滞京、大坂方船ニ而東京江罷越

一同年五月八日今度蒙御内命候由ニ而、長崎表江罷越候ニ付家来一人召連、

同日夜横浜湊方蘭船へ乗組解纜候趣、同夜相州沖ニおゐて暗礁江乗懸沈没

但同月廿日昼八時頃、相州三浦郡鴨居村地先海岸江流寄揚ル

六月五日夜遺骸着

酒井潤太郎 已五歳

〔士族〕

千六百石

一明治二巳七月十日同姓故孫四郎遺跡願之通相統被仰出家督、十五歳未滿ニ付御定之通月俸可被下之处、同人征会出陣中昼夜励精賞戦功之次第深

被思召候ニ付、出格之訳を以拝知千六百石無相違被下、御蔵出ニ被成、

高知席岡部豊志次ニ被仰出候事

一家督被下候趣幼年ニ付左之通被仰出候

一御城下出火之節人数斗指出可申事

一御機嫌伺恐悦等不及罷出候事

一年始五節旬月次出仕、不時登城之儀御用捨被成候事

ノ

一同年九月七日征会之節御用立候旋条砲、今度致献上候段御満足之事ニ候、

依之御国札百貫匁被下候事

一同年十一月廿五日今般御改革之处、更ニ給禄米四百廿式俵式斗式升八合

下賜

一同三年四月廿五日同姓故孫四郎戊辰之夏藩兵ヲ引率シ、北越出張日夜勉

励指揮行届、竟ニ賞其功仍旌表其遺蹟其方江御賞典之内永世式百石令頒

授候事

一 修業列

一同年閏十月廿五日修業列名目被廢非役卜唱  
一同四未六月米四百廿二俵貳斗貳升八合



酒井茂左衛門

八百五拾石

元祿十丑六月五日父縫殿跡知無相違被下

酒井十之丞

八百五拾石

元祿十六未六月七日奥御小姓被召出、並之御扶持切米被下

宝永四亥八月廿一日御膳番

同十一月十三日新知百石被下

正徳元卯十一月五日兄茂左衛門為養子跡知無相違被下、此節自分知上ル

同十一月九日運正寺火之番被仰付

享保九、六月十三日大御番頭被仰付、牧野清兵衛跡

酒井十之丞

八百廿石

享保十九寅十一月五日父十之丞跡、幼年二付御定之通八十五人扶持被下、

寄合引渡席太田三弥次

元文三年二月十六日拾五歳罷成り候二付新知八百廿石被下

宝曆五亥十一月廿九日大番頭永見多門跡

酒井孫八郎

八百廿石

安永六酉三月十一日養父十之丞隱居、家督無相違、寄合引渡席太田三弥次

同年五月十一日運正寺火消

同八亥七月廿五日大御番頭太田三弥跡

酒井十之丞

八百廿石

天明八申十月廿日父孫八郎跡知無相違被下、寄合引渡席太田三弥次

寛政九巳七月十一日御側役御用人見習、惣御小性支配、宇都宮弥三郎跡

同十二申十月十五日御用人御奏者兼、宇都宮弥三郎跡

文化二巳正月廿五日病身二付御役御免

同三寅十一月廿二日大御番頭林八右衛門跡

文政三庚辰二月十六日御留守居役毛受伝三郎跡、永見主殿次席

同五年十二月十五日御書院番格、御奏者兼御用人

酒井十之丞 彦六 頼母

八百廿石

文政十亥十月十五日父十之丞内願二付隱居被仰付、家督無相違、寄合引渡席笹治環次被仰付

渡席笹治環次被仰付

同十九日御側并御用人見習被仰付

文政十三寅六月五日御先物頭御番割之義二付不念、遠慮伺之上指扣被仰

付

天保二卯二月廿七日御用人御奏者兼

天保七申正月廿日御鵜支配被仰付

天保八酉六月五日大御番頭齋藤酒之丞跡

酒井十之丞 彦六

〔略履歴〕

一高八百式拾石

弘化二巳四月五日親十之丞家督如此無相違被下置、寄合引渡之席被仰付候、高田作之丞次

同三午閏五月六日御側役并御用人見習御小姓表御小姓支配被仰付候

嘉永元申八月十日於三ノ丸諸組之目中被仰付候間、御名代罷出候様被仰付候

同十二月廿六日十之丞与名替

同二酉三月十二日大御番頭齋藤數馬跡被仰付候

同五子九月廿八日御書院番頭格御用人御奏者兼被仰付候

同年十月十四日来丑年江戸御供詰被仰付候

同六丑十月廿九日遠慮伺之上指扣被仰付候処、御用多二付御免被成候

同年十二月四日今般十ヶ年之間格外之御省略被仰出候二付、取調懸り被

仰付候

同七寅四月廿六日御道中御書院番頭大御番頭飯御徒御馬飯支配被仰付候

同年五月廿日御帰国御道中御供一人二而相勤候二付、御召御帷子一御目

録被下置候

同年九月六日御軍制御改正御用懸り被仰付候

安政ト改元、寅十二月十八日御軍制御改正二付而ハ、海岸御備向之義も

相心得候様被仰出候

同二卯年三月十四日御軍制御改正御用掛り格別出精相勤候段、御褒詞之上御三所物之御目録被下置候

同日嶋田近江義近々江戸御供詰罷在候二付、一番二番之御書院番頭飯御徒御馬飯支配相勤候様被仰付候

同四月廿日右飯支配御免被成候

同年十月十六日来辰年江戸御留守詰被仰付候

安政三辰三月二日御趣意二付乍太儀御帰国御礼使者被仰付候

同年同月十二日火之御番二付御発駕役荒川十右衛門申談、大御番頭代り二番手火消御用可被相勤候

同月十四日詰中御書院番頭大御番頭飯御徒御馬支配飯被仰付候

同年五月十七日御発駕後火之御番御用被相勤太儀二思召候、依之御召御給毫之御目録被下置候

同月廿五日御書院番頭御用人御奏者兼御徒支配雨森伝左衛門跡被仰付、

来巳春迄其儘詰被仰付候、但席忝人御上ケ嶋田近江次

同日御留守中大奥御用を初御側御用人取扱候御用取扱被仰付候

同年六月廿三日御趣意二付御帰国御礼使者被仰付相勤候二付、御召御給

一之御目録被下置候、且又為失却銀七枚被下置候

同年十月廿二日来々午迄詰越被仰付候

同四巳閏五月十一日松栄院様御容躰二付、右一件御用掛被仰付候、但御

右筆部屋掛り之義被相調可被申渡候

同五午二月廿一日当年中山道御通行二付、大宮藤馬御発馬前日立二而御

国表へ直二可致着候間、忝人二而御供致候様被仰出候

同年四月廿四日当秋迄詰延被仰付候



同年七月七日今般御家督御相続御用掛り被仰付候、十之丞儀御献上御馬之儀も掛り被仰付候

同年九月十四日今般殿様御一字御拝領可被遊二付、右取調御用掛り被仰付候

同十月廿七日御人少之処出精相勤候二付銀壹枚被下置候

同十一月十一日御軍帳定掛り并種馬懸り被仰付、且又嶋田近江出府留守中一番之御書院番頭飯御馬仮支配被仰付候、今度北国筋湊々見分爲御用堀織部正殿駒井左京殿被罷越候二付右御用掛り被仰付候

同十一月十一日今般御家督御相続御引移并御一字御拝領江戸詰中、右御用掛り出精相勤候二付、紗綾二卷御召御上下一具銀壹枚之御目錄被下置候

同十二月十二日今般外国奉行始湊爲見分被罷越候二付、右御用掛り出精相勤候二付御褒詞被成下候

同六月十一日五日御側御用人取扱共御用向仮取扱被仰付候

万延元申四月廿八日御側御用人見習被仰付候、但席嶋田近江次

同年十月廿九日來酉年江戸御供詰被仰付候

文久元酉三月十八日御側御用人本役被仰付候

同四月十九日横浜御警衛御用掛り被仰付候

同年七月朔日御内用有之御国表へ立帰被仰付、支度出来次第出立可致様被仰付候

同年十月十日内海御警衛被蒙仰御台場御預り二相成、神奈川横浜辺御免被仰出、右一件御用掛り被仰出候

文久二戊四月三日横浜表へ御人数出張之節致心配候段太儀二思召

同五月十七日御用向有之、支度出来次第立帰出府被仰付

同四月十三日先達而御持場替一件御用懸り被仰付候処、出精被相勤候二付太儀二思召

同七月十九日殿様御縁組之儀表向御願被差出候二付、右取調立帰出府中仮掛り被仰付

同十月廿八日近來御用多之処出精相勤候二付鐙一足被下置

同日来春御上洛之節殿様爲御待受御上京被遊候二付御供被仰付

同三亥五月七日当亥年御参府御供被仰付

同六月十八日肥後薩摩両国へ爲御使者被遣候間、黒竜丸御船二而罷越候様被仰付

同十月九日中将様御上京被遊候二付御供被仰付

同四子正月五日於京都当御時態二付勝手向之儀別而御掛念二思召候、依之掛り同様相心得厚致心配候様被仰付

同五月十八日宰相様御上京以來御職務中御内用向厚相心得格別骨折相勤候二付、白鞘御刀一之御目錄被下置

同七月廿四日御用有之候二付立帰上京被仰付、早速可被致出立

元治二丑五月七日今度御進発爲御待受殿様御出坂可被遊二付、一旦御上

京被仰出候、依之御供被仰付

慶応与改元、六月廿四日御中老役被仰付、但御用部屋定詰之事

同十月九日殿様御供支度罷在御指図次第

同二寅三月十五日次男健次郎御咎被仰付候二付、十之丞儀も兼而取締方可有之処不参届趣相聞候二付、御役御免被成遠慮被仰付

但風廻り之儀ハ御用捨被成候事、席恒岡兎毛次

同四月五日遠慮御免

同月十五日御中老役被仰付、今度御内用有之二付京坂之内へ被指出



同十月晦日御内用有之ニ付乍太儀上京被仰付、早速致出立候様被仰付  
同三卯八月廿五日近年打続他国御用度々被仰付候処、格別精勤且失却も  
有之ニ付金百兩被下置、且又以来他国御用之節ハ逗留中御扶持方三人扶  
持御増被下置

同十月十四日御内御用有之ニ付立帰上京早速致出立候様被仰付

同月廿九日宰相様御上京被遊候付御供被仰付

同四辰正月廿日鎮撫使為御待請御国表へ立帰り罷越候様被仰付

同九月二日病氣ニ付内願之通御役御免被成御近習ニ被指置候、且又年来  
出精相勤候ニ付御取扱向是迄之通被仰付

明治与改元、十月十六日倅琢哉儀先般越後表へ出張被仰付候儀強而御断  
申上候、退身被仰付、且又十之丞儀申論方も可有之処、不参届趣心得違

ニ付遠慮被仰付

同月晦日遠慮御免

明治二己巳年他国御用之節ハ逗留中月俸三口ツ、被下候処、以来被相止  
候事



### 酒井金五左衛門

七拾俵

享保三戌六月十六日父金五左衛門跡目

同七寅冬順席

### 酒井金左衛門

七拾俵

明和三戌九月十六日養父金五左衛門休息、家督無相違被下、大番入

### 酒井金兵衛 金五左衛門

七拾俵

安永七戌九月廿九日養父金左衛門跡目無相違、大番入

寛政五丑六月廿日番改役石川丈太夫跡

同六寅五月廿二日御前様御附御広式御用達笠原弥三郎跡被仰付、御留守  
番入

### 酒井金五左衛門 与三次郎

七拾俵

寛政十午三月廿九日酒井金兵衛病中願之通養子ニ被仰付、家督無相違、

大番組へ被入

文化五辰ノ十一月十一日御祐筆見習

同六巳ノ正月廿九日御祐筆本役、御書院番入

文政二卯九月廿日御右筆御免、大御番入

文政九戌二月五日御旗本武具奉行大越猪左衛門跡、御書院番入

天保二卯三月十六日成瀬平左衛門跡御代官役

天保十五辰ノ六月廿日休息

### 酒井金兵衛 金五郎事

七拾俵

一天保十五辰六月廿日父金五左衛門休息被仰付、家督七拾俵無相違被下置、

無役御留守番組へ被入候

一安政四巳十月三日番改役小川藤右衛門跡被仰付候

一万延元申六月十六日病死

一同廿六日勤中御番皆勤ニ付金三百疋被下置候段、倅隼之助被仰付候

酒井功 イサヲ 隼之助 金五郎 志磨

〔士族〕

御合力米七拾俵

万延元申八月八日親金兵衛家督御合力米七拾俵無相違被下置、大御番無

役組へ被入候

一同年十二月廿八日金五郎与改

一文久二戌閏八月八日御番割ニ付大御番入

一元治元子四月十五日上京、八月廿二日帰着

一元治元子八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、

相働候段達御聴御褒詞

一同年十二月賊徒一件出張、銀三百匁御手当被下候

一慶応元丑十一月廿九日大坂表江出張、夫方神戸江、寅九月十五日帰

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付公儀方被下配当金千疋被下置候、且

又戦功ニ付五百疋被下置候

一同年十一月十六日郡方吟味役被仰付、御留守番組江被入候

一同四辰閏四月十一日郡方吟味役其儘往還宿駅方兼被仰付候

一明治二巳二月十七日民政局庶務方ト被仰付候 月給十俵

一同年十一月廿一日今般御改革ニ付役義被免候事

但付送り之義ハ追而御指図相待可申事

一同日民政局権少属被仰付候事

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾三俵四斗壹升被下

一同三年正月十日往還堤防等格別致精勤ニ付金七百疋被下候事

一同年四月十九日民政寮少属被仰付候事

但引立方

一同年八月九日養蚕為取調信州筋江可罷越候事 延引

一同年十二月十二日権少属心得勤 年給十九俵

但民政寮出仕

一同月十八日金五郎事志磨ト改

一同四未三月十八日養蚕為御用東京江出立

一同年六月朔日御改正ニ付免職

一同五申五月志磨事功 イサヲ

一同年八月廿七日製糸為取調早々東京へ可罷出事



酒井六郎右衛門

貳百石 外役料百石

宝永七寅十月十三日養父与三兵衛配知被下

正徳五未十月大番三番筆頭役被仰付

享保四亥十二月六日御使番被仰付、役料被下、山元右衛門八跡

同九辰十月五日御杉形奉行杉田段七跡

同十三申九月廿八日御先物頭被仰付、杉田段七跡

同十四酉七月廿一日御持弓頭熊谷小兵衛跡

同十五戌十二月廿八日御奉行雨森新七跡

享保十七子七月十六日不調法之儀有之御役被召上、拝知五拾石被減逼塞被仰付、大番入

元文元辰七月廿二日御先物頭被仰付、五十石御加増、岩上梶太夫跡

寛延元辰七月廿八日新番頭東郷仁右衛門跡

### 酒井市十郎

二百石

宝曆五亥十月十一日父六郎右衛門隠居、家督無相違、大番入

同十一巳七月廿五日御使番国枝小一郎跡、役料百石

明和五子七月六日御徒頭大井弥十郎跡

安永二巳閏三月十五日御先物頭今立六右衛門跡

同五申十二月十四日不埒之義有之、御役御取上、大番入、遠慮

同十丑三月十一日不埒至極之義有之、拝知御取上蟄居、格別思召を以倅

へ百石被下

### 酒井三右衛門

百石

安永十丑三月十一日父市十郎儀不埒至極之儀有之二付、拝知御取上被成

蟄居、格別之思召を以百石被下置、大番組へ被入、遠慮

寛政二戌十二月五日家内不締り二付遠慮

同四子三月廿九日閉門、親一件先年御国立入御免被成候処、不埒之趣二

付立入御指留

### 酒井六郎右衛門 十郎助

百石

寛政五丑七月廿九日酒井三右衛門病中願之通養子二被仰付、家督無相違、

大番入

同十二申八月十一日御小性被仰付

文化二丑二月十五日御小性御免

文政十亥年九月廿四日席末ノ番外被仰付候

### 酒井十郎助 熊十郎

百石

文政十三寅三月十六日親六郎右衛門家督無相違被下置、大御番組へ被入

天保八酉十二月十一日不慎之趣相聞候二付遠慮

天保十亥十二月五日行状不宜趣相聞候二付遠慮

### 酒井六郎右衛門 左源太

百石

一天保十一子二月廿五日養父十郎助病身内願二付休息被仰付、家督百石無

相違被下置、大御番組江被入候

一同十一子十一月廿日心得違之儀在之二付遠慮被仰付候

一弘化四未五月六日遠慮伺之上差扣被仰付置候処御免

一同年八月十一日養家之伯父馬淵亭潤致出奔候節、養父玄竜江戸留守中預

り置罷在、締り方不参届二付御叱り之处、伺之上遠慮

一嘉永元申江戸詰被仰付、四月十一日出立

一同五子年江戸詰、同六丑四月十八日帰着

一安政三辰十二月廿八日六郎右衛門与名替

一文久元酉七月廿九日家屋敷御用屋敷二被仰付、三岡石五郎家屋敷へ替被下、相当之失却料被下候旨

但木藏方毛屋へ

一同年十月朔日病死

酒井政衛 増吉 政右衛門 実武曾權太夫二男

〔士族〕

百石

一文久元酉八月廿日太田御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置、支度出来次第出立被仰付、廿九日出立

一同年十二月十一日養父六郎右衛門跡知百石無相違被下置、大御番組へ被入候

一同廿七日大砲方頭取被仰付、且又二ヶ所御台場御簡を始教授方申談取扱候様被仰付候

一同二戌四月三日太田御陣屋詰中横浜表へ出張二付御褒詞

一文久二戌十二月廿八日政右衛門与名替

一同三亥八月十七日御参府御供二而出立

一同三亥八月廿九日中村市右衛門家屋敷江替被下候

一同年九月五日家屋敷中村市右衛門家屋敷江替被下候処、御都合も有之二付小川常太郎家屋敷へ替被下候、政右衛門御参府御供留守中二付、此段

一家共之内へ被仰付候

一同年十二月江戸方御上京御供、子二月十二日御供着

一元治元子三月二日上京、四月十二日帰

一同年十月十五日長征出立、丑二月二日帰

一慶応二寅三月五日御附御馬廻被仰付

一同年六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月六日御供帰  
一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰着  
一同年十一月二日右同断出立、辰四月十一日帰

一同四辰五月晦日出立、十月十日帰、十二月二日上京、巳三月六日中納言様御供二而帰

一明治二巳六月十九日家屋敷木藏明新館被下候事

但同所新規建継且土藏并廊下之分ハ不被下候事

一先年被下候御国札五貫匁上納可致事

一同月廿九日政右衛門事政衛卜改 年給式俵在京中六俵

一同年八月廿九日東京江出立

一同年九月廿四日奥詰被仰付候事、但等級年給米是迄之通

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下

一同年十二月十八日御供物置所燃上り伺之上指扣、同十九日方御用之外慎、

同廿一日被免

一同三午四月廿四日從東京帰、同年八月十日東京江出立

一同四未四月五日当分年給 十四級 式拾式俵一斗八升式合四勺

一同年五月七日是迄御家政格別御改革被為在候得共、今一層御釐正被成度二付役儀被免候事

一同月廿四日東京より帰着

# 酒井

6

酒井外衛吉 勝彦次男

〔士族〕

一明治二巳十月十九日親勝彦東京詰罷越候二付願申上、同月廿五日同道出

立

一同三午九月十日親勝彦帰藩ニ付可罷帰之处、南校江入学之处六ヶ月程相  
学七等江不至節ハ入校御指留御規則之由、依之来正月頃迄指置度旨願之  
通被仰付

米貳百六十六俵貳斗貳升八合

一同年十月十五日父直病身ニ付願之通隠居被仰付、家督米貳百六十六俵貳  
斗貳升八合無相違被下、修業列江被入候事

一同年閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同四未正月十日於南校洋学修行罷在、当正月迄二七等二不上節罷帰候段  
昨午九月奉願、然ル处十月十九日七等二上り候間、此上両三年研学相願  
候处、昨午九月方廿五ヶ月限帰藩可致事

一同年二月七日親病氣ニ付為対面東京方罷越、同十四日引返又々出立

一同年四月廿五日依願給祿之内八拾俵同姓琢哉へ分祿被仰付候事

米百八拾六俵貳斗貳升八合

但四月十八日於東京左之通相願候ニ付願下ケ致候事

一同月十八日依願兄素弟八十郎へ給祿米貳百六拾六俵貳斗貳升八合之内六

拾俵ツ、分祿被仰付候事

米百四拾六俵貳斗貳升八合

坂井

1

坂井善八

百石

明曆二申三月祖父草間金兵衛家督百石被下

寛文元丑六月御小姓被仰付、右百石之上御小姓切米御扶持被下

同三卯三月御加増百石、都合貳百石被下

貞享三一統半減

正徳四年三月十五日小御馬印奉行被仰付、塩谷又右衛門跡役也

亥正月死去

坂井久作

百石

享保四亥三月十六日父善八跡目無相違被下、大番入

元文三年七月五日与内立合役加藤十右衛門跡

延享三寅十一月朔日小馬印奉行矢野權平跡

坂井權左衛門 初半十郎

百石 役料百五拾石

宝曆三酉三月廿五日養父久作隠居、家督被下、大番入

同十二年閏四月廿九日表御小性

明和元申八月廿五日中奥御小性

同五子七月九日御小性頭取

安永七戌十一月十五日末ノ番外榎並猪十郎次、勤方は迄之通

同八亥二月廿日不慎ニ付遠慮

同三月廿日御役御取上、大番組へ被入、其儘遠慮

同九子八月四日御近習番格御供方、御書院番入

同年十一月廿一日御小性頭取

天明五巳九月廿五日於江戸御近習番頭取、御側向頭取格末ノ番外、席須

崎三郎右衛門次

同八申五月廿八日御使番格御時宜役

寛政二戌八月十五日御使番山田太郎右衛門跡、役料百五拾石被下

寛政四子七月三日御先作事奉行鈴木百助跡

同六寅正月十六日御水主頭大野一郎左衛門跡

同十年ノ二月廿三日御先物頭飯嶋三五左衛門跡

享和三亥二月廿二日御普請奉行横田作太夫跡

文化六巳正月廿七日隠居

# 坂井権左衛門 半十郎

百石

文化六巳年正月廿七日父権左衛門隠居、家督無相違

同廿八日御近習御書院番人

文化十三子六月四日御腰物数寄方奉行浅見平内跡

文政三辰九月晦日御腰物数寄方奉行、若殿様御用兼帶

文政六未五月十六日御鵜方粕谷彦太夫跡、席御膳番格

文政十二己丑十一月十六日末之番外御時宜役被仰付

天保二辛卯九月十六日倅久弥先達而追放致候所、兼而取締方不参届二付

遠慮

天保三辰八月七日御使番役山形三五右衛門跡

天保八酉五月廿日高畠金三郎方江養子二遣次男久弥儀、病身二付及離縁

候得共行状不宜、其上不慎之趣相聞蟄居被仰付、権左衛門儀も兼而異見等不参届趣二付閉門被仰付

天保九戌十二月十一日次男久弥儀、重キ御咎中不届至極之趣相聞、急度

可被仰付所度々赦も被仰出候折柄二付、格別之御憐愍を以御国立退被仰付、其方儀も締り方不参届趣相聞、遠慮

天保十二丑九月五日御先物頭鱸江善右衛門跡被仰付、加賀口御役屋敷へ替被下候

坂井可弘 ヨシヒロ 安九郎 半十郎 権左衛門 ツトメ 務 〔士族〕

百石

一天保十四卯閏九月廿五日親権左衛門家督無相違被下置、大御番組江被入

一嘉永四亥二月十三日家屋敷石川瀬六家屋敷へ替被下候

一同五子年江戸詰、同六丑四月十六日帰着

一安政元寅十二月廿八日権左衛門与改

一同四巳年四月十五日林藤五郎家屋敷卜相对替願之通被仰付候

一同年四月廿二日江戸詰出立

一同六未五月廿九日家屋敷地、当時中山三郎助家作致し罷居候御花畑御茶園地与御振替被下候様、家作建物之儀ハ相对ニ致度願之通被仰付候

一万延元申六月廿六日御番皆勤二付時服被下

一文久元酉八月廿一日江戸詰出立、戌九月十八日帰着

一同二戌十一月廿五日来春殿様御上京被遊候二付、為御待請出立

一同三亥三月廿五日中将様御供二而京方帰着

一同年四月十七日御預所御金奉行波々伯部八十八跡被仰付、御留守番組江

被入候

一元治元子十二月賊徒一件之節御留守御用相勤候二付、御手当式百匁被下置候

一明治元辰十二月二日席末之番外格二被仰付、役儀之儀ハ御免被成候



但御広間当番相勤可申事

一同二巳六月廿一日権左衛門事務卜改

一同年九月廿九日多年精勤之处御藩制御改革二付、為御慰勞式十五両被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一 優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同五申五月務事可弘

坂井<sup>2</sup>

坂井勘市

式拾五石五人

宝永二酉六月九日表御小姓被召出

享保二酉六月廿五日表御小姓御免、大番入

延享元子十一月十一日御旗本武具奉行明石甚左衛門跡被仰付

坂井勘左衛門

廿五石五人

宝曆四戌閏二月十六日養父勘市休息、家督被下、大番入

明和四亥八月十六日番改吉池寛左衛門跡

同五子七月廿日御次詰御書院番入

同七寅八月七日御殺生方

安永二巳閏三月十五日若殿様御近習番松尾左内跡

同六酉六月五日病身二付御役御免、大番入

天明四辰正月十六日御留守武具奉行中野忠兵衛跡、御留守番入

坂井作兵衛 勘左衛門

廿五石五人

天明八申八月十日養父勘左衛門休息、家督無相違、大番入

寛政六寅六月廿五日番改役酒井金五左衛門跡

同九巳九月廿五日用水奉行岩佐弥五右衛門跡

文化五、二月十六日御留守武具奉行有賀市右衛門跡

同十酉二月十三日御旗本武具奉行田中伴右衛門跡、御書院番入

文化十三子閏八月廿九日表御納戸片山弥五右衛門跡

文政二卯二月病死

坂井又三郎

拾七人扶持

一文政二卯四月五日父作兵衛家督無相違被下置、無役御留守番組江被入候

一同七申閏八月廿三日大御番組江被入候

一天保十一子五月廿九日楷五郎様御附御近習番梁兵右衛門跡被仰付候

一同十四卯閏九月廿五日巍光院様御逝去二付御役御免被成、大御番組江被入候

同年十二月十六日玉藥奉行土屋市兵衛跡

一弘化二巳正月廿八日御近習番堀連之助跡被仰付、御書院番組江被入候

一同四未江戸詰、三月十九日出立

一嘉永元申急御出府御供二而六月出立、同年七月御供二而帰着、右二付十



二月七日御褒詞

一同年九月十五日御書物方横井吉十郎跡被仰付候

一同二酉江戸詰、三月廿三日出立

一同三戌六月三日御裏役横井吉十郎跡被仰付候

一同年八月十二日奥御納戸役横井吉十郎跡被仰付候

一同五子七月五日御腰物数寄方奉行蘭田藤左衛門跡被仰付、御充行拾七人扶持ニ御直被下候

一安政元寅十二月九日末之番外御時宜役被仰付候

一同七申正月十六日御使番格ニ被成下、御役料之趣を以廿五石被下置、役儀之儀ハ御免被成候

坂井藤七郎 重太郎 勘左衛門

〔士族〕

拾七人扶持

嘉永六丑七月廿日此度思召を以支度出来次第江戸表江罷出、砲術訓練致修行、御扶持方式人扶持被下置、猶委細之儀ハ御奉行へ可申談旨被仰付候

一同七寅三月廿三日品川御固場へ御人数被差出候節、小筒差配役相勤候ニ付金三朱被下置候

一同四月十六日帰着

一安政六未六月廿五日砲術所世話役被仰付候

一文久二戌九月廿九日今度農兵御端立ニ付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候、尤砲術所世話役之義ハ是迄之通相心得候様

一同年十二月十五日中将様御上京御供御用ニ而江戸表へ出立之处、御都合

ニ付途中江戸京都へ、三月廿五日御供ニ而帰着

一同三亥三月廿七日宇都宮五郎助父子共芝御陣屋詰罷越候ニ付、右留守中五郎助相弟子之面々致世話候様被仰付候

一同年十月十三日中将様御上京御供被仰付出立

一元治元子二月廿日親又三郎年寄候ニ付隠居被仰付、家督拾七人扶持無相違拾七人扶持被下置、大御番組江被入

一同年三月廿九日、一昨戌十二月江戸表江罷出中将様御供ニ而京都表へ可罷越筈ニ而此表致出立候处、俄御船行相成候ニ付途中江戸京都江罷出、夫江戸大坂江為御迎罷越御供ニ而京都江到着之处、失却も有之趣ニ付金壹両為御手当被下置候

一同年四月十二日帰

一同年六月廿五日宰相様再度之御上京中格別骨折相勤太儀ニ思召候、依之銀式枚被下置候

一同年十月十六日長征出陣、同二丑正月晦日帰着

一慶応元丑五月廿八日大砲方被仰付、役御番組江被入候

一慶応元丑十一月廿八日大坂表江出張

一同二寅九月十九日帰

一同三卯十二月十五日支度出来次第上京被仰付、辰正月八日出立、閏四月十五日帰

一同年十二月廿八日重太郎事勘左衛門ト改

一同四辰閏四月廿日御代官并郡方吟味役兼被仰付、御留守番組江被入候

一明治二巳正月四日御代官郡方吟味役其儘川方兼帯被仰付

一同年二月十七日民政局庶務方ト被仰付 月給十五俵 役米ハ不被下候

一同年六月廿一日勘左衛門事藤七郎ト改

一同年七月十九日御代官役之儀ハ被免候事、但月給米是迄之通

一同年十一月廿一日今般御改革ニ付役義被免候事

但付送り之儀ハ追而御指図相待可申事

一同月廿五日今般御改革、更給禄米五十三俵壹斗八升式合被下

一同三午正月十日治水堤防等格別致精勤候ニ付、金五百疋被下候事

### 坂井<sup>3</sup>

※「剝札」さ末にあり

坂井安太夫

拾八石三人

文化十四丑八月五日小役人御勝手役<sup>ろ</sup>御取立、新番格御藏奉行青木伝助跡、是迄之通御奉行支配

文政二卯三月十一日浅姫君様御附御台所目付同頭兼

文政三辰正月十五日於江戸靈岸島御勘定吟味役差添兼帶

同四巳正月病死

坂井安太夫

拾五石三人

一天保十三寅正月十六日出精相勤候ニ付新番格御取立被成下候

一弘化二巳三月八日遠慮伺之上御用之外指扣之处御免

一同四未正月十三日御広式添役被仰付、役中三石、以後不被下候

一嘉永六丑三月廿日川除奉行被仰付候

一安政二卯正月十六日出精相勤候ニ付、役儀其儘新御番組へ被入候

一安政二卯十一月十三日河合春近用水口及大破、当夏御普請之处格別致心配候ニ付、金百疋被下置候

一同三辰正月十六日休息

坂井祐三郎

〔士族〕

拾五石三人

一安政三辰正月十六日親安太夫年寄候ニ付休息被仰付、家督拾五石三人扶持被下置、新番組へ被入候

一文久二戌三月廿五日御供勤被仰付候

一同三亥正月十六日農兵教授手伝被仰付候

一同年三月十一日当亥年芝御陣屋詰被仰付、右詰中為御手当五人扶持被下置候、同廿六日詰引揚出立

一元治元子七月二日帰着

一同年十月十七日京詰出立、十二月帰

一元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀三百匁被下置候

一同二丑正月廿五日上京、五月七日帰

一慶応二寅十一月十二日京都詰出立

一同三卯四月四日御上京御供、振替り帰

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付

一同年十二月十二日急々上京被仰付、十三日出立之处御模様ニ付途中<sup>ろ</sup>引返帰

返帰

一同四辰正月九日急々上京、四月廿日帰

一同年四月廿五日遊撃隊江被入候

一同年閏四月七日上京、九月十八日帰

一明治二巳四月九日中納言様御供東京江出立、六月十四日御人減ニ付帰

一同年十一月廿五日今般御改革、給禄米三拾五俵四斗五升被下

一同三年六月廿二日第一大隊五番小隊入被仰付候事

一同年十月二日松平貫之助返上屋敷内二而百七十四坪坪地被下候

一同年十二月 予備二番隊 年給式俵

一同四年四月七日右解隊被仰出候事

# 笹治<sup>1</sup>

笹治尚膳

二千六百石

元禄十六未十二月廿八日父大学跡目被下、御宮火消

同十九寅七月七日隱居

笹治多門

三千百石 内五百石与力五人

享保十九寅七月七日父尚膳隱居、家督無相違、席酒井与三次郎次

同十三日御城下火消

元文五申五月十八日御城代狛市右衛門跡

宝曆十辰八月十七日遠慮、同廿九日御免

明和七寅六月十九日内願之趣二付隱居

笹治一学

二千六百石

明和七寅閏六月十九日養父多門隱居、家督無相違、高知席杉田主水次、

御城下火消

安永九子五月廿七日若殿様御家老職席狛木工助上

天明七未十二月十四日御表御家老職御部屋附兼帶

笹治大学 主計

二千六百石

寛政四子十月廿八日養父一学病氣二付内願有之、御懇之上隱居被仰付、

家督無相違被下置、高知席芦田図書次、御城下火消被仰付

文政二卯正月廿五日不慎之義有之附遠慮被仰付候

文政十一子年八月十九日御城代役本多修理跡被仰付、与力御預ヶ被成候

文政十二丑六月廿六日病死

# 笹治<sup>2</sup>

笹治權右衛門

七百廿五石

元禄三年三月廿三日父弥次兵衛跡目被下

宝永三戌九月七日御部屋御取次

同七寅八月五日御側被仰付

正徳三巳五月廿八日御奏者

享保六丑十一月十五日御書院番頭御駕附御鷹御鵜支配被仰付、林八右衛

門跡、席引渡永見左門次

同十巳八月十六日於江戸百石御加増

同十五戌九月五日御用人

同年十二月十八日百石御加増

同廿一辰五月十三隱居、五人フチ被下

笹治權右衛門

七百廿五石

享保十九寅六月六日被召出三十人扶持被下、御側席渡辺左仲次

同廿一辰五月十三日父權右衛門隱居、家督無相違、御側御免表寄合席寄

合引明石宮内次、此節自分御扶持上ル權右衛門へ五人フチ被下

寛保三亥十月廿五日御奏者磯野多宮跡

延享元子十月廿五日御書院番頭御馬支配永見右門跡

同十二月廿八日御吟味之上席一人上被下、菅沼宮内上

明和三戌五月廿八日年寄候二付御役御免

笹治權右衛門

七百廿五石

安永三午六月廿四日養父權右衛門隱居、家督無相違、寄合引渡席永見縫

殿次、三人下り

同五申八月十五日御側見習

同九子八月四日大御番頭皆川多左衛門跡

天明四辰四月廿四日御書院番次格、御用人皆川靱負跡

同七未三月十四日御形合被相改、万端御省略被成候二付御役御免

同八申九月朔日大御番頭酒井孫八郎跡

笹治兵庫 權右衛門

七百廿五石

寛政二戌九月廿五日笹治權右衛門病中願之通養子被仰付、家督無相違、

寄合引渡席永見安次郎次

同五丑九月廿九日明里御藏火消

文政三辰八月廿七日大御番頭秋田長之丞跡

文政五年七月廿九日渡辺十郎左衛門家断絶二付、伺之上遠慮被仰付

文政九戌三月三日病身内願二付隱居

笹治環

七百廿五石

文政九戌年三月三日養父内願二付隱居被仰付、家督無相違、寄合引渡席

太田三弥次被仰付

文政十亥六月十一日運正寺火消皆川宮内跡

同年十月十五日御用人見習

笹治兵庫 万之丞 權右衛門

七百貳拾五石

文政十一子三月十六日父環家督無相違、寄合引渡之席斎藤文庫次

文政十三寅年正月十六日運正寺火消被仰付候

天保七申正月廿日御側役并御用人見習御小姓表御小性支配

同七申五月十六日御用人打込、月番相勤候様被仰付候

笹治兵庫 右平太事 權右衛門 実嶋田清左衛門弟

七百廿五石

一弘化二巳十月五日笹治兵庫病中願之通養子二被仰付、家督無相違、寄合

引渡之席酒井彦六次

一同三年六月十九日大御番頭多賀谷舍人跡被仰付

一嘉永七寅九月廿二日今般御軍制御改正二付、御備組調練被仰出候処、大御番士ハ勿論御備組扱方之義ハ当然之事ニ候得ハ、御内調へ相加り厚相心得、御軍帳掛申談候様被仰付候

一安政元子十二月廿八日兵庫与名替

一同四巳正月十五日御留守居役松平源太夫跡被仰付候、右二付席忝人御上ケ酒井十之丞次ニ被仰付

一文久元酉九月六日遠慮伺之上指扣被仰付置候処御免

一同二戌九月八日思召被為在候ニ付、御懇意之御取扱ニ被仰付、日々朝之内御座所江相詰、支配向々厚心を尽し可申談旨、依之都而御用人同様之振合、毎朝御機嫌伺御用人一列ニ罷出可申上、且時々御尋之儀も可有之、御直ニも可申上、尤評定所御用部屋へも案内無之罷出可申達旨被仰出候一文久三亥八月廿一日勤向之義、昨年被仰出候以前之通相心得候様被仰付候

一元治元子九月十五日御書院番頭格御用人御奏者兼被仰付、支度出来次第江戸詰被仰付、廿五日出立

一同二丑二月廿五日来ル四月日光御神忌之節、御太刀馬代御奉納ニ付右御使者被仰付

一同年八月三日御都合も有之二付、又々来寅春迄詰越被仰付

一慶応元丑十月廿日江戸表へ帰着

一同年十二月四日病死

笹治環<sup>タマキ</sup> 十歳 権右衛門

〔士族〕

七百二拾五石

文久二戌七月廿五日身分をも不顧不行状之趣相聞候ニ付、御移りを以御叱り

一元治元子六月廿六日御含有之、早速上京被仰付五人ふち被下置、同廿八日出立、八月廿三日帰着

一同年十二月賊徒一件出張、為御手当弍百匁被下

一慶応元丑閏五月十八日補兵隊被仰付候

一同年八月廿一日親為介抱江戸表へ出立

一同年九月七日御代拝并御使者御客取扱等ニ御雇被成候

一同年十月廿日江戸表へ着

一同二寅正月廿五日養父兵庫家督七百廿五石無相違被下置、寄合引渡之席被仰付

一同年四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀へ被下配当金千疋被下置候

一同年十月廿六日下馬御門并三ノ丸南御門所御預ケ被成、御警衛向厚相心得被相勤候様被仰付、依之風廻且出火之節詰所之儀ハ御免被成、尚又勤方之儀ハ御用人申談候様被仰付

一同三卯十月十八日半大隊頭被仰付

但中ノ口致往来候様被仰付

一御坂札一枚被下置候

一同年十一月三日当冬京都御警衛詰被仰付、且又詰中第二遊撃隊之面々仮支配被仰付、同九日出立、但十二月八日右仮支配御免被成候

一同年十一月晦日堺町御警衛詰之儀御免被成、直ニ宰相様御滞京中為御備在京被仰付

一同年十二月廿八日十歳事権右衛門卜改

一同四辰二月廿一日御都合も有之ニ付、半大隊引纏御国表へ罷帰候様被仰付、三月九日帰

一同年三月三日昨年来格別骨折相勤太儀之段御褒詞

一同年六月廿五日会征出立、十一月十三日帰

一明治二巳二月十六日今般御改革ニ付半大隊長被廢候、仍御役儀御免被成御門所御警衛被仰付

一同月廿二日長々出張太儀被思召、仍二十金被下

一明治二巳五月廿五日夜廻勤之儀ハ被免

一同年六月十六日權右衛門事環卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米貳百五十俵一斗六升一合被下

一同年十二月五日修業隊被仰付候事

一同三年四月廿五日戊辰北越出張軍事精勵ニ付、御賞典之内金貳十五兩被下候事

一同年六月廿二日第一大隊三番小隊江被入候事

一同年十二月八日常備三番隊 年給六俵

一同四未四月十日兵隊被免候事

佐野<sup>1</sup>

佐野又太郎

千石

元禄七戌四月廿一日父小十郎跡知被下

佐野又太郎

千石

享保六丑五月十五日養父又太郎隠居、家督無相違

同十五戌十二月廿八日大番頭引渡高田小左衛門跡

佐野又太郎

千石

延享四卯十二月十六日父又太郎跡知無相違、寄合席美濃部半七次

寛延元辰閏十月六日大番頭洪谷権左衛門跡引渡席牧野織之助次

明和八卯三月九日御留守居皆川多左衛門跡

安永三年六月十四日病氣ニ付御役御免、席其儘

同月廿四日御藏火消

佐野内膳

千石

安永五申十二月廿二日父又太郎跡知無相違被下、寄合席水谷次郎助次

同六酉年五月十一日御藏火消

同九子五月廿七日大番頭中川六左衛門跡、引渡席林八右衛門次

寛政五丑九月廿日御役儀出精相勤候ニ付御紋御上下拝領

同九巳七月十一日御用人御奏者兼御書院番頭格

同十二申正月十六日中将様御中老見習、席牧野主膳次

享和三亥年五月十四日於江戸表御側御用人本役、定引渡被仰付

文化六巳九月廿日此度隆徳院様御逝去ニ付靈岸島御附御役御免、御近習

二被差置

同年十一月五日御留守居中川六左衛門跡



同七年六月廿八日御中老役水谷織部跡、宇都宮次席

同十三子正月十五日於江戸若殿様御傳役兼

文政元寅八月廿二日、去ル十六日下方筋御巡覽御留主中、無心付切手御門罷通遠慮

同三辰九月於江戸病死

# 佐野内膳 小太郎

千石

文政三辰十月廿九日父内膳跡知無相違被下置、引渡寄合席水谷織部次被仰付

文政五午御側御用人見習

文政十亥四月廿八日於江戸表御用人御奏者兼被仰付候

天保三辰年九月廿六日病身二付内願之通御役御免被成、風廻り之儀ハ御用捨被成候

同四巳年十月十六日大御番頭磯野勇跡

天保五午八月廿八日伺之上遠慮

天保十一子二月廿九日御留守居役天方孫八跡被仰付、席忝人御上被成、

渋谷権左衛門次

天保十二丑九月五日御用人御奏者番御書院番格被仰付

弘化三年閏五月十七日於御国表御時節柄心得違之趣相聞候間、遠慮被仰付

嘉永三戌三月十六日病身二付内願之通御役御免被成、風廻り之儀ハ御用捨被成候、右二付中ノ口往来致シ、折々為御機嫌伺御右筆部屋江罷出候様被仰付候

# 佐野式部 乙吉事

千石

一嘉永三戌七月五日養父内膳病中養子願之通被仰付、家督千石無相違被下置、寄合引渡之席被仰付、席永見志馬次

一同四亥二月十三日御側役并御用人見習被仰付、同日御小姓表御小姓支配被仰付

一同六丑七月十七日江戸表江出立

一同七寅四月十三日今般公儀御代替二付、御判物御朱印郷村高辻帳之義被仰付候二付、右御用掛り被仰付候

一同年閏七月十八日於江戸表病死

# 佐野影規 カゲノリ 左京 善九郎

千石

〔士族〕

一嘉永七寅九月十三日養父式部家督千石無相違被下置、寄合引渡之席被仰付候

一安政三辰五月九日明里御藏火消被仰付候

一万延元申五月十八日御側役并御用人見習御小姓表御小姓支配被仰付候

一同年六月廿六日御備組調練掛り同様被仰付候

一文久三亥五月六日当亥年御参府御供被仰付候

一同年七月六日農兵一組先達而大谷丹下江御附被成候二付、其手江属シ丹下并西尾十左衛門江厚申談致世話候様被仰付

一同十日右農兵掛り被仰付候二付御参府御供御免被成候

一同年九月十三日大御番頭牧野主殿介跡



一元治元子四月十一日御軍帳御割替二付、農兵二組酒井外記方江御附被成候二付、其手江属シ御番組役配等を始外記方へ厚申談致世話候様、且又農兵之儀二付而ハ掛り西尾十左衛門へ申談候様被仰付候  
一元治元子四月十九日酒井外記方御用多ニ而調練出勤無之節ハ、荻野小四郎へ都而申談致世話候様被仰付候

一同年七月廿八日御番組引纏京都表へ出立、夫方長征、丑正月十一日帰、同月敦賀賊徒為御警衛出張、二月九日帰

一同日今度毛利大膳討手之始末委細惣督府江御達ニ相成候二付、其段江戸表御老中江御届ニ相成筈ニ付御使者被仰付、早速致出立、御使者相済直ニ詰被仰付、荒川十右衛門ト致交代候様、将又詰中御家老御用取扱候様被仰付、同年四月御家老御用取扱御免

一同二丑二月廿九日御書院番頭格御用人御奏者兼被仰付

一同年三月七日征長御供方罷帰無間も敦賀表江出張被仰付、太儀之段御褒詞、但二月朔日出張、同九日帰

一慶応元丑三月 江戸詰出立、寅四月五日帰

一同年十一月十三日伺之上指扣被仰付置候処、御人少ニ付御免被成御用之外慎罷在候様、同十六日右慎御免被成候

一同二寅六月五日江戸詰中不行状之趣相聞、依之席御下ケ被成遠慮被仰付候、同月廿四日御免、席雨森恕平次

一同年八月十一日御旗本調練掛り被仰付

一同年十二月廿八日左京与名替

一慶応三卯正月廿二日調練掛り被仰付候

一同月廿九日調練掛り被仰付候二付当分昼番之儀ハ御用捨被成候

一同年三月十二日調練掛り之儀調練致世話候様与被仰付

但定座以上之面々可致世話事

一同年七月十二日第一級ニ相進候二付花葵御紋御印一被下置候

一同年九月廿九日調練致世話候様被仰付置候処御免被成候

一同年十月十八日半大隊頭被仰付

但中ノ口致往来候様被仰付

一御坂札一枚被下置候

一同年十二月十三日殿様御上京御供被仰付、相止

一同四辰二月廿七日支度出来次第京都御警衛詰被仰付、三月二日出立、閏四月十八日帰

一明治ト改元、十月廿二日当冬御警衛詰被仰付

一同年十一月六日左京事善九郎ト改

一同月七日上京、已正月九日帰

一同二巳正月三日今般堺町御門御警衛御免被成候二付、勝手次第罷帰候様被仰付、同九日帰

一同年二月十六日今般御改革ニ付半大隊頭被廢候、仍御役儀御免被成御近習ニ被指置候

一同年五月十六日軍事方被仰出候 月給十俵 四等官稻垣半之丞上

一同年六月十五日二番小隊長被仰付候事、但三等官中根牛介次

一月給米七十俵

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米貳百八拾四俵壹斗七升壹合下賜

一同月廿七日今般御改革ニ付解隊被仰出、当役被免候

一同三年六月廿二日第二大隊八番小隊長被仰付候事

一同年十二月八日職務被免常備砲隊江被入候事 年給六俵

一同四未四月十七日砲隊被免候事、但内願ニ付伺之上

一同五申五月善九郎事影規

**佐野**  
2

佐野伊八

百石

貞享四卯九月七日表御小姓被召出

正徳元卯十一月七日新知、御小姓御免

享保十一年十二月十九日於江戸奥御納戸

同十六亥二月十三日御留守物頭波々伯部九兵衛跡

元文二巳二月廿八日御役御免番外被仰付、松原善左衛門跡

佐野文左衛門

百石

延享三寅六月廿八日養父伊八隠居、跡無相違被下、大番入

佐野主水

百石 外役料百石 五十石御足

宝暦十三未四月十六日養父文右衛門病中願之通養子跡知無相違、大番入

明和三戌九月四日御小姓

同五子七月九日若殿様附御小姓

同七寅正月十五日於江戸御表御小姓

安永三年六月十四日御小道具方沢木金右衛門跡、御書院番入

同五申七月十五日御小姓頭取

同十丑正月十五日勤方其儘末之番外中沢助四郎次

天明四辰四月廿一日於江戸若殿様御側締り指添役

同六年正月九日於江戸是迄江戸詰之節斗被下置候御足高五十石、以後於

御国ニも被下置候

同年六月廿四日御目付江口左十郎跡、役料百石

佐野弥三郎

百石

寛政二戌九月廿九日佐野主水病中願之通養子被仰付、家督無相違、大御

番入

享和二戌年御金奉行斎藤門太夫跡

文化七年六月十日御札所奉行金子五郎右衛門跡

同十四丑十月廿九日役義其儘末之番外粕谷彦太夫次、評定所其外御用之

節二罷出候様

文政六未十一月十六日御使番川村仙右衛門跡

文政十一子六月三日御長柄奉行数賀山郡平跡

同十二丑四月廿九日養子雄藏不慎之義有之遠慮、弥三郎義遠慮伺之上指

扣

文政十二巳丑八月十三日隠居

佐野雄藏

百石

一文政十二丑八月十三日養父弥三郎家督無相違被下置、大御番組へ被入

一天保五午年江戸詰、四月十五日出立

一同十亥年江戸詰、四月十五日出立

一同十二丑八月十一日無役御留守番組世話役、宮塚甚左衛門跡被仰付、無役御留守番組へ被入

一弘化四未二月十四日道奉行国枝小兵衛跡被仰付、大御番組へ被入

一嘉永四亥二月十三日生駒弥五右衛門家屋敷へ替被下候

一同年同月廿五日山奉行榊原仁右衛門跡、御留守番組へ被入

一同五子六月九日御札所奉行三岡助右衛門跡被仰付、大御番組へ被入候

一同六丑七月三日去月十二日京町方出火之節、於御札所出精二付御褒詞

一同七寅六月四日格式末之番外被仰付、役儀之儀ハ御免被成候

一安政三辰四月十五日近來腰痛ニ而歩行も難儀ニ付、内願之通隠居被仰付候



斎藤民部 岩太郎

百人扶持

宝永二酉九月廿三日幼年ニ付父酒之丞為跡目被下

十月四日寄合被仰付、皆川多左衛門次、但酒之丞ハ高知千五百石取

芦崎治左衛門

百人扶持

あ二出

斎藤喜五郎 隠居

百人扶持

寛延元辰七月廿八日父治左衛門病氣ニ付隠居、家督無相違被下置、席太田三弥次、三人下り

明和三戌五月晦日御側

同五子八月廿三日若殿様附

同九辰七月三日御表御側

安永十丑正月十五日大御番頭永見丹下跡

寛政元酉五月廿九日御留守居皆川鞆負跡

斎藤数馬 右近

百人扶持

寛政十一未十一月十六日父喜五郎内願ニ付隠居、家督無相違、寄合引渡席

同十二申十二月十日御側役御用人見習

文化元子十月廿四日御番頭毛受伝三郎跡

文化八未正月廿九日病身内願ニ付御役御免

文政二卯正月廿六日大御番頭嶋田久馬跡

斎藤源五郎

百人扶持

文政十亥十二月三日家督無相違被下置、寄合引渡席菅沼右近次

斎藤数馬 文庫 酒之丞

百人扶持

文政十一子二月廿九日養父源五郎跡目無相違百人扶持、源五郎勤間も無之令病死候得共、家柄ニ付以思召寄合引渡之席四人下り、但末席

同年八月廿日孝顯寺火消中川六左衛門跡

天保七申七月十一日水谷織部跡大御番頭

同八酉六月五日御書院番頭格御用人御奏者兼

同十亥十月廿五日大御番頭菅沼与一郎跡

嘉永二酉三月十二日思召有之隠居、伺之上指扣、但年五十未滿

サトシ  
斎藤敏 喜五郎事 民部 主鈴 実数馬養家之伯父

〔士族〕

八拾人扶持

一嘉永二酉三月十二日同姓数馬思召有之二付隠居被仰付、家督相続被仰付、

百人扶持無相違、寄合引渡之席笹治權右衛門次

一同月十九日御側役并御用人見習御小姓表御小姓支配被仰付

一同年八月三日月番打込相勤候様被仰付候

一同四亥六月十七日同姓数馬儀御不審之儀有之、一家共へ御預ケ

一嘉永四亥十月廿日同姓数馬儀、勤中以来町人百姓并他邦之者共与申談不

容易儀共取仕組、其上数々御法式相背候儀、重々不届至極ニ付急度可被

仰付筈之处、御用捨を以待御削被成長々揚り屋へ被入置候、右取扱一家

之内長谷部作内へ被仰付候、且又右一件其方儀不存与ハ乍申締り方不参

届、剩他国者を為致止宿之儀不届至極ニ付、且数馬勤中以来之儀ニ候得

ハ急度可被仰付之处、家柄之儀を被思召格別之御憐愍を以、御扶持方式

拾人扶持并役儀御取揚被成閉門被仰付候、十二月十日御免

一同五子正月廿日元同姓数馬妻不届至極之儀有之二付、侍格御削被成長々

蟄居被仰付候、民部義も締り方不参届ニ付遠慮被仰付、二月九日御免

一安政二卯四月三日学問所御取建ニ付同所詰被仰付候

一同年五月廿九日右ニ付講究師被仰付候

一同年七月三日明里御藏火消被仰付候

一安政三辰四月廿一日兼而文学心懸宜、且明道館御端立ニ付役掛り被仰付

候处、出精ニ付御扇子二御帶地一被下置候

一同年五月九日大御番無役支配稲垣治部跡被仰付候

一安政四巳正月十五日大御番頭笹治兵庫跡被仰付候、右ニ付席壺人御上ケ

高田作之丞次与被仰付候

一同六未六月十一日御番組大藤与太夫儀弟三吾兼而締方被仰付置候处、心

得違之儀有之二付民部伺之上差扣、十四日御免

一同廿三日文武引立方兼而被仰付置候得共、尚又此度御趣意ニ付学問所へ

出勤役配之面々厚申談生徒引立方致心配候様、尤武芸所之儀も是迄之通

可相心得候事

一同年十月十一日御書院番頭格御用人御奏者兼被仰付、支度出来次第江戸

詰被仰付候、同廿四日出立

一同年十一月十日詰中将様御用兼帶被仰付候

一同七申二月六日靈岸島江振退勤、御同所御側御用人取扱候御用取扱被仰

付候

一万延与改元、五月廿六日御内御含御用有之二付御国表へ立帰被仰付、六

月十六日着、但出立見合候様御移り

一同年六月廿八日御備組調練掛り被仰付候

一同年七月廿三日御内御含有之、立帰罷越候处最早不及出府帰切被仰付候

一文久元酉六月十一日御世譜掛り被仰付候

一同二戌四月九日江戸御留守詰出立

一同年四月晦日詰中御預り御台場御用掛り被仰付候

一同年七月十九日嘉代姫様御縁組御熟談ニ付、御用掛り被仰付候

一同年八月二日詰中御書院番頭大御番頭飯御徒御馬支配役被仰付候

一同年十月廿五日中将様御上京御供被仰付、御道中并御逗留中御書院番頭

兼帶被仰付候

一同三亥正月廿三日御船ニ而御上京被遊候ニ付御供

一同年三月廿五日中将様御供ニ而帰着

一同年六月廿九日酒井若狭守殿方使者相越候ニ付右取扱被仰付候

一同年八月廿五日遠慮伺之上差扣被仰付置候処、今日方御免

一元治元子三月五日御軍制取調御用掛り被仰付

一同年六月十三日御番割御用掛り被仰付

一同年十月十一日補兵隊之面々大坂迄引纏罷越候様被仰付候、夫方長征

一同二丑正月廿四日小倉方帰

一同月廿九日主鈴と名替

一慶応与改元、閏五月十八日一番之補兵隊頭并御書院番頭格御用人御奏者

兼勤被仰付候、月番之儀ハ御免

一同年六月 遠慮伺之上差扣之処、廿一日方御免

一同年七月十日御軍制掛り被仰付厚申合早々取調候様

一同年十月朔日宰相様御出坂御供出立、同三日御容躰ニ付今庄方御引戻帰

着

一同二寅六月四日宰相様御登坂御供被仰付、補兵隊之面々引纏、同廿五日

出立、十月五日帰

一同年十一月三日四番之大御番頭永見多門跡被仰付

一同三卯四月六日思召を以御用人同様之御取扱ニ被成下候

一同年十月十六日京都御警衛増詰被仰付、御番組之面々引纏早速出立可致旨、同十九日出立

一同年同月十八日在京中堺町御門御警衛向之儀引受致心配候様被仰付候

一同日京都詰中第二遊撃隊之面々仮支配被仰付候、十一月十六日右仮支配

之儀ハ御免被成候

一同日御趣意ニ付第一遊撃隊頭下被仰付、御取扱向左之通

一年始ヲ始御礼席寄合嫡席ニ被成下候事

一折々御機嫌伺可罷出事

一格別之思召を以御留川棧切場拝領被仰付候事

但已来之例ニハ無之候事

一御用人同様之御取扱被相止候事

一中ノ口往来可致事

一御坂札被下候事

一同月廿九日今度宰相様御上京被遊候ニ付、第一遊撃隊引纏御道中長浜御泊迄罷越、夫方御供可致旨被仰付、且又御警衛増詰之義ハ御免被成、御

供詰卜相心得候様被仰付候

一同年十二月六日二条御城江御供之節不都合有之、且締り方不参届遠慮伺

之上指扣、同八日御免

一同月十四日御在京中御用人勤向之儀も相心得候様被仰付、同廿七日御用

薄ニ付御免

一同四辰二月廿一日第一遊撃隊之面々引纏、勝手次第御国表へ罷帰候様被

仰付、同廿八日帰

一同月廿四日昨年来格別骨折相勤候段御褒詞

一慶応四辰六月廿五日会征出立、十一月十七日帰

一明治二巳二月十六日今般御改革ニ付遊撃隊頭被廢候、仍御役儀御免被成、御近習ニ被指置候

一同日明道館幹事被仰出候 月給三十俵

一同月廿二日去夏其隊引率越後口征討之處、昼夜苦心連戰一同勇奮進止得其宜遂、今日之賞功全指揮行届候段、御賞譽被成下被慰其勞御刀被下外  
二式十金

一同年六月十二日主鈴事敏<sup>サトシ</sup>卜改

一同月廿一日月給米一年分五十俵被下候事

一同年十月十四日任福井藩少参事宣下候事

一同月廿四日学校幹事更ニ被仰出候事、但月給一年分当分百貳拾俵被下候事

一同日今般少参事被仰出ニ付御取扱左之通 未正月 百四十式俵

一五節句朔望登城之節、於御座之間權大参事畢而御逢之事  
但各員一同罷出候事

一詰所是迄之通参政職詰所之事

一御門々々下座之事

ノ

一同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米百七十六俵被下候

一同年十二月八日元家来理吉不慎御咎ニ付遠慮伺之上指扣、同十一日被免

一同三年四月廿五日戊辰北越ニ出張、軍事精勵ニ付御賞典之内七拾石ツ、

三ヶ年令頒授候事

一同四未二月十五日依願給禄之内六十俵次男義郎江分禄被仰付候事

米百拾六俵

一同年六月朔日今般御改正ニ付官員減省御窺可相成ニ付、不及出仕候事

一同年八月朔日本官被免候事

一同五申正月九日東京へ遊歷出立

一 入間県権典事

一同年九月 依願被免本官、廿二日出京、当分滞京

一同六年 帰県

一同年七月十七日脚氣ニ付倅喜五郎へ家督

斎藤実 喜五郎

〔士族〕

元治二丑三月十日宰相様御伽御雇被仰付、銀五枚ツ、年々被下置候

同月十五日御移ニ付敏郎事喜五郎与名替

明治五申七月喜五郎事実

斎藤<sup>2</sup>

斎藤利右衛門 初次左衛門

貳拾三石五人

宝永元申十月十六日養父治左衛門跡目無相違被下

大安院様御代父治左衛門御取立子孫ニ付、御先代隆芳院様御取

立子孫共席御上ケ被下候格を以

享保四亥八月十八日相身躰末席被仰付

享保二酉九月五日番改被仰付、吉池角左衛門跡

同七寅冬御番割之席順席被仰付

同九辰七月五日番改被仰付



斎藤次右衛門

百石

享保十二未九月廿一日父利右衛門跡目被下、大番入

同十五戌七月廿五日表小姓式石御加増、都合式拾五石五人

同年八月十一日中奥

同十一月十一日表御小姓

同廿一辰五月廿一日中奥

元文二巳四月十五日表小姓

同三年十一月十六日御小姓御免、大番入

宝暦十一巳十一月廿九日御持武具奉行成瀬平左衛門跡、御書院番入

同十四申四月十六日御次詰

明和三戌五月十七日奥御納戸中根九右衛門跡

安永四未二月十四日新知百石

同七戌六月廿二日御役御免御近習番

斎藤利右衛門 門太夫

百石

安永九子九月十六日父治右衛門休息、家督無相違、大番入

天明八申七月二日於江戸御金奉行大谷清兵衛跡

享和二戌九月五日御札所奉行市橋新之丞跡

文化六巳ノ二月十八日小馬印奉行鰐淵三郎兵衛跡

同十四十月五日御先物頭佐々木藤左衛門跡、御役料百五十石

同十三子八月廿日御金奉行、役中心得違之義二付閉門

同十四丑三月四日隠居被仰付候

斎藤門太夫 平十郎

百石

文化十四丑三月四日養父利右衛門隠居被仰付、家督無相違被下置候

天保三辰八月七日御金奉行松永次郎左衛門跡

斎藤門太夫 忠次郎事

百石

一天保七申五月廿五日親門太夫家督百石無相違被下置、大御番組江被入候

一同十四卯江戸詰被仰付、五月朔日出立

一嘉永元申江戸詰被仰付、四月十日出立

一同年五月田安一位様御病氣二付江戸表 $\delta$ 五日振二而罷越候処、御発駕後

二相成候二付、於御途中御用申上直様御供二而江戸表へ罷帰候

一同年十二月五日右御同趣二付、急御出府御願之通被仰付候、依之右達書

并御関所御証文持参今宿駅迄罷越、脇本宿 $\delta$ 直二御供相勤候二付御褒詞

一同五子年江戸詰、同六丑四月十七日帰着

一同七寅四月廿五日山奉行長谷川八十郎跡被仰付候

一安政二卯十一月廿九日御金奉行武部作太夫跡被仰付、御書院番組へ被入

候

一同三辰六月晦日、江戸詰出立

一万延元申五月廿五日御腰物数寄方奉行武部作太夫跡被仰付候

一文久二戌三月十一日末之番外御時宜役被仰付候

一元治元子十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑六月廿九日御使番格二被成下、御役料之趣を以廿五石被下置候



一同二寅七月廿日年寄候ニ付隠居被仰付、倅平次郎へ家督百石三人扶持無相違被下置、大御番組へ被入候

齋藤太門 平次郎 門大夫倅

〔士族〕

百石三人

安政七申正月廿五日当申年太田御陣屋御雇詰被仰付、詰中三人扶持被下置候、閏三月廿二日出立

一文久元酉四月七日帰着

一同廿五日太田御陣屋御雇詰被仰付候ニ付銀式枚被下置、且又横浜表江長々致出張候ニ付銀壹枚別段金式百疋被下置候

一同二戌十月六日今度農兵御端立ニ付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候

一同年十二月十四日中将様御上京御供御用ニ付江戸表へ出立之處、御都合ニ付途中江京都へ

一同三亥三月廿五日右御供ニ而帰着

一同年七月八日上京被仰付、相止

一同年八月十日御参府之節為御警衛垂井辺迄御供被仰付候、同月廿日大坂御泊江京都江罷越

一元治元子三月廿九日、一昨戌十二月江戸表江罷出中将様御供ニ而京都表江可罷越筈ニ而此表致出立候処、俄御船行相成候ニ付途中江京都江罷出、夫江大坂江為御迎罷越、御供ニ而京都江到着之處失却も有之趣ニ付金壹両為御手当被下置候

一同年四月廿三日宰相様御供ニ而京江帰

一同年六月廿五日宰相様再度之御上京中格別骨折相勤太儀ニ思召候、依之

銀式枚被下置候

一同廿六日御含御用有之早速上京被仰付、五人ふち被下置、同廿八日出立、八月廿三日帰

一同年七月十五日在京中農兵教授手伝被仰付

一同年八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、相働候段達御聴格別之事ニ被思召候、依之為御賞御扶持方三人扶持被下置、家督之節御加増被成下候

一同年十月十一日御用有之ニ付早速大坂表江罷出候様被仰付候、夫江長征

一同廿三日酒井与三左衛門方手ニ属シ出張致候様被仰付候、出立、丑正月帰

一同二丑二月朔日賊徒警衛敦賀江出張

一同年三月七日征長御供江罷帰無間も敦賀表江出張、太儀之段御褒詞、但二月朔日出張、同九日帰

一慶応二改元、閏五月十八日三番補兵隊伍長被仰付

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付公儀江被下配当金千疋、且又戦功ニ付三千五百疋被下置候

一慶応二寅七月廿日親門太夫年寄候ニ付隠居被仰付、家督百石三人扶持無相違被下置、大御番組へ被入候

一同三卯三月十日御上京御供出立、直ニ御警衛詰、七月十八日帰

一同年九月廿日第一級ニ相進候ニ付、花葵御紋御印被下置候

一同年十月廿三日後拒役被仰付、役中其隊之上席ニ被仰付候

一同四辰四月三日京都御警衛詰出立、九月十八日帰

一同月廿五日四番後拒役被仰付、役中分隊長次席ニ被成下候

一明治二改元、十月廿日奥州会津表江早速出張被仰付、右出張中軍事方被

仰付、十一月朔日出立、巳三月四日帰

一同二巳三月九日後拒第一二被仰付

一同年四月九日中納言様御供東京江出立、六月十一日御人減二付帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾八俵三升三合

一同月 御改革二付当役被免

一同三年五月廿四日第二大隊四番分隊長被仰付候事

一同年十二月八日職務被免候事

一同日常備一番隊押絶 三番 軍曹卜改 年給十一俵

一同四未四月二日東京詰出立

一同年七月十七日平次郎事太門卜改名

一同年十月十三日解隊 在京中是迄之通 十一月帰



※「剥札」さ末にあり

斎藤市右衛門

拾五石三人

文政三辰十一月十五日出精二付小役人格御広式添役を御取立、新番入

同四巳七月廿三日休息

斎藤市右衛門 鉄之助事

拾八石四人

一文政四巳七月廿三日父市右衛門休息被仰、家督無相違被下置、新御番組

へ被入、謙五郎様御相手定御雇被仰付候

一同十一子十二月十六日出精相勤候二付、御足充行三石被下置候

一同十二丑十一月 謙五郎様御相手定御雇御免被成、御足充行以後不被

下、尤謙五郎様御国表へ被為人二付如此

一同十三寅二月廿五日浅姫様御附御広式添役被仰付候

一天保三辰十二月十一日御作事改役被仰付、役ふち壹人半扶持被下置候

一同九戌十二月廿七日御昇進御用懸り出精相勤候二付、金貳百疋被下置候

一同十亥四月十二日今般御住居御普請宜出来出精相勤候二付、金五百疋別

段三百疋被下置候

一同年十月十一日御趣意二付役儀其儘、御屋敷奉行仮御作事方受込役兼帶

被仰付、御役ふち壹人本扶持御増、都合三人ふち被下置候

一同年十二月十一日御屋形向御普請宜出来二付、金三百疋外貳百疋為失

却被下置候

一同十四卯三月廿五日、昨年公辺を御住居御入用巨細相調指出候様被仰出、

右御用懸り同様出精相勤候二付、金百疋被下置候

一同年七月五日防金次郎与申者御咎之節、心得違之趣有之二付、遠慮被仰

付候

一同年十二月廿八日当秋神田橋江御住居江御立寄、右御用懸り出精相勤候

二付御褒詞

一同十五辰四月九日出精相勤候二付、役中御足充行式石被下置候

一弘化元申三月十四日神田橋江御立寄、御用懸り出精相勤候二付御褒詞

一同四未九月十二日右同断

一同年九月廿九日来出精相勤候二付、御足充行式石御増、都合拾七石三

人フチ二被成下候

一嘉永二酉十月十九日御上屋敷大奥向御普請御用懸り出精相勤候二付、金

五百疋別段三百疋被下置候

一同年十月廿八日出精相勤候二付、御役ふち之内壱人ふち御加増、都合拾七石四人扶持二被成下候

一嘉永五子四月廿五日御住居御普請御用掛り出精之段達御聴太儀二思召候、依之金五百疋別段三百疋被下置候

一同年六月五日右同趣二付御充行壱石御増、都合拾八石四人扶持被成下、并年々銀式枚ツ、被下置候

一同年九月廿三日御台所目付同頭兼帶被仰付、是迄被下置候御役扶持式人扶持其儘被下置候

一同七寅三月廿六日年寄候二付休息被仰付候

### 斎藤鉄次郎

拾八石四人

〔士族〕

一嘉永七寅三月廿六日親市右衛門年寄候二付休息被仰付、家督拾八石四人扶持無相違被下置、新番組へ被入候

一同年十一月廿二日御武具奉行仮被仰付候

一安政六未七月十一日太田御陣屋詰被仰付、右詰中御同所御屋敷奉行仮兼帶被仰付、矢崎鉦十郎与兩人二而交代相勤候様被仰付候

一同年十月三日右詰中御同所御作事奉行御金奉行御勘定吟味役仮兼帶被仰付候

一万延元申七月四日御武具奉行仮其儘靈岸島御屋敷奉行仮兼帶被仰付候

一文久二戌八月十三日御屋敷奉行御作事奉行仮兼帶被仰付候、右二付御役扶持式人扶持被下置候

一同三亥十二月廿三日別而御用多之处出精相勤候二付、御役扶持壱人扶持御増、都合三人扶持年々被下置候

一慶応元丑五月十五日天徳寺御靈屋御普請出精二付金三百疋、別段三百疋被下

一同二寅十月廿二日役新番組へ被仰付候

一同年十二月七日御近火之節格別骨折太儀之段御褒詞

一同四辰正月廿五日今般御趣意二付御国表江引越被仰付、然ル処直二詰一同年三月六日御趣意二付支度出来次第御国表江罷帰候様被仰付、四月四日着

一同年四月七日御作事方改役御普請方改兼帶被仰付候

一同月廿九日家屋鋪中ノ馬場外片側町ニおゐて新規之家屋敷被下置候

一同年閏四月廿五日今般江戸御屋敷引弘諸向跡仕廻等致心配候二付、銀式枚被下置候

一同年五月十一日今般御趣意二付役中役御番組江被入候

一明治二己二月十五日今般御作事方御廢二付御役御免被成、御留守番組江被入、御広間当番勤被仰付候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾貳俵六升六合被下

一同年十二月九日御本丸預り被仰付候事 年給六俵

### 相馬

此前代な二出、但並河与号

相馬隼人

三百五拾石

安永五申三月廿九日養父駒三郎跡知無相違被下、寄合席西尾七兵衛次

寛政二戌五月廿八日御用人見習

同五丑八月廿五日御用人見習御免

文政三辰二月廿六日無役御留守番支配天方金五右衛門跡

文政九戌五月三日内願隠居

相馬久弥 幸之助

三百五拾石

文政九戌年五月三日親隼人年寄内願ニ付隠居、家督無相違被下置、寄合席平本但見次

天保十三寅八月病死

相馬一九郎

三百五拾石

一天保十三寅九月廿五日親久弥家督三百五拾石無相違被下置、寄合席平本作野右衛門次

一同十四卯十一月十二日御側役并御用人見習被仰付、御小姓表御小姓支配被仰付候

一嘉永元申江戸詰被仰付、詰中御足高五拾石被下置、三月廿一日出立

一同年十二月十五日急御出府之節御用掛り出精ニ付御褒詞

一同二酉四月九日於江戸表御用人御奏者兼被仰付候

一同三戌六月十一日御番皆勤御改被仰出候ニ付、御用掛り被仰付候

一同四亥正月十六日当秋江戸詰被仰付、詰中御足高五拾石被下置、松栄院様御用兼帶相勤候様被仰付候、八月廿一日出立

一同五子四月廿五日御住居御普請御用懸り出精ニ付、御目錄御召御拾一被下置候

一同年七月八日交代可罷歸処、波々伯部熊藏儀相願御国表へ立歸り罷越候

ニ付、同人致帰着候迄御差留被成候

一同年九月廿八日帰着

一同七寅六月九日御鵜支配被仰付候

一同年七月三日御鷹支配被仰付、御鵜支配之儀ハ御免被成候

一同年八月朔日御番割御用掛り被仰付候

一安政元寅十二月廿八日御備組調練懸り同様ニ相心得、御用掛り申談候様被仰付候

一同三辰五月六日病身ニ付内願之通御役御免被成、御近習ニ被指置候

一同年八月十四日大御番無役支配被仰付候

一同五年十月九日病死

相馬隼人 小弥太 実一九郎弟

三百五拾石

一安政五年十一月廿九日養父一九郎家督三百五拾石無相違被下置、寄合之席被仰付候、水野敏之介次

一万延元申十二月廿八日隼人与名替

一文久元酉十二月十一日御側役并御用人見習御小姓表御小姓支配被仰付候

一同二戌三月十一日御用人月番打込相勤候様被仰付候

一同年同月廿日御備組調練掛り被仰付候

一同三亥二月廿八日病死

相馬恒<sup>ヒサシ</sup> 精之進 節雄 平右衛門 実大谷丹下弟

三百五拾石

〔士族〕

文久元酉十月五日横井平四郎肥後表江罷歸候ニ付為修行願之出立、戊五

月九日帰

一同三亥四月十八日相馬隼人病中願之通養子ニ被仰付、家督三百五拾石無相違被下置、寄合之席被仰付候

一同年五月五日御側役并御用人助被仰付候

一同年八月廿六日上京被仰付、早速可致出立旨被仰付

一同四子正月廿八日御側役其儘御用人見習御小姓表御小姓支配被仰付、御都合も有之二付御国表江罷帰候様被仰付、二月九日帰

一元治与改元、四月十一日御軍帳割替ニ付農兵二組酒井外記方江御附被成候ニ付、精之進荒川十右衛門其手江属シ外記方江申談致世話候様、且

又農兵之儀ニ付而ハ掛り西尾十左衛門江申談候様被仰付候

一同年四月十九日酒井外記方御用多ニ而調練出勤無之節ハ、明石将監へ都而申談致世話候様被仰付候

一同年五月十一日在京中身分をも不弁不埒之趣相聞、依之御役御免遠慮、六月朔日御免

一同年六月五日明里御蔵火消被仰付

一同年六月十四日は迄酒井外記方附農兵致世話候様被仰付置候處、御軍帳御割替ニ付芦田信濃附農兵致世話候様被仰付候

一同廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀ニ付、御酒被下置候

一同年十月十五日長征出立、丑二月二日帰

一慶応三卯正月廿二日下馬御門并三ノ丸御座所御門御預ケ被成、御警衛向厚相心得相勤候様被仰付、依之風廻之儀ハ御免被成候

一同年十月十日精之進事トキラ節雄ト改

一同月十六日節雄事平右衛門ト改

一同四辰正月八日殿様御出馬之節御供被仰付、且又子弟輩御供之面々差配

被仰付

一同廿五日今般勅使御通行之節御用人助被仰付候

一同年六月 会征補兵隊差配被仰付

一同年八月廿二日右差配御免被成、且又兼而御供被仰付置候事故御出馬之節ハ被召連等二候、左様相心得候様被仰付

一同年八月晦日御備入子弟差配指添被仰付、早々越後表へ出張被仰付、九月六日

一明治ト改元、十月廿五日出張中御使番軍事方兼被仰付

一同二巳二月六日会征方帰、同月廿二日出張ニ付御手当六両被下候

一同年四月四日夜廻欠候ニ付遠慮伺之上指扣、同七日被免

一同年五月十七日遊撃隊へ被入、御門所御警衛夜廻之儀ハ被免候

一同年六月廿六日又左衛門事恒ト改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米百六拾三俵式斗三升五合被下

一同三午五月廿四日第一大隊一番小隊入被仰付候事

一同年十二月 予備一番隊 年給式俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

榊原<sup>1</sup>

榊原助左衛門

三百石

貞享三寅六月十一日養父十郎左衛門家督六百石半減、無相違被下

元禄十二卯六月晦日御先物頭被仰付

榊原十郎左衛門

三百石

正徳三巳閏五月十三日父助左衛門家督無相違被下  
同未五月廿五日御先物頭被仰付、栃谷半右衛門跡  
享保三戌二月十九日於江戸病死

榊原六右衛門

三百石

元禄十六未八月廿三日御手廻被召出、御合力御扶持被下  
享保二酉六月十九日御切米廿五石五人扶持被下、数年御手廻相勤候二付  
御免、大番へ被仰付

同三年戌四月廿五日養父十郎左衛門跡知無相違被下之  
同六丑二月廿五日御先物頭被仰付、柘植猪右衛門跡

榊原助左衛門

三百石

享保八卯三月五日養父六右衛門跡無相違、大番入  
同十七子八月十六日大番筆頭

元文元辰十一月七日御使番岩村門右衛門跡  
寛保三亥正月十九日御杉形奉行大関新五左衛門跡

延享元子十月廿五日御先物頭同人跡

宝暦三酉十月廿九日御持弓頭杉田五太夫跡

同七丑九月廿九日御目付長谷部小右衛門跡

同十一巳十月十一日御旗奉行小川与右衛門跡

榊原助左衛門 隠居

三百石

安永四未二月十四日父助左衛門隠居家督無相違、大番入  
天明五巳十二月十一日御使番土屋十郎右衛門跡  
寛政二戌五月廿八日御先物頭味岡彦太夫跡  
同三亥十一月朔日伺之上差扣  
享和二戌正月廿九日隠居

榊原助左衛門 小太郎 病死

三百石

享和二戌正月廿九日父助左衛門隠居、家督無相違、大御番入  
文化十四丑十一月五日御使番林又左衛門跡  
文政三辰六月廿三日杉形鑓奉行尾高小右衛門跡  
同六未十月三日御先物頭中村庄左衛門跡

榊原十郎太夫 惣三郎事

三百石

一文政十三寅六月廿五日親助左衛門家督三百石無相違被下置、大御番組へ  
被入

一天保十二丑四月十六日大御番六番之筆頭役三寺与右衛門跡被仰付

一同十三寅江戸詰被仰付、三月廿三日出立

一同十五辰十二月三日御使番役加藤茂右衛門跡被仰付

一嘉永元申九月十五日杉形御鑓奉行、片山平七跡被仰付



一同三戌六月三日御持弓頭佐々木小左衛門跡屋敷奉行兼席被仰付

但安政元寅十二月十八日御軍制御改正二付、御役名御持物頭と替

ル

一同四亥年江戸御供詰

一同年十二月十六日中将御拝任二付、御国へ為御使道中七日振二而被遣候、同廿四日着、同日右為御請道中十日振二而指出候旨被仰付、同廿八日出

立

一同六丑七月三日、去月十二日京町<sup>ろ</sup>出火之節出精二付御褒詞

一同七寅六月十七日、去ル十三日塩町<sup>ろ</sup>出火之處及大火之節、出精二付御

褒詞

一安政二卯江戸御供詰

一同三辰三月十二日火之御番御用相勤太儀二思召、御召御上下一具銀壺枚

被下置候

一同五年十一月十一日御側物頭加藤丹右衛門跡被仰付候

一同六未十一月十一日席其儘御普請奉行桜井庄九郎跡被仰付候

一文久三亥八月十九日今度三ノ丸御普請御用掛り被仰付候

一元治元子二月廿日席其儘御役御免被成候

一同年十二月賊徒一件之節御留守御用相勤候二付、御手当三百三拾三匁被

下

一同年十二月廿八日金沢大聖寺江御使者出立

一同二丑二月廿二日隠居

榊原一夫 ナリヒロ  
成裕

〔士族〕

三百石

元治二丑二月廿二日親十郎太夫年寄候二付隠居被仰付、家督三百石無相違被下置、大御番組へ被入候、且又拾七歳未満二付御番之儀ハ御免被成候

一同年三月五日十七歳未満二付当番之儀御用捨被成候處、今度家督之節十五歳ニ相成候得ハ、御番御供共相勤候様被仰付候二付、当番之儀も相勤候様被仰付候

一慶応三卯十二月十二日急々上京被仰付十三日出立之處、御模様二付途中<sup>ろ</sup>引返シ帰

一同四辰正月八日又々急々出立上京、閏四月十六日帰

一同年閏四月十六日遊撃隊二付夜廻り御免被成候

一同年九月八日上京、十一月十六日帰

一明治二巳三月廿六日御近習被仰付

一同年十一月七日御家従被仰付候事

但奥詰

一年給式俵被下候事

一同月廿五日今般御改革、更給禄米百四拾六俵<sup>壺</sup>斗<sup>壺</sup>升四合被下

一同三年十月廿八日御家従被免候事、但御趣意二付

一同日小隊江被入候事、但第一大隊一番

一同日は迄御手許御用相勤太儀二付金五百疋被下候

一同年十二月八日常備一番隊 年給六俵

一同四未四月朔日東京詰出立

一同年七月十七日仙次郎事成裕卜改名

一同年十月十三日解隊、十一月帰

一同年十二月名替、成裕事一夫

榊原<sup>2</sup>

榊原七左衛門

貳拾石三人

延宝四辰五月十一日父武右衛門為跡目被下、但最前新番

貞享四卯四月大番入

元禄五申三月十六日上水奉行被仰付

正徳五未六月十六日上水奉行御取揚

享保七寅冬御番割之節順席被仰付

榊原三左衛門

廿石三人

享保十三申九月十六日養父七左衛門休息、家督無相違、大番入、此節迄

自分御徒

延享元子十一月十一日番改

榊原七左衛門

百石 外五拾石御足

元文五申八月五日御右筆見習

同年九月五日三人扶持被下、御留守番入、席相身躰末之上ミ

寛保四子二月十七日本役御切米並之通被下、御書院番入

宝曆十一巳四月廿五日親三左衛門休息、家督之儀是迄之通、役義も其儘

明和三戌正月晦日於江戸新知百石

安永二閏三月十二日御右筆請込、加藤猪右衛門跡

同四未二月十四日末之番外波々伯部又四郎次

天明六年五月廿七日御足高五拾石

榊原仲八 死

百石

寛政二戌三月十六日養父七左衛門隠居被仰付、家督無相違、大御番入

享和元酉十月廿日与内立合大久保祐十郎跡

榊原幸八

百石

享和四子二月十六日養父仲八跡目無相違、大御番入

文化三寅六月十六日拝知御取上、廿五石五人扶持被下、遠慮

同五辰十二月十六日御前様御附御広式御用達、御留守番入

文化八未年九月十一日儒者見習、大御番入

文政元寅七月九日於江戸表江戸詰出精二付、新知百石被下置

文政四巳九月十六日御部屋御近習番被仰付、支度出来次第江戸被仰付

文政八酉正月廿四日於江戸表御附御側向頭取見習末之番外、埴原八五郎

次、来戌年迄詰越被仰付

文政九戌十二月廿三日御徒頭井戸次兵衛跡被仰付、御役料五拾石被下置

候

文政十一子六月三日御使番佐野弥三郎跡、御役料都合百五十石被下置

同七月病死

榊原孫兵衛 藤五郎

百石

文政十一子八月廿九日養父幸八家督無相違被下置、大御番組へ被入

一同十三寅四月二日若殿様御附御小姓被仰付

一同年同月十三日江戸為詰出立

一天保三辰年江戸詰、八月廿八日出立

一同五午年江戸詰、八月廿八日出立

一同六未六月五日超倫院様御逝去ニ付御附御小姓御免被成、大御番組へ被入

入

一同十亥五月廿九日御広式御用達久野忠右衛門跡被仰付

一同十二丑十一月廿日楷五郎様御附御近習番三岡助右衛門跡被仰付、御書院番組へ被入

院番組へ被入

一同十四卯九月廿五日巍光院様御逝去ニ付、大御番組へ被入

一弘化三午五月廿九日御金奉行吉田猪兵衛跡被仰付

一同四未年江戸詰五月五日出立

一嘉永三戌九月十一日御鵜方松原四郎兵衛跡被仰付、御書院番組へ被入

一同五子正月四日病死

榊原<sup>コウハチ</sup>爰八 忠太郎 幸八 三四郎

〔士族〕

百石

一嘉永五子二月廿五日親孫兵衛家督百石無相違被下置、大御番組へ被入

一同年十月十四日御小姓彦坂又五郎跡被仰付

一同年十二月廿八日幸八与名替

一同六丑六月十六日願之上江戸表へ出立

一安政二卯江戸御供詰

一同四巳三月十二日思召を以当年江戸御供詰御免被成、御留守中明道館へ

罷出厚致修行候様被仰付候

一安政四巳六月廿日思召を以明道館学諭被仰付、御書院番組江被入、御近

習ニ被指置、御小姓之儀ハ御免被成候

一同五午正月廿五日助幹事被仰付、西舎之儀も兼勤致候様被仰付候

一同年十二月五日助訓導師被仰付、但明道館并外塾諸用向之儀取扱可申旨

一同月同日横井平四郎立帰熊本表江罷越候節同道罷越候様被仰付、同十五

日出立、同六未五月九日帰着

一同六未六月三日江戸御聞番役見習被仰付、格式末之番外ニ被成下、御役

料五拾石被下置、支度出来次第出立、江戸長詰被仰付候、且又詰中御扶

持方拾人扶持并失却金三拾兩ツ、年々被下置、御貸人馬等之儀ハ御奉行

方可申聞旨、同十六日出立

一同月晦日太田御陣屋詰被仰付、右詰中御目付助兼帯被仰付候

一同年十月三日太田御陣屋詰中御奉行取扱候御用向取扱被仰付候

一同七申正月十八日御本丸御普請ニ付鳥子紙御献上被成候ニ付、御用掛り

被仰付候

一同年二月廿六日太田御陣屋普請御用掛り出精ニ付、銀壺枚被下置候

一万延与改元、四月二日太田御陣屋詰被仰付置候処御免被成候

一同年七月四日御聞番本役被仰付、御使番順席ニ被成下、御役料都合百五

拾石被下置、家内共引越被仰付候、且又是迄被下置候失却金者以後不被

下候

一同廿八日先達而臨時横浜表へ出張ニ付御褒詞

一同年十二月十五日家内引越被仰付候処、祖母并母儀兼而眩暈氣罷在歩行

并乗物等二而遠路道中出来兼難儀二付、家内引越之儀御用捨被成下候様相願候処、実々難渋無捩趣二付格別之御憐愍を以願之通被仰付候

一文久元酉八月十八日御内御含も有之、且老母対面旁御国表へ立帰被仰付候

一同年九月十八日末之番外御時宜役被仰付候、右転役二付御役料者以後不被下候

一同二戌四月十一日御徒頭岡部半兵衛跡被仰付、御役料五拾石被下置候

一同廿日御聞番役勤中横浜表江度々御人数致出張候節々致心配、且御陣屋江も罷越候段太儀之旨、御褒詞之上御目録銀三枚別段金三百正被下置候

一同年八月九日御役料其儘郡奉行佐々木権六跡被仰付、御役人並被仰付候

一閏八月廿九日種馬掛り被仰付候

一同年九月四日御役料五拾石御増、都合百石被下置候

一同三亥六月十六日制産方兼帯被仰付候

一同年八月四日席其儘金津定番嶋川源右衛門跡、御役料都合百五拾石被下置候、且又家屋敷是迄嶋川源右衛門罷在候御役屋敷江替被下候

一同七日肥後表江為御使被遣候間、支度出来次第致出立候様被仰付、十一日出立、九月十六日帰

一元治元子二月廿日御役料其儘御留守物頭御鷹方兼帯堀武左衛門跡被仰付、家屋敷是迄武左衛門罷在候御屋敷へ替被下候

一同年七月廿日今般御趣意二付御鷹被相止候、此段相心得候様被仰付候

一同年八月廿三日席其儘御水主頭被仰付、家屋敷之儀ハ御役屋敷へ替被下候

候

一同年十月十六日長征出立、丑二月二日帰

一慶応元丑四月廿九日御先物頭次席御使番役被仰付、家屋敷之儀ハ当分御

役屋敷二其儘被指置候

一同年閏五月晦日家屋敷松原次郎左衛門家屋敷へ替被下候

一同年十月朔日宰相様御出坂御供出立、同三日今立方御引戻二付帰

一同二寅四月十一日本多興之輔方へ増御附属被成、大坂表江出張被仰付候、

支度罷在御指図次第可致出立旨被仰付候

一同年五月朔日御用有之立帰出坂被仰付候、早速可致出立旨被仰付、同二

日出立、同月廿二日帰

一同年六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月同断帰

一同年十一月十日御持物頭下山彦三跡被仰付候

一同三卯十月十八日小隊頭ト被仰付候

一同四辰正月七日急出立、二ツ屋御警衛、廿六日帰

一同年二月廿七日支度出来次第京都御警衛詰被仰付、三月二日出立、閏四月十六日帰

一明治ト改元、九月廿五日今度被仰出二付幸八事三四郎ト改

一同年十一月六日上京、巳二月七日帰

一同二巳二月十六日御役儀御免被成候、但席其儘

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下候

一 予備隊

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役ト唱

一同五申七月三四郎事爰ハ  
コウハチ

榊原<sup>3</sup>

榊原仁右衛門

百石

正徳二辰正月廿一日御徒目付方御取立、新番入

同四年十月廿五日御取立、御附御駕附被仰付、此節御切米五石御加増、

御書院番入

享保五子二月廿八日新知百石被下

同十二未九月十六日御駕附御免、大番入

榊原十郎右衛門

百石 役料百五拾石

元文二巳二月廿八日父仁右衛門休息、家督無相違、大番入

同三年八月廿三日御手廻り山本小兵衛跡

延享三寅五月廿一日御駕付

宝暦三酉五月十六日御勘定拝借奉行皆川与三右衛門跡、御留守番入

同九卯九月廿二日郡奉行役料百五十石、西尾五右衛門跡

同十二年三月廿二日御留守物頭河合滝右衛門跡

明和五子七月九日御先物頭河合定右衛門跡、役料百五十石被下

榊原七郎右衛門

百石 役料百五拾石

安永四未十月十一日父十郎右衛門家督無相違、大番入

天明四辰四月廿一日於江戸御近習番御書院番入

同六年五月廿七日御近習番是迄之通御供頭東郷吉蔵跡

同年七月廿四日奥御納戸役大久保勝之丞跡

同八申六月十五日御留守物頭御鷹方兼西村小平次跡

寛政三亥十一月廿九日郡奉行土屋五郎太夫跡、役料百五拾石

同四子十一月廿一日御目付西村小平次跡

榊原生之助<sup>ウム</sup>

百石

享和元酉四月五日父七郎右衛門家督幼年二付拾人扶持被下、御留守番へ

被入候

同二戌八月廿五日拾五歳罷成候二付、新知百石二御直し被下、大番入

榊原孫作 茂三郎

百石

文化三寅十月廿九日養父生之介跡知無相違、大御番入

同四卯正月十八日御小性

文化十三子ノ六月廿四日奥御納戸役川村仙右衛門跡

文政五午四月御膳番有賀忠兵衛跡

同戊二月廿四日威徳院様御逝去二付御役御免、大御番入

文政十亥六月六日御使番中山藤右衛門跡、御役料百五十石

文政十二丑七月四日御水主頭奈良助右衛門跡被仰付、助右衛門罷在候御

役宅へ替被下

榊原新兵衛 幾平 仁右衛門 実前田彦次郎次男

百石

一天保三辰五月十六日榊原孫作病中願之通養子二被仰付、家督百石無相違

被下置、大御番組へ被入

一同八酉年江戸詰、四月十六日出立

一同十亥年江戸詰、四月十四日出立

一同十三寅二月廿九日無役御留守番世話役国枝六太夫跡被仰付、無役御留

守番組へ被入

一嘉永二酉六月廿九日宮塚又兵衛跡、山奉行被仰付

一同四亥二月廿五日御勘定拝借奉行御趣意金取扱大谷第八跡被仰付

一同五子十一月十六日御腰物数寄方奉行野中重左衛門跡被仰付、御書院番

組へ被入候

一安政三辰六月十四日末之番外御時宜役被仰付候

一同六未三月廿日年来剣術相心掛候趣師役方内達も有之二付、御下緒一掛

被下置候

一同七申正月十六日小馬印奉行梁兵右衛門跡被仰付候

一文久元酉三月十五日御使番格二被成下、御役料之趣を以廿五石被下置、

役儀之儀ハ御免被成候

一同三亥十月十五日新兵衛与改

### 榊原孫作

〔士族〕

百石

安政七申正月廿五日当申年太田御陣屋御雇詰被仰付、詰中御扶持方三人

扶持被下置候、閏三月廿四日出立

一文久元酉四月帰着

一同廿五日太田御陣屋御雇詰被仰付候二付銀式枚被下置、且又横浜表へ長

々致出張候二付銀壹枚、別段金貳百疋被下置候

一文久二戌十月六日今度農兵御端立二付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰

付候

一同三亥七月八日上京被仰付、相止

一同年八月廿一日早速上京被仰付、廿二日出立

一元治元子二月廿日養父新兵衛年寄候二付隠居被仰付、家督百石無相違被

下置、大御番組へ被入候、四月十二日京方帰

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤候二付、銀壹枚被

下置候

一同年十月十五日長征出立、丑二月二日帰

一慶応二寅四月八日京都詰出立、十一月廿五日帰

一同三卯十月廿一日新撰隊教授方被仰付、役御番組へ被入候

一同四辰五月廿八日御旗奉行林鉄之進跡被仰付

一同年六月廿五日会征出立、十一月十三日帰、巳二月廿二日出張二付十三

両被下候

一明治二巳二月十六日今般御改革二付御役御免被成、御広間当番勤被仰付

但番列其儘 優待列

一同年十二月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同三午四月廿五日戊辰北越出張、軍事精励二付御賞典之内十石三ヶ年令

頒授候事

一同年閏十月廿五日修業列名目被廢非役卜唱



坂野治部右衛門 初山元右衛門八

二百石 役料百石



元禄二巳二月廿五日養父八右衛門家督

正徳二辰六月十六日於江戸御使番、役料百石

享保四亥九月十五日御先物頭樋口小左衛門跡

同十二未十一月十六日志比口御門預ケ井原丞助跡、只今迄之組鈴木源八方へ相渡ル

同十七子三月十六日御簾奉行築田太郎太夫跡

坂野八右衛門

二百石 役料百石

延享元子十一月三日父治部右衛門病身二付隠居、家督無相違、大番入

宝暦九卯十二月十一日大番五番筆頭杉田段七跡

明和三戌八月六日御使番滝郡右衛門跡、役料百石

同五子七月廿三日御先物頭雨森太郎兵衛跡

坂野兵吉

二百石

安永三年十一月廿九日父八右衛門隠居、家督無相違被下、大番入

坂野八右衛門

二百石

天明二寅五月十一日養父兵吉跡知無相違、大番入

同年六月十四日表御小姓見習

寛政元酉閏六月五日表御小姓本役

同六寅十一月廿八日御小姓

坂野八右衛門 死

貳百石

寛政八辰正月十六日養父八右衛門跡知無相違、大番入

同九巳正月廿九日表御小姓高村四郎右衛門跡

文化元子五月廿四日御小姓

文化二丑九月病死

坂野龜吉

貳百石

文化二丑十月卅日養父八右衛門家督無相違、大御番入

同六巳ノ二月七日御小姓

同七年十月九日御小姓御免、大御番入

同十酉二月廿九日病死

坂野丹吾 銀吉 兵吉

貳百石

文化十酉四月廿日龜吉病中願之通養子二被仰付、家督貳百石無相違、大御番入

同十一戌七月廿日御近習番御書院番入

文政三辰十二月十七日御裏役吉田吉之丞跡

同九戌二月廿四日威徳院様御逝去二付御役御免、大御番入

天保二卯二月十五日御書院番入

同五年九月廿七日御腰物数寄方奉行、若殿様御用兼帶

同八酉十月五日養子榮吉願之上御国為立退候処、兼而取締方不參届候ニ付遠慮被仰付候

天保九戌六月三日末之番外、御時宜役被仰付  
(マ、)  
同十五辰ノ六月廿三日

坂野四郎兵衛 半藏 実中根新左衛門弟  
貳百石

一弘化元辰年八月十六日養父丹吾家督無相違被下置、大御番組江被入  
一嘉永三戌年江戸詰被仰付、四月十日出立  
一同七寅正月十一日江戸表へ出立

一文久元酉三月十九日御供ニ而出立、同二同断帰着  
一文久二戌十二月十一日御書院番組へ被入候  
一元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、依之御手当銀六百匁被下置候  
一慶応二寅十月十三日年寄候ニ付休息

坂野常善 ツネヨシ 銀吉 壮九郎 実四郎兵衛養家之弟

〔士族〕

貳百石

安政六未三月廿日武芸厚出精之趣師役方内達も有之二付、修行中銀貳枚ツ、被下置候

一文久元酉三月十九日願之上養父四郎兵衛同道、江戸表江出立

一同年五月十一日砲術訓練修行被仰付候

一同年九月十二日当節柄御人減ニ付修行旁江戸表詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置候

一同二戌四月三日横浜表江臨時出張ニ付、御褒詞之上金百疋被下置候

一同年十月廿九日帰着

一同年十一月二日農兵掛り被仰付、郡方吟味役勤方之儀も相心得候様被仰付、御扶持方三人扶持被下置候

一同年十一月廿九日武芸修行中被下置候銀貳枚之儀ハ以後不被下候、但当年ハ被下置候

一同年十二月十五日中将様御上京御供御用ニ付江戸表へ出立之処、御都合ニ付途中より京都へ

一同三亥三月廿五日右御供ニ而帰着

一元治元子二月廿日支度出来次第上京被仰付、同廿三日出立

一三月二日在京中無息伍長被仰付

一同年三月廿九日、一昨戌十二月江戸表江罷出、中将様御供ニ而京都表江可罷越等ニ而此表致出立候処、俄御船行相成候ニ付途中より京都へ罷出、夫より大坂へ為御迎罷越御供ニ而京都江到着之処、失却も有之趣ニ付金壹両為御手当被下置候

一同年四月十日御含御用も有之二付当分滞京被仰付、滞京中月々銀三枚ツ、被下置候

一同年五月十三日御繰合も有之二付在京中御聞番役助被仰付、右勤中銀七枚御増、都合月々銀拾枚ツ、被下置候

一元治元子六月廿五日宰相様御上京中格別骨折相勤太儀之段、御褒詞之上銀壹枚被下置候

一同年九月十日被召出御扶持方五人扶持被下置、御書院番格ニ被成下、御用人支配被仰付候

但是迄被下候三人扶持之儀ハ以後不被下候、且又御含御用之儀ハ是迄之通

一同十六日嶋田近江儀御内御用有之立帰出府被仰付候二付、同道罷越候様被仰付、十七日出立、廿二日江戸へ着、廿六日折返シ京へ出立

一同年十月十四日京都詰中不容易御時態ニ有之候処、致心配候二付御酒被下置候

一同月十九日今度応接方被仰付候

一同二丑二月六日帰

一元治二丑三月廿四日兵科取調被仰付

一慶応与改元、五月廿五日征長御供、別段心配二付銀老枚被下候

一同年閏五月十七日御含御用有之二付早速上京被仰付、同廿日出立、十月十七日病氣二付帰

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年十月十三日養父四郎兵衛年寄候二付休息被仰付、家督貳百石無相違被下置、大御番組江被入候

但家督被下置候二付、是迄被下置候五人扶持之儀ハ已後不被下候

一同日家督被下置候処兵学所詰之儀ハ是迄之通相心得候様被仰付

一同年十一月三日大御番三番之筆頭役被仰付

一同三卯四月六日二番之補兵隊筆頭役被仰付、御書院番組江被入候

但座列之儀ハ大御番筆頭役之節之通被仰付

一同月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰着

一同年九月廿七日御趣意二付御書院番其儘御役御免被成候

一同年十月十八日第一遊撃隊分隊長被仰付、役義二付席末之番外格ニ被成下候

一同廿一日宰相様御上京御供被仰付

一同廿八日右御免被成殿様御上京御供被仰付候

一同年十一月二日宰相様御上京被遊候二付速見迄御見送り出立、同七日帰一同月廿六日宰相様御滞京中為御備支度出来次第上京被仰付、同廿九日出立、辰四月十日帰

一同四辰四月四日昨冬已来格別骨折候段御褒詞

一同廿五日六番之遊撃隊長被仰付、末之番外順席ニ被成下、御役料廿五石被下置候

一同年五月十六日五番之遊撃隊長被仰付、且又今般徴兵被仰付候二付、五番遊撃隊引纏支度出来次第上京被仰付、然ル処同廿五日上京御免

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰

一明治二巳二月十六日六番小隊長被仰付候、月給七十俵、御役料ハ不被下一同月廿二日会征長々出張太儀思召、仍二十金被下外三千疋

一同年六月十日依病氣願小隊長被免、御広間当番勤被仰付候事、席長谷川兵馬次

一同月十七日元御書院番席ニ被仰付

一同年十一月廿一日民政局少属被仰付候事

一同年同月廿五日今般御改革二付、更給禄米百五俵式斗八升五合下賜

一同月廿七日刑法寮少属被仰付候事

一同三午四月廿五日戊辰北越出張各所戦争拔群尽力二付、御賞典之内永世十石十ヶ年四十石、都合五十石令頒授候事

一同年七月四日岡田準介拝借地南ノ方附寄地之内ニ而拝地下相当之坪数ヲ以御振替被成下、且又在来之建物被下候様

但振替地願之通地所入費之分田辺久江可申談事

一同年八月廿五日今般武生表動揺之砌出張致居候処、御締向且鎮撫方精々尽力致候得共町勢切迫不得止義ニ而、右場合ニ至り遠慮伺之上指扣、同

廿八日被免

一同年九月五日本官被免修業列江被入候事、席伊東文次郎次

一同年閏十月十七日小隊江被入候事、但第一大隊一番

一同年十二月八日任小尉 但常備第五小隊 年給三十六俵

一同四未四月三日東京増詰出立

一同年五月廿五日依願給祿之内三拾俵弟武三郎江分祿被仰付候事

米七拾五俵式斗八升五合

一同年十月十三日解隊、十一月帰

一同五申五月壯九郎事常善

佐々木

1

佐々木大之進

貳百石 外役料百石

於松岡寺社町郡奉行、御相続後

享保七寅十一月九日郡奉行本役被仰付、席尾高次部右衛門次被仰付

同八卯三月八日死去

佐々木小左衛門

二百石 役料百石

享保八卯四月廿九日父大之進跡知無相違、大番入

同十巳四月十八日次筆頭

元文三年七月二日次筆頭席御免

同八月五日大御番二番筆頭

寛保三亥閏四月五日御使番柘植伊右衛門跡、役料百石

寛延四未正月十六日御先物頭中川惣右衛門跡

佐々木小左衛門

二百石 役料百石

宝曆十辰二月廿九日養父小左衛門隠居、家督無相違、大番入

同十二年六月廿二日不締り之趣有之御呵遠慮

明和五子八月廿五日大番三番筆頭松江市左衛門跡

安永九子十一月廿一日御長柄奉行出淵平兵衛跡、御役料百石

佐々木藤左衛門

貳百石 役料百石

天明元丑十一月廿日養父小左衛門跡知無相違、大番入

寛政八辰六月廿日大御番三番筆頭役加藤武右衛門跡

享和元酉三月朔日郡奉行東郷三郎右衛門跡、御役料五拾石

文化二丑十月廿九日杉形鑑奉行堀平太夫跡、役料百石

文化四卯正月晦日御目付太田三郎兵衛跡

同七年十月十日病身二付御役御免、御役料其儘被下置、御先物頭次席

同八未八月廿日御先物頭筒井三右衛門跡

同十四十月五日御預所郡奉行武田平太夫跡、御側武頭次席、御役人並

同十二乙亥正月廿七日御側物頭河合太郎太夫跡被仰付

同十三子十一月廿九日病身内願二付隠居

佐々木小左衛門 弥藤太事

式百石

一文化十三子十一月廿九日父藤左衛門病身内願ニ付隠居、家督式百石無相違被下置、大御番組へ被入

一同年十二月十七日御小姓被仰付

一同十四丑江戸詰

一文政二卯江戸詰

一文政三辰十月廿七日御小姓御免被成、大御番組へ被入

一同五午九月廿三日御書物方長谷部忠藏跡被仰付、御書院番組へ被入

一同九戌二月廿四日威徳院様御逝去ニ付御役御免、大御番組へ被入

一同十二丑八月十三日郡奉行石川平八跡被仰付、御役料五拾石被下置候

一同十三寅九月十一日御役御免、末之番外被仰付候

一天保二卯二月十五日謙五郎様御側向頭取見習被仰付

一同四巳八月十六日若殿様御附御側向頭取被仰付、御役料五拾石被下置、

御徒頭次席

一同五午江戸詰被仰付、三月廿八日出立

一同六未六月十一日超倫院様御逝去ニ付御役御免、御役料其儘御近習ニ被

差置候

一同八酉五月廿五日産物掛り河崎三郎助跡、御使番次席被仰付候

一同十一子二月廿九日御札所目付松原仲右衛門跡被仰付、御長柄奉行次席

御役人並被仰付

一同年御内用ニ付江戸表へ立帰り出府被仰付、八月六日出立

一同十二丑正月十九日御役義御免、御役料其儘御使番次席被仰付候

一同十四卯八月十七日杉形御鍵奉行片山平七跡、御役料都合百石被下置候

一同十五辰四月廿日御奉行役被仰付

一弘化二巳三月五日御役前不参届趣有之ニ付遠慮被仰付

一同年十二月五日内達之趣も有之ニ付御役御免、御役料其儘御先物頭次席被仰付候

一同三午五月廿二日御持弓頭蟬江善右衛門跡、屋敷奉行兼帯被仰付候

一嘉永元申六月六日急御出府ニ而江戸表へ出立、七月十五日帰着、右ニ付

十二月七日御褒詞

一同二酉江戸詰被仰付、三月廿三日御供ニ而出立、同九月廿一日病氣願之

上帰着

一同三戌六月三日御旗奉行大谷儀左衛門跡被仰付

一同六丑四月十七日病死

佐々木権六

〔士族〕

式百石

一嘉永六丑六月十一日親小左衛門家督式百石無相違被下置、大御番組へ被

入候

一同年七月十七日武術為修行江戸表へ願之上出立

一同年同月廿九日此度相願武術為修行此表へ罷出候処、思召を以炮術調練

致修行候様被仰付、御扶持方三人ふち被下置候

一同七寅年三月廿三日御殿山へ出張ニ付御下緒一掛ケ被下置候、同年五月

十三日帰着

一同年十月十三日大小銃并彈藥御製造掛り被仰付候間、原法之通精製相成

候様可申談候

一安政二卯正月廿八日御手元御用有之ニ付御書院番組へ被入候

一同年二月八日大砲御製造取調之御用有之ニ付立帰出府被仰付、早速致出

立候様、同十日出立

一同四巳年正月十八日御製造方頭取被仰付候

一同年二月十九日立帰江戸表へ出立、七月帰着

安政四巳六月廿八日御製造御用ニ付当春立帰出府被仰付候処、此度罷帰候ニ付詰ニ御立被下候

一安政四巳八月八日御製造方頭取其儘兵科御調御用掛り被仰付、折々明道館江相詰致研窮候様被仰付候

一同五午五月十八日御製造方調御用有之ニ付下筋江被遣候、同廿二日出立、六月廿日帰着

一同年十一月十六日格式末ノ番外ニ被仰付、銀三拾枚被下置候、且又病氣内願之趣も有之ニ付、当時勤向之儀ハ御見除被成候間緩々致養生候様、快候節ハ折々罷越申談候様被仰付候

一同年同月廿九日御手元御用も有之ニ付、病躰聊ニ而も快候ハ、江戸表江罷出候様御沙汰之旨被仰付候

一万延二酉正月廿二日制産方御用有之ニ付長崎表江罷越候様被仰付候、二月十三日出立、五月十三日立帰着

一文久元酉五月廿五日制産方御用有之ニ付、支度出来次第立帰出府被仰付候、六月九日出立

一同年十一月二日席役儀其儘御近習ニ被指置候

一同年十二月廿四日役中銀三拾枚ツ、年々被下置候

一同二戌二月十九日、昨年二月長崎表へ罷越又々立帰出府被仰付候処、彼是御用も有之、江戸表ニ長々罷在候ニ付詰ニ御立被成候

一同三月三日帰着、二月八日制産方御用有之、御国表江立帰被仰付候

一同年三月廿九日郡奉行真杉所左衛門跡被仰付、御役料五拾石被下置、御

役人並被仰付、且又是迄年々被下置候銀三拾枚之儀者以後不被下候

一同年八月九日御役料席其儘中將様御手元御用被仰付、御近習ニ被指置、役儀之儀ハ御免被成、支度出来次第出府被仰付、同廿三日出立

一同年九月廿四日御役人並ニ被成下候

一同廿七日御製造掛り被仰付候

一同年十月四日御製造御用ニ付御国表江立帰御内意被仰付、同廿二日着

一同三亥六月八日安嶋浦御普請御用掛り被仰付、右御用中家内引越之儀勝手次第致候様被仰付

一同年十月七日御役料五拾石御増、都合百石被下置候

一同十日製造御用ニ付出府被仰付、同廿一日出立

一同年十一月廿一日箱館表へ御用有之出府被仰付候処、雪路指支之趣ニ付一端御国表へ罷帰、来春雪消次第同所江罷越候様被仰付

一同年十二月廿三日公辺蒸気船江乗組、京都表江出帆

一同四子正月十三日帰着

一同年二月七日製造局頭取被仰付

一元治と改元、三月十七日御軍制取調御用掛り被仰付候

一同年四月七日製造奉行被仰付、製造局頭取之儀ハ御免被成候

一同年七月廿日京都表へ早駆ニ而出立、同廿四日早駆ニ而着

一同年十一月二日御用弁之儀ニ付、製造奉行ニ而御武具奉行掛り被仰付候間、以来御武具方江申談候様被仰付候

一元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、依之御手当銀八百匁被下置候

一同二丑三月廿四日兵科取調被仰付候

一慶応与改元、五月廿五日賊徒一件ニ付別段骨折候ニ付、為御賞銀三枚被下



一同月廿八日大砲支配被仰付

一同年六月三日数ヶ年之間安嶋浦御普請一条都而壹人へ御委任被成、彼地出張中御扶持方七人半扶持被下置、彼地居住中官宅二候共自宅同様相心可申事

一同年六月十一日御役料之義二付内達之趣も有之候得共、安嶋浦御普請御委任中其儘被下置候

一同二寅正月廿九日出精相勤候二付、役義其儘御持物頭次席二被仰付候

一同年二月十六日御内用有之二付上京被仰付、同廿五日出立、四月八日帰

一同年七月十九日御内用有之二付長崎表江被遣候、早速致出立候様被仰付候、同廿七日出帆、夫々江戸へ、十月廿七日帰

一同年十一月廿五日御内用有之二付横浜表江罷越候様被仰付

一同三卯正月十七日江戸表江出立

一同年四月八日江戸を横浜江罷越、夫々廿二三日頃アメリカへ出帆、辰正月十日江戸表を帰

一同四辰二月廿二日江戸表江出立、六月廿五日帰

一同年七月十一日御武具奉行兼被仰付

一同年同月廿九日横浜表江出立、已正月十二日京都江立寄帰

一明治二已二月十五日製造局司事被仰付、月給米七十俵、御役料ハ不被下候

一同年四月二日去年花旗国其政府之三インチ砲煩護持艦齎、既征会之用ニ供シ其功拔群、且今日射放点驗、護国之大砲御所持御満足ニ思召候段、御褒詞之上御品物被下

一同年八月二日外国行ヲ始役義格別出精二付席上ケ被仰付

但席西尾十門次

一同日安嶋浦波戸場御築立之儀御多端之折柄御見合被仰出候処、右一件厚致心配候義太儀ニ思召候、此段申聞候様被仰出候事

但御手許を御召御羽織一被下候事

一同月十五日製造局下代猪坂新平弟松村郷助御咎二付、新平慎伺指出候処伺之通慎申付候段、恐入遠慮伺之上指扣、同十八日被免

一同年九月廿六日御用有之二付摂州神戸表江罷越候様被仰付、同晦日出立、十月廿三日帰

一同年十一月廿五日今般御改革二付、更ニ給禄米百五俵式斗八升五合下賜

一同月廿七日今般御改革二付製造局被廢、依之当役被免候事、席荻野左十郎次

但是迄取扱来候廉々軍務寮江附送り可申事

一同月廿八日製造局御派立已来年来職務出精勤功も有之二付、米廿俵ツ、被下候

一同月廿九日は迄之勤功ヲ以優待之列ニ被仰付候事

一同三年十月八日製作場水車ニ而西洋織物試験二付、右掛り被仰付候事

但入費之儀ハ掌政堂江可相伺事

一同年閏十月廿五日優待列名目被廢非役卜唱

一同日非役上席被仰付、但軍務寮支配之事

一同年十一月廿五日掌政堂出仕被仰付候事

但御雇洋人取扱方

一席大谷直江次

一年給十式俵被下候事

一同年十二月十二日権大属心得勤 年給三十八俵

但洋人取扱方従前之通

一同四未六月朔日今般御改正二付免職

一同十九日化学所引請被仰付候事

但絵図方等も可相心得事

一同廿七日年給廿五俵被下候旨

一同年九月五日御用之儀有之候間、至急出京候様工部省へ御達二付可致上

京旨申付候事、十九日出立

一同年十月七日工部省十等出仕

佐々木

2

此前代笹木也

※「剝札」さ末にあり

笹木休貞 鍼立

九石五斗三人扶持

元禄十七申九月六日於松岡二御普請方立合へ御取立、小算格、御歩行頭

支配

宝永四亥三月向後五節旬御礼可相勤旨被仰出

享保五子年病身二付休息

笹木貞雄 内海家へ養子

拾五石五人

享保五子八月養父休貞休息被仰付、九石五斗三人扶持無相違被下

同八卯十月廿三日十五石五人ふち被成下候

宝暦二申年休息被仰付

笹木貞隆

拾五石五人

宝暦二申八月十六日父貞雄休息、跡目無相違被下置

翌三年酉九月廿九日病死、倅熊四郎幼年病身二付再ひ父貞雄へ左之通被仰付

笹木貞雄 再勤

拾五石五人

宝暦三酉九月廿九日倅貞隆病死之處、孫熊四郎幼年病身二付、貞雄再勤被仰付、御擬作前々之通被下、表御針医被仰付、末々熊四郎へ家業為相勤候様被仰付

明和元申十二月六日病死

佐々木榮順 幼名熊四郎

拾五石五人 外五石御足

明和元申閏十二月廿八日祖父跡目無相違被下、表御針医被仰付

安永四未二月十四日奥御針医見習席吉田鎌竹次

同八亥七月廿五日五石御足擬作被下、奥本役

寛政六寅九月五日不埒至極言語同断之義有之二付、侍格御削被成入牢被

仰付、家断絶

佐々木一雄 流浪廿一年

五人扶持

文化十二亥二月十七日表御針医被召出、五人扶持被下置、江戸詰被仰付  
同年三月十七日奥御針医被仰付

文政二卯五月病死

佐々木一有 貞隆 立

五人扶持

文政二卯年六月十六日吉田一貞弟貞隆、思召を以一雄跡目相続被仰付、五人扶持無相違被下置、表御針医師被仰付

同三辰十一月廿九日奥御針医被仰付

文政十一子正月廿五日御足拾石五人扶持被下

佐々木一雄<sup>カヅヲ</sup> 悌全 実戸田七兵衛次男

五人扶持

一天保八酉九月十六日養父一有家督五人扶持無相違被下置、表御鍼医師被仰付

一同十四卯正月十六日奥御鍼師被仰付

一弘化元辰年江戸詰

一同三午十二月五日奥御鍼医勤中三人扶持御足

一嘉永元申年江戸詰

一同二酉六月五日於江戸奥御鍼医師、勤中式人扶持御増、都合五人扶持御足扶持被下置候

一同五子十二月十六日種痘之儀致出精候段達御聴、太儀二思召候段、御側御用人を以被仰付候

一同七寅年十一月十二日江戸詰之節、為留守扶持以来三人扶持被下置候

一安政二卯江戸御供詰

一同三辰五月十三日本道兼帯被仰付候

一同年十月十一日其身限り本道被仰付、奥御針医師兼帯被仰付候

一同年十二月十六日除痘館当番致皆勤候段、達御聴太儀二思召候、此段申渡候様被仰出候

一同四巳年四月九日句読師兼穴法師被仰付候

一同六未十二月十三日近年暴瀉病流行二付、治療方為研究京坂を始長崎表江来早春方罷越候様被仰付候

但路用金拾両ツ、被下置、外二為用意魚住順方兩人合二封金三拾兩御渡被成候事

一同七申正月十日出立、同四月十三日帰着

一万延与改元、五月十四日当分御匙医師助被仰付候

一同年十月廿日京坂初長崎表江被指越、御用向相勤候二付銀五枚被下置候一文久元酉十一月十一日御匙医師奥御鍼医師兼帯被仰付、江戸詰之節留守扶持式人御増都合五人扶持被下置候

一同二戌四月十八日江戸詰出立

一同三亥三月廿三日御前様御供二而帰着

一元治元子十二月賊徒一件、御留守御用御手当銀百匁被下

一慶応二寅七月晦日宰相様御手許御用有之二付被指出候、早速致出立候様被仰付、八月二日上京、同月十三日帰

一慶応三卯二月廿七日今般殿様御立帰御上京御供被仰付候、三月十日出立、四月四日帰

一明治二巳二月晦日信次郎様御執匙可相勤事

一同年三月十五日悌全事一雄卜改

一同年五月朔日御執匙被免、更ニ内務局当番可相勤候

一同年八月十六日除痘館預り被仰付

一同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米十九俵三斗六升五合被下  
一同年十二月十八日種痘所預り被免候事

一同三年六月四日医学所病院詰被仰付、役義之儀ハ被免候事

但十五等

一年給ハ無之事

一同年七月十八日枝病院診察廻診方兼被仰付候事

但十五等

但成覚寺

一同年十月三日松平貫之助返上屋敷内ニ而百四十坪坪地被下候

一同月十日任医長介、病院主務

但枝病院

成覚寺

一同年十一月十日松平貫之助返上屋敷地之内ニ而坪地被仰付候处、都合ニ

付御堀埋立海福雪前辺ニ而御振替願之通被仰付

一同年十二月十二日任 准二等医

但病院主務 年給四十五俵

一同四未九月十七日病死

佐々木ヒサシ 直一 未十四歳

米拾九俵三斗六升五合

一明治四未九月十七日父一雄家督

一同五申五月直一事曠

〔士族〕

佐々木<sup>3</sup>

※「剝札」さ末にあり

佐々木源左衛門

拾五石三人

天保四巳三月十六日御取立被成、新番格ニ被仰付

天保八酉ノ五月廿日荒子頭笹木七左衛門跡

天保十一子年十二月十六日新番組へ被入候

天保十二辛丑正月十六日川除吟味役同奉行兼帶被仰付

天保十二丑十二月十八日綿麻奉行小沢文左衛門跡

天保十五辰四月休息

佐々木倫助 惣四郎

拾五石三人

一天保十五辰四月廿日親源左衛門休息被仰付、家督拾五石三人扶持無相違

被下置、新御番組へ被入候

一安政元寅十二月十八日鑪太鼓役被仰付候

一同三辰四月十六日御広式添役被仰付候

一同年十二月廿八日倫助与名替

一同四巳三月七日病死

佐々木源三郎 実塚谷源左衛門次男

拾五石三人

一安政四巳四月廿九日佐々木倫助病中願之通養子ニ被仰付、家督拾五石三

人扶持無相違被下置、新番組へ被入候

一同日此度明道館内へ武芸稽古所御集被成、長剣稽古所も出来二相成筈二候間、同所へ罷出候面々厚致研究候様被仰付候

一同五午五月三日長剣術二派二相成候而ハ如何二付、此度長剣所へ罷出候面々鰐淵三郎太夫へ附属被仰付、引受致世話候様被仰付候二付、右稽古所詰被仰付候

一文久元酉四月廿五日剣術為修行四国中国九州筋へ百五十日願之上上立、

七月十九日帰着

一同三亥十月十三日中将様御供ニ而上京、子五月七日帰

一元治元子五月十一日在京中不行状之趣相聞急度御叱り、伺之上遠慮、廿

一日御免

同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀ニ思召候、依之御酒被下置候

一同年十月 長征出陣可致処不快ニ付居残

一同二丑正月十七日病死

佐々木庸行 雄蔵 タツラ 竜雄 実稲葉俊之助家来岡田準介次男

〔士族〕

拾五石三人

一元治二丑三月八日佐々木源三郎病中願之通養子ニ被仰付、家督拾五石三

人扶持無相違被下置、新番組江被入候

一慶応ト改元、五月廿七日外塾師手伝被仰付候

一同二寅十一月十二日京都詰出立

一同年十二月十六日外塾師手伝同様御免被成候

一同三卯四月四日御上京御供振替り帰

一同年五月二日外塾師手伝同様被仰付、役新番組江被入候

一同年五月十一日内達之趣も有之二付、外塾師手伝同様其儘新番組江被入候

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付

一同年十二月十二日急々上京被仰付十三日出立之处、御模様二付途中より返帰

一同年十二月廿八日雄蔵事竜雄ト改

一同四辰正月九日急々上京、四月廿日帰

一同年四月廿五日遊撃隊江被入候

一同年九月十日御警衛詰上京、十一月十六日帰

一明治二巳四月九日中納言様御供東京江出立、十月十三日帰

一同年十月九日屋敷地之内西南之方御用地被仰出候事

一同年十一月廿五日今般御改革二付、更給禄米三拾五俵四斗五升被下

一同三午五月廿四日第一大隊三番小隊入被仰付候事

一同年十月三日是迄居住罷在候屋敷地拝地ニ被成下候事

一同年十二月八日常備三番隊 年給六俵

一同四未十月十三日解隊

一同五申年 東京修行

一同年五月竜雄事庸行

一同年八月九日当分東京出張所雇申付候事

但七月より金三両ツ、被下候事

一同年十月十五日大蔵省十五等出仕

佐々木<sup>4</sup>

御取立以前御記録ニ有之

佐々木千尋 要之介

〔士族〕

拾五石三口

一明治二巳二月十日評定局調役被仰付、且亦出精相勤候二付、御足充行三石御増都合六石被下置、役中御取立被成、新番格二被仰付、御徒目付勤向之儀も是迄之通相心得候様被仰付

一同月十一日越後糸魚川表へ御内御用二付出立、同廿日帰

一同月廿二日養父常右衛門年寄二付休息被仰付、家督十五石三口被下置、

掌政局庶務方被仰付、但席是迄之通 月給十式俵

一同月廿七日御徒目付勤向被免候事

一同年六月廿四日学校庶務方被仰付候事、但月給米是迄之通、席山岡軍蔵次

一同年七月廿二日学校出納方掛り兼被仰付

一同年八月七日皇典掛り兼被仰付候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾五俵四斗五升下賜

一同月廿八日学校少管務被仰付候事

一同三午正月十三日宿浦安嶋浦辺御用地之内江土着開墾仕度、尤当勤之者ハ是迄之通当御城下ニ罷在家族之者、其地江為引移申度願之通被仰付候上ハ、前条地所之内五千坪御渡被下候様願之通被仰付候事

但地所之儀ハ民政寮江可申談事

一同年二月廿八日学校大管務被仰付、且又年来出精相勤二付勤中給禄米三拾九俵四斗三合高二被成下候

一同年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉励二付、御賞典之内十五石十ヶ年令頒授候事

一同年七月十七日当分一人ツ、寄宿所当直可相勤事 五人也

一同年九月四日右当直被免候事

一同年十月十八日以本官出納主務被仰付候事 但十三等 浅井権十郎次

一同年十二月十二日任権大属 年給五拾四俵

但学校勤仕 出納方

一同月 先般土着奉願候得共御役中ハ此表ニ罷在候二付、右中当時罷在候居住之分拝地願之通

一同四未六月朔日御改正二付免職

一同十九日学校出仕被仰付候事

但出納方

一同廿四日 任福井藩少属 学校出納方

一同年十月十三日以当職校内取締兼被仰付事

一同年十二月十日任福井県少属 学校事務

一同月 要之介事千尋ト名替

一同五申四月廿五日官省進達府県往復ノ文書ニ関ス

一同年五月十七日今般陸軍省全国地理図誌編輯御用二付、管内明細地図其他同省達書之廉々取調掛り

一同年八月五日東京出張所詰

但本月京着之積ヲ以可致出立事

一同八日任足羽県権大属

佐々木<sup>5</sup>

佐々木衛士 三上他次郎 三上孫三郎弟

拾口

〔士族〕



安政四巳四月廿二日御製造方見習被仰付候

一同五午三月十八日御製造方御雇御免被成候

一万延元申十月十一日学問為修行他国遊歴願済

一文久二戌十二月廿二日今般思召を以三人扶持御扶助被成下候、但当成三十歳、子八月廿七相止

一文久三亥正月十六日農兵教授手伝被仰付候

一同三亥九月四日西尾十左衛門同道、支度出来次第立歸出府被仰付、右出府中御扶持方五人ふち被下置候、七日出立

一同年九月廿三日芝御陣屋詰被仰付、彈藥并附屬御道具等取調方被仰付候、但矢崎鉦十郎長尾彦輔江厚申談候様

一同年十一月六日詰中大砲教授方助被仰付、但兼而被仰付置候義ハ是迄之通

一元治元子七月十七日製造方取調御用相勤失却等も有之二付、金五百疋被下置候

一元治元子九月四日歸

一同十二日農兵教授手伝御免被成候

一同年十月三日京都へ出立、夫方長征、丑二月四日歸、同二丑正月四日人造硝石并大砲製造之儀ニ付肥後表へ被遣候

一同年十一月十日芝御陣屋并御台場御引渡之節、格別致心配出精相勤候ニ付金五拾疋被下置候

一同年十二月佐々木衛士卜改姓名

一慶応元丑五月廿八日二番之大砲方被仰付

一同年十一月五日兼而御法通りも有之候処、猥ニ鉄砲持参野先江罷越致殺生心得違ニ付逼塞之处、十二月廿五日御免

一同二寅十一月三日大砲奉行助被仰付、年々銀拾五枚ツ、被下置候

一同三卯二月廿二日願之上若州表江出立、病氣ニ付滞留、快ニ付四月廿五日歸

一同年十月十六日大砲方御用ニ付早速上京被仰付、廿一日出立、後大坂へ

一同年十一月十一日御都合も有之二付、勝手次第御国表江罷歸候様被仰付

一同四辰四月廿日大坂方歸

一同四月十七日昨年来格別骨折相勤候ニ付御褒詞

一同廿五日被召出大砲奉行被仰付、五人扶持被下置、役御番組へ被入候

一同年閏四月十六日大砲方被仰付製造局へ附屬被仰付候

一慶応四辰七月十五日越後表出張

一明治卜改元、十月十一日越後運送器械取調候様被仰付

一同月晦日大砲器械局頭取并彈藥掛り被仰付、巳正月十日被免候

一同二巳正月廿八日若松方歸着

一同二月十七日部長被仰付 月給廿俵

一同二月十八日大砲教授方兼并鑄造掛被仰付

一同月廿二日於奥州下河合村官軍苦戰之際、独先衆砲焼賊之巢窟遂得大勝、当日官軍之奏功実ニ其勇奮ニ出、且又数度之戰功、別而御感賞不淺段御狀被成下

一同日今般戰功格別御奉勤ニ付、御感狀被下候得共深御賞譽被遊候、仍月俸五口御加増、新ニ一家御取建、番外ニ被仰付候、席田川乙作次

一同年四月七日大砲御製作之处尺度取違不正之物ニ相成、全不行届ニ付伺之上指扣、同十二日被免

一同年五月廿九日今度舟場畑方地字葛畠之内、善右衛門清左衛門次郎右衛門金助善左衛門持地之内、式百八十三坪三步六厘相對を以抱地ニ仕度、

尤地子米之義ハ御定之通上納可仕段願之通被仰付

一同年七月四日若松表<sup>ろ</sup>乘来候馬致献上候二付、金貳万疋御袴地一御盃一被下置候

一同月二日居宅二付内達之趣も有之候処、建物之義ハ急速難及御沙汰候、依之抱地之内二而御定之坪数拝地二被仰付候事

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三十六俵被下

一同月廿八日砲兵教授被仰付候事

一同三午二月五日昨年毛屋抱地之内願申上拝地二被仰付、然ル処勝手都合二付右地所御茶園地二被成下、相對<sup>り</sup>ヲ以讓渡仕度、且又家作之儀其儘被下候様願之通被仰付候事

一同日吉江琵琶山辺土着開墾仕度、就而ハ当分同姓三上孫三郎方江同居罷在度、右願之通被仰付候ハ、前条地所之内三万坪御渡被下候様願之通被仰付候事

但地所之義ハ民政寮江可申談候事

一同年四月廿五日戊辰北越出張各所戦争拔群尽力二付、御賞典之内永世十五石廿ヶ年五石都合廿石令頒授候事

一同年十二月八日任中尉兼二等教授 七拾三俵

但常備砲隊砲兵掛り

一同四未七月廿五日先般願之上鳥羽野ニ於テ地所御貸渡之處、御取消相成候事

但委細之儀ハ地方掛りへ可承合事

一同年九月廿三日御用之儀有之候間早速出頭候様大坂出張所<sup>ろ</sup>御達二付、可致出坂事

一同年十月十三日今般解隊被仰出候二付職務被免候事

一同三日陸軍兵学寮出勤

一同五申 免職帰

# 笹木<sup>1</sup>

笹木治右衛門

拾八石三人

享保十六亥五月十八日智高院様御取次<sup>ろ</sup>御取立新番入被仰付、御擬作あなたより被下候二付不記之  
寛延二巳五月六日御擬作此方<sup>ろ</sup>被下

笹木長左衛門 休息

廿三石四人

宝曆五亥十一月六日養父治右衛門跡目被下、新番入

明和六丑正月十四日御広敷御用達高橋伝太夫跡

同年四月六日御儉約掛り御留守番入

同八卯九月七日御広式御用達役山口与右衛門跡、御儉約懸りハ御免

安永三午二月廿八日表御納戸大番入

寛政二戌二月四日年来実躰相勤候二付、式石壹人扶持御加増

同五丑十二月廿三日年来出精二付御紋御上下被下置

同六寅十月五日御定之年数相満相身躰末

同七卯十二月十九日三石御加増、都合廿三石四人扶持

笹木長左衛門 甚五兵衛

廿三石四人 式石壺人御足

寛政十一未年十一月朔日父長左衛門休息、家督無相違、大御番入

同三日中将様御附御小性式石壺人御足、順席被仰付

同十二申六月十六日同御近習番被仰付

享和元酉六月十六日御裏役

同八月三日奥ノ番被仰付

同年九月朔日御庭掛り兼帶

文化六巳八月廿一日此度隆徳院様御逝去二付御附奥ノ番御免、大御番入、是迄被下候御足擬作以後不被下

同年九月朔日御前様御附御広敷御用達被仰付、御留守番入

文化十二亥十月表御納戸櫓尾藤八郎跡被仰付、大御番入

文政二卯正月十五日御屋敷奉行御作事奉行御勘定吟味役兼山口与右衛門

跡御留守番入、役扶持三人

同四巳四月十二日出精二付御充行式石御加増、都合廿五石四人扶持

同七申二月病死

# 笹木作之助

廿五石四人

文政七申三月廿六日養父長左衛門家督無相違、大御番入



# 笹木七左衛門

拾七石三人 外二石御足

文化六巳正月十六日出精相勤候付小普請方小役人方御取立、新番並、役義其儘

文化七年十一月十一日御札所請込役寛弥三右衛門跡

同九申正月廿五日出精二付二石御足充行

同年十月十九日御趣意有之、新番入

同十二亥十月十六日出精相勤候二付御足充行二石御加増、十七石被成下

文政二卯二月十六日年寄候二付休足被仰付、御目録金貳百疋被下置候

# 笹木七左衛門 千助

拾七石三人

文政二卯年二月十六日養父七左衛門年寄二付休足被仰付、家督無相違十

七石三人ふち被下置、養父七左衛門へ御目録金貳百疋被下置

同三辰九月十一日御広式添役斎藤太兵衛跡

文政七申九月廿九日御借米方菱川善左衛門跡被仰付

同九戌四月十六日御台所目付

文政十亥年九月廿五日御台所目付其儘御台所頭兼帶被仰付

文政十二丑三月廿九日川除奉行小野新助跡

天保三辰六月五日荒子頭被仰付

天保八酉ノ五月廿日御札所受込被仰付候

# 笹木七左衛門 虎次郎

拾七石三人

天保九戌閏四月廿五日親七左衛門家督拾七石三人扶持無相違、新御番組へ被入候

弘化三年四月廿九日御借米方三好久左衛門跡

嘉永二酉 病死

笹木七右衛門 文藏 実竹下丈太夫次男

拾七石三人

一嘉永二酉十月廿九日七左衛門病中養子願之通被仰付、家督拾七石三人扶持無相違被下置、新御番組へ被入

一文久三亥正月十六日農兵教授手伝被仰付候

一同年三月十一日当亥年芝御陣屋詰被仰付、詰中為御手当五人扶持被下置候

一同廿六日詰引揚出立

一同年十二月 於江戸表七右衛門卜改

一元治元子七月於御陣屋病死

笹木登代太 万吉

拾七石三人

安政四巳四月十四日年中坂上支合皆勤二付御褒詞

一万延元申十一月十一日御趣意通も有之二付、来酉年太田御陣屋詰御番士

御雇詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置候

一同二酉二月廿一日御都合も有之二付、支度出来次第出立被仰付、晦日出立

一文久与改元、九月二日太田御陣屋詰御免被成、且又是迄御移りを以慎被仰付置候得共道中并支度之儀も有之二付、当分慎御免被成、御国表江罷帰候上、是迄之通相心得候様被仰付候、廿四日帰着、廿八日慎御免

一同二戌正月十六日当秋芝御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置候

一同四月三日太田御陣屋詰中横浜表江出張、失却も有之二付金百疋被下置候

一同年閏八月廿二日出立、同三亥九月廿四日帰着

一同三亥十月十三日中将様御供二而上京、子四月同断帰

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之御酒被下置候

一同年九月朔日兄七右衛門病中願之通養子二被仰付、家督拾七石三人扶持無相違被下置、新番組へ被入候

一同年九月廿三日上京、夫方長征

一同年十二月登代太卜名替

一慶応元丑七月 病死

笹木七左衛門 庸之助 実渡辺藤太夫養家之弟

拾七石三人

安政四巳九月十六日外塾師手伝被仰付候

一同五年十月五日外塾勤御免被成候

一万延元申十一月十一日御趣意通も有之二付、来酉年太田御陣屋詰御番士

御雇詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置候

一同二酉二月廿一日御都合も有之二付支度出来次第出立被仰付、晦日出立

一文久与改元、九月二日太田御陣屋詰御免被成、且又是迄御移りを以慎被仰付置候得共、道中并支度之儀も有之二付当分慎御免被成、御国表江罷帰候上、是迄之通相心得候様被仰付候、同廿四日帰着、廿八日慎御免

一同二戌正月十六日当秋芝御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、右詰中御扶持方五人扶持被下置候

一同年四月三日太田御陣屋詰中横浜表江出張、失却も有之二付金百疋被下置候

一同年十月十九日御陣屋詰出立、同三亥九月廿四日着

一同年十二月廿二日今般思召を以三人扶持御扶助被成下候、当戌廿八歳、子八月廿七日相止

一同三亥十月十三日中将様御供ニ而上京、同子四月廿三日御供ニ而帰

一元治元子六月廿五日昨年以來宰相様御上京中格別骨折相勤太儀ニ思召候、依之銀壹枚被下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫々長征、丑二月三日帰

一同二丑四月四日山階宮様御附人被仰付、五人扶持被下置候

但為失却月々金三両ツ、被下、外ニ為衣裳金十兩被下置候

一慶応ト改元、四月廿三日上京、八月三日此度笹木登代太病中養子ニ罷越

二付帰

一同年九月十六日登代太病中願之通養子ニ被仰付、家督十七石三人扶持無相違被下置、新番組江被入候

一同二寅十一月十二日京都詰出立

一同三卯四月四日御上京御供振替り帰

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付

一同年十二月十二日急々上京被仰付十三日出立之处、御模様ニ付途中より引返帰

一同月廿八日庸之助事七左衛門ト改

一同四辰正月九日急々上京、四月廿日帰

一同年四月廿五日遊撃隊江被入候

笹木他三郎 実末松濤輔次男

〔士族〕

拾七石三人

一慶応四辰六月十五日笹木七左衛門病中願之通養子ニ被仰付、家督拾七石

三人扶持無相違被下置、無役新番組へ被入候

一明治ト改元、十一月廿日遊撃隊江被入候

一同二巳三月四日東京江出立之处、御呼戻ニ付同日帰

一同年四月九日中納言様御供東京江出立、然ル処五月廿七日親大病ニ付対面願之上帰、但帰切

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾八俵壹斗壹升五合被下

一同三午五月廿四日第一大隊四番小隊入被仰付候事

一同年十月三日是迄居住罷在候屋敷地之内ニ而百七十八坪坪地ニ被成下候

一同年十二月 予備一番隊 年給式俵 未四月七日解隊

一同月廿八日東京表近藤芳衛江相手寄洋学修行仕度願之通、正月六日出立



1

坂田右近右衛門

百石

延宝八申十月八日父与兵衛跡知被下、外ニ自分知御扶持切米其儘被下之处

貞享三年一統之御減少より不被下

宝永四亥五月十五日御姫様被為附

坂田七右衛門

二百石 役料百石

正徳元卯七月五日父右近右衛門跡目無相違

同三巳閏五月十三日御手廻り

同四年二月十一日御供目付

享保六丑九月十五日五十石御加増、御使番岡半右衛門跡

同十六亥九月十九日御聞番飯沼官兵衛跡

同十八丑九月十五日御先物頭順席組御預ケ

元文二巳四月十九日五十石御加増二而<sup>(マ、)</sup>

同五申四月十九日病身二付御役御免、席御留守物頭次

同五月十八日新番頭茂呂多右衛門跡、役料百石

坂田七右衛門<sup>シツメ</sup> 靖

二百石 役料百石

寛保三亥三月廿五日養父七右衛門跡無相違、大番入

同年六月十四日表御小姓

同年八月十三日中奥

延享三寅五月十一日御膳番

同四卯九月六日御部や御膳番

同年十一月十五日表御膳番

寛延三年十一月朔日末之番外

宝暦六子正月十六日御徒頭役料百石葛巻治部右衛門跡

同十辰八月十六日痛所有之二付御役御免、末之番外

明和五子七月二日御目付今村段右衛門跡、役料百石

同七寅五月廿八日病身二付御供泊御免、且又当時江戸詰御見除

坂田虎太郎

二百石

明和九辰三月五日父七右衛門跡知無相違、大番入

坂田七右衛門

貳百石

安永四未三月十一日養父虎太郎休息被仰付、家督無相違、大番入

享和二酉十一月年末御進物番出精相勤候二付、御紋御上下被下置

文化八未八月末之番外被仰付、席岸理兵衛次

文政三辰九月廿一日御留守物頭吉岡伝吾跡

文政五午六月十日隠居被仰付

坂田七右衛門 金吾

貳百石

文政五午六月十日父七右衛門隠居、家督無相違貳百石被下置、大御番入

坂田十郎 乙五郎 忠藏 采女

貳百石

一弘化三年七月廿九日親七右衛門家督無相違被下置、大御番組江被入

一嘉永五子年江戸詰、同六丑四月廿日帰着

一万延元申六月廿六日御番皆勤二付時服被下

〔士族〕



一文久三亥八月十七日御参府御供二而出立

一同十二月江戸方御上京御供、子二月御帰国御供着

一元治元子三月二日上京、四月十一日帰

一同年十月十五日長征出立、丑二月二日帰

一同年十二月 采女卜名替

一慶応二寅四月八日京都詰出立、十一月廿七日帰

一同年十二月廿八日御書院番組江被入候、御広間御番士勤被仰付

一明治二巳六月廿日采女事十郎卜改

一同年九月廿九日多年精勤之处、御藩制御改革二付為御慰勞式十五両被下

置候

一同年十一月九日元御書院番席之面々願取次可致候事

一同月廿五日今般御改革二付、願取次被免候事

一同日御改革二付、更給禄米百五俵式斗八升五合被下

一 予備隊

一同三年閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱



坂田助右衛門

百石

貞享三寅六月十一日父助右衛門拜知式百石半減二而無相違被下

同四卯父式百石之倅今度百石被下之者、自分百五十石取之百石二被成之者之次之座卜御番帳被定

元禄十四巳十月十五日御先武具奉行被仰付

坂田助右衛門

百石

正徳元卯十一月七日父助右衛門家督無相違被下

同二辰三月十九日師役被仰付

坂田助右衛門

百石

元文二巳五月十六日養父助右衛門跡目無相違被下、家業之弓精出可申旨

後見も被仰付、小栗九右衛門

延享三寅八月廿二日師役

坂田助右衛門

百石

寛延二巳三月五日養父助右衛門跡目被下、大番入、家業之弓出精可仕旨、

後見千本長右衛門相沢万右衛門へ被仰付

宝曆三酉八月廿五日師役被仰付

寛政三亥十一月十六日養子助九郎遠慮被仰付候二付、指扣被仰付

坂田助太夫 助右衛門 七郎兵衛

廿五石五人

寛政四子十月廿九日養父助右衛門病氣二付内願有之休息、家督無相違、大御番入、流義之弓師役被仰付

文化三寅六月十六日拜知御取上、廿五石五人扶持被下遠慮

同八末年十二月十五日倅金次不埒二付遠慮

文化十二亥ノ二月十一日休息

## 坂田助右衛門

廿五石五人

一文化十二亥二月十一日養父助太夫病身内願二付休息、家督無相違被下置、

大御番組江被入、流儀之弓師役被仰付候

一天保十二丑七月廿日御留守武具奉行中村惣右衛門跡被仰付、御留守番組

江被入候

一嘉永二酉五月廿五日御預所御代官役大町次左衛門跡被仰付候

一嘉永四亥十月十三日御代官役松尾伝藏跡被仰付

一同五子九月廿五日年寄候二付休息

## 坂田嘉門カモン 助九郎 左右衛門

廿五石五人

一嘉永五子九月廿五日親助右衛門儀年寄候二付休息被仰付、家督廿五石五

人扶持無相違被下置、大御番組へ被入、流儀之弓師役被仰付

一安政元寅十二月廿八日左右衛門与改

一同四巳四月廿二日数代師役相勤、別而近來出精太儀二思召候、依之御目

録銀五枚被下置候

一文久二戌三月十六日心得違之趣相聞候二付御叱被成候、右二付伺之上遠

慮、廿三日御免

一同三亥正月廿六日内達も有之二付、当亥年芝御陣屋詰被仰付候

一同年二月廿六日早速詰引揚被仰付出立

一元治元子六月廿八日帰

一同年十月十五日長征出立、丑二月三日帰

一慶応元丑閏五月晦日弓術之儀当節之形勢修行致し候向も無之、稽古之儀

も不立行躰二付、内願之通弓師役御免被成候、稽古所射小屋等勝手次第

取払可申事

一同年八月五日先達而弓師役御免被成候処、從來師役致心配候段太儀思召、

銀三枚被下置候

一同年十月十六日御先武具奉行彈藥方兼伴五郎左衛門跡被仰付候

一同年十一月十六日御趣意二付役御番組江被入候

一同年十二月廿八日嘉門与名替

一同二寅七月廿日御持武具奉行彈藥方兼帶江入替被仰付、御留守番組江被

入、御持現物引請被仰付候

一同年八月廿日御繰合も有之二付御書院番組へ被入候

一同年十一月十一日御武具御修復御改正中出精相勤候二付、金五百疋被下

置候

一同三卯二月十六日当春京都御警衛詰被仰付、三月八日出立、七月廿三日

帰

一同年十月廿五日御趣意二付役儀其儘、役御番組へ被入候

一同年十二月十二日急々上京被仰付、十四日出立

一同四辰二月廿一日当分御用無之二付御国表江罷帰候様被仰付、同廿八日

帰

一同年五月廿六日病死

一同年七月十七日助太郎親故嘉門義御武具奉行動中京都詰之節、

於役所不正之致業有之不届至極二付、存命二候得八侍御削被成

御国十三り四方追放可被仰付筈二候、依之家名断絶被仰付候、  
且又助太郎義他国江可被指出候処、御憐愍を以御城下内外二罷  
在候義御免被成候

# 真田

真田源太左衛門

貳百石 外役料百石

正徳四年四月十三日被召出、大番入被仰付

同五年未三月五日御先物頭被仰付、国枝小一郎跡

真田源太左衛門 五郎兵衛

二百石 役料百石

享保六丑五月十五日父源太左衛門隠居、家督無相違

元文五申五月十六日大番六番筆頭杉田五太夫跡

延享元子三月十六日御使番御役料加藤十右衛門跡

同年十一月十五日御長柄奉行山本源左衛門跡

真田峰右衛門 父源太左衛門

二百石

延享三寅六月廿八日父源太左衛門隠居、家督無相違被下、大番入

明和元申七月於江戸死

真田五郎兵衛

百五拾石 役料百石

明和元申九月十一日父峰右衛門家督、幼年二付御扶持方廿人扶持被下、  
御留主番入

同五子七月九日御小性

同年十月十六日十五歳二罷成二付、新知百五十石被下

安永九子六月十日御小性頭取格

同年十一月廿一日御小道具方御書院番入

天明二寅七月廿日御小性頭取村上彦之助跡、席海福鍋三郎上

同五巳十月廿六日於江戸御近習番頭取御書院番入

同六年午十一月四日御近習番是迄之通、御膳番御書院番一番之筆頭役

同八申八月四日御目付野村十太夫跡、御役料百石

寛政八辰二月十四日御役御免大御番入、遠慮被仰付候

同九巳九月廿日御留守作事奉行鰐淵三郎兵衛跡

同十一未五月十六日御先作事奉行八木平六跡、御役料百石

文化二丑年三月七日役義出精二付、御先武頭次席被仰付

文化四卯二月六日御預々所郡奉行梶川半兵衛跡、席其儘御役人並

文化六巳二月晦日御預所元締役浅見忠右衛門跡役被仰付候迄兼帶勤

同七年六月廿一日御先物頭東郷吉藏跡

文政元寅十一月廿六日新番頭土屋十郎右衛門跡

文政五午六月廿七日隠居

真田五郎兵衛 源五郎 源左衛門

百五拾石

文政五午六月廿七日養父五郎兵衛隠居、家督無相違、大番入被仰付

文政十亥六月八日御近習番被仰付、御書院番入

文政十三寅八月廿八日御書物方加藤大三郎跡

天保三壬辰十月十五日御裏役加藤大三郎跡

同六未九月五日今度御代替二付御役御免被成、御書院番其儘御近習二被

指置候、勤方之儀ハ追而可被仰付候、御用筋之儀ハ先是迄之通可申談候

同年同月十四日御裏役被仰付

天保七申八月五日奥御納戸役被仰付

天保九戌十月廿五日今度御代替二付御役御免被成、御書院番組其儘御近

習二被差置候、勤方之儀者追而被仰付候、御用筋之儀先是迄之通可申談

候

同月廿九日奥御納戸役被仰付候

真田源左衛門 源五郎 源三郎 五郎兵衛

百五拾石

一天保十亥九月廿五日親五郎兵衛家督百五拾石無相違被下置、大御番組江

被入

一同十一子年四月十一日御近習番武田喜内跡被仰付、御書院番組江被入

一同十二丑年江戸詰、八月十二日出立

一同十五辰五月廿三日御書物方被仰付候

一弘化二巳年江戸詰、三月廿一日御供二而出立

一同三午六月廿五日御裏役大関彦兵衛跡被仰付候

一嘉永元申九月十五日奥御納戸役溝口郷右衛門跡被仰付候

一同二酉年江戸詰、三月廿三日御供二而出立

一同六丑年右同断

一同七寅閏七月廿九日御近習番頭取御膳番、大関彦兵衛跡被仰付候

一安政二卯江戸御供詰

一同年九月廿三日於江戸表郡奉行大井弥十郎跡被仰付、御役料五十石被下

置、十月十二日江戸表へ帰着

一同四巳四月十五日御役料其儘御広敷御用人見習被仰付、御先添物頭次席

二被成下、当秋江戸詰被仰付、然ル処六月廿三日詰御免被成候

一同年十二月十一日来午ノ春江戸詰被仰付候

一安政五年二月十六日江戸詰出立

一同年十一月廿一日今般御家督御相続、御引移等御用多相勤候二付御褒詞

一万延元申八月廿五日御前様当月十七日朝御安産被遊候二付、為御歎早速

出立被仰付、廿七日出立

一同二酉二月十九日御先物頭中川平太左衛門跡被仰付、御役料都合百石被

下置、武田平右衛門致出府候迄其儘相詰、是迄之役向相勤候様被仰付候、

三月廿三日帰着

一文久与改元、四月廿五日当秋組之者召連太田御陣屋詰被仰付候、九月三

日出立

一同年十一月廿三日此度御持場替二付太田御陣屋詰御免被成、同所御陣屋

御引渡後勝手次第致出立候様被仰付候

一同十二月五日横浜表江致出張、太儀之段御褒詞

一同年 源左衛門与名替

一同二戌二月十六日帰着

一同年三月廿三日病死

真田源五郎 小太郎

〔士族〕

百五拾石

文久二戊五月十三日親源左衛門家督百五拾石無相違被下置、大御番組へ被入候

一同年十二月廿八日源五郎与名替

一同三亥二月十日番頭引纏上京、三月廿五日中午將様御供二而帰着

一同年七月廿九日中午將様御附御近習被仰付候

一同年十月十三日中午將様御供二而上京

一同四子正月九日御附御近習番被仰付候

一元治と改元、四月廿三日御供二而京方帰

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀二思召候、依之御酒被下置候

一同年九月五日宰相様御馬廻り被仰付候、右二付兩人ツ、昼夜当番被仰付候

一同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑十月朔日宰相様御出坂御供二而出立、同三日今庄方御引戻二付

帰

一同二寅二月五日表御小姓被仰付

一同年六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月九日帰

一同年十月廿六日御馬廻被仰付

一同三卯三月十日御上京御供出立、四月四日帰

一同年十月廿一日御趣意二付御馬廻り御免被成、第一遊撃隊へ被入候

一同年十二月十二日急々上京被仰付十三日出立之処、御模様二付途中方引

返シ帰

一同四辰正月八日又々急々出立之処、痛所再発二付同十一日途中方帰

一同年七月廿二日式番予備小隊之分隊長高屋善右衛門跡被仰付、御書院番組江被入候

一明治二己二月十六日今般御改革二付御役御免被成、遊撃隊江被入候

一同年四月九日中午納言様御供東京江出立、六月七日御人減二付帰

一同年十一月廿五日本般御改革二付、更給禄米八十式俵壹斗式升壹合被下

一同三年五月廿四日第一大隊三番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備三番隊 年給六俵

一同四未十月十三日解隊

佐久士

佐久士新五右衛門 成瀬新五右衛門

百五拾石 外役料百石

於松岡物頭、御相続後同仮役被仰付

享保七寅十一月九日御先物頭被仰付、役料百石被下

同十九寅六月六日病氣二付御役御免、末之番外

佐久士市兵衛 新五右衛門

百五拾石 外役料百石

享保十九寅八月九日養父新五右衛門隠居、家督無相違、大番入

宝曆十一己十一月廿九日郡奉行粕谷彦左衛門跡、御役料五十石被下

明和元申八月廿五日御長柄奉行役料百石被下、三寺与右衛門跡

同六丑五月十六日御先物頭滝郡右衛門跡

佐久士八兵衛

百五拾石

安永八亥九月廿日父市兵衛隠居、家督無相違、大番入

佐久士新五右衛門 伝藏

百五拾石

文化三寅六月廿五日養父八兵衛休息、家督無相違、大御番入

天保九戌二月十六日次男金八郎不埒之儀有之、侍御削被成御国之内拾三里四方御追放被仰付、兼而締り方等閑之趣、其上金八郎出奔之始末不参届候二付閉門

天保十二丑年十月廿日格式末ノ番外被仰付

弘化二、六月隠居

佐久士市兵衛

百五拾石

一弘化二巳六月十一日親新五右衛門隠居、家督無相違被下置、大御番組江被入

一嘉永四亥年江戸詰、翌正月廿二日病氣願之上着

一同五子四月廿日病身内願之通休息

佐久士新兵衛 九八郎 実市兵衛弟

百五拾石

一嘉永五子四月廿日養父市兵衛儀病身二付内願之通休息被仰付、家督百五

拾石無相違被下置、大御番組へ被入候

一安政二卯九月十一日先達而荒川筋江罷越候節心得違之趣相聞候二付、御

番頭へ移りを以御叱り被成候、右二付遠慮伺之上指扣被仰付置候処、同十八日御免

一同三辰十二月廿八日新兵衛与名替

一同四巳四月廿二日明道館内へ武芸稽古所御集被成候二付、団野千久馬稽古所詰被仰付候

一同年四月廿日江戸詰出立

一同六未三月廿日武芸厚出精之趣師役方内達も有之二付、修行中銀式枚ツ、被下置候

一文久元酉八月廿一日江戸詰出立、戌九月十八日帰着

一同二戌十一月廿九日武芸修行中被下置候銀式枚之儀ハ以後不被下候、当年之儀ハ被下置候

一同三亥三月十九日病死

佐久士規之介 周吉 実生田小右衛門次男

百五拾石

〔士族〕

文久三亥五月十一日佐久士新兵衛病中願之通養子ニ被仰付、家督百五拾

石無相違被下置、大御番組へ被入候

一同年八月四日中将様御附御近習被仰付

一同年十月十三日御供二而上京

一同四子正月九日御附御小姓被仰付候

一元治と改元、四月廿三日右御供二而帰

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀ニ思召候、依之御

酒被下置候



一同年九月五日宰相様御馬廻り被仰付候、右二付兩人ツ、昼夜当番被仰付候

一元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一同二丑正月規之介与名替

一慶応元丑十月朔日宰相様御出坂御供ニ而出立、同三日今庄<sup>方</sup>御引戻ニ付  
帰

一同二寅二月五日御馬廻り被仰付候

一同三卯三月十日御上京御供出立、四月四日帰

一同四辰三月十四日上京、五月廿七日帰

一明治卜改元、十一月二日今般幸姫様御引越ニ付御道中御供被仰付候、依之立帰上京被仰付、同十二日出立、十一月廿九日帰

一同年十二月十三日殿様御上京御供出立、已二月六日帰

一同二巳十一月七日今般御改革ニ付役儀被免、予備隊江被入候事、席森田  
安平次

一同月廿五日今般御改革、更給禄米八十式俵壹斗式升壹合被下

一同三午六月廿二日第一大隊五番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備三番隊 年給六俵

一同四未十月十三日解隊



笹川藤内

百五拾石 役料百石

於松岡番外御膳番、御相統後

享保七寅三月九日新知百石被下、同日御膳番被仰付

同九辰六月十六日御役御免、大番入

同十六亥二月十七日御腰物役被仰付

同十九寅七月廿八日御膳番

元文三年五月廿五日筆頭被仰付

同七月六日五十石御加増

寛保二戌六月朔日御徒頭波多野文右衛門跡、御役料百石被下

延享元子十月廿五日御側物頭土屋甚五左衛門跡

同三寅五月十一日御馬奉行長谷部小右衛門跡

同年六月廿八日御武具忍支配御馬支配御免

同四卯八月廿二日若殿様附御目付役、定府被仰付

延享四卯十二月十日於江戸死

#### 笹川次兵衛

百五拾石 役料百石

延享四卯九月六日御部や御手廻被召出、二十五石五人、御書院番入

同年十二月廿八日父藤内跡無相違、御手廻り其儘、自分御切米上ル

寛延二巳九月十三日御部や御供目付

明和五子八月十三日御供目付御免、御近習番格席是迄之通

同六丑正月十四日若殿様御目付林又左衛門跡、役料百石、席御表御目付  
次

同九辰十月七日御側物頭若殿様御目付是迄之通兼相勤候様席其儘

安永九子六月四日御部や御目付御免

同年十一月廿一日御簾奉行三寺与右衛門跡

笹川林太夫

百五拾石

天明二寅正月廿日父次兵衛隠居、家督無相違、大番入

笹川藤内

百五拾石 役料五拾石

寛政三亥七月十四日兄林太夫病中願之通養子二被仰付、家督無相違被下置、大番入

同九巳正月廿九日表御小性上月熊之助跡

同十年七月廿八日御部屋附御小性中村仲跡

寛政十二庚申五月廿五日御近習番御書院番入

享和二戌八月廿五日御供頭高田三郎左衛門跡

同年十二月御供頭御免、御近習番

同四子ノ二月三日伺之上遠慮

文化五辰閏六月二日御裏役浅見平内跡

同七年六月廿二日御近習番頭取格奥御納戸大野三左衛門跡

同八未二月廿一日御近習番頭取御膳番金子十郎平跡

文化十一戌十一月十二日御徒頭井上孫左衛門跡、御役料五拾石被下置

文政三辰十月十日御使番生田十左衛門跡、御役料都合百石被下置

文政八酉正月廿二日御先物頭森田伝右衛門跡

同十亥六月廿三日御側武頭小木藤右衛門跡

同十一子五月廿日御武具支配忍之者預り

文政十二丑二月十六日御目付中村太郎左衛門跡

天保三辰十二月廿八日新番頭林又左衛門跡

笹川藤内 熊次郎

百五拾石

〔士族〕

一天保十一子五月廿九日親藤内隠居、家督百五拾石無相違被下置、大御番組へ被入

一同十三寅五月三日表御小姓被仰付候

一同年同月廿九日奥御小姓被仰付、支度出来次第江戸詰被仰付、六月十一日出立

一同十五辰正月十三日御供二而出立、同年五月十一日御供二而帰着

一弘化二巳年江戸詰、三月廿一日御供二而出立

一同三年十二月廿一日御小姓頭取定助被仰付候

一同四年年江戸詰、三月十九日出立

一同五申二月廿三日御小姓頭取被仰付候

一嘉永元申六月急御出府二付御供二而出立、同七月御供二而帰着、右二付

十二月七日御褒詞

一同二酉年江戸詰、三月廿三日御供二而出立

一同年八月十九日内願之趣も有之候得ハ御国表へ罷帰、篤与可致養生旨

一同三戌六月四日病身二付内願之通御小姓頭取御免被成、御書院番組へ被入、御近習二被指置候

一同五子六月十六日御書院番其儘山奉行佐野雄藏跡

一安政二卯三月十四日郡奉行井原次郎右衛門跡被仰付

一同四巳四月十五日御趣意二付、以来三領并川北領共打込致支配相勤候様

被仰付候

一同年閏五月十一日御役御免被成、御使番次席被仰付候

一安政四巳九月五日席其儘有賀清右衛門跡被仰付、御役料五拾石被下置候、御先物頭也

一同六未十二月十六日御先物頭順席二被成下、御役料五拾石御増、都合百石被下置候

一同七申閏三月十四日当年太田御陣屋詰中表御門預り被仰付、且又出火之節御用火消出馬被仰付候

一同廿八日出立

一万延与改元、九月十二日右詰中表御門預り并遠見番所掛り被仰付、且又右同断

一文久元酉四月十日横浜表江長々致出張候二付、太儀之段御褒詞之上御手綱二被下置候

一同廿四日帰着

一同三亥二月十日殿様御上京御供二而組之者召連出立、三月六日御供二而帰着

一元治元子十月十四日長征出立、丑正月帰  
一同二丑正月廿七日賊徒警衛敦賀江出張、二月廿三日帰

一同年三月七日征長御供方罷帰無間も敦賀表江出張、太儀之段御褒詞一慶応卜改元、十一月廿八日大坂表江出張

一同二寅七月五日御番皆勤二付時服被下置候  
一同年十月二日帰

一同年十月廿六日御持物頭被仰付  
一同三卯五月朔日御参詣御先固之節、組之者服柄心得違之儀有之候処、取扱不参届恐入遠慮伺差扣、四日御免

一同年六月十六日組之者之内河村重左衛門重キ御咎二付遠慮伺之上指扣、同十九日御免

一同年十月十八日小隊頭卜被仰付候

一同年十一月廿六日支度出来次第堺町御警衛詰被仰付、十二月朔日出立、辰四月十一日帰

一同四辰四月四日昨冬以来格別骨折相勤候段御褒詞

一同年五月廿八日席其儘御留守組支配被仰付、御役料五拾石被下置候  
一明治二巳二月十六日守城承事被仰付、御留守組支配たるべく候事

但席其儘月給廿俵、御役料ハ不被下候

一同年十月廿八日支配之者慎之儀二付取扱不念二付伺之上指扣、十一月二日被免

一同年十一月廿五日今般御改革二付守城承事被廢、依之役儀被免、席山根元樹次

一同月廿五日今般御改革、更給禄米八十式俵壺斗式升壺合被下候  
一優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役  
同五申十一月廿五日老年二付隠居

アキト スケ  
笹川章門 欽之亮 藤内倅 明治三年廿四歳 [士族]

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方征長、丑三月帰  
一慶応元丑閏五月十八日三番之補兵隊被仰付

一同二寅五月五日撰州神戸表江出立  
一同三卯二月廿日信次郎事欽之亮卜改

一同年三月廿六日什長被仰付、勤中年々銀拾枚ツ、被下置候



一同年七月十二日御警衛詰上京可致処不快二付延引、同廿一日出立、十月十四日帰

一同年九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候

一同年十二月廿六日支度出来次第上京被仰付、廿九日出立

一同四辰正月六日在京中参与附属并軍事方手伝之儀も相心得、尚大谷儀左衛門申談相勤候様被仰付

一同年四月十一日右之通被仰付置候処御免、勝手次第罷帰候様、同月十七日帰、但当春已来格別骨折二付御褒詞

一同月廿五日遊撃隊江被召出、五人扶持被下置候

一同年閏四月五日上京、九月十五日帰

一明治卜改元、十二月十三日殿様御上京御供出立、已二月六日中納言様御供帰

一同二已十二月十二日劍術世話役被仰付候事、身分支配是迄之通八等之事

一同月十七日役中給禄式拾俵高二被成下候事

一同三午五月廿四日劍術世話役被免候事

一同日役配中出精之段御褒詞被成下候事

一同日第一大隊二番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備三番隊押絶 五番 軍曹卜改 年給十俵 十式俵高

一同四未八月五日依病氣願兵隊指免候事

一同五申十一月廿五日父藤内老年二付願之上隠居被仰付、家督

一給禄米三拾七石五斗壹升三合従前之通被下候

笹川庄左衛門

廿石五人

安永二已三月朔日小役人方御取立、新番入、川除役

笹川庄左衛門

廿石五人

安永十丑二月十一日親庄左衛門休息、家督無相違、新番入、親之通川除奉行

文化七年十一月十一日耳遠二付退役、於御右筆部屋式百疋御目録被下

文化九申八月廿九日御定之年数相満、御留守番組へ被入

同年十月十九日無役御留守番入

文政四已二月休息

笹川庄左衛門 市太郎

廿石五人

文政四已正月廿九日父庄左衛門内願休息、家督無相違、無役御留守番入  
同十三寅五月廿五日大御番入

笹川庄左衛門 庄八

廿石五人

一天保八酉正月十六日養父庄左衛門病身二付内願之通休息、家督廿石五人扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一文久二戌十二月三日上京御用捨相願候二付、他番江被入候

一同三亥五月廿二日御留守武具奉行横山藤八郎跡被仰付、御留守番組江被

入候

一 同年六月廿一日御先武具奉行并彈藥方兼帶被仰付、大御番組江被入候  
 一 同年十二月四日御留守武具奉行彈藥方兼帶被仰付、御留守番組江被入候  
 元治二丑四月十一日内願休息

笹川朝雄 岩太郎

〔士族〕

廿石五人

文久三亥二月十二日荒川十右衛門引纏上京  
 一 同年三月廿五日右同断、中将様御供二而帰着  
 一 同年五月廿五日当亥年御参府之節御番士役配御雇御供被仰付、逗留中五人扶持被下候旨、八月十七日出立、同十二月江戸方御上京御供  
 一元治元子二月十三日帰  
 一 同年二月廿日支度出来次第上京被仰付、在京中五人扶持被下置候、三月二日出立、三月十二日帰  
 一 同年 上京、八月廿三日帰着  
 一 同年征長、丑三月帰  
 一 同二丑四月十一日親庄左衛門儀内願之通休息被仰付、家督廿石五人扶持無相違被下置大御番組へ被入候  
 一 慶応卜改元、四月廿八日上京、翌寅四月十七日帰  
 一 同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候  
 一 同三卯二月四日砲術所世話役被仰付  
 一 同年十月十九日御警衛増詰上京  
 一 同年同月廿五日第一級二相進候二付、花葵御紋御印被下置候  
 一 同四辰二月晦日京方帰

一 同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張二付十三両被下、外五百疋

一 同年七月十五日遊撃隊六番之後拒役被仰付

一 明治二巳十一月六日農民政務方試補被仰付候事、但引立方

一月給米一年分六俵被下候事

一 席来栖寛之介次

一 同年同月廿一日今般御改革二付役義被免候

但附送り之儀ハ追而御指図相待可申事

一 同日民政局権少属被仰付候事

一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾七俵壹斗貳升九合被下

一 同三年四月廿五日戌辰北越出張、各所攻撃勉勵二付御賞典之内十石十ヶ

年令頒授候事

一 同年十二月十二日職務被免候事

一 同日非役江被入候事

一 同月十八日岩太郎事朝雄卜改



1

桜井東七

百石

正徳四年八月養父藤左衛門為跡目御切米御扶持被下  
 享保七寅五月廿八日於江戸新知被下

桜井藤左衛門 初孫五郎

百石

享保十五戌四月十一日養父東七跡於江戸、大番入

桜井庄九郎 隠居

百五拾石 役料百石

寛延二巳五月三日父藤左衛門跡目幼年二付十人扶持被下、御留主番入

宝曆二申八月十八日新知御直シ被下、大番入

明和六丑六月五日御近習御書院番入

同八卯十月廿三日江戸御裏役

安永三年二月廿八日御近習番頭取御膳番

同年六月十四日御側向頭取末ノ番外

同年八月六日御時宜役

同五申五月十一日於江戸御足高五十石被下

同十丑正月十五日五人扶持御足扶持被下

同年十二月五日於江戸役義其儘ニ而御先武頭カク被仰付、御役料百石被下、五人扶持ハ上ル

天明三卯正月十六日席御先武頭次席卜被仰付

同四辰九月廿四日席御上被下、郡奉行次席河津孫十郎次

同六年十二月十四日長袴席被仰付、席御広式御用人次

同七未三月十四日御形合被相改、万端御省略被成候ニ付、御側向頭取役被相止候ニ付、席御役料其儘ニ而御広式御用人格、江戸再役助被仰付

同年十二月十四日於江戸定姫様御広式御用人之方被仰付

寛政三亥三月廿八日席御上、荻野四郎右衛門次

寛政八辰ノ四月出精相勤別而定姫様御定金取斗致丹情候ニ付、御召御給

於御前拝領被仰付

寛政十二申年十二月年末出精相勤候ニ付、御足高五十石御加増ニ被成下文化三寅二月晦日出精相勤候ニ付席町奉行次

同七午九月廿四日年寄内願隠居、長々相勤太儀被思召候旨ニ而御召御羽織被下置、折々御機嫌伺可罷出旨被仰渡、即日倅御広式御用人見習

桜井市左衛門

百五拾石 役料五拾石

寛政十二申正月十五日中将様御附近習番被召出、御合力銀拾五枚被下

同年八月廿二日御合力銀之上三人扶持被下

享和元酉三月三日同御小姓

同年十一月廿八日同御小姓頭取

文化六巳八月廿一日此度隆徳院様御逝去ニ付御附御免被成、親へ御返し被成

同七午九月廿四日養父庄九郎年寄内願隠居、家督百五拾石無相違、大御番入、即日御前様御附御広式御用人見習、御役料五拾石末之番外、御供頭次席

文化十酉三月廿一日御供頭河津善太夫跡

同十三子七月九日御趣意ニ付御役御免、席其儘、御役料是迄之通

同年閏八月六日御供頭加藤与五右衛門跡

同十五寅正月十五日御広式御用人助、御水主頭次席山品政十郎次

文政二己卯十一月廿六日御役義其儘浅姫君様御附被仰付候

文政五壬午正月十五日浅姫君様御附御広敷御用人本役長袴席、御役料都

合百石被下置



文政十二丑六月十五日年寄内願之通隠居被仰付、折々御機嫌伺罷出候様

桜井庄九郎 鉄五郎事

百五拾石

一文政三辰正月廿五日被召出、五人扶持被下、若殿様御附御小姓恒五郎様御附兼被仰付

一同四巳九月廿五日御裏役鈴木源三郎跡被仰付、御書院番組へ被入

一同六未十月廿日謙五郎様御附御近習番、奥御納戸役被仰付

一同九戌四月 謙五郎様御附奥納戸役被仰付

一同十二丑六月十五日養父市左衛門隠居被仰付、家督百五拾石無相違被下置、是迄之通御書院番組、謙五郎様御附奥御納戸役被仰付

一同年九月廿八日謙五郎様御国江被為入候二付御供被仰付、家内共御国元へ引越し被仰付候

一同十三寅閏三月十六日御国表方出立、同年五月十二日家内召連帰着

一同天保六未二月廿日楷五郎様御附奥御納戸役其儘、御膳番格被仰付

一同八酉十月廿九日楷五郎様御附御側向頭取見習、末之番外被仰付候

一同十亥四月十六日御時宜役被仰付候

一同弘化三午五月廿二日御纏奉行加藤又一郎跡被仰付候

一同嘉永元申五月廿八日御先物頭茂呂久左衛門跡被仰付、御役料百石被下置候

一同四亥二月十三日家屋敷坂井半十郎家屋敷へ替被下候

一同七寅正月九日御留守詰侍中近々出立二付、道中仮目付被仰付候、然ル処同十四日江戸表江出立

一同安政二卯二月十九日御判物御頂戴有之、御国へ被遣候節、致守護罷越候

様被仰付、同年三月廿三日着

一同年四月十一日御判物道中無滞致到着候二付御褒詞

一同三辰四月十五日御普請奉行中村久藏跡被仰付候

一同五午七月十一日此度桜御門頼当御普請中、見廻り出精相勤候二付御褒詞

一同六未十一月十一日御簀奉行東郷平太夫跡被仰付候

一万延元申六月廿六日御番出精二付御褒詞

一文久三亥正月廿六日次男兼吉儀、去ル十九日勝見横町ニおゐて女ニ手疵為負相果候二付、揚り屋入被仰付候二付、遠慮伺指扣、廿九日御免

一同年八月朔日年寄候二付隠居

一同年八月廿九日次男兼吉捨吉不埒至極之始末、兼而不取締之趣相聞、不調法之事二候、依之遠慮被仰付急度相慎罷在候様被仰付、九月十九日御免

桜井庄九郎 鉄五郎

百五拾石

〔士族〕

文久二戌七月廿五日当節柄御人少二付修行旁当秋江戸詰被仰付、詰中御扶持方五人扶持被下置候、閏八月十五日出立

一同三亥正月廿三日中将様御船二而御上京被遊候二付御供、三月廿五日右御供二而帰着

一同年七月八日上京被仰付、相止

一同年八月朔日親庄九郎年寄候二付隠居被仰付、家督百五拾石無相違被下置、大御番組へ被入候

一同年八月廿九日弟兼吉儀当春於勝見横町女を及殺害候始末、不埒至極二

付侍御削被成長々入牢被仰付、且又弟捨吉義も不埒之趣相聞候ニ付長々  
逼塞被仰付、急度為相慎置候様被仰付

但右ニ付伺之上遠慮、九月九日御免

一同四子正月廿三日御近習番被仰付、御書院番組江被入、支度出来次第上  
京被仰付、廿八日出立

一元治元子六月廿五日宰相様御上京中格別骨折相勤太儀ニ思召候、依之銀  
壹枚被下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑三月帰

一慶応元丑十二月廿八日庄九郎与名替

一同二寅二月五日御馬廻り被仰付候

一同三卯三月十日御上京御供出立、四月四日帰

一同四辰四月二日上京、五月廿七日帰

一明治卜改元、十一月二日幸姫様御引越ニ付御道中御供被仰付、依之立帰  
上京被仰付、同十二日出立、同月廿九日帰

一同年十二月十三日殿様御上京御供出立、巳二月六日帰

一同二巳六月十七日御近習庶務執事被仰付、信次郎様御相手振退勤被仰付  
候事

但月給一年分六俵被下候事

一同年十一月七日御家従信次郎様御附更ニ被仰付候事

但五等官大関弥三郎次

一月給米是迄之通

一同月廿五日今般御改革、更給禄米八十式俵壹斗式升壹合被下

一同四未四月五日当分年給十四級 式拾貳俵壹斗八升式合四勺

一同年五月八日御家従被免候事

一同年十月廿三日給禄之内廿俵俸太馬喜へ分禄



桜井定右衛門

拾七石四人

享保五子正月於松岡養父定右衛門跡目被下

桜井与右衛門

拾七石四人

享保十一午三月十一日養父定右衛門跡目被下、大番入

桜井与右衛門

拾七石四人

明和八卯六月十六日養父与右衛門跡目無相違、大番入

寛政二戌六月廿九日番改萩野栄五郎跡

享和二戌年七月四日御代官岡田喜右衛門跡、御留守番入

文化十三子七月五日休息

桜井定右衛門 外三郎 与右衛門

拾七石四人

文化十三子七月五日父与右衛門休足、家督無相違被下置、無役御留主番  
入

文政三辰八月十一日大御番入

天保九戌五月十一日御番改役安原作右衛門跡

弘化三年閏五月廿五日御掃除奉行丹羽十左衛門跡被仰付、御留主番組へ被入候

嘉永元申八月十一日表御納戸役戸枝市郎兵衛跡被仰付

嘉永三、十一月廿九日休息

桜井<sup>ヤスシ</sup>定 権之丞 興作事

〔士族〕

拾七石四人

一嘉永三戌十一月廿九日父定右衛門年寄候ニ付休息、家督拾七石四人扶持

無相違被下置、無役御留守番組江被入

一文久三亥七月八日支度出来次第上京被仰付

一元治元子二月廿九日番改役本儀源介跡被仰付候

一同年七月廿一日京都表へ出立、夫<sup>ヲ</sup>長征、十二月帰

一同二丑二月朔日賊徒警衛出張、同九日帰

一慶応二寅十一月三日御趣意ニ付役儀御免被成候

一同三卯十一月二日宰相様御上京ニ付速見迄御見送り出立、同七日帰

一同年同月廿六日宰相様御滞京中為御備上京被仰付、同廿九日出立、辰四

月十日帰

一同四辰閏四月五日番改役岡健藏跡被仰付、御留守番組江被入候

但役席土多源五兵衛次江被入候

一明治卜改元、十月廿二日已来服忌令掛り同様相心得相勤候様被仰付

一同年十二月廿日為失却当年限銀壹枚之当りを以被下置候

一同二巳十一月九日今般御改革ニ付御広間当番被廢候、依之役義被免候事

但席国分三弥次

一同月廿五日今般御改革、更給禄米四十壹俵三斗四升三合被下

一 予備隊

一同三年閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同年十二月十八日権之丞事定<sup>ヤスシ</sup>卜改

一同五申七月廿七日第二区新屋敷組副戸長

沢木<sup>1</sup>

沢木左七郎

百石

享保三戌二月父伴藏為跡目被下

元文五申九月五日死

沢木彦太夫

百石

元文五申十月廿五日養父左七郎跡目被下、大番入

宝曆九卯閏七月廿五日御金奉行三岡次郎左衛門跡

明和九辰八月十日御勘定拝借奉行梯左仲太跡、御留守番入

安永八亥七月廿五日札所奉行門野九右衛門跡、大番入

沢木彦左衛門

百石

天明元丑十月廿五日養父彦太夫跡知無相違、大番入

同六年七月廿四日御部屋附御近習番御書院番入、生駒藤兵衛跡

同七未十月五日格別御形合被相改万端御省略二付御近習番御免、大御番入

同八申五月廿二日御部屋附御近習番御書院番入

寛政三亥五月二日御部屋附奥御納戸

同十年十二月七日御部屋附御近習番頭取御膳番堀勘左衛門跡

享和二戌五月廿一日御書院筆頭丹羽市左衛門跡

文化元十二月二日御使番三寺与右衛門跡、御役料百四十石

同五辰七月廿二日御水主頭毛利六郎右衛門跡

同十四八月五日御先物頭前田彦次郎跡

文政元寅八月廿二日去ル十六日切手御門当番之節、佐野内膳罷通り候処、

下方筋御巡覽御留主中御門開相通し候二付閉門

文政五年六月十五日隠居

# 沢木八左衛門 長之助事

百石

一文政五年六月十五日父彦左衛門隠居被仰付、家督百石無相違被下置、大

御番組へ被入

一同年十一月三日表御小姓岡三郎右衛門跡被仰付候

一同八酉江戸詰被仰付、三月十日出立

一同九戌四月五日於江戸表御近習番被仰付、御書院番組へ被入、来亥年迄

詰越被仰付

一同十三寅六月六日御書物方被仰付

一天保二卯六月十一日御裏役被仰付

一同五年九月廿五日奥御納戸役被仰付候

一同六未九月五日今度御代替二付御役御免、御書院番組其儘御近習二被差置、御用筋之義ハ是迄之通可申談旨

一同年同月十六日奥御納戸役被仰付

一同七申江戸詰被仰付、八月廿八日出立

一同九戌十月廿五日今度御代替二付御役御免、御書院番組其儘御近習二被

差置候、勤方之義ハ追而可被仰付候、御用筋之義ハ是迄之通可申談旨

一同年同月廿九日奥御納戸役被仰付候

一同十一子江戸詰被仰付、八月廿八日出立

一同十五辰五月廿三日末之番外御時宜役被仰付

一嘉永三戌七月廿八日大馬印奉行野村拾太夫跡被仰付候

一同四亥二月十三日御使番役青木与一右衛門跡被仰付、御役料百五拾石被

下置候

一同五子六月十七日御長柄奉行加藤清兵衛跡

一同年十一月十八日年寄候二付隠居被仰付候

# 沢木又八郎 又八 実皆川平右衛門弟

百石

一嘉永五子十一月十八日養父八左衛門儀年寄候二付隠居被仰付、家督百石

無相違被下置、大御番組へ被入候

一安政三辰十一月十一日御広式御用達高橋寛輔跡被仰付、御留守番組へ被

入候

一同四巳三月廿五日江戸詰出立

一同年十二月於江戸表又八郎と改

一同六未三月廿六日江戸詰出立、同七申三月御供二而帰着

一文久元酉五月廿日御金奉行岡半右衛門跡被仰付、御書院番組へ被入候  
一同三亥五月廿六日江戸表江出立

一元治元子十月廿二日帰着

一同年十二月賊徒一件二付出張、御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑五月廿八日御趣意二付役御番組江被入候

一同年十一月廿三日大坂表へ出立、寅十月十三日帰

一同四辰三月十六日御札所奉行樋口小左衛門跡被仰付、席末之番外格二被成下候

一同年閏四月十九日倅浅之助御咎二付伺之上指扣、同廿四日御免

一同年五月廿日御札所元締役見習被仰付

一明治卜改元、九月十七日御役名御国財元締役楮幣製作方取締兼勤見習卜被仰付

一同二巳二月十五日楮幣局司事試補被仰付、月給廿俵 小者給ハ不被下候  
一同年十月廿七日去ル十日夜楮幣局中不取締之儀出来候次第、近來局務多

端卜ハ乍申、規則通等閑二相成候より事起り候義、不束至極二付役儀被免、番列江被下ケ閉門被仰付候、十二月十八日被免

但元御書院番席加藤清十郎次

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同三年閏十月十四日病死

沢木浅之助 又八郎倅

〔士族〕

文久三亥十月十三日中将様御供二而上京

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤候二付、銀壹

枚被下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月帰

一慶応元丑十一月廿八日大坂表江出張

一同二寅九月十九日帰

一同年十月十六日一番之補兵隊へ被入候

一同三卯八月十六日夜行之節不心得之趣相聞候二付、御番頭へ移りを以御諭

一同年九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候

一同四辰閏四月十九日心得違之儀有之二付遠慮、五月五日御免

一同年八月廿二日越後表江出張被仰付、勤向之儀ハ於出張先軍事惣奉行へ相伺候様被仰付、同廿六日出立、巳二月六日帰、同廿二日右出張二付御手当五兩被下候

一明治二巳四月九日中納言様御供東京江出立、但遊撃隊御雇之事

一同年九月廿四日滞在中興詰御雇被仰付候事、但遊撃隊御雇之義ハ被免候事

一同年十月廿三日帰藩申付候事、十一月十三日帰

一同三年五月廿四日第一大隊六番小隊御雇被仰付、給禄米十俵被下候事、

但年給三俵

米六拾俵四斗三升六合

一同年十二月四日父又八郎家督米六十俵四斗三升六合無相違被下、小隊江

被入候事

但第一大隊一番

一同月八日煩手 年給六俵

一同四未十月十三日解隊



沢木所左衛門

百石

元禄十五年父林左衛門為跡目百五拾石被下、次筆頭

正徳四年四月拝知之内五十石被召上

享保七寅十二月廿五日筆頭

元文四未六月十六日次筆頭御免

寛保二戌八月十六日札所奉行被仰付

沢木六平

百石

延享三寅五月廿五日表御小姓被召出

同四卯七月六日於江戸父所左衛門家督無相違被下、御小姓其ま、

沢木金石衛門 彦四郎

百石 役料百五拾石

延享五辰正月廿五日養父六平跡知被下、大番入

宝暦五亥正月廿五日表御小姓

同九卯六月廿二日中奥御小姓

明和三戌五月十七日御小道具方河崎三郎助跡、御書院番入

安永三年六月十四日御膳番御近習番頭取

同四未二月十四日郡奉行高畑金太夫跡、御役料五十石

同七戌六月廿二日席御上ケ被下、以後御旗奉行次席、御役人並ミ

同十丑正月十五日御役料百五拾石二被成下

天明五巳十二月十一日若殿様御側締り役高村四郎左衛門跡

同六午四月廿三日御広式御用人兼

寛政二戌正月廿一日御広式御用人兼御免

沢木次太夫 左衛太 次郎作

百石

寛政七卯十月十一日父金石衛門跡知無相違、大番入

同十年十一月十一日表御小姓

文化九申正月廿五日仁之助様御附、奥御納戸御書院番入

同十二亥二月四日御時宜役末之番外

文政元寅十一月廿六日御留守物頭御鷹方兼帶、三浦空左衛門跡

文政六未ノ二月十五日御鷹方御免

同七申十月十五日御先物頭生田十左衛門跡

天保五年十一月十日御普請奉行野中健藏跡被仰付

同十二丑六月廿九日御側物頭井戸次兵衛跡

同九月七日御泉水預り彦坂又兵衛跡被仰付

同十五辰十二月三日隠居

沢木林左衛門 左衛太 林左衛門 豊左衛門

百石

一弘化元辰十二月三日父次太夫隠居被仰付、家督無相違被下置、大御番組

江被入

一同年同月廿四日遠慮伺之上指扣



〔嘉永〕  
一同六丑三月十九日江戸詰出立、同七寅四月廿二日帰着

一同七寅年三月三日御殿山へ出張二付、御下緒褰掛ヶ被下置候

一安政三辰十二月廿八日豊左衛門与名替

一安政五午五月十七日江戸詰出立

一同年十二月林左衛門与名替

一文久元酉八月五日眼痛二付内願之通休息

## 沢木 禄平

百石

文久元酉八月五日親林左衛門眼病難儀二付内願之通休息被仰付、家督百

石無相違被下置、大御番組江被入候

一同年九月五日砲術所世話役被仰付候

一同二戌九月廿九日今度農兵御端立二付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰

付候、尤砲術所世話役之儀ハ是迄之通相心得候様

一同三亥七月八日支度出来次第上京被仰付候

一同年十一月廿九日表御小姓生田小左衛門跡被仰付

一同四子正月廿三日御小姓被仰付、支度出来次第上京被仰付候、廿八日出

立

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑三月帰

一慶応三卯三月十日御上京御供出立、四月四日帰

一同年十月十二日御膳番奥御納戸役兼帯被仰付、御裏役御書物方之儀も相

心得候様被仰付

一明治元辰十二月十三日殿様御上京御供出立、巳二月六日帰

一同二巳十一月七日御家従被仰付候事

但庶務取扱

一等級月給米是迄之通

一同月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同三午十月廿八日今般御趣意二付御近習被仰付候事

但大奥関係之御用向も相心得候様

一是迄之通十三級 席小林直記上

一同四未二月十六日御東京御供出立、五月廿三日御供二而帰着

一同年四月五日当分年給十三俵 貳拾八俵三斗六升四合八勺

一同年十月廿二日御前様御供二而東京へ出立

一同五申八月晦日御書下ヶ二而免職

一同日正四位様御近習被仰付候事 月給廿両

## 笹倉

笹倉 善左衛門

廿人扶持

正徳四年十月養父善右衛門跡目被下

寛保二戌九月十六日休息

笹倉 郡左衛門

廿人扶持

寛保二戌九月十六日父善左衛門休息、家督被下、大番入

延享二丑正月廿九日御代官高橋久左衛門跡、御留守番入

寛延三年三月廿六日御役御免、大番入

宝曆七丑七月廿九日空地吟味懸り

同十二年二月五日玉葉奉行津田伝七跡

笹倉善右衛門

廿人扶持

安永五申八月十四日養父郡左衛門休息、家督無相違、大番入

天明八申七月廿九日御代官原田伝太夫跡、御留守番入

寛政五うし九月朔日御祈禱奉行中村惣兵衛跡、大御番組へ被入

笹倉郡左衛門

吉蔵 病死

廿人

寛政九巳十月五日笹倉善右衛門病中願之通養子二被仰付、家督無相違、

大番入

文政二卯二月廿日御番改高橋伊太夫跡

文政十二巳丑十一月廿日柳下勘七跡御代官役被仰付、御留守番組へ被入

一明治三午閏十月廿七日故郡左衛門御代官勤中、高須村地内宮郷

村開拓格別致心配、其後人家蕃殖、一村取建二相成、正二当年

租税収候二付、右勤功為追賞米三俵被下候事

笹倉右内 百之助事

廿人扶持

一天保四巳六月廿日親郡左衛門家督廿人扶持無相違被下置、無役御留守番

組へ被入

一同十亥九月廿九日大御番組江入

一嘉永五子閏二月廿九日御先武具奉行安本新助跡

一安政六未二月五日弘御納戸役松村久右衛門跡被仰付、御書院番組へ被入候

一万延元申六月廿六日御番皆勤二付時服被下

一同二酉三月五日御代官役高木藤左衛門跡被仰付、御留守番組へ被入候

同年九月廿三日病身内願休息

笹倉練平 貞蔵

〔士族〕

廿人扶持

文久元酉九月廿三日親右内儀病身二付内願之通休息被仰付、家督廿人扶

持無相違被下置、大御番無役組へ被入候

一同三亥正月廿五日当春芝御陣屋詰被仰付候

一元治元子六月廿八日帰

一同年十月十五日長征出立、丑二月三日帰

一同年十二月 練平卜名替

一慶応元丑十一月晦日大坂表江出張

一同二寅九月十八日帰

一同三卯十二月十二日急々上京被仰付十三日出立之处、御模様二付途中方

引返シ帰

一同四辰正月八日又々急々出立上京

一同年閏四月廿日小隊之分隊長彦坂又次郎跡被仰付、御書院番組江被入候

一同年五月四日京都方帰

一明治卜改元、十一月朔日若松表江出立、巳三月四日帰

一同二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵被下

一同三年六月廿一日第二大隊九番分隊長被仰付候事

一同年十二月八日職務被免候事

一同年常備六番隊押絶、軍曹卜改 第一年給十三俵

一同四未十月十三日解隊

坂上

坂上又八

貳拾石四人

宝永二酉閏四月十一日養父又兵衛跡目無相違被下

正徳元卯十一月九日御貝役、此節新番方御書院番被入、壹人扶持御加増

同三巳七月廿八日武芸為勤御貝役御免、大番入

享保四亥五月廿三日武芸師役被仰付

同八月六日御取立御免、順之座被入

坂上十郎左衛門

廿石四人

享保十四酉三月五日養父又八跡目無相違被下、大番入、家伝之兵法相弟

子申合無油断執行可仕由

坂上又兵衛

廿五石五人

享保十八丑八月十三日養父十郎左衛門跡目被下、大番入、家伝之兵法出

精可仕旨、後見上ミ川太兵衛林与太夫御徒門乘名右衛門被仰付

延享四卯二月十五日師役

安永五申十二月十六日五石一人扶持御加増、貳拾五石五人

坂上又八郎

廿五石五人

安永九子十月十一日父又兵衛休息、家督無相違、大番入、師役

文化十酉正月廿五日御持武具奉行中野郡兵衛跡、御書院番入

文政五年十一月五日休息被仰付

坂上又兵衛 孫八郎

貳拾五石五人

文政五年十一月五日養父又八郎年寄休息、家督無相違被下置、大御番組

へ被入候、流義之師役

坂上彦八郎 嘉太郎事

廿五石五人

一天保七申三月五日養父又兵衛家督廿五石五人扶持無相違被下置、大御番組

組へ被入、流義之兵法師役被仰付

一嘉永三戌十一月廿九日御代官役雪吹牛兵衛跡被仰付、御留守番組へ被入

一安政四巳四月廿二日数代師役相勤、別而近來出精太儀ニ思召候、依之御

目録銀五枚被下置候

一同年十一月十五日娘身隠し候義ニ付遠慮伺之上指扣被仰付候処、同廿日

御免被成候

一安政五年二月廿五日娘ちゑ儀、去冬致身隠候始末不埒之義ニ付慎被仰付、

且又妻儀不束之趣も有之二付御叱被成候、其方儀も兼而取締り方不参届趣相聞不調法之事二候、依之遠慮被仰付候、三月十四日御免

一同七申三月廿九日御預所御代官役堀又七跡被仰付候

一文久二戌六月廿五日御書院番組へ被入、銀五枚ツ、年々被下置、役儀之儀ハ御免被成候

一同三亥二月十日殿様御上京御供ニ而出立、三月六日御供ニ而帰着

一元治元子二月廿九日年来出精相勤候ニ付銀五枚御増、都合拾枚ツ、年々被下置候

一同年十月十六日長征出立、丑二月八日帰

一慶応四辰閏四月十九日倅覚之介御咎ニ付伺之上指扣、廿九日御免

一同年六月十七日年寄候ニ付休息

坂上覚之介 捨作 彦八郎倅

式拾五石五人

〔士族〕

元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫々長征、丑二月帰

一慶応二寅三月十一日二番之補兵隊へ附属被仰付候

一同年十二月覚之介与名替

一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰

一同年九月廿七日御趣意ニ付補兵隊御免被成候

一同年十二月十五日補兵隊被仰付、今度御上京之節御供被仰付候、相止

一同四辰閏四月十九日心得違之儀有之二付遠慮被仰付、五月五日御免

一同年六月十七日親彦八郎年寄候ニ付休息被仰付、家督廿五石五人扶持無相違被下置、遊撃隊へ被入候、且又流儀之兵法師役被仰付候

一同月廿五日会征出立、十一月十七日帰

一明治二巳二月廿二日長々出張太儀思召、仍十三両被下

一同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米五拾三俵壹斗四升三合下賜

一同月廿八日流儀之師役被免候事、且又年来流儀致世話、仍而勤勞金貳千五百足被下候

但相手寄候面々江相談可為勝手事

一同三午四月廿五日戌辰北越出張軍事精勵ニ付、御賞典之内金貳十五両被下候事

一同年五月廿四日第一大隊三番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備三番隊

一同月十九日支配頭江御移りを以御叱りニ付、伺之上謹慎被仰付候事、同廿二日被免

一同四未正月十五日堅達村字狼谷山買求候ニ付、末々開耕仕度ニ付右村へ土着願之通被仰付

一同四未十月十三日解隊

### 佐野内

佐野内十右衛門

廿三石五人

元禄十五年十一月跡目

享保七寅年順席

同十五戌正月十六日大番六番番改山本清右衛門跡

佐野内半蔵

廿三石五人

宝曆三酉二月五日父十右衛門跡無相違、大番入、其身此節迄御徒也

### 佐野内半右衛門

廿三石五人

天明元丑七月廿五日養父半藏跡目無相違、大番入

寛政二戌二月廿日御広式御用達御留守番入

同十年十二月十一日表御納戸役中村惣兵衛跡、大御番入

享和二戌十月五日御代官諸木野藤左衛門跡、御留守番入

文化十三子九月廿日倅十藏行状不宜ニ付逼塞、半右衛門義伺之上差扣

同十四丑二月五日役御免被成、大御番入

正月廿九日内願ニ付休息被仰付

### 佐野内十兵衛 十右衛門

貳拾三石五人

文政六未正月廿九日父半右衛門内願ニ付休息、家督無相違被下置、無役

御留守番へ被入

文政十三寅五月廿五日大御番入

弘化四未三月五日病身内願ニ付休息

### 佐野内正<sup>タ、シ</sup> 泰次郎

半右衛門 半吾

〔士族〕

廿三石五人

一弘化四未三月五日親十兵衛病身内願ニ付休息、家督廿三石五人ふち無相

違被下置、無役御留守番入

一安政元寅十二月十六日武芸出精ニ付銀三枚ツ、年々被下置候

一同三辰五月廿三日武術之儀致出精候様兼而被仰出有之候処、引続出精ニ付御紋御上下一具被下置候

一同年九月十六日御持武具奉行加納平右衛門跡被仰付、御書院番組へ被入候

一安政四巳四月廿二日明道館内武芸稽古所御集被成候ニ付、中村政右衛門団野千久馬高畠鎌之助横山藤八郎稽古所詰同様被仰付候

一同年十月三日武術厚相心掛候事ニも候得ハ、此度惣武芸所相始候ニ付役儀御免被成、御書院番其儘武芸所詰与被仰付、其身修行ハ不及申相弟子引立方之儀も心配可致旨被仰付候

一同七申閏三月十二日武芸引続出精之趣師役方内達も有之ニ付、修行中御足充行三石被下置候

但是迄年々被下置候銀三枚之儀ハ以後不被下候事

一万延二酉三月五日玉葉奉行野田喜平次跡被仰付候

一文久三亥二月十日殿様御上京御供ニ而出立、三月六日御供ニ而帰着

一同年八月廿三日御持武具奉行被仰付候

一同年十月十三日中将様御供ニ而上京、元治元子五月十日帰着

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀ニ思召候、依之御酒被下置候

一同年七月四日役儀其儘彈藥方兼帶被仰付候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫々長征、丑二月廿日帰着

一慶応元丑五月廿五日征長御供別段骨折候ニ付銀式枚被下候

一同年閏五月十二日出精相勤候ニ付役中銀三枚ツ、年々被下置候

一同日昨年来非常之御用繁相勤候ニ付銀式枚被下置候

一同年十一月廿九日年来御武具奉行相勤罷在候処、近来局中彼是不落着之趣相聞候間、以来心得違無之精誠役所御用弁向厚致心配相勤候様御異見被成候

但右二付伺之上指扣、十二月四日御免

一同二寅二月十六日農兵隊御旗奉行吉田儀兵衛跡被仰付、役御番組へ被入候、同日右二付是迄被下候銀三枚之義ハ以後不被下候事

一慶応二寅十一月廿五日先役中御武具御修復御改正中出精相勤候二付、金貳百足被下置候

一同三卯二月十一日御趣意二付御役御免被成、御足充行其儘御書院番組江被入候

一同年五月廿日御書院番組其儘御旗奉行被仰付、小者給忝人扶持銀三百匁被下置候

一同四辰四月二日上京、閏四月十八日帰

一明治二巳二月十六日今般御改革二付御役御免被成、御広間当番勤被仰付

但番列其儘

一同年三月十一日歩隊器械并彈藥差配方被仰付、製造局附属

一同年七月四日半右衛門事半吾卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾俵壹斗五升被下、但御改革二付当役被免

一同年十二月五日修業隊被仰付候事

一同三年八月十六日第一大隊五番小隊江被入候事

一同年十二月 予備二番隊 年給貳俵

一同月十八日半吾事正卜改  
タ、シ

一同四未四月七日予備隊解隊被仰出候事

沢田<sup>1</sup>

沢田条右衛門

拾八石四人

元禄七戌五月四日御取立

享保七寅年相身躰末席被仰付

沢田条右衛門

拾八石四人

享保九辰七月廿九日父条右衛門跡目被下、大番入、相身躰末父之通り

延享三寅八月廿五日順席

沢田助左衛門

廿五石五人

明和元申十二月十六日養父条右衛門休息、家督無相違、大番入

同八卯八月廿日評定所留役久野十右衛門跡

安永三年六月十四日御内用御右筆中山権九郎跡、七石一人扶持御足擬作被下

同八亥九月廿日御足擬作御加増二被成下

沢田桃十郎

廿五石五人

天明三卯九月五日父助左衛門跡目無相違被下、大番入



沢田助左衛門 助左衛門 善兵衛

廿五石五人

寛政二戌二月十六日養父桃十郎跡目無相違、大番入

享和三亥九月廿日番改小川七右衛門跡

文化九申正月廿九日玉葉奉行高階勘左衛門跡

文政九戌十二月十六日御代官役石沢忠左衛門跡被仰付

天保八酉五月廿九日休息

沢田丈右衛門

廿五石五人

一天保八酉五月廿九日親助左衛門年寄候二付休息被仰付、家督廿五石五人

扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一同十二丑四月廿八日大御番組へ被入

一嘉永二酉五月廿五日御留守武具奉行坂口助右衛門跡被仰付、御留守番組

へ被入

一同三戌十一月廿日御武具御修復御用出精二付、金三百疋被下置候

一同五子十一月十六日御持武具奉行高須幸八跡被仰付、御書院番組へ被入

一安政三辰九月十六日御代官役高木庄右衛門跡被仰付、御留守番組へ被入

候

一同四巳十月五日養子豊作儀夜廻り役之者へ対し心得違之趣有之、御叱被

成候二付、丈右衛門伺之上指扣、同八日御免

一同五午四月廿五日御役御免被成、大御番組江被入候

一同六未八月廿六日病死

一万延元申六月廿六日勤中御番両度皆勤二付金壹両被下候段、倅金之助へ被仰付

沢田畦造 金之助

廿五石五人

〔士族〕

安政六未十月十三日親丈右衛門病中願之通嫡子二被仰付、家督廿五石五

人扶持無相違被下置、大御番無役組へ被入候

一文久二戌閏八月八日御番割二付大御番入

一元治元子四月十五日土京、八月廿二日帰着

一同年十二月賊徒一件出張、御手当三百匁被下置候

一慶応元丑十一月廿九日大坂表江出張、夫方神戸江、寅九月十五日帰

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同三卯三月七日武芸学出精之趣師役方内達も有之二付、修行中銀貳枚ッ

、年々被下置候

一同年十月十八日小隊之分隊長被仰付、御書院番組へ被入候

一同年十一月五日役義被仰付候二付、是迄武芸修行中被下置候銀之儀ハ已

後不被下候

一同四辰四月朔日上京、七月十七日帰

一明治二巳五月廿一日支度出来次第東京詰被仰付立、十一月十日帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五十三俵壹斗四升三合被下

一同年十二月十二日剣術世話役被仰付候事、身分支配是迄之通八等之事

一同三午五月廿四日剣術准教導被仰付候事

一同年十二月八日職務被免候事

一同日常備一番隊押絶 二番 軍曹卜改 年給十式俵

一同四未四月二日東京詰出立

一同年七月十七日金之助事畦造卜改名

一同年十月十三日解隊、在京中是迄之通、十一月帰



沢田常右衛門

拾七石四人

正徳六申二月跡目

享保七寅年順席被仰付

申九月十九日休息

沢田武左衛門

拾七石四人

享保十三申九月十六日父常右衛門休息、跡目無相違被下、大番入、此節迄其身御徒也

沢田小十郎

拾七石四人

明和九辰九月廿四日父武左衛門休息、家督無相違被下、大番入

沢田清蔵

拾七石四人

安永三年四月廿日養父小十郎跡目無相違、大番入

沢田幸太夫 猪三郎

拾七石四人

文化五辰四月十一日父清蔵内願休息、家督無相違、大御番入

文政十二丑十一月廿日笹倉郡左衛門跡御番改役被仰付

天保十一子九月五日御持武具奉行大町次左衛門跡、御書院番組へ被入

天保十二丑四月五日川除奉行被仰付、御留守番組入

同年九月十一日役義之誓詞被仰付旨番頭方触状相廻り点々、兼而不快引達置候故、別段不快不罷出与申事不相違、十一日不罷出心得違二而遠慮相伺候処伺之通遠慮被仰付、十八日御免

同年十一月病死

沢田弥三郎

拾七石四人

〔士族〕

一天保十三寅正月七日父幸太夫跡目拾七石四人扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一万延元申六月廿六日御番御供皆勤二付御紋御帷子被下

一文久元酉三月十一日御持武具奉行飯尾惣太夫跡被仰付、御書院番組へ被入候

一同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日御供二而帰着

一文久三亥六月廿一日御武具奉行并彈藥方兼帯被仰付、大御番組江被入候

一同年七月八日支度出来次第上京被仰付、然ル処八月朔日御免

一元治元子六月廿八日上京

一同年七月四日当分御勘定所吟味役兼勤被仰付

一同年十月京方長征、丑正月帰

一同二丑正月廿七日賊徒警衛敦賀江出張、二月九日帰

一慶応与改元、閏五月十二日出精相勤候二付役中年々銀三枚被下置候

一同日昨年来非常之御用繁相勤候二付銀式枚被下置候

一同年十一月廿九日来御武具奉行相勤罷在候処、近来局中彼是不落着之趣相聞候二付、以来心得違無之精誠役所御用弁向厚致心配相勤候様御異見被成候

但右二付伺之上指扣、十二月四日御免

一同二寅二月十六日御作事改役御普請方改兼帯被仰付候、同日転役二付、是迄被下候銀三枚之義ハ以後不被下候事

一同年四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年七月五日御番出精二付御褒詞

一同年十一月廿五日先役中御武具御修復御改正中出精相勤候二付、金貳百疋被下置候

一同三卯七月廿六日今度於御座所御建繼御普請被仰出候二付、御用掛被仰付

一明治元辰十月廿日奥州会津表江早速出張被仰付、川村半左衛門卜致交代候様被仰付、同晦日出立

一同二巳二月十五日今般御作事方御廢二付御役御免被成、御留守番組江被入、御広間当番勤被仰付候

一同年五月四日元御書院番組席二被仰付、御広間番

一同年八月廿七日農民政局庶務方被仰付候事

但道方

一月給米一年分十俵被下候事

一都筑利八郎次

一同年十一月廿一日今般御改革二付役義被免候

但附送り之義ハ追而御指図相待可申事

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾壹俵三斗四升三合被下

一同年十二月九日御本丸預り被仰付候事 年給六俵

一同四未六月朔日御改正二付免職

# 坂部

坂部多曾右衛門

拾八石三人

享保十八丑七月二日於江戸御取立、新番入、御勝手請込其儘

延享元子十一月十一日役義御免

寛延二巳三月十六日休息

坂部太右衛門

廿五石五人

延享三寅六月廿八日御右筆見習、三人扶持、新番入

寛延二巳三月十六日父多三右衛門休息、跡目無相違被下、見習其儘

宝暦五亥九月廿九日御右筆本役被仰付七石二人扶持御加増、御書院番入、

順席

坂部十右衛門

廿五石五人

宝曆十辰六月十一日父太右衛門跡目無相違、大番入

天明二寅二月十一日評定所留役、若殿様御附御内用御右筆兼帶、内田安

右衛門跡

同七月廿五日御近習番御書院番入

同十月十四日病身二付御近習番御免、大番入

同三卯八月十六日御先武具奉行大内伊左衛門跡

寛政二戌八月三日御近習番御書院番入

同六寅二月廿九日奥御納戸成瀬惣右衛門跡被仰付

### 坂部兵左衛門

廿五石五人

寛政八辰四月十一日養父十右衛門家督無相違被下置、大御番組へ被入

文化十四丑二月五日番改木村藤右衛門跡

文政十亥年二月十一日表御納戸皆崎次右衛門跡被仰付

### 坂部多曾右衛門 熊之助事

廿五石五人

一文政十二己丑十一月九日親兵左衛門休息、家督廿五石五人扶持無相違被

下、無役御留守番組へ被入

一天保五午五月三日大御番組入

一同十一子八月五日先達而矢野孫太夫七ツ藏於御番所不埒之義有之節、取

斗方不参届二付遠慮被仰付候

一嘉永七寅七月廿九日病身二付内願之通休息

坂部多右衛門 佐太郎 実多曾右衛門弟

式拾五石五人

一嘉永七寅七月廿九日養父多曾右衛門儀病身二付内願之通休息被仰付、家

督廿五石五人扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入候

一安政三辰九月十六日大御番組へ被入候

一同年十二月廿八日多右衛門与名替

一同六未十一月十一日病身内願之通休息

### 坂部静一 熊之助 実故多曾右衛門実子

五人廿五石

安政六未十一月十一日養父多右衛門病身内願之通休息被仰付、家督廿五

石五人扶持無相違被下置、大御番無役組へ被入候

一文久二戌閏八月八日御番割二付大御番入

一同年十一月廿四日来春殿様御上京被遊候二付為御待請出立

一同三亥三月御供二而帰着

一同年六月三日御番頭引纏上京、九月五日帰

一同年十二月廿四日京都表動揺之節、為御守衛出張二付朝廷に為御褒美式

百五十疋被下置候

一元治元子七月廿一日京都表へ出立、夫に長征、丑正月帰

一同二丑二月朔日賊徒警衛敦賀江出張、同九日帰

(慶応) 一同三卯十一月二日宰相様御上京二付、速見迄御見送り出立、同七日帰

一同月廿六日宰相様御滞京中為御備上京被仰付、同廿九日出立、辰四月十

日帰

一同年閏四月七日上京、九月十八日帰

〔士族〕

一明治二巳三月三日東京へ出立之處、御呼戻二付同五日途中<sup>ろ</sup>帰  
 一同年四月九日中納言様御供東京江出立、六月十一日御人減二付帰  
 一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五十三俵<sup>ろ</sup>斗四升三合被下  
 一同三午五月廿四日第一大隊二番小隊入被仰付候事  
 一同年十一月八日煩手 年給六俵  
 一同四未十月十三日解隊  
 一同年十二月廿八日県兵伍長  
 一同五申正月十九日解隊  
 一同年 東京修行  
 一同年五月 熊之助事静一卜名替

## 坂本

## 坂本平左衛門

拾八石三人

宝曆八寅正月十六日御徒目付<sup>ろ</sup>御取立、上水奉行大番入、都筑三郎左衛門跡  
 門跡

安永四未八月十一日御代官萩原長兵衛跡、御留守番入

天明二寅三月十一日御定之年数相満候二付、相身体末席被仰付

## 坂本平左衛門

廿石三人

天明二寅十二月十六日父平左衛門休息、家督無相違、大番入

同五巳七月廿日用水奉行上坂利左衛門跡、御留守番入

寛政二戌六月十一日御代官野本喜三右衛門跡

同九巳正月十六日御切米式石御加増、都合廿石三人扶持二被成下、用水奉行中野郡兵衛跡

享和二戌十二月十一日御広式御用達

文化三寅八月廿五日御定年数相満候二付順席

同七年十二月十一日御作事方改役、御役中<sup>ろ</sup>人半扶持被下

文化十一戌十二月九日御代官吉田平次左衛門跡

文政五年十月廿九日休息

## 坂本平兵衛

廿五石五人

一文政五年十月廿九日養父平左衛門休息、家督無相違廿石三人被下置、無役御留守番組へ被入

一同年十二月五日御右筆見習被仰付

一同九戌年江戸詰、右詰中本役同様二付廿五石五人扶持同様二被成下

一同十亥六月廿九日御右筆本役、五石式人扶持御足、御書院番入

一天保二卯年江戸詰

一同七申年江戸詰

一同十一子年江戸詰、四月七日出立

一同年七月十一日五石式人扶持御加増

一同十五辰九月五日御代官本多武兵衛跡

一嘉永五子閏二月廿九日御預所御代官松尾伝蔵跡

一同年七月廿六日年寄候二付休息被仰付

坂本平兵衛 佐之助

廿五石五人

一嘉永五子七月廿六日親平兵衛義年寄候二付休息被仰付、家督廿五石五人扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入候

一同年十二月廿八日平兵衛与名替

一安政三辰九月十六日大御番組へ被入候

一同六未七月廿五日近來耳遠二相成候二付内願之通休息

坂本佐之助

廿五石五人

安政六未七月廿五日親平兵衛儀近來耳遠二相成候二付、内願之通休息被仰付、家督廿五石五人扶持無相違被下置、大御番無役組へ被入候

一文久二戌閏八月八日御番割二付大御番入

一元治元子四月十三日上京、八月廿二日帰着

一同年八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌、相

働候段達御聴御褒詞

一同年十二月賊徒一件出張御手当三百匁被下置候

一慶応元丑四月廿五日心得違之趣相聞、不調法之事二候、依之遠慮被仰付候、急度相慎可罷在旨被仰付、五月十五日御免

一同年六月十六日病身内願之通休息被仰付候

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公刃<sup>カ</sup>被下配当金千疋、且又五百疋被下

坂本岩雄 多田右五郎 坂本右之助 実多田松五郎弟也

〔士族〕

廿石五人

安政六未六月十四日横浜御警衛二付御雇詰被仰付、支度出来次第出立被仰付、詰中三人扶持被下置候

一翌申四月十九日帰着

一万延元申七月十一日太田御陣屋御雇詰被仰付候二付銀式枚被下置、且又右詰中臨時横浜へ出張二付御褒詞

一同年十一月十一日御趣意有之、来酉年太田御陣屋御雇詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置候、且又御都合も有之二付詰引揚、十二月十一日出立一文久二戌四月廿四日帰、同三日太田御陣屋詰中横浜表江長々致出張候二付、御褒詞之上銀式枚被下置候

一同年十二月十七日中将様御上京御供御用二付江戸表江出立之处、御都合二付途中<sup>カ</sup>京都へ

一同廿二日今般思召を以三人扶持御扶助被成下候、当戊廿六歳、子八月廿七日当分御扶助相止

一同三亥三月廿五日中午将様御供二而京<sup>カ</sup>帰着

一同年十月十三日中午将様御供二而上京

一元治元子三月廿九日、一昨戊十二月江戸表江罷出中将様御供二而京都表江可罷越咎二而此表致出立之处、俄御船行相成候二付途中<sup>カ</sup>京都江罷出、夫<sup>カ</sup>大坂江為御迎罷越、御供二而京都江到着之处、失却も有之趣二付金沓兩為御手当被下置候

一同年六月廿五日宰相様再度之御上京中格別骨折相勤太儀思召候、依之銀式枚被下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立

一同年十月九日山階宮様御附人被仰付出立、翌丑五月四日帰



一慶応元丑六月十六日養父佐之助義病身ニ付内願之通休息被仰付、家督廿五石五人フチ無相違被下置、大御番組へ被入候

一同三卯三月十日御上京御供出立、直ニ御警衛詰、七月十九日帰

一同四辰四月三日京都御警衛詰出立、閏四月十五日帰

一同年九月十日右同断上京、已二月六日帰

一明治二己九月十四日御茶園地拝借之儀願之通被仰付

但屋敷裏西ノ方ニ而六十三坪四分九厘、表ノ方ニ而八坪八步三厘、

メ七十二坪三分二厘

一同年十一月五日奥詰被仰付候事

但席松原教次

一年給式俵被下候事

一同日支度出来次第東京詰被仰付候事、但不快ニ付延引

一同年同月廿五日今般御改革、更給禄米五拾三俵壹斗四升三合被下

一同三午二月廿七日御簾中様青松院様来ル三月御東上ニ付御供被仰付、三

月廿四日出立

一同年五月朔日右之助事岩雄ト改、但御移有之相願候事

一同年八月十日当時御用薄ニ付、高田利雄初着之上ハ勝手次第致出立候様

被仰付、九月五日帰

一同四未四月五日当分年給 十四級 式拾貳俵一斗八升貳合四勺

一同年五月八日御家従被免候事

佐伯

安政元寅歳、斎木ヲ佐伯ト改

斎木左次右衛門

拾五石三人

宝暦十三未正月十六日小役人方御取立、新番入

斎木左次右衛門 他四郎

拾五石三人

宝暦十三未十二月十六日親左次右衛門跡目無相違新番入、親之通大工頭

明和五子七月朔日侍格御取上ケ、小役人へ御下ケ被成

明和九辰十一月廿九日小役人方御取立、新番入、大工頭

斎木佐次右衛門 要助

拾七石三人

安永六酉五月廿九日父左次右衛門跡目、幼年ニ付五人扶持被下置

同亥正月廿九日十五歳ニ付、御定之通拾五石三人扶持御直被下、大工頭

見習

天明六午正月十六日大工頭本役

寛政八辰四月十一日年来出精ニ付御紋上下被下置

同十年五月廿九日遠慮

享和三亥十二月十六日出精相勤候ニ付式石御加増

文化九申八月廿九日御定年数相満候、番組へ被入

文化十五寅三月五日病身ニ付休息

佐伯次郎助 斎木佐次右衛門 清太郎 助六

拾七石三人

一文政元寅三月五日親佐次右衛門休息、家督無相違、無役御留守番組へ被

入

一同十二丑正月十六日荒井十藏屋敷拝領被仰付

一弘化二已正月廿八日玉葉奉行坂井又三郎跡

一同四未二月十四日御先武具奉行松原次郎左衛門跡

一嘉永三戌十一月廿日御武具御修覆御用出精二付、金三百疋被下之

一同四亥九月晦日遠慮伺之上指扣被仰付置候処御免

一同年十月廿八日御役御免被成候

一安政元寅十二月廿八日佐伯次郎助与改

一同五午正月廿日不埒至極之儀有之、侍御削被成蟄居被仰付、倅幾次郎江

家督拾五石三人扶持被下置、新番組へ被入、遠慮被仰付

## 才川

才川又兵衛

拾五石三人

文化三寅正月廿五日一統格方御取立、新番並御鷹方は迄之通

同八未閏二月廿五日休息

才川市左衛門

拾五石三人

文化八未閏二月廿五日父又兵衛休息、家督十五石三人無相違、新番並御

鷹方

同九申十月十九日御趣意有之、新番入

文政四已七月廿日病身二付内願之通休息

才川又兵衛 長太郎

拾五石三人

文政四已七月廿日父市左衛門休息、家督無相違、新番入、御鷹方

天保八酉五月卅日病死

才川又八 外三郎事 篤右衛門

拾五石三人

一天保八酉七月廿日又兵衛病中願之通養子二被仰付、家督拾五石三人ふち

無相違被下置、新御番組へ被入、御鷹方被仰付候

一弘化四未八月十六日不慎之趣相聞候二付遠慮被仰付候

一元治元子七月廿二日今般御趣意二付御鷹被相止候、此段相心得候様被仰

付候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月四日帰

一慶応元丑九月廿二日家屋敷元餌刺頭罷在候家屋敷被下置候

一同二寅八月廿二日実子曾登次郎川戸留吉病中養子願申上候始末、御法通

りも不弁不念之儀有之御取揚無之、恐入伺之上遠慮、九月二日御免

一同年十一月十二日京都詰出立

一同三卯四月四日御上京御供振替り帰

一同年十月十八日第二遊撃隊ト被仰付候

一同廿五日新番組二被仰付候

一同四辰五月十一日今般御趣意二付無役組二被仰付

一同月廿日無役新番組江被入候

一明治二已六月廿六日篤右衛門事又八ト改

一同年八月十四日御広間当番勤被仰付

一同年九月廿九日多年精勤之处御藩制御改革ニ付、為御慰勞金三十五兩被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾五俵四斗五升被下

一 優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同五申正月廿五日老年ニ付倅曾登次郎へ家督

才川曾登次郎 又八寒子倅 妾腹也 明治三午十八歳

〔士族〕

一元治元子六月七日太鼓役御雇被仰付、金七百疋ツ、年々被下置候

一同年十一月十四日御趣意ニ付太鼓役御免被成候

一慶応四辰四月七日太鼓役御雇被仰付、右御雇中月々銀百五拾匁ツ、被下置候

一同年閏四月十一日鳴物方勤中亭人半扶持被下置候

但是迄被下候銀之義ハ已後不被下候

一明治二巳五月廿六日東京江出立、十一月十日帰

一同三午六月十日以雇樂手申付役中給禄米六俵被下候事、但年給式俵

一同年十二月十七日喇叭為修業鯖江藩江被遣候事

但正月十日方罷越

一同月十五日以御雇一等樂手被仰付、御雇中米六俵被下候事

但年給六俵

一同四未十月十三日解隊被仰出候ニ付免職

一同廿九日喇叭手申付候事

一同年十二月廿八日分當常備

一同五申正月廿五日父又八老年ニ付家督

米三拾五俵四斗五升

佐藤<sup>1</sup>

佐藤貞順

廿人扶持

宝曆三酉三月廿八日於江戸被召出、表針医

同年六月廿三日奥御針医

佐藤淳甫

十人扶持

宝曆十辰五月廿五日養父貞順休息、為跡目十人扶持被下、表御針医

但十人扶持被減貞順義御先代方御近習相勤候ニ付、一生銀拾五枚

被下

佐藤宗仙

拾人扶持

宝曆十二午九月廿八日養父淳甫跡目無相違表御針医

佐藤宗甫 隠居

十人 外二五人御足

明和六丑十二月二日養父宗仙跡目無相違表御針医

天明元丑九月廿五日御部屋奥御針医

寛政元酉四月八日御足扶持五人扶持被下置、兼而本道相嗜候付、相望候者二ハ無遠慮致療治候様被仰付

佐藤尚敬 尚慶 御暇

十人

寛政十一己未二月廿八日養父宗甫休足被仰付、家督十人扶持無相違被下置、表御鍼医師被仰付候

文化四卯正月廿三日養父宗甫へ対し取扱不参届、其上不埒之義相聞へ候、依之養父と離縁被仰付、御暇被下候

佐藤宗仙 十歳

十人扶持

文化四卯六月四日佐藤宗甫勤中之儀を被思召、格別之趣を以家名為相統、鈴木源三郎弟十歳を宗甫養子ニ被仰付、御扶持方五人扶持被下置、新番組へ被入

同六巳五月廿二日御留守番組へ被入

同年八月廿九日表御鍼医師被仰付、養父宗甫へ一生被下置候五人扶持御結、都合十人扶持被成下候

同八未五月九日家業不得手ニ付、養父宗甫与離縁被仰付、実家鈴木源三郎へ御返被成候

佐藤昌甫 安節

拾人扶持 外ニ三人御足

文化八未十月二日被召出、佐藤宗甫家名相統被仰付、拾人ふち被下置、

表御針医師并本道兼帶

同九申五月廿三日奥御針医師

文政二卯年二月五日三人扶持御足被下置候

佐藤適斎 長達 昌甫

拾人扶持

一文政十亥九月七日養父碩斎休息、家督無相違表御鍼医師并本道兼帶

一同十一子七月廿五日養祖母身持不宜御屋敷立退、養母儀も不宜趣相聞候ニ付、不調法之事ニ候、依之遠慮被仰付、九月廿九日御免

一天保三辰二月廿八日奥御鍼医師被仰付候

一同七申二月七日松栄院様御附兼帶被仰付候

一同十四卯十二月十九日養母義先年も御咎被仰付、其後心得方も可有之処、先達而方御門外親類共方江罷越居、右逗留中不埒之趣相聞、并養家之伯母義も兼々身持不宜、其上養母同様逗留中不埒之趣相聞候ニ付、兩人共御屋敷立退被仰付、其方義も先達而御門外親類共方江差遣候節、願等も不致其上逗留中不埒之趣有之、從公辺御咎被仰付候義、於他之義与ハ乍申、取締方も可有之処、不参届趣ニ付奥御針医師御免、表御針医師被仰付閉門、且又妻義も慎被仰付候

一嘉永元申四月十八日奥御針医師被仰付、本道兼帶是迄之通相心得候様被仰付候

一同二酉十二月廿八日松栄院様御附被仰付

一安政三辰十月廿二日其身限本道被仰付、奥御鍼医師兼帶被仰付候

一同四巳九月十四日松栄院様御逝去ニ付、御附兼帶之儀ハ御免被成候、且又是迄出精相勤太儀ニ思召候、此段申聞候様被仰出候

一同六未三月十五日御匙医師格ニ被仰付候

佐藤甫<sup>ハジメ</sup> 宗輔 適斎倅

〔士族〕

拾人扶持

一嘉永七寅四月十三日奥御鍼医師、本道兼帶御雇被仰付

一安政二卯七月廿三日被召出奥御医師、御扶持方三人扶持被下置、松栄院

様御附兼帶被仰付候

一同四巳九月十四日松栄院様御逝去ニ付御附兼帶之儀ハ御免被成候、且又

是迄出精相勤太儀ニ思召候、此段申聞候様被仰出候

一同六未十月廿六日中将様へ振退困窮相勤失却等も有之二付、当年<sup>ノ</sup>銀七

枚ツ、年々被下置候

一万延元申十一月九日太田御陣屋詰被仰付、右詰中三人扶持被下置候

一文久元酉十一月十一日親適斎家督拾人扶持無相違被下置、奥御医師是迄

之通御鍼兼帶被仰付、依之是迄被下候銀七枚三人扶持ハ以後不被下候

一同二戌四月三日横浜表江長々出張中出精之段、御褒詞之上銀壹枚被下置

候

一同十三日内願之趣も有之二付御在國中下総佐倉へ罷越、佐藤舜海へ医業

相手寄候様被仰付、且兼而勝手向難渋之旨ニ付、別段之御憐評を以右修

行中御扶持方三人扶持被下置候

一同年十二月廿四日来春中将様御船ニ而御上京被仰出候ニ付、陸通り御先

江出立

一同三亥三月 京都<sup>ヲ</sup>振りニ而江戸へ出立

一慶応元丑閏五月九日酒狂トハ乍申心得違之趣相聞候ニ付、被仰付方も可

有之候処、今般御神忌之折柄ニ付御憐評を以閉門被仰付候、急度相慎可

罷在旨、六月廿九日御免

一同四辰正月廿五日今般御趣意ニ付御国表江引越被仰付、然ル処直ニ詰

一同年三月六日御趣意ニ付支度出来次第御国表へ罷帰候様被仰付、四月十

九日着

一同年四月廿九日家屋舗西山町ニ於而被下置候

一同年五月晦日出精相勤候ニ付御匙医師格被仰付候

一明治二巳二月晦日内務局当番可相勤事

一同年三月廿一日宗輔事甫

一同年七月十七日東京詰早速致出立候様被仰付、八月朔日出立

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三十六俵被下候

一同三年四月七日詰中藩邸御用相勤候付藩<sup>ヲ</sup>御取扱之事、但十五等之御取

扱

一同年六月四日医学所病院詰被仰付、役儀之儀ハ被免候事

但十五等

一年給ハ無之事

一同日詰中は迄之通可相勤事

一同年九月八日大学出仕申付候事、但少得業生席

一同日刑部省出仕申付候事

一同月十八日任小得業生

一同四未二月廿三日東京江家内引越願之通<sup>スツ</sup>

一同年三月十六日以大得業生席北海道寿都詰申付候事

佐藤

2

佐藤專介

〔士族〕

廿三石五人

一嘉永四亥三月廿日かとか

慶応二寅十月廿二日今度御趣意ニ付被召出、新番並組ニ被仰付、御充行之儀ハ廿三石五人扶持被下置候、且又席之儀ハ家督順ニ被仰付候

一同三卯九月廿七日当冬京都御警衛詰被仰付、詰引揚支度出来次第致出立候様被仰付、十月七日出立

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付

一同廿五日新番並組ニ被仰付詰御免、十一月廿二日帰着

一同年十一月十七日先般堺町御警衛向心配相勤候ニ付御酒被下置候

一同四辰五月十一日今般御趣意ニ付無役組へ可被入之处、御広間当番勤被仰付、御留守番組江被入候

一明治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米五十俵壹斗五升被下

一優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同六年四月五日病身ニ付倅寅三郎へ家督

佐藤寅三郎

〔士族〕

一貳拾貳石九斗五升

佐久間

佐久間直 元武生家来 午四十一

〔士族〕

一安政二巳十二月(マ、)

一明治二巳十一月廿五日今般御改革之处物頭已上ニ付士族ニ被仰付、給禄之儀ハ適宜御改正之上更被仰付候事

一同三午正月廿三日米八拾貳俵壹斗貳升壹合

一同年五月廿五日日本多興之輔願之儀ニ付、押而強願申立心得違ニ付謹慎申付、六月十日被免

一同年九月十日日本多興之輔返上屋敷内ニ而貳百六十九坪坪地被下候事

一福井引越被仰付候ニ付、是迄之建物被下候間取払可申事

一家作之儀ハ建被下候事

一家作中寓居御貸渡被成候事

但百日限り御貸渡之事

一同年閏十月五日先達而本多興之輔家從拝借之处返上

一同日予備隊江被入候事

一同月廿五日右名目被廢非役卜唱





四  
福井藩士履歴  
し



嶋田内蔵助 蟄居

七百五拾石

元禄七戌五月廿九日父清左衛門跡目被下

同十四巳六月九日御書院番頭并御奏者被仰付

正徳二辰九月廿六日於江戸御用人被仰付

享保元申九月九日御金為才覚京大坂へ被遣候処、惡所へ罷越不調法二付

拝知被召上、倅宇右衛門へ名字為相続、五百石被下

嶋田宇右衛門

八百石

元禄十丑六月四日奥御小姓被召出

宝永六丑三月五日新知被下

正徳四午五月廿一日番外長袴被仰付

同年六月七日嶋田内蔵助養子被仰付、勤方右之通

同十月七日百石御加増被下、都合貳百石之处

享保元申九月九日養父内蔵助拝知被召上、名字為相続五百石如此、其節

寄合格被仰付

同九辰七月八日御奏者被仰付

同十巳五月十八日於江戸貳百石御加増

同年八月十九日御近習締り役被仰付、席引渡列之上水谷織部次、是迄之

御奏者御免被成

享保十五戌八月六日百石御加増

同年九月十五日御用人被仰付

嶋田清左衛門

六百石

享保十五戌十月廿五日養父宇右衛門休息、拝知八百石之内三百石被減五

百石被下、寄合末席

同廿一辰五月廿一日御側笹治十藏跡

延享元子十月廿一日御奏者

寛延二巳十月七日御書院番頭席引渡佐野又太郎次

宝曆五亥五月廿八日御駕附支配恒岡安左衛門跡

同八寅五月廿八日御近習締り役江戸定御書院番頭御用人御免

明和元申九月廿五日百石御加増、御中老

同二酉十二月十五日御小性支配

同七寅五月十九日思召有之二付御役御免、寄合嫡席

明和八卯六月十一日御藏火消

安永三年六月十四日御留守居佐野又太郎跡

嶋田左門 死

六百石

天明二寅十月十四日父清左衛門隠居、家督無相違、寄合引渡席皆川鞠負

次、同日御側見習

同五巳三月九日御側本役西尾七兵衛跡

同七未正月十五日表御小姓支配

同年三月十四日御形合被相改万端御省略被成候二付御役御免

同八申五月廿二日御用人并二御勝手懸り

寛政元酉閏六月十九日公辺御内御用懸り

同二戌五月廿八日大御番頭多賀谷権兵衛跡

同四子十一月廿一日御書院番頭御用人御奏者兼御徒支配稲葉織部跡

同五丑三月五日御書院番頭二付席壱人御上被成、渋谷他八郎上二被仰付

嶋田清左衛門 大三郎 死

六百石

寛政五丑九月五日嶋田左門病中願之通養子二被仰付、家督無相違被下置、

寄合引渡席毛受榮次郎次

同十二申十月十五日御側役御用人見習酒井十之丞跡、御小性惣支配

享和二戌二月五日御用人本役御奏者兼

嶋田清左衛門 久馬

六百石

文化二丑八月十六日養父清左衛門病中願之通養子被仰付、家督無相違、

寄合引渡席斎藤右近次

同五辰閏六月十六日運正寺火消

同九申十月十九日無役御留守番支配

文化十二乙亥十月十六日大御番頭恒岡安左衛門跡、大御番頭被仰付候二

付、同十一月十六日席一人御上ケ被下、皆川舍人次

文政二卯正月廿五日不慎之義有之付遠慮被仰付、御役御免、席之義壱人

御下斎藤数馬次被仰付候

同三辰三月廿日運正寺火消

同六未十月三日大御番頭雨森源四郎跡

天保五年八月廿八日伺之上遠慮

嶋田近江 志津摩事 清左衛門

六百石

一天保十亥正月廿九日親清左衛門年寄候二付内願之通隠居被仰付、家督六

百石無相違被下置、寄合引渡之席被仰付

一同十一子四月廿五日御側役御用人見習御小姓表御小姓支配被仰付候

一同年九月御用人打込月番相勤候様被仰付

一同十三寅江戸詰被仰付、三月十七日出立

一同十四卯五月四日於江戸表御用人御奏者兼被仰付候

一弘化二巳江戸詰被仰付、三月出立

一同三年九月四日御家譜御用掛り被仰付

一同五申江戸詰被仰付、三月廿九日出立

一同年十二月十五日先達而急御出府之節出精二付御褒詞

一嘉永四亥年江戸御供詰被仰付置候処引揚、二月十三日出立

一同年三月二日御鵜支配被仰付

一同年三月廿二日御世譜書繼御用出精二付御褒詞

一同年十月廿九日来々丑年迄詰越被仰付候、同六丑四月廿日帰着

一同五子六月十四日御鷹支配被仰付、御鵜支配之儀者御免被成候

一同年十月十八日御書院番頭御用人御奏者兼御馬支配渋谷権左衛門跡被仰

付、来春迄其儘江戸表二罷在候様被仰付候

一同六丑年正月六日慎姫様御縁組二付御用懸り被仰付候

一同年十一月十六日今般十ヶ年之間無類之御省略被仰出候二付、御省略御

内調懸り被仰付候、依之御家格御仕来事無貪着取調可相違旨

一同七寅正月十日謚姫様御縁組ニ付、江戸詰中取調御用掛り出精ニ付御褒詞

一同年八月朔日御番割御用掛り被仰付

一安政元寅十二月廿二日今度御改正ニ付、御軍帳定懸り被仰付候、依之海岸御備組之儀も相心得候様被仰付候

一同年十二月廿八日近江と名替

一同二卯二月六日当年中山道御通行被遊候ニ付、一人ニ而致御供候様被仰付候

一安政二卯三月十四日御軍制御改正御用掛り格別骨折相勤候ニ付御褒詞、依之御目録御三所物一箱被下置候

一同年江戸御供詰

一安政三辰三月十二日火之御番御用相勤太儀ニ思召、御召御給一銀一枚被下置候

一同日右同断格別出精相勤候ニ付、御目録銀七枚被下置候

一同年四月三日江戸御往来御供壺人ニ而相勤候ニ付、御目録御召御給一被下置候

一同年八月朔日御番割御用掛り被仰付候

一同五年十月十八日今度北国筋湊々見分為御用公儀御役人被差越候ニ付、右御用掛り被仰付候

一同年十一月朔日支度出来次第出府被仰付、同九日出立

一同年十二月廿八日来々申年迄詰越被仰付候

一同七申正月十四日御本丸御普請ニ付、鳥子紙御献上被成候ニ付、当分御用掛り被仰付候

一同年二月廿六日太田御陣屋御普請御用掛り出精ニ付、御召御給一銀三枚被下置候

一同年三月十五日御供ニ而帰着

一万延与改元、同年四月十三日多年出精相勤御用弁宜ニ付、格別之思召を以御役儀其儘御取扱御側御用人同様被仰付、此表御代拜御先番并泊り番之儀ハ御用捨被成候

一同年八月朔日御番割御軍帳御用掛り被仰付候

一同二酉正月廿日御国馬御端立ニ付、右掛り被仰付候

一同年十二月十一日御側御用人被仰付候

一文久二戌八月十六日殿様御縁組御用も有之ニ付江戸詰被仰付、閏八月十八日出立

一同年十月廿五日中午将様御上京御供被仰付、御道中御書院番頭勤向之儀も相心得候様被仰付候

一同年十一月十日殿様御縁組御用掛り被仰付候

一同三亥正月廿三日中午将様御船ニ而御上京被遊候ニ付御供

一同年二月十八日於京都御内御用有之、早速出府可致旨被仰付、早駆ニ而出立

一同廿六日於江戸御前様安姫様一旦御国表へ被為入候旨被仰出候ニ付、御供被仰付、三月六日出立、廿三日帰着

一同年八月十九日今度三ノ丸御座所向御普請御用掛り被仰付候

一同年九月廿一日御用有之立帰上京被仰付、支度出来次第出立被仰付、廿三日出立、十月九日早駆ニ而帰着

一同年十月十三日中午将様御供ニ而上京

一同年十一月廿日御用向有之ニ付早急立帰出府被仰付、右ニ付為失却金三

十両被下置、同月廿六日着府

一同四子正月四日京都二而当御時態二付、御勝手向之儀別而御掛念被思召候二付、掛り同様厚致心配候様被仰付候

一同年二月十八日今般中将様京都御守護職被為蒙仰候二付、早駆二而帰着一元治と改元、三月五日御軍制取調御用掛被仰付

一同十八日御手元御用有之二付、乍太儀立帰上京早速可致旨被仰付、同日出立、四月二日帰着

一同年五月十八日宰相様御上京以来御職務中御内用向厚相心得、格別骨折相勤御満足ニ被思召候、依之白鞘御刀被下置候

一同年八月廿七日上京、九月十七日出立、廿二日京江江戸へ早駆二而着、同廿六日折返シ帰京、十月四日京都御国へ早駆二而着、同七日折返シ出立、同十一月二日病氣ニ付願上大坂へ帰着、同日病死

嶋田重民<sup>シゲタミ</sup> 三十郎 志津摩

六百石

〔士族〕

文久二戊閏八月十八日親同道願之上江戸詰

一同三亥正月中将様御上京被遊候二付上京

一同年三月十六日京都へ帰着

一元治元子十二月六日親近江家督六百石無相違被下置、寄合引渡之席被仰付候

一同月賊徒一件之節御留守御用相勤候二付、御手当五百三拾三匁被下

一慶応元丑十二月廿八日志津摩与名替

一同二寅十一月廿三日運正寺火消被仰付候、卯正月廿二日仲ケ間内二而一

人ツ、罷越候様被仰付

一同三卯正月廿二日下馬御門并三ノ丸御座所御門御預ケ被成候御警衛向厚相心得相勤候様被仰付、依之風廻り之義ハ御免被成候

一同四辰六月 補兵隊差配会征二付被仰付

一同年八月廿二日右差配御免被成、且又兼而御供被仰付置候事故、御出馬之節ハ被召連筈之旨被仰付

一明治卜改元、九月廿九日公務方被仰付、支度出来次第京都詰被仰付、十月十日出立

但公務方被仰付候二付中ノ口致往来候様被仰付

一同年十一月廿一日御附御小姓同御膳番同御馬廻并御書院番役御番在京之面々当分仮支配被仰付

一明治二己二月十二日中納言様御免駕後御国表へ罷帰候様被仰付

一同年三月廿六日御近習被仰出候

一同年十一月七日御家従被仰付候事

但奥詰

一年給式俵被下候事

一同年同月廿五日今般御改革、更給禄式百十九俵弍斗七升一合被下

一同三午七月廿四日御家従被免第一大隊一番小隊江被入候事

一同年十二月八日常備一番隊 年給六俵

一同四未四月二日東京詰出立

一同年十月三日解隊、十一月帰

一同五申五月志津馬事重民

嶋田 2



嶋田九郎左衛門

拾八石三人

天保三辰十二月十六日御取立被成、新番格へ被仰付

同十一子三月十六日小普請方被仰付、新御番組へ被入

同十二丑四月五日御泉水番岩佐平太夫跡

天保十二丑十一月廿日御作事方改役榎並左次右衛門跡

同十四卯二月十六日荒子頭市村惣右衛門跡被仰付

天保十四卯年十二月五日休息

嶋田九郎左衛門 鉄太郎事

拾八石三人

一天保十四卯十二月五日親九郎左衛門家督拾八石三人ふち無相違被下置、

新御番組江被入候

一嘉永七寅七月 病死

嶋田雪谷 廉三郎 範左衛門 多司摩

拾八石三人

〔士族〕

一嘉永七寅八月五日兄九郎左衛門病中願之通養子被仰付、家督拾八石三人

扶持無相違被下置、新御番組へ被入候

一安政元寅十二月廿八日範左衛門卜名替

一同五年四月廿一日姉美服心得違之義有之二付遠慮伺之上指扣、同十三日

御免

一元治元子二月廿五日御広敷添役被仰付

一同年十二月賊徒一件、御留守御用御手当百匁被下

一慶応二寅十月廿二日役新番組二被仰付候

一同年十月廿九日御趣意銀御貸方被仰付候

一同四辰五月十一日今般御趣意二付役中御留守番組江被入候

一同年六月五日病身二付御役御免被成、無役新番組江被入候

一明治二己六月廿一日範左衛門事多司摩卜改

一同年八月十四日御広間当番勤被仰付

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三十九俵四斗三合被下、予備隊

一同三年十月三元御鷹部屋二而百八十坪坪地被下候

一同年閏十月廿五日予備隊名目被廢非役卜唱

一同四未三月十七日先般被下候坪地更二御用二相成候事

一同五申五月多司馬事雪谷

洪谷

洪谷權左衛門

五百石

於松岡御奏者、御相続後

享保七寅三月九日於江戸五十石御加増、都合三百五十石、同日御奏者被

仰付

同十一年十月廿九日百石御加増

延享元子四月十六日大御番頭、五拾石御加増都合五百石、稲葉要人跡、

席引渡磯野多宮次

寛延元辰九月十九日死

渋谷権左衛門

六百石

寛延元辰閏十月十一日父権左衛門跡知無相違被下、席富永新左衛門次  
宝曆三酉十月五日御側御小性支配富永新左衛門跡  
同十二年正月十六日御用人  
明和三戌五月晦日御中老、御足高百石御小性支配  
安永七戌十一月朔日百石御加増、御足高ハ上ル  
寛政二戌正月廿一日御小性支配御免

渋谷権左衛門

六百石

寛政二戌三月十二日父権左衛門隠居、家督無相違被下置、寄合引渡席菅  
沼七郎左衛門次  
同六寅八月廿八日御用人見習御側役惣御小性支配  
同八辰四月十一日御用人御奏者兼  
文化三寅八月十二日御書院番頭渡辺十郎左衛門跡  
同十二亥十二月十九日於江戸出精二付席御上ケ中根鞠負次、御泉水屋敷  
御地面之内十間通り南御堀際より北土手迄添地被下置  
文政五年七月廿九日渡辺十郎左衛門養子取扱心得違有之、遠慮被仰付

渋谷権左衛門 均事

六百石

一文政七申閏八月朔日父権左衛門隠居被仰付、家督無相違被下置、寄合引  
渡席雨森源四郎次被仰付

一同月七日御用人見習被仰付

一同八酉年江戸詰被仰付、三月四日出立

一同九戌二月三日今般御家督被蒙仰候二付、江戸表方右早駆御用二而到着

一同年五月十六日御用人御奏者兼被仰付候

一同年十二月十六日威徳院様御石塔御用掛り出精二付御褒詞

一同十亥年江戸詰被仰付、三月廿八日出立

一同十子四月廿九日御鵜支配被仰付候

一同十二丑十一月廿九日若殿様御用人兼被仰付候

一同十三寅十一月御書院番頭被仰付、席一席御上ケ被成、来々辰年迄詰越

被仰付、若殿様御附御用人兼被仰付

一天保三辰四月廿二日若殿様御傳役御用向も相兼長々事多被相勤候二付、

御目録銀式枚被下置候

一同四巳年若殿様御傳役見習被仰付

一同五午江戸詰被仰付、二月廿日出立

一同六未六月十一日超倫院様御逝去二付御役御免、御近習二被差置候

一同七申正月廿日御書院番頭御用人御奏者兼御馬支配天方孫八跡被仰付

一同年四月十六日御家譜御用掛り被仰付候

一同八酉三月晦日江戸詰被仰付出立

一同九戌三月十九日謹姫様御婚姻被為濟御用掛り出精二付、御召御小袖一

銀式枚被下之

一同年四月十六日昨年火之御番御用二付御用掛り相勤候二付、御召御給一

被下之、外二銀三枚被下候

一同十亥当秋江戸詰被仰付、八月廿二日出立

一同年九月十三日今般於御国諦観院様御靈屋御普請出来候処、御用掛り出

精二付御召御帷子一被下之

一同年十二月十一日御屋形御普請御用掛り出精二付御褒詞

一同十二月丑当秋江戸詰被仰付、八月廿二日出立

一同十三寅九月四日御側御用人差支之節代り御供相勤、且又火之御番二付御出場御供同人相勤候二付銀壹枚被下之、将又詰中火之御番格別出精相勤候二付銀五枚被下之

一同十四卯五月廿五日昨年江戸詰中火之御番御用出精二付、御召御給一被下之

一同年十二月廿八日当秋神田橋御住居江御立寄、御用掛り出精二付御褒詞  
一弘化元辰五月十六日今度御帰国御道中御供壹人二而相勤候二付、御召御帷子一被下之

一同年正月十四日江戸御供詰二而出立、同五月十一日帰着  
一同三年十月十三日出精相勤候二付、於御前白鞘御刀被下置候

一同四未江戸詰被仰付、三月十九日出立

一同年九月十二日今般公方様神田橋御住居へ御立寄、御用掛り出精二付御褒詞

一嘉永元申六月五日急御出府御供二而出立、同七月御供二而帰着、右二付十二月七日御褒詞

一同年六月廿六日今度御帰国御道中御側御用人代り兼被仰付候

一同三戌十月廿九日思召を以泊御番御免、御留川定拝領被仰付、小鳥札被下置候

一同四亥三月十七日御世譜書継御用出精相勤太儀二思召候、此段申聞候様被仰出候

一同年江戸御供詰

一同年十二月十六日中将御拝任二付御用懸り被仰付候

一嘉永五子閏二月十五日御昇進御用掛り出精二付、御目録銀壹枚被下置候

一同年五月十六日今度御帰国御道中御供壹人二而相勤候二付、御目録御召御帷子一被下置候

一同年八月朔日御番割御軍帳御用掛り被仰付候

一同年九月廿八日多年格別出精被致候二付、御用人御奏者兼其儘御取扱御側御用人同様被仰付、御書院番頭御馬支配御免、江戸詰之儀も御用捨、且又御世譜并海防御取調御軍帳御用掛り等之儀、是迄之通相勤候様被仰付候

一同六丑八月五日此度相州浦賀表へ異国船渡来二付御人数繰出候処、御用弁二相成候義年来之心配故と御褒詞

一嘉永七寅四月十一日公儀御代替二付御判物御朱印郷村高辻帳被仰出、右御用掛り被仰付候

一同年九月六日近來病所爾々不致二付、内願之通御軍制御改正御用掛り御免被成候

一安政元寅十二月廿二日御軍制御改正二付、海岸御備組之儀御軍帳御用掛り江附属被仰付、依之海岸御軍帳懸り御用捨被成、心付之儀も有之候ハ、申談候様被仰付候

一同二卯正月廿八日追々及老年且足痛も爾々不致候二付被致隱居度段、毎々之内願無余儀趣二相聞候得共、年来之義も被心得居候事故其儘相勤候様被仰付、是迄勤向之義二付被仰出候廉も有之候得共、月番当番共御用捨被成下、平日出勤之義も不相替候節ハ不及断、致勝手次第候様被仰出候

一同年四月十一日御判物御朱印郷村高辻帳御改御用掛り出精二付御褒詞

一安政四巳六月廿日近來足痛有之、其上老年ニ相成再応内願も有之二付、願之通隱居被仰付候、依之御側御用人隱居同様之御取扱ニ被成下候、且又長々相勤太儀ニ被思召候、依之御召御羽織被下置候

渋谷弥税

六百石

一安政四巳六月廿日養父權左衛門義近來足痛有之、其上老年ニ罷成再応内願も有之二付願之通隱居被仰付、家督六百石無相違被下置、寄合引渡之席被仰付候

一同六未十月十一日御側役御用人見習御小姓表御小姓支配并前田万吉徳山唯一支配被仰付候

一同年十二月五日御用人月番打込相勤候様被仰付候

一万延元申五月四日当秋江戸詰被仰付置候処、細川越中守様御大病ニ付、

御前様為御見舞詰引揚支度出来次第出府被仰付、十三日出立

一同年六月十九日宿次御奉書を以暑中御尋有之候ニ付、御礼使者御趣意ニ付御国使者之趣ニ付右御使者被仰付候間、乍太儀相勤候様被仰付候

一同年九月廿四日詰中横浜御警衛御用掛り被仰付候

一文久元酉四月九日当秋可罷帰之処、御都合も有之二付勝手次第致出立候様被仰付、五月三日帰着

一同十五日御用人御奏者兼被仰付候

一同年五月廿日御備組調練掛り被仰付候

一同二戌三月廿日御軍帳掛り被仰付候

一同年四月廿日江戸詰中横浜表江臨時致出張、太儀之段御褒詞

一同三亥三月十六日江戸詰被仰付、支度出来次第致出立候様被仰付、廿七

日出立

一元治元子三月三日帰

一同年十月十六日長征出陣、丑二月四日帰

一慶応元丑閏五月五日御鵜支配被仰付

一同年七月廿四日御調御用有之二付右掛り被仰付候

一同二寅十一月十日御趣意ニ付御鵜支配之儀ハ御免被成候

一同三卯二月廿七日今般殿様御立帰御上京被遊候ニ付御供被仰付、三月十日出立、四月四日帰

一同四辰正月廿九日御用有之二付早速上京被仰付、出立

一同年四月五日北陸道惣督御通行之節心配相勤候ニ付、御褒詞於御国被仰出候

一同年閏四月十三日從京都帰

一明治ト改元、十月廿二日今般御趣意ニ付御右筆部屋被相止、依之御役義御免被成、御近習ニ被指置候

一明治二巳五月廿五日下午馬御門并三ノ丸御座所御門御警衛被仰付、同廿七日三ノ丸御警衛持切

一同年十月十日今般御改革ニ付、御門所御警衛被免候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米貳百拾九俵壺斗七升壺合被下

一同三年三月八日屋敷地之内東ノ方御用地ニ被仰出候事

但坪数之儀ハ追而可為指図事

一同年四月二日居屋敷御用地ニ被仰付、本多興之輔揚屋敷地之内ニ而代り地被下候事

但建物引料取調之上被下候事

一坪数之儀ハ追而御指図之事

一同月廿二日先般屋敷代地本多興之輔元屋敷地二而被下候処、御都合二付  
元小学校之内二而家作共被下候事

但坪数家作場所之儀ハ追而相達候事

一同年五月十八日内達之趣有之二付、先般被仰出候通本多興之輔返上地之  
内相当之坪数、更ニ屋敷替地被下候事

但在来之家作被下、引料之儀ハ元小学校取繕被下候修復料之積リ

ヲ以被下候事

ノ

一同月十七日田原下丁多平卜申者、屋敷地之内百坪余以相对抱屋敷ニ仕度、  
尤地子米之儀ハ地主江指出候旨願之通被仰付  
一同年七月九日病氣ニ付願之通隱居

渋谷均

米貳百十九俵壹斗七升壹合

〔士族〕

一明治三午七月九日病氣ニ付願之通隱居被仰付、家督米貳百十九俵壹斗七  
升壹合無相違被下、修業列被仰付候事  
一同年閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱  
一同五申七月廿五日右均病死ニ付弟外人江家督

渋谷外人

米貳百十九俵壹斗七升壹合

〔士族〕



2

渋谷与五左衛門

百石

寛文十一亥九月廿五日養父次郎左衛門跡目百五拾石被下

貞享三一統半減

宝永五子正月五日清照院様附被仰付

正徳二辰九月五日豊姫様附被仰付

同三巳十月晦日豊姫様附御免、此席へ被仰付

渋谷与五左衛門

百石

享保二酉六月十九日父与五左衛門隱居、家督無相違被下、大番入

同九辰九月廿一日御金奉行坂部三五右衛門跡

渋谷五郎右衛門

百石 役料百五十石

元文二巳二月十六日父与五左衛門跡目被下、大番入

宝曆十二午二月五日与内立合森田安兵衛跡

明和元申九月十六日御金奉行溝口小一右衛門跡

同五子正月十六日郡奉行大谷儀右衛門跡、役料五十石

同年四月十六日遠慮

同年七月朔日当春御城下町筋騒敷候節、取扱不参届ニ付役義御免、末ノ

番外被仰付、此節差扣

安永二巳閏三月十五日御徒頭酒井市十郎跡、御役料百五十石

同四未二月十四日御預所郡奉行河合権右衛門跡、席御先物頭格

同七戌八月十二日御先物頭大野左七郎跡

渋谷五郎右衛門

百石

天明七未三月廿四日父五郎右衛門隠居、家督無相違、大御番入  
寛政二戌二月廿日御小性見習

同年九月十五日御近習番河合安之進跡、御書院番入

同六寅十月十日御小性

同九巳六月十六日奥御納戸格御近習番御供頭御書院番入、平岡金左衛門

跡

同十一未九月十六日表御小性被仰付

文化十一戌十二月九日表御小性筆頭

同十四丑正月廿一日御時宜役被仰付

文政三辰ノ四月廿日御留守物頭瀬尾太郎左衛門跡被仰付

同八酉九月病死

渋谷与五左衛門

百石

一文政八酉十月廿五日父五郎右衛門家督無相違被下置、大御番組江被入

一天保二卯江戸詰、三月十七日出立

一同七申江戸詰、四月十五日出立

一同十一子江戸詰、四月十四日出立

一弘化四未二月十四日無役御留守番世話役佐野雄藏跡被仰付、御留守番組

江被入

一嘉永四亥年十月廿九日御金奉行金子六右衛門跡被仰付候

一同五子三月十六日柔術出精二付御書院番組へ被入、役儀之儀ハ御免被成候

一安政四巳四月十四日格式末ノ番外被仰付、且又倅定次郎義武芸出精二付、銀三枚ツ、年々被下置候

一同六未三月廿日年来柔術相心掛候趣師役方内達も有之二付、御下緒一掛被下置候

一同年八月十六日病死

渋谷宇平 定次郎 五郎左衛門

百石

安政二卯三月十六日出淵年中出精、就中寒稽古出精二付、御持御扇子二本被下置、且又村田昨年中皆勤二付御褒詞

一同三辰五月廿二日武芸出精二付御下緒一掛被下置候

一同四巳四月十四日右同断二付銀三枚ツ、年々被下置候

一同廿二日此度三ノ丸惣武芸所御集被成候二付出淵稽古所詰、且又村田久

野詰同様被仰付候

一同五午三月廿日武術厚心懸候二付猶以広く致修行、可然候間江戸并会津常陸辺江も罷越厚致精練候様被仰付、右修行在江戸中三人扶持被下置候

一同年九月廿五日他国修行被仰付、太儀二付銀老枚被下置候

一同年十月五日武芸厚心懸候二付同所詰被仰付、其身修行ハ不及申、相弟子引立方致心配候様被仰付候

一同六未十月八日親与五左衛門家督百石無相違被下置、大御番組へ被入候、

武芸出精二付是迄年々被下置候銀三枚之儀ハ以後不被下候事、但当年之



儀ハ無減被下置候

一同七申閏三月十二日武芸引続出精之趣、師役方内達も有之二付、修行中銀五枚ツ、年々被下置候

一文久元酉五月廿日武芸出精ニ付御書院番組へ被入候

一同年十月廿日御近習番被仰付候

同三亥二月十日殿様御上京御供ニ而出立、三月六日御供ニ而帰着

一同三亥三月廿七日今度蒸気船御出来ニ付、為運用長崎表江罷越候様被仰付候、四月三日出帆、五月十四日帰

一同年八月十七日御参府御供出立、十二月江戸方御上京御供、子二月御帰

国御供ニ而帰着

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑三月帰

一慶応元丑閏五月十八日御書院番其儘二番之補兵隊筆頭役被仰付、且又年

来武芸厚心掛候ニ付銀五枚御増、都合拾枚ツ、年々被下置候

一同二寅正月六日五郎左衛門与名替

一同三卯正月廿四日御徒副頭被仰付、末之番外格ニ被成下、御役料廿五石被下置候

御役料被下置候ニ付、是迄年々被下置候銀拾枚之儀ハ以後不被

下候

一慶応三卯十月十八日席御役料其儘半小隊長被仰付

一同年十一月二日宰相様御上京御供出立、辰三月十一日帰

一同四辰三月七日昨年来格別骨折相勤候ニ付御褒詞

一同年六月廿五日会征出立、十一月十三日帰、巳二月廿二日出張ニ付十五

両被下候、外千五百疋

一明治二巳二月十六日四番小隊長被仰付、月給七十俵、御役料ハ不被下候

一同年六月廿六日五郎左衛門事宇平卜改

一同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米六十俵四斗三升六合下賜

一同月廿七日今般御改革ニ付解隊被仰出、当役被免候事

一同三午四月廿五日戌辰北越出張各所攻撃勉勵ニ付、御賞典之内二十石十

ヶ年令頒授候事

一同年五月廿四日柔術教導被仰付候事

一同月 今度南之方地続久連松元作拝借罷在候御茶園地、元作土着ニ付建物相對ヲ以譲受、右地所相当之地子上納ニ而、解借願之通被仰付候

一同年十二月十二日任准二等教授

但柔術懸り 年給四十五俵

一同四未八月病死

渋谷精 謙太郎 宇平弟 明治三年二十歳

〔士族〕

一明治二巳五月十七日生兵教授方手伝被仰付

一同年九月四日兵学為取調西京江罷越候様被仰付、同十三日出立、午三月

廿二日帰

一同月十二日今度他国修行ニ付為戎服料金札拾両被下候事

一同三午四月三日歩兵所手伝被仰付候事

一同日仏式伝習中勉強ニ付金貳千疋被下候事

一同年五月廿四日歩兵訓導試補被仰付候事 但上級

一同年九月五日今朝体操始業ニ付登校仕候処、生徒出勤無之卜相心得進退

不相伺自己ニ退校不念ニ付、遠慮伺之上指扣、同八日御免

一同年十二月十二日 年給十六俵 八俵高

一同四未九月廿四日養父宇平家督被仰付、給禄従前之通被下候事

一米六拾俵四斗三升六合

一同年十二月廿一日生兵教授方相勤候二付金三百疋被下候事

一同廿八日軍曹心得勤、分営常備小隊、二月彦根出張

一同五申謙太郎事精卜名替

一同年五月三日陸軍権曹長二番小隊附



白石十郎右衛門

二百五拾石

享保五子六月十九日父要人跡目

同十四酉四月五日御先物頭津田惣左衛門跡、役料百石

延享元子ノ十一月三日御旗奉行坂野次部右衛門跡

同三寅六月廿八日新番頭山本源左衛門跡

明和五子七月六日当役長々相勤松岡已来家筋二付本番外被仰付、尤新番

頭御免、役料ハ上ル

白石十郎右衛門 隠居

貳百五拾石 役料百石

安永二巳八月十一日父十郎右衛門隠居、家督無相違、番外席荒川孫六次

寛政九巳九月廿日触頭役料百石被下、荒川十右衛門跡

文化三寅七月十日寺社町奉行与力御預ケ奈良太郎右衛門跡

同五辰七月廿二日病身内願二付御役御免、御役料其儘御近習二被指置

文化六巳年隠居

白石十郎右衛門 老之丞

貳百五拾石

文化七午二月廿日養父十郎右衛門年寄隠居、家督無相違、番外席大宮忠

左衛門次

文政七申八月六日触頭鈴木彦太夫跡被仰付、御役料百石被下置

天保四巳二月十九日金津奉行平本藤七郎跡被仰付

同七申正月廿日病身二付御役御免、御役料其儘被下置御近習二被差置、

鈴木彦太夫家屋敷へ替被下

同十亥正月廿九日隠居

白石十郎右衛門 十郎助

貳百五拾石

一天保十亥正月廿九日親十郎右衛門年寄候二付内願之通隠居被仰付、家督

無相違被下、定座番外被仰付候

一嘉永五子九月廿八日触頭本多五郎右衛門跡、御役料百石被下置候

白石小十郎

〔士族〕

貳百五拾石

安政四巳四月十四日年中荒川支合皆勤二付御褒詞、且又鰥淵昨寒稽古中

数多支合二付御褒詞

文久三亥八月廿日親十郎右衛門年寄、其上病身二付内願之通隠居被仰付、

倅小十郎へ家督貳百五拾石無相違被下置、定座番外二被仰付候

元治元子四月十一日今般御軍帳御割替二付、農兵二組酒井外記方江御附

被成候二付、其手江属シ外記方江厚申談致世話候様、且又農兵之儀二付而ハ掛り西尾十左衛門江申談候様被仰付

一同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一慶応四辰六月四日席其儘御馬廻被仰付候

一明治ト改元、十二月十三日殿様御上京御供出立、巳二月 帰

一同二巳十一月七日御家従被仰付候事

但御近習勤

一月給米一年分六俵被下候事

一同年同月廿五日今般御改革、更給禄米百廿六俵四斗三升四合被下候

一同四未四月五日当分年給 十四級 式拾貳俵壺斗八升貳合四勺

一同年五月八日御家従被免候事



### 下山清左衛門

三百石

延宝八申二月廿八日御小姓被召出

元禄十丑十一月四日新知百石被下

同十五年十一月十日於江戸百石御加増

宝永六丑七月四日百石御加増

正徳元卯十一月七日御側物頭被仰付

同四年十一月五日奉行職被仰付、飯沼官兵衛跡

同六申正月十八日病身二付御役御免、此席へ被仰付

享保七寅六月十八日陽寿院様附被仰付、小寺作右衛門跡

同九辰十一月廿五日病身二付御役御免

### 下山甚兵衛

三百石

享保十一午三月廿一日父清左衛門隠居、家督無相違、大番入

同十七子三月十六日大番六番筆頭

同十九寅六月六日御水主頭岩上梶太夫跡

寛保二戌六月十八日御目付同人跡

延享三寅五月十八日御役御免御先物頭格

同四卯九月廿三日御先物頭富田平藏跡

### 下山清左衛門

三百石

明和三戌五月十七日父甚兵衛隠居、家督無相違、大番入

天明三卯九月十六日御使番鈴木牛兵衛跡

同八申八月廿八日御先武頭鈴木小兵衛跡

文化六己巳年二月十八日内願二付隠居被仰付候

### 下山清左衛門 甚兵衛

三百石

文化六巳ノ二月十八日親清左衛門年寄内願隠居、家督無相違、大御番入

文政七申五月三日五番之筆頭役山本源左衛門跡被仰付

同十一子二月十五日御使番林惣兵衛跡

文政十二丑三月廿九日杉形御鐘奉行中川惣右衛門跡

文政十三寅八月廿八日御先物頭中川惣右衛門跡被仰付

天保三辰八月七日御持弓頭屋敷奉行兼市村久太郎跡

天保八丁酉七月十一日御側物頭杉浦雄藏跡被仰付候

### 下山彦三

三百石

一天保八酉十一月十一日親家督無相違被下置、大御番組へ被入

一安政三辰十月十七日御使番役猪子丈右衛門跡被仰付候

一安政四巳十一月廿三日御先物頭武田藤三郎跡被仰付候

一万延元申九月三日太田御陣屋詰出立

一同十二日右詰中表御門預り并御奉行取扱候御用向取扱被仰付候、且又御

用火消出馬被仰付候

一文久元酉四月十日詰中通用御門預り并御奉行取扱候御用向、右同断被仰

付候

一同五月廿四日御奉行取扱候御用向取扱御免被成候

一同年九月七日横浜表江長々致出張候段、御褒詞之上御手綱三被下置候、

十月七日帰着

一同三亥二月十日殿様御上京御供二而組之者召連出立、三月十六日御供二

而帰着

一同年八月朔日御目付役村田巳三郎跡

一同年十二月十四日来子年江戸詰被仰付

一元治元子三月十日出立

一同年七月八日来丑春迄詰越被仰付

一同二丑二月廿五日御側物頭千本藤左衛門跡被仰付候、且又交代迄ハ是迄

之役筋相勤候様被仰付候

一同年四月十六日江戸表帰

一慶応二寅七月六日三ノ丸御座所預り被仰付

一同年十月廿六日席其儘御持物頭被仰付

一同月廿八日病死

### 下山ヒサシ 岩五郎 彦三倅

三百石

一文久元酉八月廿日当節柄御人少ニ付修行旁江戸詰被仰付、御扶持方五人

扶持被下置候、九月四日出立

一同年十二月廿八日岩五郎事尚与名替

一同二戌十月四日当戌ノ冬方来亥ノ春迄学問為修行、立花飛驒守殿藩中池

部藤左衛門与申者大坂表ニ罷在候ニ付、此者へ相手寄修行致度旨願之通

被仰付、然処九日願下ケ

一同十二日此儘詰罷在来春御上洛之御供相勤申度願之通被仰付候

一同三亥正月廿三日中将様御船ニ而御上京被遊候ニ付御供、三月廿五日御

供二而帰着

一同年七月八日上京被仰付、相止

一同年八月十日御参府之節為御警衛垂井辺迄御供被仰付候、同月廿日大坂

御泊方京都江罷越

一同四子正月廿八日御都合も有之二付御国表へ罷帰候様被仰付、二月五日

帰

一元治元子二月廿三日滞京中不行状之趣相聞候ニ付、移りを以御叱り被成

候ニ付慎、三月廿日御免

〔士族〕

一 同年六月廿五日宰相様再度之御上京中格別骨折相勤太儀二思召候、依之銀式枚被下置候

一 同年十月十六日長征出陣、丑正月京都江、夫方願之上親為介抱江戸表江罷越、四月同道帰

一 慶応元丑閏五月十八日二番之補兵隊伍長被仰付

一 同二寅四月十五日兵科取調被仰付候

一 同年五月七日兵学所詰被仰付候

一 同年七月九日御含御用有之二付芸州地へ被指出、支度出来次第一旦上京之上罷越候様被仰付、十二日出立之处彼地之模様相変り候二付、途中方引返し十四日帰

一 同年八月十六日御含御用有之二付長崎へ罷越候様被仰付、同十九日出帆、十月帰

一 同年十二月十八日親彦三家督三百石無相違被下置、大番組江被入候

一 同年同月廿六日嚮導被仰付

一 同三卯正月九日軍事方被仰付、役御番組へ被入候

一 同年四月廿日夜廻り相勤候様被仰付候

一 同年七月十一日明道館学諭被仰付、軍事方之儀ハ御免被成候

一 慶応三卯八月十六日弟雄五郎遠慮被仰付候二付伺之上指扣、同廿三日御免

一 同四辰正月十三日御用有之二付支度出来次第上京被仰付候、同日夜出立

一 同年同月十六日参与附属被仰付

一 同年八月十三日京方着、同月十七日引返上京、已七月十七日帰

一 明治二已七月廿六日司計局承事被仰付候事

但三等官木内甚平次

一月給米一年分七十俵被下候事

一 総会所掛り被仰付候事

一 同年八月十七日御用有之二付金沢藩江罷越候様被仰付、同廿五日出立、九月十日帰

一 同年十月十一日千本弥三郎東行中幹事代御用可相勤事

一 同年十一月朔日任権少参事

一 同日司計局承事更二被仰付候事

但三等官井上徹上 月給是迄之通

一 同月廿一日司計局幹事被仰付候事

一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米百四拾六俵壹斗壹升四合被下

一 同三午六月四日任福井藩少参事、右宣下候事

一 同年七月四日学校幹事被仰出候事

但医学科病院可為専務事

一 同四未正月廿九日御用有之二付東京江可罷越事、二月四日出立

一 同年二月三日藩制改革二付本官被免候事

一 同日任権少参事

但勤向従前之通

一 同年四月八日当分滞京被仰付藩庁御用可相勤事

一 同月十八日依願弟確二貫雄清江給禄米百四拾六俵壹斗壹升四合之内三拾

六俵ツ、分禄被仰付候事

米三拾八俵壹斗壹升四合

一 同年五月十九日東京ヨリ帰、但同月三日帰藩被仰付如此

一 同年六月朔日今般御改正二付、官員減省御窺可相成二付不及出仕候事

一 同二日藩庁出仕被仰付候事

一同年八月二日依願臈庁出仕被免候事

一同十九日任福井県少参事

一同年九日太政官<sup>〆</sup>御達ニ付東京へ出立

一同十八日被免本官大蔵省七等出仕

一同年 任度会県参事



### 下山半左衛門

貳百五拾石

延宝元丑十二月十六日父半左衛門跡知五百石無相違被下

但貞享三一統二半知被下

### 下山半左衛門

貳百五拾石

正徳三巳閏五月十三日父半左衛門家督無相違被下

享保二酉八月廿三日大番一番筆頭被仰付

同五子七月廿一日御使番千本藤左衛門跡

同十三申四月廿九日病氣ニ付御使番御免、大番入、役料上ル

同十五戌九月五日御杉形奉行渥美利右衛門跡

同十七子七月廿一日御預所郡奉行小川次兵衛跡、席御先物頭順座

元文元辰六月十五日御預所務方被仰付

延享二丑五月廿五日御役御免、席御先物頭次

### 下山半左衛門

二百五拾石 役料百石

享保十五戌十二月廿八日奥御小性被召出

同十七子九月十九日新知百石

同十八丑四月十六日奥御納戸御書院番入

同廿卯正月十五日御膳番

寛保二戌八月廿五日御書院番筆頭

延享三寅五月廿八日御使番、五十石御加増役料百石、高田金太夫跡

同四卯八月廿五日御部屋御徒頭御小性部屋へ罷出、御前向御用可相勤旨

寛延三年十一月朔日御徒頭御免、席御側武頭格津田藤左衛門次

宝曆六子八月廿九日養父半左衛門隠居、家督無相違、勤方は迄之通

宝曆八寅四月廿九日御側勤御免、御近習ニ被指置

同年十二月十一日於江戸御側武頭長谷川次郎左衛門跡、来春御国へ引越

候様

明和四亥九月廿五日倅勝次郎不届之致方有之ニ付御預被成、仍之御役御

免被成、末ノ番外此節遠慮

安永五申七月十五日御留守物頭小栗八郎兵衛跡

同七戌正月十六日御先物頭河崎三郎助跡、御役料百石

### 下山半左衛門

貳百五拾石

安永七戌十二月廿六日父半左衛門跡知無相違、大番入

天明四辰九月廿四日御小性

同五巳七月廿六日於江戸御近習番本多平五郎跡、御書院番入



同八申六月廿一日御小性

同年十月十五日御小性頭取雨森藤四郎跡

寛政二戌二月廿日奥御納戸格御近習番、勤方平之通、御書院番入

同年八月三日御裏役、奥御納戸次席

同三亥十一月廿九日奥御納戸上月源右衛門跡

同十一未九月十八日御用人支配、中将様御附

同十二申正月廿日御附御近習番頭取

享和元酉八月三日役義取扱不参届遠慮被仰付

同三亥ノ年正月廿四日御使番加藤源八郎跡

文化元子六月十九日杉形御鍵奉行上月武左衛門跡

同八未二月七日御先物頭須崎三郎右衛門跡

同九申八月十九日御持弓頭屋敷奉行兼上月武左衛門跡

同十酉二月廿七日病氣二付御役御免、御先物頭次席

同十一戌六月五日内願隠居

# 下山半左衛門 鉄蔵 五郎左衛門

貳百五拾石

文化十一戌六月五日父半左衛門病身内願隠居、家督無相違、大御番入

文政十二丑四月廿九日養子鉄蔵不慎之義有之遠慮、半左衛門義遠慮伺之

上指扣

文政十三寅六月十一日筆頭役稲葉源右衛門跡

天保五年十一月廿五日格式末之番外被仰付

天保十亥九月十六日隠居

# 下山七郎左衛門 作馬 七郎左衛門 半左衛門 善右衛門

貳百五拾石

一天保十亥年九月十六日養父半左衛門病身二付内願之通隠居被仰付、家督

貳百五拾石無相違被下置、大御番組江被入

一弘化元辰年江戸詰被仰付

一嘉永元申年江戸詰、四月十二日出立

一同四亥年江戸詰

一安政元寅十二月廿八日善右衛門与改

一同六未六月十七日此度横浜御警衛二付詰被仰付候処、願之上倅惣十郎為

代番出立

一同七申三月廿九日御書院番組へ被入候

一文久二戌十二月廿八日七郎左衛門与名替

一同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日御供二而帰着

一元治元子二月廿日格式末之番外二被仰付、支度出来次第上京被仰付、滞

京中御取次被仰付候、三月三日出立

一同年四月廿三日宰相様御供二而帰

一同年五月十一日倅惣十郎御咎被仰付候二付伺之上遠慮、廿一日御免

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之御酒

被下置候

一同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑閏五月廿一日御使番格二被成下、御役料之趣を以廿五石被下置

候

一同二寅十一月三日今度御変革之御趣意二付、御広間当番勤被仰付候

一同三卯二月廿五日年寄候二付隠居

下山登 実七郎左衛門孫

〔士族〕

貳百五拾石

文久三亥十月十三日中将様御供ニ而上京

一元治元子四月廿三日御供ニ而京方帰

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折候ニ付、銀壺枚被下置候

一同年十二月賊徒一件出張、御手当貳百匁被下

一慶応元丑閏五月十八日一番之補兵隊被仰付候

一同年六月廿四日新撰農兵差配役助被仰付候

一同三卯正月十一日差添被仰付候

一同年二月廿五日祖父七郎左衛門年寄候ニ付隠居被仰付、家督貳百五拾石無相違被下置、大御番組へ被入候

一同年十月十九日京都御警衛増詰出立

一同年十二月六日二条御城方御下り之節御供罷在候処締り方不参届、伺之上遠慮、同十日今度非常之義ニ付御免

一同年十二月十六日後拒役被仰付、役中以来其隊之上席ニ被仰付

一同四辰二月廿九日京都方帰

一同年四月廿五日遊撃隊分隊長被仰付、勤中其隊之上席ニ被成下

一同年九月十日御警衛詰上京

一明治卜改元、十一月五日御含御用有之ニ付東京表江罷越候様被仰付、翌六日出立

一同二巳二月六日殿様御供ニ而京方帰

一同年六月五日明新館生長被仰付

一同年十二月廿七日今般御改革ニ付当役被免

一同月 今般御改革ニ付、更ニ給禄米百廿六俵四斗三升四合被下

一同年十二月十二日柔術世話役被仰付候事、身分支配是迄之通八等之事

一同三午五月十五日去ル十日夜行之節、永見数馬町人体之者ト突当り組合候節、大勢ニ而致打擲候次第心得方不宜、已来右体心得違無之様支配頭

江御移リヲ以御異見被成候事

但伺指出候処不及其儀旨

一同月廿四日柔術准教導被仰付候事

一同年六月十四日御用有之ニ付伏見迄罷越候様被仰付、同日出立、同廿七日帰

日帰

一同年七月九日ルセー御雇入途中致心配候ニ付金千疋被下候事

一同年十二月八日任少尉兼三等教授 年給三十六俵

但常備第四小队柔術掛り

一同四未正月十四日御用有之ニ付海津駅迄罷越候事

一同年四月廿五日依願給禄之内四拾俵弟碩哉江分禄被仰付候事  
米八拾六俵四斗三升四合

一同月十九日東京区兵増詰被仰付、五月朔日出立

一同年九月二日御改革ニ付三等教授之儀ハ被免候事

一同年十月十三日解隊之处東京府御用ニ而居残り 区兵



四王天又兵衛

百石

元禄十五年四月廿九日父又兵衛跡知被下、舟橋役其儘  
寛延四未七月廿二日休息

四王天又兵衛

百石

寛延四未七月廿二日父又兵衛休息、家督無相違被下、船橋役父之通、御留守番入

四王天又兵衛

百石

明和元申十二月十六日父又兵衛休息、家督無相違、御留守番入、舟橋役  
文化元子八月朔日末ノ番外、舟橋役其儘被仰付候、席猪子六左衛門次  
同五辰十月隠居

四王天又兵衛 又八

百石

文化五辰十月十六日父又兵衛隠居、家督無相違、御留守番入、親之通船  
橋役

四王天又兵衛 又八

百石

一文政十二丑正月十六日親又兵衛家督無相違被下置、御留守番組江被入、  
親之通船橋役被仰付候

一安政四巳四月十四日年来柔術厚相心掛重キ年数ニも相進候二付、花葵御

紋附御扇子一本被下置候

一同日年来剣術出精二付右同断被下置候

一同年九月九日病死

四王天<sup>キヨシ</sup>潔 作太郎 又兵衛

百石

〔士族〕

一安政四巳十月廿九日親又兵衛家督百石無相違被下置、親之通舟橋役被仰付、御留守番組江被入候

一同六未七月廿九日伯父忠次出奔二付遠慮伺之上差扣、八月四日御免

一同年十月五日伯父忠次令出奔候始末、兼而取締方不参届趣相聞遠慮、同

十九日御免

一万延元申五月廿日、当月十一日九頭竜川稀成洪水之处、舟橋手当格別行届趣御褒詞

一万延元申十二月廿八日又兵衛与改

一文久二戌十月六日今度農兵御端立二付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候

一元治元子十二月賊徒一件之節御留守御用相勤候二付、御手当式百匁被下

一慶応二寅十月十三日先達而九頭竜川洪水之節々、励丹精舟橋持堪候段達

御聴尤二被思召候、依之三骸被下置候

一明治二巳六月廿一日又兵衛事潔卜改

一同年八月廿七日以当役農民政務局庶務方被仰付候事

但引立方

一月給米一年分十五俵被下候事

一同年十一月廿一日今般御改革二付当役被免候事

一同日民政局少属被仰付候事

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下

一同三年十二月十二日任准権少属 年給貳拾壹俵

但民政寮勤仕

一同四未六月朔日御改正ニ付免職

一同廿四日任福井藩少属、往還道方兼宿駅方

一同年八月十四日土木方ヲ被置候ニ付自今申談可取扱事

一同年十二月廿日依願免本官

一同五申年東京出、入間県官員奉職

一同六年五月三十一日東京ニ而病死ニ付倅数馬へ家督

#### 四王天数馬

一

〔士族〕

シホノヤ  
塩谷

塩谷貞右衛門

初宗兵衛後藤兵衛又十太夫其後貞右衛門、但定之字相用候  
義も有之

百石

延宝六年四月十一日府中<sup>方</sup>被召出、御手廻

宝永五子閏正月十七日新知被下、相身跡末席

此後代や二出、但山田与改

嶋津<sup>1</sup>

嶋津庄左衛門

拾人扶持

元禄七戌四月廿一日父庄左衛門為跡目被下

当御代父庄左衛門御取立

嶋津勝右衛門 休息

廿五石五人

宝永五子三月十八日養父庄右衛門跡目

正徳四年二月十六日二人扶持増被下

享保七寅冬御番割之節順席

同十巳三月廿九日表御小性、貳拾五石五人被成下

同十九寅十月九日御小性御免、大番入

延享元子十一月十五日御次詰

同四卯十一月五日御裏役

寛延四未四月十一日役御取上、大番入

清浄院様御代祖父庄右衛門御取立

嶋津十太夫 死

百石

宝暦十一巳四月廿五日父庄右衛門休息、家督貳拾五石五人無相違、大番入、其身此節迄御徒目付也

明和四亥二月廿六日御次詰、御書院番入

同五子八月十二日御小道具方大野十左衛門跡

安永七戌二月七日於江戸新知百石

嶋津十太夫 十五郎 十太夫 喜太郎

百石

天明二寅四月廿九日父十太夫跡知無相違、大番入

寛政三亥九月十一日妻離縁之義ニ付遠慮

寛政十年七月廿九日御広式御用達御留守番入

享和元酉五月廿八日於江戸御附御小性御用人支配

同年八月三日御附御近習番御用人支配

同三亥十一月十六日御趣意ニ付御免

文化元子三月廿三日御預所御金奉行御留守番入

文化七年六月十日御勘定拝借奉行石川甚左衛門跡

文化八年辛未九月十一日病身内願ニ付役義御免、大御番入

同十四丑三月四日大馬印奉行高坂金右衛門跡

文政六未年十二月三日御留守物頭御鷹方兼帯長谷川源之進跡被仰付

文政十二丑二月十六日御先物頭杉浦雄藏跡、御役料百五十石、高江又五

郎御屋敷替被下

天保四巳三月十五日隠居

嶋津庄左衛門 龜吉

百石

天保四巳三月十五日親十太夫隠居被仰付、家督百石無相違被下置、大御

番組へ被入候

嘉永二酉八月 於江戸表病死

嶋津武門<sup>タケト</sup> 徳次郎 十太夫 拾五郎

〔士族〕

百石

一嘉永二酉九月廿八日於江戸表養父庄右衛門家督無相違被下置、大御番組

江被入、於御右筆部屋来春迄詰被仰付候

一同六丑三月十九日江戸詰出立、同七寅四月廿四日帰着

一同七寅年三月廿三日御殿山江出張二付、御下緒沓掛ケ被下置候

一万延元申閏三月廿二日太田御陣屋詰出立

一同年七月九日御供皆勤ニ付御褒詞

一文久元酉二月廿九日大御番無役組世話役林鉄之進跡被仰付、大御番無役

組へ被入候

一文久元酉四月十六日帰着

一同廿五日太田御陣屋詰中横浜表江長々致出張候二付、銀沓枚被下置候

一同二戌九月八日大御番無役組被相止候ニ付御書院番組へ被入、役儀之儀

ハ御免被成候

一同年十月六日今度農兵御端立二付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候

一同三亥二月十日殿様御上京被遊候二付御供、三月六日帰着

一同年十月十三日中将様御供ニ而上京

一元治元子四月廿三日御供ニ而帰

一同年五月二日京都御間番役見習末ノ番外席御役料五十石被下置候、且又

在京中御扶持方拾人扶持被下置、将又家内共引越被仰付、同廿一日引越

出立

一同年九月九日為失却金三拾両ツ、年々被下置候

一元治元子十月十四日此表不容易御時態ニ有之候処、格別致心配候ニ付銀

式枚被下置候

一同二丑二月十二日出精相勤候ニ付御役料五拾石御増、都合百石被下置候  
一慶応元丑閏五月五日役中御扶持方拾五人ふちニ被成下候

一同年十月五日京都方早駆ニ而着、直様折返し出立

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千弍百疋被下置候  
候

一同年五月廿日御聞番本役被仰付御使番順席ニ被成下、御役料都合百五拾石被下置候

但右本役被仰付候ニ付役中御扶持方十七人半扶持、外ニ失却金五十兩ツ、年々被下置候、且又是迄被下置候十五人ふち金三十兩之儀ハ已後不被下候

一同三卯正月十二日御召御上下一具被下置候

一同四辰閏四月七日席御役料其儘御広敷御用人被仰付

但転役被仰付候ニ付、是迄被下候十七人半扶持并失却金五十兩之義ハ已後不被下候

一同十六日福山金十郎家屋敷被下置候

一同年五月廿六日家内引越帰着

一同年八月廿九日京都御聞番役中出精相勤候ニ付、御紋御上下一金弍千五百疋被下置候

一明治ト改元、九月十四日御役料其儘御使番役被仰付

一同二巳二月十六日守城承事被仰付、但御座所預り之事、席其儘

月給弍拾俵

一同年三月十七日御広間番頭被仰付

一同日徳川新三位中将様へ御使者被仰付、来月十日迄ニ駿府へ着ノ心得を以致出立候様被仰付、四月四日出立、同廿六日帰

一明治二巳六月十六日十太夫事拾五郎ト改

一同年十月六日拾五郎事武門ト改

一同年十一月十日今般御改革ニ付御広間当番被廢、依之役儀被免候事

一同月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下候

一 予備隊

一同三閏十月廿五日右名目被廢非役ト唱

一同四未二月十四日族長被仰付候事

但役給十弍俵被下候事

一同年六月十五日族長被免候事



嶋津運平

拾八石三人

享保十九寅六月六日役人方御取立、三石御加増、十八石三人扶持被成下、新番並

元文三年八月廿一日新番入

延享二丑正月廿六日死

嶋津右太夫

拾八石三人

延享二丑三月十六日養父運平跡目被下、新番入

明和五子十月廿日御広式御用達南部次右衛門跡

同七寅閏六月廿日御花畑絵奉行原田惣太夫跡、御留守番入



寛政四子九月十四日御留守武具奉行鈴木多兵衛跡

同六寅十月五日御定之年数相満候二付相身跡末二被仰付

同九巳正月廿五日不調法有之、新番組へ御下被成、閉門被仰付

嶋津右太夫 右平太

拾八石三人

寛政十年三月廿日父右太夫病身二付内願有之、休息被仰付、家督無相違被下置、新番入

享和二戌八月廿五日川除奉行野田喜右衛門跡

文化七年十一月十一日川除吟味役兼帶

文化八未九月十一日御勘定所吟味役川路長兵衛跡、御留守番入

文化十三子十二月十一日御代官松原次郎左衛門跡被仰付候

嶋津右太夫 右平太

廿石四人

一文政十三寅六月五日養父右太夫年寄休息、家督拾八石三人扶持無相違被

下置、無役御留守番組江被入

一天保五年九月三日大御番組江被入

一嘉永元申十二月五日用水奉行南部源兵衛跡被仰付

一同四亥六月廿九日御勘定吟味役被仰付候

一同年十一月三日御預所并御領分村々、丸岡領樋爪為安兩村与十郷用水路

論出訴一件先役中出精二付御褒詞

一同五子七月晦日江戸詰出立、同六丑九月廿三日歸着

一同年九月二日詰中表御納戸掛り被仰付

一同六丑年正月六日愼姫様御縁組二付御用掛り被仰付候

一同年二月十日御武具御修復御用掛り被仰付候

一同年七月朔日御武具御修復御用掛り被仰付候処、心配相勤候二付御目録

百疋被下置候

一同年十一月五日今度大砲御製造二付右掛り被仰付候

一嘉永七寅正月十一日愼姫様御縁組江戸詰中取調御用掛り出精二付、銀拾

五匁被下置候

一同年六月十九日用水奉行秋田左太夫跡、但役席安原拾五郎上

一安政元寅十二月五日今般大橋御修復御出来之処、先役中右御用掛り出精

二付金百疋被下置候

一同六未二月五日年来武芸厚心掛候二付、御足充行式石老人扶持被下置候

一万延元申九月朔日順席二被成下候

一文久元酉十月五日御代官役被仰付、御足充行式石老人扶持其儘被下置候

一文久二戌六月廿五日御預所御代官役坂上彦八郎跡被仰付、御足充行式石

老人扶持其儘被下置

一同年十二月十一日年来武術厚心掛候二付、御足充行式石老人扶持御加増、

都合廿石四人扶持二被成下候

一元治元子八月 休息

嶋津水門 右太夫 五百里

廿石四人

〔士族〕

安政四巳四月廿二日三ノ丸惣武芸所御集被成候二付、村田詰被仰付候

一同七申正月廿五日当申年太田御陣屋御雇詰被仰付、詰中御扶持方三人扶

持被下置候、閏三月廿四日出立

一文久元酉四月帰着

一同廿五日太田御陣屋御雇詰被仰付候ニ付銀式枚被下置、且又横浜表江長々致出張候ニ付、銀壹枚別段金貳百疋被下置候

一文久二戌十一月廿九日武芸出精之趣師役方内達も有之ニ付、修行中銀式枚ツ、年々被下置候

一同年十二月十二日中将様御上京御供御用ニ付江戸表江出立之处、御都合ニ付途中より京都へ

一同三亥三月廿五日右御供ニ而京より帰着

一同年八月廿一日早速上京被仰付、廿二日出立

一同四子正月廿八日御都合も有之ニ付御国表へ罷帰候様被仰付、二月五日帰

一元治元子二月廿三日滞京中不行状之趣相聞候ニ付、移りを以御叱り被成候、依之慎、三月十六日御免

一元治元子三月廿九日、一昨戌十二月江戸表江罷出中将様御供ニ而京都表江可罷越等ニ而此表致出立之处、俄御船行相成候ニ付途中より京都江罷出、

夫より大坂へ為御迎罷越御供ニ而京都江到着之处、失却も有之趣ニ付金壹両為御手当被下置候

一同年六月廿五日宰相様再度之御上京中格別骨折相勤太儀ニ思召候、依之銀式枚被下置候

一同年八月廿六日親右太夫義年寄候ニ付休息被仰付、家督廿石四人扶持無相違被下置大御番組被入候

一同年十月十五日長征出立、丑二月三日帰

一同年十二月右太夫卜名替

一慶応元丑十一月晦日大坂表江出張

一同二寅九月十八日帰

一同三卯十二月十二日急々上京被仰付十三日出立之处、御模様ニ付途中より引返シ帰

一同四辰正月八日又々急々出立上京、閏四月十二日帰  
一慶応四辰六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張ニ付十三両被下候、外二百疋

一明治二巳二月十八日大砲隊彈藥預り被仰付

一同年六月十六日右太夫事五百里卜改

一同月廿八日大砲彈藥差配方被仰付候事

一同年十月二日五百里事水門卜改

一同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米四拾五俵壹斗四升四合

一同月廿七日右同断ニ付当役被免 予備隊

一同三年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉励ニ付、御賞典之内十石十ヶ年令頒授候事

一同年閏十月廿五日予備隊名目被廃非役卜唱



下川弥次右衛門

貳拾石四人

貞享元子十二月十一日父弥次右衛門跡目被下处、其以後御暇被下

吉江ニ而父弥次右衛門御取立

元禄六酉十月十三日帰参被仰付、右同日御具役如前被仰付

享保七寅冬御番割之節順席被仰付

同九辰十二月廿一日御貝吹之儀を御免、但御貝役之面々へ指南可致旨被仰付

申九月十六日休息

### 下川武太夫

貳拾石四人

享保十三申九月十六日父弥次右衛門休息、家督無相違被下、大番入、此節迄自分ハ御徒相勤

### 下川武右衛門 三右衛門

百石

享保十四酉十二月十六日兄武太夫願之通養子ニ被仰付、武太夫病氣ニ付休息、跡目被下、大番入

寛延四未二月廿日御手廻五石壺人扶持御加増、御書院番入

宝曆七丑九月十三日御駕附

明和四亥二月十二日役義御免、大番入

同五子七月廿三日御留守武具奉行小堀伝右衛門跡、御留守番入

同七寅閏六月廿日御持武具奉行本儀長藏跡、御書院番入

安永五申十月十九日御近習番格御持武具奉行御免

同十丑正月十五日新知百石

天明八申五月廿二日年来武芸相心掛候ニ付末ノ番外被仰付

### 下河三右衛門 病死

百石

寛政元酉三月五日父武右衛門跡知無相違被下、大番入、御儒者見習其儘

同三亥九月廿日当番心得違之趣有之遠慮

同四子正月廿日御儒者見習相勤候ニ付御番御供御免

同十午十一月廿五日御書院番組へ被入、御近習番格

### 下河半藏 直太郎

百石

寛政十二申四月廿九日父三右衛門跡知無相違被下、大番入

### 下河三右衛門 三作事 直吉事

百石

一文化九申四月廿五日養父半藏家督百石無相違被下置、大御番組へ被入

一同十三子十一月九日御小姓被仰付

一同年同月廿二日表御小姓高島八十次郎跡被仰付

一天保十亥正月廿九日末之番外被仰付

一弘化四未二月十二日御留守物頭望月八郎右衛門跡被仰付

一嘉永三戌六月三日御水主頭畑中藤八郎跡被仰付、御役料百五拾石被下置、

藤八郎罷在候御役屋敷へ替被下

### 下河治平 三之助 三右衛門

百石

〔士族〕

一嘉永五子六月十七日親三右衛門年寄候ニ付隠居被仰付、家督百石無相違

被下置、大御番組へ被入候

一同年同日秋田作太夫家屋敷へ替被下

一同六丑七月廿日此度思召を以支度出来次第江戸表へ罷出、砲術訓練致修行候様被仰付、御扶持方三人ふち被下置、同廿五日出立、同七寅四月廿日帰着

一同七寅三月廿三日御殿山江出張ニ付御下緒沓掛ケ被下置候

一安政六未五月廿四日横浜御警衛ニ付詰被仰付出立、万延元申四月廿日帰着

一万延元申七月十一日右詰中臨時横浜へ出張ニ付御褒詞

一文久元酉八月廿一日江戸詰出立、戌九月十八日帰着

一同二戌十二月廿八日三右衛門与名替

一同三亥二月八日年始御規式中表御小姓御雇精勤ニ付、金百疋被下置候

一同年七月八日支度出来次第上京被仰付候

一元治元子七月朔日上京、八月廿四日帰着

一同年十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀六百匁被下置候

一同二丑三月九日江戸詰出立、翌四月十七日帰

一慶応二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同三卯五月廿九日与内立合岸五郎左衛門跡被仰付

一同年七月廿一日御預所御金奉行高畠金太夫跡被仰付、御留守番組江被入

候

一明治元辰十二月二日御金奉行被仰付、役御番組江被入、但役席矢野権平

次

一同二巳四月廿日今般御改革ニ付役儀被免、御広間当番勤被仰付

一同年六月廿日三右衛門事治平卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下候

一 予備隊

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱



嶋川門太夫 隠居

百石

延享二丑五月廿九日小役人方新番へ御取立、式石御加増、御右筆見習御

家老中御用も同事、近藤十兵衛指図受可申旨

寛延三年四月十五日五石式人扶持御加増、御右筆本役、御書院番入、御

家老中御用可相勤旨、順席

安永五申五月十一日新知百石

天明四辰十月八日末ノ番外

嶋川源右衛門

百石

天明五巳九月廿三日父門太夫隠居、家督無相違、大番入

同月廿五日御小性

同七未四月十三日御形合被相改、御省略ニ付御小性御免、大御番入

寛政七卯十一月十日御小性高田三郎左衛門跡

同八辰四月十五日御小性頭取

同十午正月十九日不心得之趣有之御小性頭取御免被成、御小性ニ被仰付、

遠慮

同十一未二月廿八日御小性頭取被仰付

文化四卯三月十五日勤其儘格式末ノ番外、御用人支配

同六巳八月廿一日此度隆徳院様御逝去二付、御役御免被成席其儘

嶋川千太郎

百石

文化十二亥十一月廿八日父源右衛門病身内願二付隠居、家督無相違、大

御番入

文化十三子九月病死

嶋川源右衛門 熊五郎事 門太夫事

百石

一文政十三子十月廿日養父千太郎病中願之通養子二被仰付、家督百石無相

違被下置、大御番組へ被入

一文政十二丑六月廿七日御趣意二付御国元へ家内共引越被仰付

一同年八月五日表御小姓被仰付、来子年迄詰被仰付

一天保十三寅四月五日御書院番組へ被入、但表御小姓御免

一同五年八月廿五日願之上立帰出府、同十月廿五日帰着

一嘉永三戌三月十六日末ノ番外御時宜役被仰付

一同六丑八月十六日大馬印奉行国枝小兵衛跡被仰付候

一安政四巳二月十五日御使番格二被仰付、御役料之趣を以廿五石被下置、

役儀之儀ハ御免被成候

一同六未十一月十一日御役料其儘、御留守物頭武田藤三郎跡被仰付候

一万延二酉二月九日席其儘金津定番松原四郎兵衛跡被仰付、御役料都合百

五拾石被下置候、右二付家屋敷是迄松原四郎兵衛罷在候御役屋敷へ替被

下候

一文久三亥八月四日年寄候二付隠居、然ル処同八日榊原幸八肥後表江御使被仰付候二付、罷帰候迄是迄之通相心得候様被仰付

嶋川源八 久三郎 久左衛門

百石

文久三亥三月十一日当亥年芝御陣屋御番士御雇詰被仰付、詰中御扶持方

五人扶持被下置候、同廿六日引揚被仰付出立

一同年八月四日親源右衛門年寄候二付隠居被仰付、家督百石無相違被下置、

大御番組江被入候、且又家屋敷粕谷雄藏家屋敷へ替被下候

一同年十二月 於江戸表久左衛門卜改

一元治元子七月四日京都表へ出立、八月廿四日帰着

一同年十月十四日長征出立、丑正月帰

一同二丑正月廿七日賊徒警衛敦賀江出張、三月朔日帰

一慶応二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年十二月廿八日御趣意二付御留守番組江被入、御広間勤被仰付

一同四辰五月十一日今般御趣意二付無役組二被仰付

一明治二巳六月廿一日久左衛門事源八卜改

一同年七月十日病身二付内願之通隠居

嶋川耕造 熊三郎

百石

〔士族〕

一明治二巳七月十日養父源八儀病身二付内願之通隠居被仰付、家督百石無

相違被下置、無役組江被入候事、但源八実弟也

一同年八月十四日予備隊被仰付

一同年九月二日三番遊撃隊江被入候事、但席淺見平内次

一同月廿七日以遊撃隊生兵教授方手伝被仰付候事

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下候

一同三年五月廿四日第一大隊三番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備三番隊 年給六俵

一同四未四月十九日東京区兵詰被仰付、五月朔日出立

一同年十月十三日解隊、十一月帰

一同年十二月 熊三郎事耕造卜名替

白井

白井茂左衛門

式拾石三人

延宝三卯年被召出歟、倅被召出

鳥越御屋敷奉行元禄十五年三月十三日於江戸被仰付

白井茂左衛門

百石

享保元申十二月九日養父茂左衛門家督無相違、御留守番入

同十巳十一月廿六日五石式人扶持御加増被下、中奥御小姓被仰付

同十五戌正月十六日於江戸両御屋敷御庭役被仰付、江戸定

元文三年四月二日新知被下之

寛延二巳七月九日御納戸

宝曆三酉八月五日御役御免、其儘御近習相詰可申旨

白井荒四郎

式拾五石五人

延享四卯十二月五日御部屋御小姓被召出、並之御切米被下

宝曆五亥四月廿九日父茂左衛門休息、家督百石無相違、御小姓其儘

同八寅四月十七日御代替二付御小姓御免、御近習二被指置

同年五月廿八日中奥

同十四申二月八日江戸定御裏役

明和二酉九月廿五日役義御取上ケ、拜知被召上、廿五石五人扶持被下、

大番入

同四亥閏九月廿五日家内不締り二付格式御下ケ被成、新番入、閉門

同六丑六月五日大番入

同日御小姓被仰付

白井斎宮

廿五石五人

安永七戌十月七日養父荒四郎休息、家督無相違、大番入

天明三卯十一月二日御小性於江戸

同五巳正月十五日御近習番格、御書院番入

同年十二月廿六日御裏役横川庄三郎跡

寛政三亥二月十四日御附御近習番

同四子十一月廿九日不宜義相聞候二付役儀御免、大御番入遠慮

同七卯八月九日御裏役横川喜一郎跡、御書院番入

同十二申正月十五日御附奥番



文化六巳八月廿一日此度隆徳院様御逝去二付、御附奥之番御免被成、大御番入

同七午四月十五日御裏役御書院番入

白井茂兵衛 留之助事

百石

一文化十一戌二月廿六日父齋宮跡目廿五石五人扶持無相違被下置、大御番組へ被入

一同十五寅三月廿八日若殿様御相手恒五郎様御附兼帯被仰付候

一文政三辰五月十五日同御附御小姓被仰付

一同十二丑十二月十一日若殿様御附御小姓被仰付候

一天保六未五月廿九日超倫院様御逝去二付御附御小姓御免、大御番組へ被入

一同年六月五日奥御納戸役被仰付、御書院番組へ被入

一同年九月五日今度御代替二付御役御免被成、御書院番組其儘御近習二被差置候、勤方之儀ハ追而可被仰付候、御用筋之義ハ先是迄之通可申談候

一同年同月廿九日奥御納戸役被仰付候

一同十一子三月廿三日奥御納戸役其儘御近習番頭取岩城藤左衛門跡被仰付

一同十四卯五月十六日役義其儘格式末之番外被仰付、御充行拾七人扶持二

御直シ被下

一同十五辰十一月三日御使番格御時宜役被仰付、席高村長作次

一弘化三年四月廿四日新知百石

一同五申二月朔日松栄院様御附御広敷御用人見習御水主頭次席被仰付、御役料都合百五拾石被下置候、謹姫様貞照院様御用取扱被仰付候、且又靈

岸島御屋敷御目付仮被仰付、并同所仮新御殿御預ケ被成候、埴原三十郎申談可取扱旨

一嘉永二年十月十九日御上屋敷大奥向御普請御用掛り出精二付、銀式枚被下之

一嘉永二酉十一月二日勇姫様御入奥二付当常盤橋之方相勤候様、同年十二月十六日如元

一同年十二月十五日今般御婚姻御用掛り出精二付、御召御小袖一銀式枚被下之

一同四亥四月九日先達而神田橋御住居両御丸様御立寄二付御裏詞

一同五子四月廿五日御住居御普請御用掛り出精二付、御目錄銀式枚被下置候

一同年十一月二日謚姫様御用取扱被仰付置候処、御免被成候

一同六丑二月九日松栄院様花之頃浜御庭へ被為入候御沙汰二付、取調御用掛り同様被仰付候

一同七寅三月十八日病死

白井<sup>ヒサト</sup>久人 幾太郎 齋宮

〔士族〕

百石

一嘉永七寅四月九日親茂兵衛跡知百石無相違被下置、大御番組へ被入候

一安政五年八月七日中将様御附御小姓

一同六未二月三日御役名御附御近習与被仰付候

一文久二戌六月十四日中将様御附御近習頭取定助被仰付候

一同三亥正月廿三日御供二而上京、三月廿七日京江へ出立  
一同年四月廿七日御国江引越着

- 一 同年十月十三日中將様御供二而上京
- 一 同四子正月九日御附御小姓頭取被仰付候
- 一 元治元子四月廿三日右御供二而帰着
- 一 同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀二思召候、依之御酒被下置候
- 一 同年八月九日於毛屋町新規出来之家屋敷被下置候
- 一 同年十二月賊徒一件二付出張、御手当銀六百匁被下置候
- 一 慶応元丑十月朔日宰相様御出坂御供出立、同三日今庄方御引戻二付帰
- 一 同年十二月廿八日齋宮与名替
- 一 同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月同断帰
- 一 同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰
- 一 同年十一月二日右同断出立、辰八月十一日帰
- 一 明治元辰十月四日上京、巳正月七日帰
- 一 同年十二月朔日御附御側勤被仰付、席末ノ番外格二被成下、年々銀廿枚之当りを以被下置候、席井原立二次
- 一 同二巳二月十五日御役名御近習頭試補卜被仰付 月給廿俵
- 一 明治二巳四月九日中納言様御供二而東京江出立
- 一 同年六月齋宮事入人卜改
- 一 同年九月廿四日從二位様内務局頭取被仰付候事
- 同日当役ヲ以庶務取締被仰付候事
- 一 等級并月給米是迄之通
- 一 同年十一月十五日高村高留守中御家從頭仮被仰付候事
- 一 同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下
- 一 同年十二月十五日帰藩被仰付、正月三日帰

- 一 同三午二月朔日内務局頭取其儘、庶務取扱被仰付候事
  - 一 同日当職ヲ以中興取扱被仰付候事
  - 一 同年八月十五日内務局頭取被免、庶務主事被仰付候事
  - 但内務局二而取扱来候御用向從前之通可相心得候事
  - 一 同月十九日高村高帰東迄、御家從頭取監正寮之儀兼勤相心得候様被仰付候事
  - 一 同四未二月十六日執事被仰付候事
  - 一 同年四月五日当分年給 十式級 四十三俵九升壹合式勺
  - 一 同年五月七日御側勤被仰付、執事御用之儀も相心得候様被仰付候事
  - 但等級是迄之通
  - 一 同日家族引越被仰付候事
  - 一 同五申八月晦日御書下ケ二而免職
  - 一 同日正二位様御附御側勤被仰付候事 月俸廿五兩
- 白崎
- 白崎甚兵衛
  - 拾八石三人
  - 天明二寅十二月十六日小役人方御取立、新番入、御勝手役其儘
  - 天明八申七月廿九日御借米掛り被仰付置候処、不参届趣有之二付御勝手役御免、遠慮
  - 同年九月五日御勝手帰役
- 白崎源右衛門 死

拾八石三人

寛政六寅五月廿日養父甚兵衛家督無相違被下置、新番組へ被入  
享和二戌十月五日御前様附、御広式添役

白崎清左衛門 清太郎

拾八石三人

享和三亥十一月廿五日養父源右衛門跡目無相違、新番組へ被入

白崎甚兵衛 是方以前御記録ニ有之

拾八石三人

一嘉永元申十二月廿八日御趣意ニ付、先年小役人席へ御下ケ被成候処、此  
度思召を以、以前之通新御番入、元御充行拾八石三人フチ被下置候  
一文久二戌八月廿五日御定之年数相満候ニ付大御番組へ被入、役儀之儀ハ  
御免被成候

一元治元子十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀三百匁被下置候

一慶応二寅四月十一日年寄候ニ付休息

白崎仁内 甚太郎

〔士族〕

拾八石三人

一慶応二寅四月十一日親甚兵衛年寄候ニ付休息被仰付、家督拾八石三人扶

持無相違被下置、大御番組へ被入候

一同三卯三月十日御上京御供、直ニ御警衛詰、七月十八日帰

一同四辰四月三日京都御警衛詰出立、閏四月十五日帰

一同年九月八日御警衛詰上京、十一月十六日帰

一明治二巳四月九日中納言様御供東京江出立、十月十三日帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

一同三年六月廿二日第一大隊五番小隊入被仰付候事

一同年七月十七日甚太郎事仁内卜改

一同年十月三日居屋敷地更ニ拝地ニ被成下候事

一同年十二月八日常備三番隊 年給式俵

一同四未十月十三日解隊

鳴瀬

鳴瀬東右衛門

廿三石五人

一天保十四卯十二月六日かとく

慶応二寅十月廿二日今度御趣意ニ付被召出、新番並組ニ被仰付、御充行  
之儀ハ廿三石五人扶持被下置候、且又席之儀ハ家督順ニ被仰付候

一同月廿六日御城代方御改正掛り被仰付

一同年十一月廿九日御城代方調役被仰付

一同三卯三月七日年寄腰痛ニ付内願休息

鳴瀬源哉 幸太郎 源兵衛

〔士族〕

廿三石五人

慶応三卯三月七日親東右衛門年寄腰痛ニ付内願之通休息被仰付、家督廿

三石五人ふち無相違被下置、新番並組江被入候

一同年九月廿七日当冬京都御警衛詰被仰付、詰引揚支度出来次第致出立候

様被仰付、十月七日出立

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付

一同年十一月十七日先般御警衛向心配相勤候二付、御酒被下置候

一同年十二月廿八日幸太郎事源兵衛卜改

一同四辰二月晦日帰

一同年四月廿五日遊撃隊江被入候

一同年九月朔日彈藥預り小銃取扱方兼被仰付、役御番組江被入、二番小隊

江附属被仰付、早々越後表江出張被仰付、同六日出立、巳二月六日帰、

同廿二日右出張ニ付御手当五兩被下候

一明治二巳二月廿七日大砲彈藥預り被仰付

一同年六月廿六日源兵衛事源哉卜改

一同月廿八日無役新番並組江被入、役義之儀ハ被免候事

一同年八月十四日予備隊被仰付

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾俵壹斗五升被下

一同三午四月三日宿浦安嶋浦辺土着開墾仕度、就而ハ同所御用地之内五千

坪斗御渡願之通被仰付候

一同年五月廿四日第一大隊一番小隊入被仰付候事

一同年六月十二日今般宿浦へ土着仕候二付、是迄之拝地返上仕、家作之儀

ハ卒族谷口六平太卜申者貰受度段申聞候二付、相对ヲ以相讓申度願之通

被仰付候

一同年十二月 予備二番隊 年給式俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

嶋崎

1

嶋崎伝右衛門 休息

十五石三人

安永七戌八月十二日小役人々御取立、新番入、御泉水番其儘

嶋崎伝右衛門

拾八石三人

安永九子五月廿七日養父伝右衛門休息、家督無相違、新番入

天明二寅正月廿日御広式添役

寛政三亥正月十六日三石御加増、都合拾八石三人扶持

同十年十月廿八日御台所目付被仰付

文化三寅九月廿五日御勘定所預り古物方記録方兼

同十四丑正月十六日休息被仰付

嶋崎伝太夫 久三郎

拾八石三人

文化十四丑正月十六日養父伝右衛門休息被仰付、家督無相違被下置、新

番組江被入

文政十三寅九月廿五日会所預古物方記録方兼平瀬五左衛門跡

天保九戌四月廿日御鷹方役所不締り義有之、下代小遣之者御咎被仰付二

付、遠慮伺之上差扣被仰付候

天保十三寅十二月五日出精相勤候二付大御番組へ被入候

天保十四卯年休息

嶋崎長右衛門 伝十郎 伝右衛門 実水野新助次男

拾八石三人

一天保十四卯十二月十六日養父伝太夫年寄候ニ付休息被仰付、家督拾八石

三人扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一安政元寅十二月廿八日長右衛門与改

一同五午二月五日水野幸右衛門儀御暇被下置候处、親類ニ付伺之上遠慮、

同十一日御免

一同六未六月十七日横浜御警衛詰被仰付出立

同七申二月十九日病氣願之上帰着

嶋崎汎<sup>ヒロシ</sup> 積蔵

〔士族〕

拾八石三人

一万延元申四月廿日親長右衛門家督拾八石三人扶持無相違被下置、大御番

無役組へ被入候

一文久二戌九月八日大御番無役組以来被相止候ニ付大御番組へ被入、御番

御供御免被成候

一同年十二月七日上京御用捨相願候ニ付他番江被入候

一元治元年十二月賊徒一件出張、御手当三百匁被下

一元治二丑二月朔日賊徒警衛敦賀江出張、同九日帰

一慶応三卯十月十九日御警衛増詰上京、辰二月廿九日帰

一同四辰九月十日御警衛詰上京、十一月十六日帰

一明治二巳四月九日中納言様御供東京江出立、十月十二日帰

一同年十二月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

一同三午五月廿四日第一大隊二番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵

一同四未十月十三日解隊

一同五申二月晦日捕亡方申付候事

一同年 依願右指免候事

一同年七月積蔵事汎<sup>ヒロシ</sup>

嶋崎<sup>2</sup>

嶋崎由右衛門

拾五石

文政七申正月十五日於江戸小役人方新番格ニ御取立、御勝手役其儘

文政十亥六月廿日御札所受込林五右衛門跡被仰付候、尤御足三石八不被

下

同十一月五日御札所受込御免

文政十二丑三月廿九日御趣意銀御貸方

天保八酉五月廿九日御広式添役被仰付、新御番組へ被入

天保十四卯年閏九月十一日休息被仰付

嶋崎森平 小兵衛 盛平 実古市八兵衛次男

拾五石三人

一天保十四卯閏九月十一日親由右衛門休息被仰付、家督拾五石三人ふち被

下置、新御番組江被入候

一弘化三年六月十六日養家之兄音助遠慮被仰付候ニ付、伺之上指扣被仰付

候

一同四未九月廿九日養家之兄音助不調法之儀有之逼塞被仰付、依之遠慮伺之上指扣被仰付候

一安政元寅十二月十八日鏞太鼓役被仰付候

一同三辰十二月廿八日盛平与名替

一文久二戌六月廿五日御台所目付西村源左衛門跡被仰付

一元治元子十二月賊徒一件二付出張、御手当銀三百匁被下置候

一慶応二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、九月六日帰

一同年十月廿二日役新番組二被仰付候

一同年十二月森平与名替

一同四辰五月十一日今般御趣意二付役中役御番組江被入候

一明治二巳四月廿日今般御改革二付役儀被免、御広間当番勤被仰付

一同年九月廿九日多年精勤之处御藩制御改革二付、為御慰勞式十五兩被下

置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾五俵四斗五升被下

一同三午正月廿八日病氣二付願之通隠居

嶋崎竜哉

午十五歳

〔士族〕

米三拾五俵四斗五升

一明治三午正月廿八日親森平病氣二付願之通隠居被仰付、家督米三拾五俵

四斗五升無相違被下、修業生被仰付候事、但席塚谷石之介次

一同年十月九日是迄居住罷在候持地拝地二被成下候事

一同年閏十月廿五日修業列名目被廢非役卜唱

一同四未二月七日拝地九十四坪之外信行寺地面三十坪余從前方借用之处、

今般示談之上引受申二付、右坪数拝地二被成下候様願之通被仰付候

篠原

篠原長次郎

廿石三人

寛政十一未六月十三日御徒目付方御取立、新番組江被入、御預り所御勝

手役堀太右衛門跡

享和

御紋御上下被下置

同三亥九月廿四日勤向出精二付御目録金五百疋被下

文化二丑

御紋御小袖被下

同四卯十二月廿六日式石御足擬作

文化六巳十二月十六日御留守番組へ被入

文化十三子閏八月六日御預所金不締り二付役義并御足充行二石御取上、

大御番入、遠慮、尤金二兩も不被下

同十四丑年十一月 御広式御用達、御留守番入

同十五寅正月十五日御趣意在之御預所掛り兼帶

同年九月廿一日御預所御勝手役

文政九戌三月廿九日格別出精二付御足充行二石御加増、都合廿石三人扶

持被成下

文政十亥四月十六日休息

篠原長次郎 雄吉

廿石三人



文政十亥年四月十六日親長次郎年寄休息被仰付、家督廿石三人扶持無相違被下置、大御番入

同十八日御台所頭同目付兼帶被仰付、且又御住居兼勤被仰付、御留守番組へ被入候

同十二丑九月廿日不埒之儀有之二付遠慮被仰付

天保五年正月廿日御祐筆見習被仰付

天保九戌正月十五日御祐筆本役御書院番入、五石二人扶持御足

天保十亥九月十四日倅八百太郎当分式拾月御雇、一ヶ月失却金百疋ツ、下置、七日御手当二両ツ、

# 篠原八百太郎

廿石三人

一弘化四未九月十七日親長次郎跡目廿石三人ふち無相違被下置、大御番組江被入候

一嘉永六丑四月廿五日松栄院様御附広式御用達出浦源八郎跡被仰付、御留守番組へ被入候

一同七寅三月四日御右筆見習被仰付、大御番組へ被入

一同七寅年三月廿三日御殿山へ出張二付、御下緒沓掛ケ被下置候

一安政三辰三月十四日当年御留守中本役同様相勤候様被仰付候、依之失却被下置候割合を以、廿五石五人扶持同様被成下候

但為失却被下候金五両当年八不被下候

一同年四月廿五日御内用御右筆見習御右筆部屋兼帶被仰付候、但當御留守中ハ御右筆部屋振退相勤候様被仰付候

一同四巳九月三日御内用御右筆本役并御右筆部屋兼帶被仰付、御書院番組

へ被入候、且又右被仰付候二付、御足充行五石式人扶持被下置候、但是迄被下置候失却金以後不被下候

一同五年正月十一日遠慮伺之上指扣被仰付置候処、御免被成候

一同年九月五日病死

篠原安津志キヨシ 潔 鈕三郎 貫一郎  
〔士族〕

式拾石三人

一安政五年十月廿五日篠原八百太郎病中願之通養子ニ被仰付、家督廿石三人扶持無相違被下置、大御番組へ被入候

一文久元酉九月六日靈岸島御屋敷學問所定詰被仰付候

一同三亥正月廿七日右定詰其儘常盤橋學問所御人少二付、繰合罷出致世話候様被仰付候

一同年二月廿九日芝御陣屋詰当分御雇被仰付候

一同年三月廿八日靈岸島御屋敷飯御台場大砲打方被仰付

一同年十二月 貫一郎卜改

一慶応二寅十一月三日御趣意二付御留守番組へ被入候

一同四辰正月廿五日今般御趣意二付御国表江引越被仰付、然ル処直二詰、但家内二月廿三日着

一同年三月六日御趣意二付支度出来次第御国表江罷歸候様被仰付、四月八日着

一同年四月十二日第一遊撃隊江被入候

一同日廿九日家屋敷伊藤又太郎罷在候家屋敷被下置候  
一同年閏四月十六日外塾師被仰付、役御番組へ被入候

一同日家屋敷元不動院地内外塾江替被下候間、家塾ニ而致世話候様被仰付

一明治卜改元、十二月十六日外塾師勤中御足式人ふち被下置候

一同二巳二月御足式石被廢月給八俵被下

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾式俵六升被下

一同月廿七日御改革二付役儀被免

一同年十二月二日訓蒙被仰付候、未正月年給十六俵

一同三年五月十二日修業隊江被入、小学授読被仰付候事、但等外年給五俵

一同日居屋敷本多興之輔返上屋敷御用長屋之内江当分替被下候事

但造営方江可申談候事

一同月十五日青山小三郎家屋敷江更替被下候事

一同年六月二日十五等二被仰付候事、但年給是迄之通

一同四未七月十九日四等教授手伝被免候事

一同五申五月貫一郎事安津志



五

福井藩士履歴

す



杉田五郎兵衛

貳千五百石

寛文十二子十二月廿二日父主水跡知五千石無相違被下  
貞享三一統二半知被下

杉田五郎兵衛

貳千石

宝永六丑四月廿一日父五郎兵衛跡目被下

杉田織衛

三百石

元禄三午正月十五日表御小姓二被召出、御扶持切米被下候処

宝永六丑四月廿一日父五郎兵衛配知被下

正徳元卯十一月七日御触頭

杉田理善 初段七

貳百石 外役料百石

宝永六丑四月廿一日父五郎兵衛配知被下

享保二酉六月十九日御使番荒川助右衛門跡

同六丑五月十五日杉形御鍵奉行海福瀬左衛門跡

同九辰十月五日御先物頭岡半右衛門跡

同十三申九月廿九日御持弓頭井原丞助跡

同十九寅六月六日病氣二付御役御免、御先物頭次席

杉田平馬 初權之丞

貳百人扶持

正徳四午八月七日養父五郎兵衛為跡目被下

杉田五郎兵衛 初万吉 病死

貳百人扶持

享保六丑二月廿五日父織江為跡目三十人扶持被下

同十三申十月廿八日同氏平馬病氣二付相続被仰付、如是被下席泊市右衛門次、但自分三十人扶持此節上ル

寛延元辰閏十月六日御宮火消芦田図書跡

杉田主水 初段七 初杉田理善為養子

貳百人扶持

享保十九寅八月九日養父理善隠居、家督貳百石無相違、大番入

宝曆二申八月五日五番筆頭奈良助右衛門跡、後

同九卯十月廿日日本家五郎兵衛跡目貳百人扶持被下、高知席稲葉波門次、但此節自分拝知貳百石ハ上ル

明和二酉六月十一日御宮火消

杉田權之助 初小平次

貳百人扶持 外五百石与力五騎

安永六酉二月十五日養父主水跡目無相違、高知席笹治一学次

同年五月九日家内取扱不参届ニ付遠慮

天明五巳正月廿日御宮火消

寛政五丑七月三日御城代役稲葉采女跡被仰付、与力御預ケ

文化四卯正月廿四日御礼席御本丸鉄砲之間、月次之儀ハ御通掛御目見

文化十三子年六月廿四日内願ニ付隠居、養子宮内家督式百人扶持無相違被下、高知席本多修理次、且又小禄ニ而長々相勤太儀ニ思召候、仍之御召御羽折被下置候事

杉田主水 宮内 隠居

千貳百石

文化十三子ノ六月廿四日養父權之助内願ニ付隠居、家督無相違、高知席本多修理次

文政二卯十一月廿日萩野跡御宮火消被仰付、是迄貳百人扶持被下置候処文政四巳三月十日格別之思召を以、新知千二百石ニ御直ニ御蔵出ニ而被下置之、定免三ツ四厘七毛、与内之

文政十二己丑八月二日御城代役笹治大学跡被仰付、与力御預被成候

杉田粟<sup>アツ</sup> 鼎 五郎兵衛 壹岐 少貳

千貳百石

一天保三辰十二月十五日父主水病身ニ付内願之通隠居被仰付、家督無相違被下置、高知席芦田図書次

一同六未江戸立帰出府被仰付、八月廿七日出立、同十月十四日帰着

一同十二丑年正月廿二日御宮火消被仰付

一嘉永三戌三月十六日家来御咎ニ付伺之上遠慮、同廿五日御免

一安政二卯正月廿二日御備組調練之義掛り同様被仰付候間、御用掛り申談候様

万延元申六月廿八日御振替ニ相成候ニ付御免被成、猶又折々罷出致心配候様被仰付候

一文久元酉八月十九日御家老職被仰付、御役中知行地方ニ御直シ被下候

一同二戌二月廿三日五郎兵衛事壹岐与名替

一元治元子三月五日御軍制取調御用掛り被仰付

一同年五月十一日江戸詰被仰付候、六月朔日出立、九月廿日帰着

一同年十二月賊徒一件出張、右ニ付御手当銀壹貫六百匁被下置候

一慶応元丑九月廿二日思召を以壹岐事少式卜名替

一同年十月十二日公方様御機嫌為御伺被差出、直ニ京都詰酒井外記方与交代被仰付、早速被致出立候様被仰付、十八日出立、寅四月五日帰

一同二寅六月五日思召有之ニ付御役儀御免被成、席之儀有賀左近次被仰付候、依之遠慮伺之上差扣之処、同十二日御免被成候

一同年九月十七日公辺御停止中家来殺生差越候儀ニ付遠慮伺、不及其儀

一同三卯十月六日家来御留川内江入殺生ニ付、伺之上遠慮被仰付、同十二日御免

一明治元辰十二月十六日折々御機嫌伺罷出、已来中ノ口致往来、御奏者詰所ニ罷在候様被仰付

一同二巳六月少式事粟卜改

一同年九月廿日下屋敷内抱地之分、今度御用地ニ被仰出候事

一同月廿九日多年精勤之処御藩制御改革ニ付、為御慰勞丸御紋奉書御綿入

一ツ被下置候

一同年十月廿一日下屋敷地之内南東之方、今度更ニ御用地被仰出候事



一 同年十一月廿五日今般御改革之處、更ニ給禄米三百拾六俵三斗九升九合  
下賜

一 同年十二月十三日老年ニ付願之通隠居

杉田説三郎 已廿一歳

〔士族〕

一 明治二巳三月十七日酒井孫四郎上京ニ付附添被仰付、同十九日出生、夫  
方東京

一 同年十一月廿九日開成所修行之處、今度沼津兵学校へ修行更被仰付候事  
米三百拾六俵三斗九升九合

一 同年十二月十三日養父粟老年ニ付願之通隠居被仰付、家督米三百十六俵  
三斗九升九合無相違被下、修業隊へ被入候事

但沼津表修行是迄之通

一 席喜田嶋鉄三郎次

ノ

一 同三年三月十三日今度両屋敷拝領之面々一ヶ所返上可仕旨被仰出候ニ付、  
夜廻丁下屋敷致返上候、但家作木石等ハ願之通被下候

一 同年八月十三日当分表住居之分御用ニ被仰付候事、但監正寮江可申談事

一 同年九月十日右御用済ニ付御返シ被成候

一 同年閏十月五日沼津学校へ修行罷在候處御都合ニ寄歸藩可致候、十一月  
十八日歸

一 同年同月廿五日修業列名目被廢非役卜唱

一 同年十一月廿七日去冬沼津学校へ罷越修業仕候處、一旦歸藩被仰付罷歸  
候處、再度彼校江罷越成業仕度旨願之通被仰付、十二月六日出生

但来未ノ十月可致歸藩事

杉田<sup>2</sup>

杉田五太夫

貳百五拾石

寛文十二子十二月廿二日父主水跡目之節、兄五郎兵衛拝知之内五百石被  
下

但貞享三年一統半知被下

杉田小平次

貳百五拾石

正徳三巳閏五月十三日父五太夫家督無相違被下

杉田五太夫 段七 孟度 隠居

貳百五拾石 役料百石

享保九辰十二月廿九日養父小平次跡目無相違、大番入

同十九寅六月十三日大番六番筆頭下山彦三跡

元文五申五月九日御使番国枝小助跡、御役料百石被下

延享二丑十月十六日御先物頭皆川平右衛門跡

宝曆元未十一月廿五日御持弓頭中川惣右衛門跡

同三酉九月十一日病氣ニ付御役御免、席御先物頭次

杉田孫一郎

貳百五拾石 役料百石

明和元申八月廿五日父五太夫隠居、家督無相違、大番入

同五子七月廿日御次詰御書院番入

安永五申二月十一日御裏役

同六西六月五日若殿様附御小道具方

天明四辰十月廿一日於江戸若殿様附奥御納戸

同六午七月廿四日末之番外、勤方皆川善兵衛宮塚甚左衛門返二而御供被仰付

同七未三月十四日御形合被相改万端御省略被成候二付、席其儘二而勤方被相止

同八申五月廿八日御時宜役

寛政二戌十一月廿一日御徒頭山口長十郎跡、役料百石

同五丑七月十一日御先物頭大井弥十郎跡

杉田五太夫 小平次

貳百五拾石

寛政十年三月廿九日父孫一郎家督無相違、大番入

文政七申九月廿九日休息

杉田五郎太夫 孫市事 五太夫 小平治

貳百五拾石

一文政七申九月廿九日父五太夫家督貳百五拾石無相違被下置、大御番組へ

被入

一同十一子江戸詰被仰付候

一天保五午江戸詰被仰付、二月廿六日出立

一同八酉七月五日大御番二番之筆頭役太田三郎兵衛跡被仰付

一同十亥江戸詰被仰付、四月十五日出立

一嘉永元申正月十六日御使番役雨森作助跡被仰付、御役料百石被下置候

一同二酉十一月五日杉形御鑓奉行、荻野治部左衛門跡被仰付候

一同五子十二月廿八日小平治与名替

一同六丑七月三日、去月十二日京町方出火之節出精二付御褒詞

一同七寅六月四日御留守物頭河津作太夫跡、但右二付御役料不被下候

一安政元寅十二月廿八日五郎太夫与名替

同二卯八月廿三日病死

杉田五太夫 七之助 実高江友右衛門次男

貳百五拾石

一安政二卯十月十三日養父五郎太夫家督貳百五十石無相違被下置、大御番組へ被入候

組へ被入候

一安政三辰十二月廿八日五太夫与名替

一同六未五月廿四日横浜御警衛詰出立

一万延元申四月廿日帰着

一同年七月十一日太田御陣屋詰中臨時横浜へ出張二付、御褒詞

一文久元酉九月五日病死

杉田成章 小四郎 無二介 実高村荒次郎弟

貳百五拾石

〔士族〕

文久元酉十月廿五日杉田五太夫病中願之通養子二被仰付、家督貳百五拾石無相違被下置、大御番組へ被入候

一同三亥二月十二日番頭引纏上京、三月廿五日中午將様御供二而帰着

一同年五月六日当亥御参府御供被仰付、八月出立、同十二月江戸方御上京御供、子二月十三日御供帰

一元治元子三月二日上京、四月十二日帰

一同年七月四日京都表へ出立、八月廿四日帰着

一同年八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町於御固場所戦争之砌、於所々相働候段達御聴一段之事ニ被思召候、依之為御賞御小柄一被下置候

一同年十月十四日長征出立、丑正月帰

一同年十二月無二介卜名替

一同二丑正月廿七日賊徒警衛敦賀江出張、二月廿三日帰

一慶応元丑十一月廿九日養家之叔母重御咎二付伺之上指扣、十二月四日御免

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付公儀方被下配当金千疋、同式千五百疋被下置候

一同年十二月廿六日仕長被仰付

一同三卯正月廿二日砲術所世話役被仰付

一同年三月十日御上京御供出立、直ニ御警衛詰

一同年四月十一日大御番二番之筆頭役大野三左衛門跡、七月十八日帰

一同年十月十八日第一遊撃隊分隊長被仰付、役儀ニ付席末之番外格ニ被仰付

一同四辰四月三日京都御警衛詰出立、九月十六日帰

一同廿五日三番之遊撃隊半隊長被仰付候

一明治卜改元、十二月十三日殿様御上京御供出立、巳三月六日中納言様御

供二而帰

一同二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米百式拾六俵四斗三升四合被下

一同三午五月廿四日第一大隊十番半隊長被仰付候事

一同年十二月八日軍務寮出仕

但予備半隊長勤向 年給式拾壹俵

一同四未四月七日予備隊解隊被仰出候二付、出仕被免候事

一同月十日常備第三兵隊江被入候 年給六俵

一同年十月十三日解隊

一同五申二月九日用向有之趣ニ而東京

一同年七月無二介事成章与名替



3

杉田清<sup>キヨシ</sup> 作左衛門

廿三石五人

一安政六未十一月六日かく

慶応二寅十月廿二日今度御趣意ニ付被召出、新番並組ニ被仰付、御充行之儀ハ廿三石五人扶持被下置候、且又席之儀ハ家督順ニ被仰付候

一同三卯九月廿七日当冬京都御警衛詰被仰付、詰引揚支度出来次第致出立候様被仰付、十月七日出立

一同年十月廿八日第二遊撃隊被仰付

一同廿五日新番並組被仰付詰御免、十一月廿二日帰着

一同年十一月十七日先般堺町御警衛向心配相勤候二付、御酒被下置候

一同年十二月廿六日山階宮様御附人被仰付、支度出来次第出立被仰付、正

月二日出立

〔士族〕

一同四辰三月六日右御附人御免被成勝手次第罷歸候様被仰付、同十二日帰

一同年四月廿五日遊撃隊へ被入候

一同年閏四月七日上京、九月十八日帰

一明治二巳四月九日中納言様御供東京江出立、六月八日御人減二付帰

一同年六月廿一日作左衛門事清卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米五拾俵壹斗五升被下

一同三年六月廿二日第一大隊五番小隊入被仰付候事

一同年十二月 予備二番隊 年給式俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

菅沼<sup>1</sup>

菅沼与一郎

千石

元禄十二卯正月廿一日父市左衛門跡目被下

宝永二酉七月十三日大番頭被仰付

正徳二辰十二月五日御役二付席御上ケ被下

享保十六亥正月廿六日御留守番頭高田小左衛門跡

寛保三亥十月十一日病死

菅沼与一郎

千石

寛保三亥十二月五日養父与一郎跡知無相違、寄合席三人下り恒岡安左衛

門次

延享四卯十二月十六日大番頭佐野又太郎跡

菅沼七郎左衛門

千石

宝曆十一巳五月廿二日父与一郎隠居、家督無相違、寄合引渡席酒井十之

丞次

同十二年二月廿九日運正寺火消

明和二酉四月廿日大番頭皆川多左衛門跡

同七寅六月十四日御書院番頭御用人御奏者兼御徒支配毛受伝三郎跡

同月十九日席一人御上ケ被下、酒井十之丞次

安永七戌十一月朔日若殿様御傳役并公辺御内用懸り、席恒岡安左衛門次

へ御上ケ被下

天明二寅五月二日公辺御内用懸り御免

寛政二戌正月御部屋附御小姓支配御免

同四子五月廿四日勤方は迄之通二而御中老格被成下、席御中老末席

菅沼七郎左衛門 右近 与一郎 式部 重記 左門

千石

寛政八辰正月十六日父七郎左衛門家督無相違被下置、寄合引渡席渋谷權

左衛門次

同十年十二月十一日運正寺火消

同十二申九月十五日大御番頭

文化二丑八月五日御用人御奏者兼御書院番頭格

同五辰二月十六日御書院番頭御馬支配

文政四巳年七月病死

菅沼市左衛門 右近事

千石

一文政四巳九月十八日家督無相違被下、寄合引渡之席被仰付

一同六未十月五日運正寺火消被仰付

一同九戌五月三日大御番頭笹治兵庫跡、席御上ケ恒岡安左衛門次被仰付

一天保十亥十月廿五日御書院番頭格、御用人御奏者兼被仰付

一同十一子江戸詰被仰付、三月廿六日出立

一同十四卯二月十六日病身二付内願之通御役御免被成、風廻り之儀ハ御免被成

一同十五辰十月廿四日大御番頭牧野主殿跡被仰付

一嘉永六丑二月十六日妹義妙樂寺ニ罷在候内不埒二付、市左衛門方へ引取

蟄居被仰付、市左衛門伺之上遠慮、同月廿二日御免

一同七寅六月九日病身二付内願之通隠居被仰付候

一安政六未二月廿九日思召を以折々御機嫌伺罷出、其節々中ノ口致往来候様被仰付候

菅沼与市郎 右近 重記 右近

千石

一嘉永七寅六月九日親市左衛門病身二付内願之通隠居被仰付、家督千石無

相違被下置、寄合引渡之席被仰付候

一安政元寅十二月廿八日重記与名替

一同二卯五月三日大御番頭毛受伝三郎跡被仰付候

一同三辰五月九日御書院番格御用人御奏者兼被仰付候

一安政三辰五月十七日御備組調練之儀懸り同様被相心得、御用掛り申談候様被仰付候

一同四巳三月五日下午屋敷御製造方御用地ニ被仰付

同月廿八日右代地吉田仙庵屋敷脇畑地之内ニ而五百三拾四坪被下置候

一同六未五月十一日今度公儀御代替二付、御判物御朱印郷村高辻帳之儀被仰出候二付、右御用掛り被仰付候

一同年八月十九日江戸詰出立

一同七申二月廿六日太田御陣屋御普請御用掛り出精二付、銀壺枚被下置候

一同年三月朔日御本丸御普請二付、鳥子紙御献上御用掛り被仰付候

一万延与改元、四月廿一日先達而御判物御朱印郷村高辻帳御改二付、於御国表御用掛り被仰付候処、出精二付御褒詞

一同年五月廿九日斎藤民部御国表江立帰被仰付候二付、当分靈岸島御屋敷へ引越、中将様御用兼帯被仰付候、但御用無之節ハ御上屋敷へ可致出勤旨被仰付候

一同年七月十七日来酉ノ春迄詰越被仰付候

一同廿八日先達而横浜表江臨時被致出張候儀、太儀之段思召し御褒詞

一同年九月十二日来酉ノ春迄詰越被仰付候処、御都合も有之二付詰越御免被成、勝手次第致出立候様被仰付、十月七日帰着

一文久元酉五月廿日御備組調練掛り被仰付候

一同年六月十一日御世譜掛り被仰付候

一同二戌八月九日支度出来次第江戸詰被仰付、廿二日出立

一同三亥四月十二日御留守中大奥御用を始、御側御用人取扱候御用向取扱被仰付

一 同年十月朔日江戸表<sup>ろ</sup>帰

一 同年十一月廿日毛屋下屋敷地御用地ニ被仰付、為替地三ツ橋山県三郎兵衛元下屋敷地之内ニ而被下置候

一元治元子三月六日賀代姫様御入興ニ付御用掛り被仰付

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫<sup>ろ</sup>長征、丑三月帰

一 慶応元丑四月廿八日今度尾州様江御用有之ニ付為御使被遣、早速致出立候様、同晦日出立、五月五日帰

一 同年七月廿四日御調御用有之ニ付右掛り被仰付候

一 同年十二月廿八日右近卜名替

一同三卯三月廿九日今般御模様ニ<sup>ろ</sup>宰相様御上京可被遊儀も可有之ニ付、

御供被仰付、四月十二日出立、同年八月九日帰着

一 同年十二月十五日殿様御上京御供被仰付、相止

一 明治元辰十月廿二日今般御趣意ニ付御右筆部屋被相止、依之御役儀御免被成、御近習ニ被指置候

一同二巳五月廿五日下午馬御門并三ノ丸御座所御門御警衛被仰付、同廿七日三ノ丸御警衛持切

一 同年六月十六日右近事与市郎卜改

一 同年十一月十日今般御改革ニ付御門所御警衛被免

一同月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米貳百八拾四俵壺斗七升壺合被下候

一同三年三月十二日両屋敷拝領之者一ヶ所返上被仰付、仍之河南小路下屋敷返上仕候、只今両親住居罷在候ニ付、右地所御茶園地ニ被仰付、相当之地子上納ニ而更拝借願指出候処、当分願之通被仰付

一 同年六月十七日病身ニ付願之通隠居

菅沼秋 与市郎 豊八郎 安岐 右近相統之弟

〔士族〕

一文久二戌三月十三日当戌年大砲為御用芝御陣屋詰被仰付、詰中御扶持方五人扶持被下置候、同廿六日出立

一同三亥三月廿三日御前様御供ニ而帰着

一 同年七月八日上京被仰付、相止

一 同年八月廿一日早速上京被仰付、廿二日出立

一元治元子四月廿三日宰相様御供ニ而京<sup>ろ</sup>帰

一 同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤候ニ付、銀壺枚被下置候

一 同年八月廿日兄重記実子無之ニ付相統願済

一同月廿八日御上京御供出立、夫<sup>ろ</sup>長征、丑三月帰

一 慶応元丑閏五月十八日補兵隊伍長被仰付

一同二寅三月十日定座番外以上補兵隊御趣意ニ付被相止候

一 同年十二月廿八日安岐与名替

一同二寅三月十一日補兵隊伍長勤向被仰付候、京都詰被仰付候、四月七日出立

一 同年六月廿五日宰相様御登坂ニ付補兵隊御供之内江被入

一 同年七月七日御含御用被仰付、右御用中補兵隊伍長勤向之義ハ御免被成候

候

一同年九月廿一日補兵隊伍長勤向并御含御用御免被成、御国表へ罷帰候様被仰付、同廿六日帰

一同三卯十月五日調練之儀ニ付御備頭江心得違之儀申立候ニ付、御叱被成候

但右ニ付伺之上指扣、同十日御免



一同四辰正月八日補兵隊被仰付、此度御上京之節御供被仰付、相止  
 一同年八月廿二日越後表へ早速出張被仰付、勤向之儀ハ於出張先軍事惣奉  
 行へ相伺候様被仰付候

一同月晦日大谷丹下出張留守中三番之御備入子弟差配被仰付、御備入

一明治二巳六月十六日安岐事秋卜改

米貳百八拾四俵壹斗七升壹合

一同三午六月十七日養父与市郎病身二付願之通隠居被仰付、家督米貳百八  
 拾四俵壹斗七升壹合無相違被下、第一大隊三番小隊江被入候事

一同年十二月八日常備三番隊 年給六俵

一同四未四月廿七日病身二付兵隊御免願之通、但伺也

一同年五月廿五日屋敷地之内東ノ方七十坪余御用地相成候事

## 菅沼<sup>2</sup>

### 菅沼市左衛門

五百石

元禄四未六月廿八日御小姓被召出

同八亥十一月十九日新知百五拾石

同十五年八月二日智照院跡御扶持方式百五拾石二被成下、自分知共都合  
 四百石

宝永二酉九月廿一日御小姓ノ番外二被仰付

同四亥十二月廿八日此席二被仰付

同七寅六月九日百石御加増

正徳元卯十一月七日御側御免

同五未八月廿一日重而御側御小姓支配共

享保七寅二月九日御奏者本多主殿跡

同十五戌九月五日御書院番頭、席引渡水谷織部次

### 菅沼与三

五百石

享保廿卯九月十一日父市左衛門家督無相違、寄合席富永新左衛門次  
 寛保二戌八月十三日御暇、在辺二被指置

### 菅沼岩太郎

拾人扶持

寛延二巳三月廿五日親与三義先年御暇被下候得共、智照院事被思召、祖  
 父市左衛門義長々御近習も相勤候事旁故、此度岩太郎へ十人扶持被下

### 菅沼松次郎 病死

拾五人扶持

宝曆七丑八月十六日兄岩太郎病死二付、苗字御立被成、七人扶持被下

明和元申九月十六日八人扶持御加増、都合十五人被成下、番外席本多彦  
 三次

### 菅沼市左衛門 初孫四郎 病死

拾五人扶持

明和六丑十二月五日養父松次郎跡目無相違被下置、番外席大宮彦右衛門  
 次

天明八申六月十一日不埒之趣有之二付、席御下被成渥美新右衛門次二被仰付

菅沼司馬

〔士族〕

拾五人扶持

菅沼十左衛門 弥次郎

拾五人扶持

享和元酉九月五日養父市左衛門跡目無相違、番外席鈴木彦太次

菅沼次郎左衛門

拾五人扶持

文化三寅正月十六日養父十左衛門隱居、家督無相違、番外席渥美三郎兵衛次

菅沼主水 十左衛門事 左仲事

拾五人扶持

一文政十三寅四月五日養父次郎左衛門内願之通隱居被仰付、家督無相違被下置、定座番外席渥美新右衛門次

一安政三辰年七月廿日次男久米吉儀不埒之趣相聞逼塞被仰付、主水儀伺之上遠慮被仰付、同廿九日御免

一同四巳五月十六日其方次男常之助義不届至極之趣相聞候二付、侍御削被成追放被仰付筈二候処、京都西本願寺家中へ養子ニ指越候二付、御国出掛候後立入指留被仰付候、且又其方義も兼而締り方不参届趣相聞不調法之事二候、依之遠慮被仰付候、閏五月五日御免

一安政五年二月五日病身二付内願之通隱居被仰付候

一安政五年二月五日親主水儀内願之通隱居被仰付、家督拾五人扶持無相違被下置、定座番外二被仰付候

一文久二戌二月十一日当戌年大砲為御用芝御陣屋詰被仰付、詰中御扶持方五人扶持被下置候、三月廿六日出立

一同三亥三月廿三日御前様御供ニ而帰着

一元治元子四月十一日今般御軍帳御割替二付、農兵二組酒井外記方江御附被成候二付、其手江属シ外記方へ厚申談致世話候様、且又農兵之儀二付而ハ掛り西尾十左衛門へ申談候様被仰付候

一元治元子四月十九日酒井外記方御用多ニ而調練出勤無之節ハ、明石将監へ都而申談致世話候様被仰付候

一同年六月十四日是迄酒井外記方附農兵致世話候様被仰付置候処、御軍帳御割替二付芦田信濃附農兵致世話候様被仰付候

一同年十二月賊徒一件二付出張、御手当銀三百匁被下置候

一慶応元丑六月廿四日新撰農兵頭被仰付、手頭へ属シ夫々厚申談致世話候様被仰付候

一同三卯正月廿九日新撰隊教授方并指揮役頭取兼被仰付、御役料廿五石被下置候

一同四辰四月廿九日一番大隊四番之小隊頭被仰付、御役料御増都合五拾石并役中御足式人扶持被下置候

一同年六月廿五日会征出立

一明治二巳二月十六日予備小筒組支配被仰付

一同月廿二日会征長々出張太儀思召、仍式十金被下、外二五百疋

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾九俵九升壹合被下

一同月廿八日今般御改正ニ付予備小銃隊支配被廢候、仍而當役被免候事

一同年十二月五日修業隊被仰付候事

一同三年四月廿五日戊辰北越出張軍事精勵ニ付、五十石ツ、三ヶ年令頒授候事

一同年五月廿四日第一大隊一番小隊入被仰付候事

一同年八月廿四日任典籍

一同年十二月十二日権少属心得勤

但典籍掛り

一同四未正月廿日任准四等教授 年給貳拾壹俵

但東郷会社郷学勤

一同年四月十五日任四等教授 年給貳十八俵

但郷学所懸り従前之通

一同年十二月十六日免職

**菅沼**<sup>3</sup>

此前代を二出、但岡と号

菅沼平兵衛 初岡権之助ト号

百石 初御切米

正徳二辰八月五日父小左衛門跡目貳拾石三人被下

享保三戌五月十一日五石二人扶持御加増御手廻

同九辰九月十八日御駕附

同十二未六月廿九日御手廻御免、大番入

同十七子九月廿九日御手廻帰役御書院番入

同十九寅八月十五日御駕附大野忠太夫跡

同廿卯正月十五日新知被下

元文三年五月廿一日御咎之品有之、御役御取上ケ、大番入

寛保二戌九月五日御手廻御供目付被仰付

菅沼三十郎 隠居

百石 役料百五拾石

延享三寅六月十六日養父平兵衛跡目、幼年ニ付御扶持方十人被下、御留主番入

同五辰五月十一日十五歳成候ニ付新知へ御直シ被下

宝暦十辰八月十一日御手廻御書院番入

明和三戌五月廿日御次詰

同九辰六月十四日御小道具方荒川金左衛門跡

安永七戌十一月十九日御近習頭取、御小道具方ハ御免

同九子八月四日御膳番

同年十一月廿二日御書院番二番筆頭高江善四郎跡

天明二寅七月八日御腰物奉行波々伯部平六郎跡

同七未三月十四日御部屋御腰物奉行兼帶

寛政二戌五月廿八日御留主物頭、山名次郎右衛門跡

同五丑七月十一日御先物頭秋田八左衛門跡、御役料百五拾石

享和三亥正月廿四日隠居

菅沼小十郎

百石

享和三亥正月廿四日養父三十郎隠居、家督無相違、大御番入  
文化五辰十月病死

菅沼平兵衛 源十郎

百石

文化五辰ノ十一月廿九日養父小十郎病中願之通養子ニ被仰付、家督無相違、大御番入

同九申正月廿五日仁之助様御附御近習番、御書院番入

同十二亥ノ二月四日御附奥御納戸沢木跡

文政二卯六月三日御膳番被仰付、奥ノ番其儘兼帶

文政七申四月十六日御腰物数寄方奉行御附兼田辺平学跡

同十亥十一月二日末ノ番外御時宜役

天保二卯二月十五日小馬印奉行前波十次郎跡被仰付

天保四巳ノ七月五日御留守物頭剣持久右衛門跡

天保八酉二月廿日御先物頭河合八郎左衛門跡、御役料百五十石被下置

天保九戌十二月十一日先達而切手御門当番之節、不念之儀ニ付伺之上遠慮

慮

弘化二巳二月御普請奉行波々伯部八太夫跡

菅沼平兵衛 鉄五郎

百石

一弘化四未二月十二日養父平兵衛隠居、家督無相違被下置、大御番組へ被入

入

一嘉永二酉九月廿五日御近習番横田藤九郎跡被仰付、御書院番組江被入

一同四亥年江戸御供詰

一同五子十一月十八日御書物方田中勘助跡被仰付候

一同六丑七月廿六日江戸表江出立

一同年九月十八日御裏役被仰付候

一安政二卯年正月十五日奥御納戸役荒川小三郎跡被仰付候

一同四巳四月廿五日江戸御供詰出立

一安政五年七月六日殿様奥御納戸役中將様御用兼被仰付候

一同六未四月十七日帰着

一同七申閏三月十一日御膳番奥御納戸役兼帶被仰付候

一万延与改元、十月五日御膳番席其儘御腰物数寄方奉行国枝藤兵衛跡被仰付候

付候

一文久二戌六月十六日御近習番頭取被仰付、御書院番一番之筆頭役三寺剛

右衛門跡被仰付候

一同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日御供二而帰着

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月廿三日病氣願之

上京都方帰着

一同二丑二月十二日役儀其儘格式末之番外ニ被仰付候

一慶応卜改元、四月廿九日御使番格ニ被成下、御役料之趣を以廿五石被下置、役儀之儀ハ御免被成候

置、役儀之儀ハ御免被成候

一同二寅十一月三日今度御軍制御変革之御趣意ニ付、御広間当番勤被仰付候

候

一同年同月廿九日席其儘御水主頭多喜田藤内跡、御役料五拾石被下置候

一同四辰八月廿九日年寄候ニ付隠居

菅沼宗<sup>ツカサ</sup> 鉄五郎 平兵衛倅

〔士族〕

百石

文久三亥二月十日殿様御上京被遊候ニ付御供、三月六日御供ニ而帰着

一同年十月十三日中将様御供ニ而上京

一同年 山階宮御附人被仰付候

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤太儀ニ思召候、

依之銀壺枚被下置候

一同年八月廿三日帰着

一同年十月十六日長征出立、丑二月廿三日親平兵衛病氣願之上京都方罷帰候ニ付、為介抱同道帰着

一慶応元丑六月廿四日新撰農兵差配役手伝被仰付

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年八月二日農兵差配役助被仰付候

一同三卯正月廿九日一番之補兵隊江被入候

一同年九月廿七日御趣意ニ付補兵隊御免被成候

一同年十二月十五日補兵隊被仰付、今度御上京御供被仰付

一同四辰四月廿五日遊撃隊江被召出、五人扶持被下置候

一同年八月廿九日親平兵衛年寄候ニ付隠居被仰付、家督百石無相違被下置、

遊撃隊江被入候

一同年九月八日上京、十一月十六日帰

一明治二巳四月九日中納言様御供東京出立、十月十三日帰

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下

一同三年五月廿四日第一大隊四番小隊後絶被仰付候事

一同年十二月八日常備二番隊押絶 五 軍曹卜改 年給十俵

一同月 文学少進業生 一ヶ月式百疋ツ、

一同四未十月十三日解隊

一同五申五月鉄五郎事宗

菅沼<sup>4</sup>

菅沼五郎太夫

拾八石三人

文化元子三月十六日小役人御台所目付其儘新番組へ御取立、同頭兼帶同十二亥九月十一日休足被仰付

菅沼作平

貳拾石三人

一文化十二亥九月十一日父五郎太夫年寄候ニ付休息被仰付、家督拾八石三人扶持無相違被下置、新御番組へ被入

一文政四巳四月廿九日御台所目付頭兼帶被仰付

一同十亥九月廿五日御広敷添役被仰付

一天保四巳正月廿九日御台所目付被仰付

一同年十月十六日御台所目付其儘頭兼帶被仰付

一嘉永七寅年十一月廿九日来出精相勤候ニ付貳石御加増、都合廿石三人

扶持被成下、御広敷添役被仰付候

一安政三辰三月十五日年寄候ニ付休息

菅沼五郎太夫 定次郎

式拾石三人

一安政三辰三月十五日養父作平儀年寄候ニ付休息被仰付、家督廿石三人扶持被下置、新番組へ被入候

一同年十二月廿八日五郎太夫与名替

一文久二戌七月五日御供勤被仰付候

一同三亥正月十六日農兵教授手伝被仰付候

一同年三月十一日当亥年芝御陣屋詰被仰付、右詰中為御手当五人扶持被下置候、同廿六日引揚出立

一同年八月二日於江戸表病死

菅沼次郎四郎 竹下次郎四郎 実竹下丈太夫弟

〔士族〕

式拾石三人

一安政三辰五月廿二日同年中支合皆勤ニ付御褒詞

安政四巳四月十四日鰐淵昨年中皆勤、殊ニ寒稽古数多之支合ニ付御持御

扇子二本被下置候

一同日慶増昨辰年も皆勤ニ付御褒詞

一万延元申十月廿一日来酉年太田御陣屋御番士御雇詰被仰付、御扶持方五人扶持被下置、且又御都合も有之二付詰引揚、十二月十一日出立

文久二戌三月十四日内達之通芝御陣屋御雇詰其儘、当秋迄詰延被仰付候、

同年十月二日帰着

一同年四月三日太田御陣屋詰中長々横浜表江致出張候ニ付、御褒詞之上銀式枚被下置候

一同年十二月廿二日今般思召を以三人扶持御扶助被成下候

一同三亥二月十二日荒川十右衛門引纏上京

一同年三月廿五日右同断中将様御供ニ而帰着

一同年八月十日御参府之節為御警衛垂井辺迄御供被仰付、同月廿日大垣御泊方京都江罷越、同月廿九日帰着

一同年十月十六日菅沼五郎太夫親類共願之通家督相統被仰付、御充行廿石三人ふち無相違被下置、新番組江被入候

但五郎太夫於江戸表病死也、実子無之二付竹下丈太夫弟次郎四郎

儀家督相統願済也

一元治元子六月廿五日宰相様再度之御上京中格別骨折相勤太儀思召候、依之銀式枚被下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月四日帰

一慶応二寅十一月十二日京都詰出立

一同三卯四月四日御上京御供振替り帰

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付候

一同年十月廿五日後拒役被仰付、役中分隊長次席ニ被仰付候

一同四辰正月九日急々上京、四月廿日帰

一同年四月廿五日遊撃隊江被入候

一同年九月十日御警衛詰上京、十一月十六日帰

一明治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾貳俵六升被下

一同三午五月廿四日第一大隊三番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備三番隊 年給六俵

一同四未十月十三日解隊

菅沼

5



## 菅沼巧

元武生家来 午二十三

〔士族〕

一明治二已九月(マ)

一明治二已十一月廿五日今般御改革之処物頭已上二付士族二被仰付、給禄

之儀ハ適宜御改正之上更ニ被下候事

一同三年正月廿三日米五拾貳俵被下候

一同年八月廿二日福井江引越被仰付

一同年九月十日酒井温返上屋敷内二而二百七坪

一福井引越被仰付候二付、是迄之建物被下候間取払可申事

一家作之儀ハ建被下候

一家作中寓居御貸渡被成候事、但百日限り御貸渡之事

一同年十月十二日修業列江被入候事

一同年閏十月廿六日右名目被廢非役卜唱



## 鈴木彦太夫

四百五拾石

元禄二已九月二日御手廻被召出、御合力銀之処

同十五閏二月十一日養父彦太夫跡知被下

宝永五子三月十三日御水主頭

正徳元卯十一月七日御奉行役

享保三戌八月十一日御加増百石江戸二而被下、都合貳百五拾石

同五子七月十三日於江戸御預所御用可相勤旨

同八卯二月七日御役料本知二御直被下、都合三百五十石

同十五戌八月十一日金津郡代席御上ケ被下、番外蜷川七郎兵衛次  
同廿卯正月十五日百石御加増、都合四百五十石

## 鈴木忠八

貳拾五石五人

享保四亥五月十六日表御小姓被召出

同七寅六月卅日江戸二而中奥御小姓

同年十一月十八日奥御小姓

同九辰五月十九日御小姓御免、大番入

同十已八月廿一日表御小姓

同十五戌七月廿三日表御小姓勤方指南候様筆頭之通

## 鈴木藤十郎 初伝之丞 隠居如童卜号 隠居

四百五拾石

享保十八丑五月六日父忠八為跡目七人扶持、御留守番入

元文三年九月廿五日鈴木彦太夫嫡子二願之通被仰付、御充行指上ル

寛保三亥正月十九日養父彦太夫隠居、家督無相違、番外三人下り蜷川七

郎兵衛次

宝暦十二午二月五日田代養山類族取扱不参届、拝知之内五十石御取上、

遠慮

安永三年七月廿四日寺社町奉行山崎七郎右衛門跡、与力御預ケ

同六酉三月四日五十石御加増

同八亥五月十六日金津奉行平本藤七郎跡

天明四辰五月廿四日御役御免御近習

同年六月十四日御勝手懸り

同五巳十月十一日病氣ニ付御近習御勝手懸り共ニ御免

鈴木藤十郎

四百五拾石

天明六年五月廿五日父藤十郎隠居、家督無相違、番外席白石十郎右衛門次

同月廿七日触頭水野善左衛門跡

鈴木彦太夫 岩五郎

四百五拾石

寛政十二申二月二日養父藤十郎跡知無相違、御番外渥美新右衛門次

文化元子三月廿日御触頭村上喜内跡

文化十三子三月廿九日御役御免、伺遠慮

文化十四丑正月廿一日御触頭大宮忠左衛門跡

文政七申八月六日金津奉行渥美太郎左衛門跡被仰付

文政十二丑十二月十三日御役御免伺之上遠慮

天保四巳二月十九日触頭白石十郎右衛門跡被仰付

同七申正月廿日格別思召を以寺社町奉行水野主計跡被仰付、主計罷在候

御役屋敷へ替被下

天保八酉ノ五月廿日故養父藤十郎娘離縁、已前妻女ニ有之内心得違之趣

有之二付急度慎被仰付、且又彦太夫儀家内不締之趣ニ付遠慮被仰付

天保八酉十月病死

鈴木主税

四百五拾石

一天保八酉十一月廿九日養父彦太夫家督四百五拾石被下置、定座番外渥美

新右衛門次

一同十三寅八月十一日格別之思召を以寺社町奉行花木源藏跡被仰付

一弘化二巳二月九日御側向頭取被仰付

一同年三月廿一日御供ニ而江戸詰出立

一同四未御供詰被仰付、三月十九日出立

一嘉永元申六月五日急御出府ニ而江戸表へ出立、同七月十五日御供ニ而帰着、右ニ付十二月七日御褒詞

一同年九月十五日思召を以御側締り役被仰付、是迄扨人役ニ而出精相勤候

ニ付御二所物拝領

一同二酉三月廿三日御供詰ニ而出立

一同年十二月十五日今般御前様御引移御用多ニ付銀式枚被下之

一嘉永四亥二月十六日御役御免被成、御近習被指置

一同五子六月十七日金津奉行津田弥太六跡被仰付候

一同六丑七月十九日御内為御用江戸表へ出立

一同年九月十六日金津奉行御免、江戸表御省略取調掛り被仰付候

一同七寅四月十四日此度思召を以大奥向御人減御趣法替被仰出候間、右御

用掛り被仰付、御近習ニ被指置候間、老女并御広敷御用人申談可被取扱

候、依之追々長く出府ニも相成候ニ付、詰同様之御取扱被成下候

一同年七月廿九日帰着

一同年閏七月十一日御省略懸り之儀ハ江戸表之通相心得、御勝手向御用筋

ニも相成、并御政事向之儀も心附候儀ハ申談相勤候様被仰付候

一安政二卯正月九日学問所御取建二付、御自分儀右取調掛り被仰付候

一同年九月廿五日御内御用有之二付、乍太儀立帰出府被仰付、支度出来次第可致出立候、同晦日江戸表江出立

一同三辰年二月十日於江戸表病死

一同年四月廿日兼々格別出精相勤候二付、江戸表方罷帰候上ハ御

含も被為在候処、致病死御残念被思召候、依之御目錄銀貳拾枚

養子伝之丞へ家督之上被下置候

## 鈴木伝之丞

四百五拾石

一安政三辰四月十三日養父主税家督四百五拾石無相違被下置、定座番外被

仰付候

一同四巳四月九日病死

## 鈴木重弘 小三郎 敏衛

四百五拾石

〔士族〕

一安政四巳五月廿九日兄伝之丞病中養子ニ被仰付、幼年ニ付家督三百石被

下置、定座番外ニ被仰付候

一同年九月廿三日家屋敷大道寺勝之進家屋敷へ替被下候

一万延二酉二月五日家督之節、幼年ニ付御作法之通御扶持方も可被仰付筈

之処、訳柄も有之知行三百石被下置候得共、当年ニ而者年頃ニ罷成候ニ付、元知之通四百五拾石被下置候、且又諸勤之儀ハ是迄之通ニ而夜廻り

相勤、出火等之節ハ御定之通可罷出旨被仰付候

一文久元酉三月廿五日不勤ニ被仰付置候処、諸事相勤候様被仰付候

一元治元子十二月賊徒一件之節御留守御用相勤候二付、御手当三百三拾三匁被下

一慶応二寅十月廿六日下馬并三ノ丸南御門所御預ケ被成、御警衛向厚相心得相勤候様被仰付、依之夜廻且出火之節詰所之儀ハ御免被成、尚又勤方之儀ハ御用人申談候様被仰付

一同四辰六月四日席其儘御小姓被仰付

一明治ト改元、十二月十三日殿様御上京御供出立、巳二月帰

一同二巳十一月七日御家従被仰付候事

## 但御近習勤

一月給米一年分六俵被下候事

一同年同月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米百九拾壹俵四斗三升四合被下

一同年十二月三日小三郎事敏衛ト改

一同三年十月廿八日御家従被免候事

一同日修業列江被入候事

一同日は迄御手許御用相勤太儀ニ思召、為御酒代金五百疋被下候

一同年閏十月廿五日修業列名目被廢非役ト唱

一同五申五月敏衛事重弘<sup>シゲヒロ</sup>



2

## 鈴木忠右衛門

三百五拾石

延宝元丑十二月十六日養父源兵衛跡知貳百石被下

貞享三一統半知

元禄五申十二月廿二日五拾石御加増、奉行役被仰付

正徳三巳五月五日於江戸百石御加増

享保四亥十月七日御奉行役御免、元締役被仰付、御役料其儘

鈴木源兵衛

三百五拾石

正徳元卯十一月七日御手廻被召出

享保十巳五月廿一日父忠右衛門家督無相違、大番入、此節自分御擬作上ル

同十二未十一月十六日御先物頭井原丞助跡

同十六亥十一月五日御普請奉行堀新左衛門跡

鈴木忠右衛門 隠居

三百五拾石

元文二巳四月廿五日父源兵衛跡知無相違、大番入

寛保三亥五月十一日大番二番筆頭佐々木幸右衛門跡

延享元子十月廿五日御水主頭中川惣右衛門跡

寛延元辰八月十六日御側物頭熊谷小兵衛跡

宝暦五亥十一月廿九日御目付奈良権左衛門跡

同十三未七月五日寺社町奉行奈良権左衛門跡

明和五子四月十六日遠慮

同年七月朔日当春御城下町筋騒々敷候節早速取扱方可有之処、不都合之

致方不調法二付御役御取上、席末ノ番外被仰付、遠慮

安永元辰十二月十六日御先物頭次席

鈴木清左衛門

三百五拾石

安永三年七月廿四日養父忠右衛門隠居、家督無相違、大番入

同八亥九月廿日御使番原平左衛門跡

天明三卯九月十六日杉形御鑓奉行海福久右衛門跡

同五巳十二月十一日御目付助御側武頭大野左七郎跡

同八申六月十五日御泉水預り

寛政二戌二月廿日郡奉行大井弥十郎跡

同五丑正月廿八日御趣意二付御役御免、御先武頭次席

同年二月廿六日御普請奉行原田彦八郎跡

同十二申七月十七日隠居

鈴木源兵衛 伝八

三百五拾石

寛政十二庚申七月十七日父清左衛門隠居被仰付、家督無相違被下、大御

番組江被入

文化六巳十一月廿三日病死

鈴木忠太夫 力之助 伝八

三百五拾石

文化七午正月十六日父源兵衛跡知無相違、大御番入

文政十二丑十月十一日郡奉行久世八左衛門跡被仰付

天保三辰十二月廿八日御目付役笹川藤内跡

天保八酉五月廿五日御奉行今立五郎太夫跡

同十一子八月十四日病身二付内願之通御役御免、御側物頭次席

### 鈴木力之助

三百五拾石

天保十一子十月五日親忠太夫家督三百五拾石無相違被下置、大御番組へ被入

### 鈴木牛兵衛 幾三郎事 実小川治兵衛弟

三百五拾石

一天保十五辰七月十四日養父力之助病中養子願之通被仰付、跡知無相違、大御番組へ被入

一嘉永三戌七月廿日村上左仲養母侍格御削、揚り屋へ被入候二付、伺之上遠慮

一安政三辰十月十七日大御番六番之筆頭役前波利兵衛跡被仰付候

一安政四巳二月廿日御書院番組へ被入候、役儀之儀ハ御免被成候

一文久三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日御供二而帰着

一元治元子二月廿日格式末ノ番外ニ被仰付候

一同年十二月賊徒一件之節御留守御用相勤候二付、御手当三百三拾三匁被下

一慶応元丑四月廿九日御留守物頭野中重左衛門跡被仰付

一同二寅十月十三日御鷹方御用取扱并鳥見之者支配被仰付

一同年十月廿六日席其儘御留守組支配と被仰付

一同三卯四月廿日御趣意二付夜廻り勤被仰付候

一同年十一月廿九日先達而御膳所為見分罷越候節、其筋江何候とハ乍申、

当節御役前ニおゐて其儀ニも不及候処、見分之都度御時態を不弁心得違至極之次第有之趣相聞、不調法之事ニ候、依之御役御免被成、末之番外

ニ被仰付遠慮、十二月十九日御免、夜廻り勤被仰付

一同四辰七月廿四日当分三ノ丸御座所御門御預ケ当番被仰付、右勤中夜廻勤之儀ハ御免被成候

一明治二巳二月十六日年寄二付隠居

### 鈴木<sup>タ、オ</sup>忠夫 重之助 蕃

〔士族〕

三百五十石三人

安政七申正月廿五日当申年太田御陣屋御雇詰被仰付、詰中三人扶持被下置候、閏三月廿三日出立

一文久元酉四月七日帰着

同廿五日太田御陣屋御雇詰被仰付候二付銀式枚被下置、且又右同断二付

銀壹枚別段金貳百疋被下置候

一同二戌七月廿五日不行状之趣相聞候二付、御移りを以御叱り被成候

一文久二戌十月六日今度農兵御端立二付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候

一同三亥二月十日殿様御上京被遊候二付御供、三月六日御供二而帰着

一同年十月十三日中将様御供二而上京

一元治元子四月廿三日御供二而帰

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤候二付、銀壹枚被下置候

一同廿六日御含御用有之早速上京被仰付、五人ふち被下置、同廿八日出立、

八月廿三日帰

一同年七月十五日在京中農兵教授方手伝被仰付候

一同年八月廿六日今般長州人上京乱入、堺町御門於固場所戦争之砌、於場中相働候段達御聴格別之事ニ被思召候、依之為御賞御扶持方三人扶持被下置、家督之節御加増ニ被成下候

一同年十月十六日長征出陣、丑二月六日帰

一同年十二月蕃卜名替

一慶応元丑閏五月十八日三番之補兵隊伍長被仰付

一同二寅四月廿四日堺町戦争ニ付公儀<sup>カ</sup>被下配当金千疋、且又戦功ニ付三千五百疋被下置候

一同年十二月廿六日什長被仰付

一同三卯三月廿六日嚮導被仰付

一同年四月廿五日御持第六小隊指添被仰付

一同年十月廿二日第一遊撃隊御雇被仰付候

一同年十一月二日宰相様御上京ニ付速見迄御見送り出立、同七日帰

一慶応三卯十一月廿六日宰相様御滞京中為御備上京被仰付、出立

一同年十二月四日養父牛兵衛御国表ニ而御咎ニ付恐入遠慮伺之上指扣、同八日御免

一同四辰四月十日京<sup>カ</sup>帰

一同月廿五日被召出<sup>カ</sup>番之遊撃隊分隊長被仰付、四人扶持御足、都合七人扶持被下置、勤中其隊之上席ニ被成下候

一同年八月十八日戦地為物見越後表へ早急致出立候様即日出立、九月四日早か<sup>ケ</sup>帰

一同年九月八日御警衛詰上京、十一月十六日帰

一明治卜改元、十二月十五日公務方被仰付、御書院番組江被入、御足扶持其儘被下置候

一同二巳正月廿七日東京江出立、但公務方勤中月々式千五百疋ツ、被下候一同二巳二月十六日牛兵衛年寄ニ付隠居被仰付、家督三百五十石三人扶持無相違被下置、公務方其儘被仰付、御書院番組江被入候

一同年七月十七日蕃事<sup>タ、オ</sup>忠夫卜改

一同年十月二日東京<sup>カ</sup>帰

一同月廿四日公用人試補被仰付候事

但四等官川崎平三郎次

一月給米一年分十五俵被下候事

一同年十一月朔日司計局承事試補被仰付候事

但月給米一年分更ニ廿俵被下候事

一席其儘

一同月廿一日司計局権大属被仰付候事 未正月 年給五十四俵

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米百七拾俵<sup>カ</sup>斗八升九合被下

一同四未 以本官監督被仰付候様會計<sup>カ</sup>伺之通

一同年二月十二日藩庁一集相成候ニ付、御改正中不及出仕候事

一同年三月十九日依願給禄之内七十俵養弟伝弥江分禄被仰付候事、壬申四月廿五日合禄

米百俵<sup>カ</sup>斗八升九合

一同年六月朔日御改正ニ付免職

一同十四日任福井県少属

六職肝煎、但土木之儀も可相心得事

一同年十二月八日任福井県少属



御用有之立帰上京、至急出立申付十日出立

一同五申二月廿三日帰着

一同廿九日堤防宮繕

**鈴木**<sup>3</sup>

鈴木甚五太夫 隠居

百五拾石

元禄八亥七月二日表御小姓被召出、御切米被下

宝永三戌五月十六日奥御納戸

正徳三巳閏五月十三日新知被下

享保三戌五月十日御鵜方御用加役

同十一年三月廿九日御留守物頭御鵜方兼、津田藤兵衛跡

同十四酉二月十六日御鵜方御免

元文元辰九月十一日五十石御加増

鈴木又吉 病死

百五拾石 役料百石

元文五申閏七月九日表御小姓被召出

延享三寅五月十八日御手廻御書院番入

同四卯十一月十一日御部屋附御手廻

寛延三年九月十一日御供目付河合定右衛門跡

宝暦二申十一月廿二日父甚五太夫隠居被仰付、三人扶持被下、家督無相

違、御役其儘自分御切米ハ上ル

明和元申十一月廿五日御留守物頭御鷹方兼西村九郎右衛門跡

同九辰九月七日御先物頭萩原金兵衛跡、御役料百石

鈴木又左衛門 甚十郎

百五拾石 役料百石

安永二巳年九月廿日父又吉跡知無相違、大番入

同三年正月廿九日若殿様御小性

天明四辰十一月十五日若殿様附御近習番頭取格、勤方平之通

同八申十月十五日御部屋附御近習番頭取御膳番大木与右衛門跡

寛政九巳三月四日御使番築田七左衛門跡、御役料百石

享和三亥二月廿二日御先武頭坂井権左衛門跡

文化十三子六月十日御旗奉行鈴木百助跡

文政元寅十月二日隠居被仰付候

鈴木甚十郎 又三郎 隼司

百五拾石

文政元寅十月二日父又左衛門隠居被仰付、家督無相違被下置、大御番組

へ被入

文政二卯ノ正月廿六日若殿様御小性恒五郎様兼帯被仰付候

文政十三寅六月廿八日若殿様御附御腰物数寄方奉行御表様御用兼帯

天保四巳九月廿九日御腰物数寄方奉行若殿様御附御用兼帯福田八右衛門

跡

同七申五月廿日末之番外御時宜役

鈴木甚十郎 与三吉 又三郎

百五拾石

一天保十亥九月廿九日親甚十郎家督百五拾石無相違被下置、大御番組江被入

一嘉永二酉年江戸詰、三月廿一日出立

一同七寅正月十二日江戸表へ出立

一安政三辰十二月廿八日甚十郎与名替

一万延元申六月廿六日御番皆勤二付時服被下

一文久元酉三月十九日御供二而江戸出立、同二年戌御供二而帰

一同二戌十一月廿六日来春殿様御上京被遊候二付、為御待請出立

一同三亥三月廿五日中午將様御供二而帰着

一同年六月三日御番頭引纏上京、九月五日帰

一同年十二月廿四日先達而京都動揺之節為御守衛出張二付、朝廷方為御褒

美式百五十疋被下置候

一元治元子二月廿九日与内檢地奉行石川瀬左衛門跡被仰付、御留守番組へ

被入候

一同年十二月賊徒一件之節御留守御用相勤候二付、御手当式百匁被下

一慶応三卯二月廿五日格式末ノ番外二被仰付、役儀ノ儀ハ御免被成候

但同廿六日御広間御番士勤被仰付候

一明治二巳九月廿九日多年精勤之処御藩制御改革二付、為御慰勞三十五兩

被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米八拾貳俵壹斗貳升壹合被下

一 優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同四未八月廿四日米松村へ土着

一同年十二月五日病身願立替

鈴木健吉

米八拾貳俵壹斗五升壹合

一明治四未十二月五日父甚十郎病身願之上立替



鈴木清八

百石

元禄十丑七月四日御手廻被召出、御合力銀被下

享保六丑五月十五日御切米貳拾五石五人扶持被下、御裏役市村五太夫跡

同九辰六月十六日御役御免、大番入

同十午四月十六日重而御裏役被仰付

同十五戌十二月十八日新知被下

元文五申閏七月九日御纏奉行山名次郎右衛門跡

鈴木五右衛門 休息

百石

寛保三亥八月廿一日養父清八跡目無相違、大番入

延享元子十一月七日御手廻

同四卯九月廿三日御駕附

同五辰八月廿一日病有之、御手廻御免、大番入

〔士族〕

鈴木新八郎

百五拾石 役料百石

明和元申十二月十六日養父五右衛門家督無相違、大番入

明和三戌十二月十六日御次詰御書院番入

安永三年八月六日御裏役

同五申二月十一日奥御納戸

同七戌十二月十六日御供頭

天明二寅六月十四日若殿様御膳番格、御近習番是迄之通にて、若殿様御

供頭

寛政元酉閏六月五日格式末ノ番外御時宜役

寛政五丑正月廿八日郡奉行鈴木清左衛門跡、役料五拾石、御長柄奉行次

席

同九巳九月廿日御目付荒川助右衛門跡、役料百五拾石

享和元酉十月十一日御奉行

文化六巳三月朔日御預所元締役浅見忠右衛門跡、役料之内五拾石御足高

ニ被成下

同七午十月十七日出精ニ付御足高五拾石御加増被成下候

文化七年十一月十日病死

鈴木藤吉

百五拾石

文化七年十二月廿九日父新八郎家督無相違、大御番入

同八未二月七日御近習番御書院番入

同十二亥六月廿日奥御納戸林久太夫跡

文化十三子十月朔日御膳番被仰付候

同十五寅二月病死

鈴木新八郎 勇次郎

百五拾石

文化十五寅三月廿三日養父藤吉家督無相違被下、大御番入

文政六未三月廿九日乱心同様之義相聞候ニ付、拜知被召上実方へ御返被

成蟄居被仰付、家断絶

鈴木藤吉 外吉事

廿五石五人

一文政六未三月廿九日鈴木新八郎儀不埒至極乱心同様之趣相聞候ニ付、拜

知被召揚実方江被相返蟄居被仰付、家断絶候処、格別之思召を以親類之

内大野猪兵衛二男江家名御立被下、為名跡御充行廿五石五人扶持被下置、

無役御留守番組江被入

一天保十一子八月五日御広敷御用達山口与右衛門跡被仰付、御留守番組江

被入

一同十三寅年江戸詰、三月廿五日出立

一嘉永元申年江戸詰、四月十一日出立

一同三戌三月十六日御花畑絵奉行吉池角左衛門跡被仰付

一同五子六月十六日御代官役川崎仁右衛門跡被仰付候

一文久二戌六月十六日御預所御代官役被仰付候

一元治元子十月賊徒一件御留守御用御手当百匁被下

一慶応三卯二月十六日年寄候ニ付休息

鈴木政太郎 藤吉養子

〔士族〕

廿五石五人

文久三亥正月十六日農兵教授手伝被仰付候

一同年六月廿六日砲術所世話役被仰付候

一同四子正月廿日当春芝御陣屋詰被仰付、右詰中五人ふち下置候、相止

一元治元子二月廿三日支度出来次第上京被仰付、滞京中五人ふち被下置、

三月五日出立、四月十七日帰着

一同年五月十九日芝御陣屋未夕御引渡無之二付、右引渡相済候迄同所詰被

仰付、詰中御扶持方五人フチ被下置、支度出来次第早速致出立候様被仰

付、廿九日出立

一同年六月廿五日当春宰相様御職被為蒙候ニ付、早速上京取調等致心配太

儀之段御褒詞

一元治元子九月九日同陣屋方帰着

一同年十二月賊徒一件出張、御手当式百匁被下

一同二丑四月七日山階宮様御附人被仰付、為失却月々金三両ツ、被下、外

ニ為衣裳金拾両被下置候

一慶応卜改元、丑四月廿三日上京

一同年閏五月十八日二番之補兵隊被仰付

一同二寅三月三日来卯ノ春迄詰越被仰付

一同年九月四日当節物価沸騰難渋、願之上前後之例ニ不拘金壹両壹分衣裳

料之内江御手当被成下候

一同年十一月十三日京都方帰、御不用ニ相成候ニ付

一同年十二月廿五日役筒頭助被仰付

一同三卯正月十六日製造方御雇分掛方被仰付候

一同年二月廿六日養父藤吉年寄候ニ付休息被仰付、家督廿五石五人扶持無

相違被下置、製造方被仰付、役御番組江被入候

一同四辰正月廿九日製作方被仰付

一同年九月十一日彈藥方製作方兼被仰付、製造局附属被仰付

一明治卜改元、十月廿日奥州会津表江早速出張被仰付、藤井甚十郎卜致交

代候様被仰付、十一月朔日出立、巳三月五日帰

一明治二巳二月十八日 月給十俵

一同月廿二日奥羽越御人数出張中格別勤勞ニ付金貳両被下

一同年十一月廿一日民政局権少属被仰付候事

一同月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米五拾三俵壹斗四升三合被下

一同三年八月廿一日任少属

但民政寮勤

一同年十二月十二日任准権少属 年給貳拾壹俵

但民政寮勤仕

一同四未六月朔日御改正ニ付免職

一同年八月廿日戸長被仰付候事 第二区

一同五申正月廿七日右同断

一同年七月戸長被免、更ニ第二区戸長申付候事

鈴木

5

鈴木仁太夫

## 百石

元禄十一寅七月五日御徒目付方御取立、同日江戸武具奉行被仰付、御切米御扶持被下罷在候処

於江戸享保二酉五月十六日新知百石被下

同七寅冬御番割之節順席被仰付

同十巳十月七日於江戸死去

## 鈴木十左衛門 隠居

貳百石 役料百石

享保八卯九月廿三日御部屋附御小姓被召出、御切米被下

同十巳十一月廿六日父仁太夫跡知百石無相違、勤方其儘

同十五戌八月六日五十石御加増

同年十二月廿八日御膳番

同十六亥正月廿六日御書院番筆頭

同廿一辰五月十一日御徒頭中根九右衛門跡、御役料百石被下

元文三年五月十五日御側物頭同人跡

寛保二戌六月朔日御目付加藤武右衛門跡

延享二丑正月廿一日御預所御目付五十石御加増

同四卯八月廿二日御側物頭女中支配兼若殿様附長袴格

宝曆八寅四月十七日御代替り二付御側勤御免被成、其儘御近習二被差置

同年五月廿八日勤方最前之通被仰付

同年十二月十一日隠居、三人扶持被下

## 鈴木小兵衛

## 百五拾石

延享三寅五月廿一日中奥御小姓被召出、御擬作並之通被下

寛延三年二月十一日中奥御免、大番入

同月十六日表御小姓

宝曆五亥正月十六日中奥

宝曆八寅四月十七日御代替二付御小姓御免、御近習二被差置

同年五月廿八日中奥

同年十二月十一日養父十左衛門隠居、三人扶持被下、家督貳百石無相違、

自分御擬作ハ上ル、勤方其儘

明和元年申八月廿五日御膳番御書院番入

同二酉九月十六日御書院番筆頭村上十太夫跡

同五子七月六日御使番酒井十郎助跡、役料百石

同年十二月十日御奉行

同七寅正月十六日札所御目付役被仰付、札所組御預被成、席御奉行順席

安永二巳八月廿日御役御免、御役料ハ其儘被下、御先物頭次席

同三年六月十四日御先物頭中村八太夫跡

天明八申八月廿八日御普請奉行土屋五郎太夫跡

寛政五丑二月廿五日不調法有之御役御取上、拜知之内五拾石被召上、大

番入、閉門

## 鈴木十左衛門 仁太夫

百五拾石

寛政十年十月五日養父小兵衛内願有之休息被仰付、家督無相違、大御番入

文化七午二月十三日於江戸郡奉行小栗次右衛門跡、御役料五十石被下

文化九壬申七月三日御目付村田十太夫跡被仰付、御役料都合百石被下置

同十四丑十一月五日御預所掛り

文政五午十二月十五日長袴席被仰付、熊谷小兵衛次

文政六未二月八日御札所目付兼帯被仰付、翌九日御預所掛り御免

文政八酉十月四日病死

# 鈴木十左衛門 仁太夫

百五拾石

一文政八酉十一月廿五日父十左衛門家督無相違被下置、大御番組へ被入

一同年十月廿三日御近習番被仰付、御書院番組へ被入

一同十一子江戸詰被仰付候、翌十二丑年帰り

一天保二卯年江戸御供詰

一同年六月十一日御書物方沢木八左衛門跡被仰付

一同五年九月廿九日御裏役被仰付

一同六未年江戸御供詰、同年天梁院様御棺御供二而帰着

一同年九月五日今度御代替二付御役御免被成、御書院番其儘御近習二被差

置、御用筋之儀ハ是迄之通可申談旨

一同年同月十六日御裏役被仰付候

一天保七申江戸詰被仰付、八月廿五日出立、翌八酉年帰

一同年十二月十九日奥御納戸役加藤庄兵衛跡被仰付候

一同九戌十月廿五日今度御代替二付御役御免被成、御書院番其儘御近習二

被差置候、勤方之義ハ追而可被仰付候、御用筋之義ハ是迄之通可申談旨

一同年同月廿九日奥御納戸役被仰付候

一同十一子江戸詰被仰付、八月廿八日出立、翌十二丑年帰

一同十五辰正月十四日御供二而出立、同五月十一日御供二而帰着

一同年五月廿三日御膳番被仰付

一同年十月廿三日御膳番其儘御近習番頭取被仰付

一弘化二巳江戸詰被仰付、三月廿一日出立

一同三年十月朔日御留守作事奉行服部三郎兵衛跡被仰付候

一同四未十二月晦日御本城橋御繕之節、出精二付御褒詞

一嘉永二酉十一月五日御先作事奉行服部三郎兵衛跡被仰付、御役料百石被

下置候

一同三戌三月五日昨酉年柳御門頼当御普請之節、出精二付御褒詞

一同四亥七月五日御先物頭石川弥五太夫跡被仰付候

一同七寅八月十八日病死

# 鈴木銳之助

百五拾石

一嘉永七寅年十月八日親十左衛門家督百五拾石無相違被下置、大御番組へ

被入候

一同年十一月十七日病死

# 鈴木準道 ノリミチ 捨五郎

百五拾石

安政二卯正月八日兄銳之助病中願之通養子二被仰付、家督百五拾石無相

違被下置、大御番組へ被入候

一同六未三月廿四日江戸詰出立

〔士族〕



一同年十一月廿日御近習番被仰付、御書院番組へ被入候

一同七申三月十五日御供二而帰着

一万延与改元、十二月七日御小姓平岡十三郎跡被仰付候

一文久元酉三月十九日御供詰出立

一同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日帰着

一同年五月七日当亥御参府御供被仰付、八月十七日出立、同十二月江戸へ

御上京御供、子二月御帰国御供着

一元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫へ長征、丑三月帰

一慶応二寅六月五日御小姓頭取武田三十郎跡被仰付候

一同三卯三月十日御上京御供出立、四月四日帰

一同四辰閏四月十四日郡奉行被仰付、席末之番外二被成下、御役料五拾石

被下置、御役人並被仰付候

一同年五月九日御役名上領支配と被仰付、御役人並之儀被相止

一明治二巳二月十五日民政局承事被仰付候、月給米七十俵、御役料不被下

候

一同年十一月廿一日今般御改革二付当役被免候事

一同日民政局権大属被仰付候事

一同月廿五日今般御改革、更給禄米八十式俵壹斗式升壹合被下

一同三年八月廿五日東京へ護送人帰着之節、武生表不穩趣二付出張被仰付

候処、取計方不参届二付謹慎被仰付、九月二日御用之儀ハ可相勤事、同

十一日へ謹慎被免候事

一同年九月十九日任大属、但勤向可為従前之通事 年給七十三俵

同四未六月朔日今般御改正二付免職

同二日任福井藩大属

同年十二月七日福井県九等出仕

聴訟課

同十日任福井県権典事

聴訟課従前之通

同五申五月捨五郎事準道



鈴木惣太夫 休息

式拾五石五人

享保九辰二月十五日於江戸二御右筆二被召出、御書院番入

同年七月十八日御右筆御免、大番入

元文四未四月廿一日休息

鈴木忠左衛門 初惣太夫 休息

百石

元文四未四月廿一日養父惣太夫休息、家督無相違、大番入

宝暦十三未九月廿三日御前様御取次御留守番入

明和四亥閏正月廿八日表御納戸高橋喜三右衛門跡、大番入

安永元辰十二月五日倅平三郎不埒二付御呵

同三年二月廿八日御広式御用達御留守番入

同九子四月二日新知百石被下

天明元丑六月十一日御裏役埴原八蔵跡、御書院番入

鈴木忠左衛門

百石

天明三卯八月廿五日養父忠左衛門休息、家督無相違、大番入  
同五巳五月廿一日御小性

同六年正月九日御裏役小林次郎兵衛跡、御書院番入

寛政三亥二月十四日御部屋附御近習番

同四子三月廿五日御部屋附奥御納戸

同六寅三月九日当分御表御裏役兼帶

同七卯四月朔日御裏役兼帶御免

享和元酉十一月廿八日中将様御附奥ノ番

同三亥七月廿日奥御納戸御書院番入

同年十一月十七日御役御免、大御番入

鈴木源三郎

百石

文化三寅八月廿八日被召出、御附御小性、御合力銀十五枚三人扶持被下

同年十一月朔日父忠左衛門跡知無相違、御附御小性其儘是迄之御合力銀

八不被下

同六巳八月廿一日此度隆徳院様御逝去二付、御附御小姓御免被成、大御

番入

文化十酉正月晦日御部屋附御近習番御書院番入

同十一戌四月十二日御裏役小林久兵衛跡

文政四巳九月病死

鈴木平馬 五三郎事 惣太夫事

百石

一文政四巳十月廿九日養父源三郎病中願之通養子二被仰付、家督百石無相  
違被下置、大御番組へ被入

一同七申二月廿一日若殿様御附御近習番被仰付、御書院番組へ被入

一同十亥御小姓被仰付候

一同十二丑九月 御国表江家内共引越被仰付候二付、翌寅五月廿一日家

内召連到着

一天保五午七月十九日若殿様御附奥御納戸役被仰付、御書院番組へ被入、

役席渡辺忠四郎次

一同六未江戸詰被仰付、三月廿八日出立

一同年六月五日超倫院様御逝去二付御役御免、大御番組へ被入

一同十二丑正月廿日御書院番組へ被入

一同十四卯三月廿九日末之番外御時宜役被仰付候

一嘉永元申九月十五日御使番役御供頭兼武曾權太夫跡被仰付、御役料百五

拾石被下置候

一同二酉江戸詰被仰付、三月廿三日出立

一同四亥年江戸御供詰

一同五子六月十七日御先物頭服部三郎兵衛跡

一同七寅年十月十三日御側物頭次席御使番役御供頭兼被仰付候

但安政元寅十二月十八日御軍制御改正二付、御役名御先新物頭与

替ル

一安政二卯二月六日御道中御徒頭兼詰中御徒頭取扱被仰付候

一同年江戸御供詰

一同三辰三月十二日火之御番御用相勤候ニ付太儀ニ思召、御召御上下一具銀一枚被下置候

一同三辰四月十五日御側物頭周防猪左衛門跡被仰付、同日御泉水預り被仰付候

一万延元申六月御旗奉行本多十郎兵衛跡被仰付候

一文久三亥八月六日夜廻り勤之儀ニ付、伺之上遠慮、十一日御免

一元治元子十月十五日長征出立、丑正月廿九日帰

一同年二月廿二日隠居

鈴木平馬 鑑吉郎 瀬平

〔士族〕

百石

安政七申正月廿五日当申年太田御陣屋御雇詰被仰付、詰中御扶持方三人扶持被下置候、閏三月廿四日出立

一文久元酉四月六日帰着

一同廿五日太田御陣屋御雇詰被仰付候ニ付銀式枚被下置、且又右同断ニ付

銀壹枚、別段金貳百疋被下置候

一同二戌十月六日今度農兵御端立ニ付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候

一同三亥七月八日上京被仰付、相止

一同年八月廿一日早速上京被仰付、廿二日出立

一元治元子四月廿三日宰相様御供ニ而帰京

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別骨折相勤候ニ付、銀壹枚被下置候

一同年六月廿六日御含御用有之早速出京被仰付、五人ふち被下置、七月六

日出立、八月廿二日帰着

一同年九月十二日農兵教授手伝御免被成候

一同年十月十四日長征出立、同二丑正月晦日帰着

一同年十二月瀬平ト名替

一同二丑二月朔日賊徒一件ニ付敦賀表江出張、同廿三日帰

一同年二月廿二日親平馬年寄候ニ付隠居被仰付、家督百石無相違被下置、大御番組へ被入候

一慶応ト改元、閏五月廿日弟琢郎御叱被成候ニ付、瀬平遠慮伺之上指扣、廿二日御免

一同年八月十二日砲術所世話役被仰付

一同年十一月廿九日弟省吾重御咎ニ付伺之上遠慮、十二月五日御免

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付、公儀方被下配当金千疋被下置候

一同年七月廿五日内達之趣も有之ニ付、砲術所世話役御免被成候

一同三卯三月十日御上京御供出立、直ニ御警衛詰、七月十九日帰

一同年十二月廿八日瀬平事馬ト改

一同四辰二月六日河合滝右衛門養子弥藤太儀昨年於京都出奔之处、今度召連来候ニ付重キ御咎被仰付候处、実弟ニ付伺之上遠慮、同十三日御免

一同年三月十六日御留守番組江被入候

一慶応四辰閏四月十九日弟賢輔御咎ニ付伺之上指扣、同廿二日御免

一同年五月十一日今般御趣意ニ付無役組へ可被入候处、御広間当番勤被仰付、御留守番組ニ其儘被指置候

一明治二巳十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下、予備隊

一同三年四月三日宿浦辺へ土着仕度、尤当勤之者ハ御城下ニ罷在家族為引

移開墾仕度、同所御用地之内ニ而一万坪御渡、願之通被仰付候

但地所之儀ハ民政寮江可申談候事

一同年四月十四日弟郁郎儀先年航海術修行、他国罷越、然ル処二十四ヶ月相満候節ハ一段帰家仕候御法有之候処、只今ニおゐて相帰リ不申、全申付方不行届恐入遠慮伺之上指扣、同十七日御免

一同年閏十月廿五日予備隊名目被廢非役卜唱

一同年十二月十四日土着願下ケ願之通被仰付

一同五申九月廿五日病身ニ付倅外作へ

## 鈴木外作

一現米貳拾七石七斗九升六合

〔士族〕



## 鈴木百助

百石 役料百五十石

明和二酉三月十三日御擬作並之通被下、中奥御小性

安永二巳正月廿五日若殿様御膳番御書院番入

同七戌八月十二日御腰物御数寄方奉行大久保助十郎跡、新知百石被下置

天明七未三月十四日御部屋御腰物奉行兼帶

寛政二戌五月廿八日御留主作事奉行国枝六太夫跡

同年九月十五日御先作事奉行森田安兵衛跡、役料百五十拾石

寛政四子七月三日御奉行役石原九郎左衛門跡

享和元五月七日不調法有之御役御免、格式末之番外、遠慮被仰付候

文化三寅七月廿四日御鳥見頭高島与五左衛門跡

同七年八月二日御先物頭岡部市右衛門跡、役料百五十石

同十一戌七月廿日御簾奉行山田次郎太夫跡

文化十三子六月十日隠居被仰付、中ノ口往来折々御機嫌伺

## 鈴木百助 謙助 金五右衛門

百石

文化十三子六月十日父百助年寄ニ付隠居、家督無相違、大御番入

同八月廿一日御近習番大河原源太跡、御書院番入

文政七申六月十六日奥御納戸山口弥太夫跡

同九戌二月廿四日威徳院様御逝去ニ付御役御免、大御番入

文政十二己丑八月十二日若殿様御附奥御納戸役被仰付、御書院番組へ被

入、支度出来次第江戸詰

同十三寅四月十一日同御附御膳番被仰付、奥納戸其儘ニ被仰付候

天保四巳十一月十一日末之番外御時宜役被仰付

同十亥五月廿九日御使番役高田長左衛門跡、御役料百五十拾石被下置候

同十一子十月廿五日御水主頭吉田五左衛門跡被仰付、五左衛門是迄罷在

候御役屋敷へ替被下

同十五辰五月廿三日御先物頭毛利六郎右衛門跡

## 鈴木百助 荒太郎事

百石

一嘉永元申正月十六日養父百助隠居、家督無相違被下置、大御番組へ被入

候

一同年四月廿日江戸詰出立

一安政六未四月十一日御広敷御用達被仰付、御留守番組へ被入候

一同七申二月十一日江戸詰出立

一万延与改元、七月九日御番御供皆勤二付、御紋御帷子被下置候

一文久元酉四月十四日帰着

一元治元子十二月賊徒一件之節御留守御用相勤候二付、御手当式百匁被下

一慶応元丑七月五日賀代姫様御逝去二付、阿州表江御悔為御使日比彦之丞

同道罷越候様被仰付、六日出立、同晦日帰着

一同二寅十月十三日年寄候二付休息

### 鈴木 二 謙助 百助 倅

百石

〔士族〕

安政四巳五月廿九日明道館句読師被仰付候

一同五午十月五日当分外塾勤被仰付、稲葉哉五郎家来岡田準介致世話居候

外塾生徒之儀、準介申談致世話様被仰付候

一同六未七月十一日外塾勤被仰付置候処御免被成候

一同年十一月十六日御趣意二付句読師御免被成、尚又是迄之通厚致修行候

様被仰付候

一万延元申年親同道江戸表へ罷出

一同年四月廿一日為学問修行出府罷在候処、右修行中御扶持方三人扶持被

下置候

一同年七月廿八日先達而臨時横浜表江出張二付御褒詞

一文久元酉四月十四日帰着

一同二戌三月十一日中将様御詩作御相手被仰付候

一同年四月廿日学諭被仰付候

一文久二戌六月十四日支度出来次第江戸詰被仰付、詰中中将様御附御近習

御雇被仰付、御扶持方五人扶持、外二為失却銀五枚被下置、同廿二日出

立

一同年八月廿一日於江戸表 二 与改名

一同年九月十四日中将様御手許御用書方御雇振退被仰付候

一同三亥正月廿三日御船二而御上京被遊候二付御供、三月廿五日右御供二

而帰着

一同年三月晦日中将様御手許御用当分振退勤之儀ハ御免被成、詰中同様被

仰付候

一同年十月十三日中将様御供二而上京

一同四子正月九日御附御近習番御雇被仰付候、同十四日御附御書物方被仰

付候

一元治と改元、四月廿三日御供二而帰着

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀二思召候、依之御

酒被下置候

一同年九月五日宰相様御馬廻り被仰付候、御詩作御相手之義ハ是迄之通被

仰付候

一同年十二月賊徒一件二付出張御手当式百匁被下

一慶応元丑十月朔日宰相様御出坂御供二而出立、同三日今庄方御引戻二付

帰

一同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月六日御供帰

一同年十月十三日親百助年寄候二付休息被仰付、家督百石被下置、役御番

組江被入、御詩作御相手是迄之通被仰付候

一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰着

一同年十一月二日右同断出立、辰三月十五日帰

一同四辰五月十一日上京、九月十二日帰、十一月八日上京、巳二月十五日

帰

一明治二巳二月廿九日明道館訓導被仰付 月給十俵

一同年六月廿四日西京并中国筋江御用ニ付罷越候様被仰付八月三日出立、

十月廿二日帰

一同年十月廿六日明新館助教被仰付候事

但月給米一年分更二十五俵被下候事

一役席山本平太郎上

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同月廿七日今般御改革ニ付当役被免

一同月廿八日学監文学所佐教兼被仰付候事

一同三午二月宿浦江土着願之通被仰付

一同年七月十七日寄宿所掛り被仰付候事

一同日当分一人ツ、寄宿所当直可相勤事、但五人也

一同年九月四日右当直被免候事

一同年十月三日宿浦江家族共為引移願之通

一同月廿四日今度土着ニ付拝地返上可仕候、依之在来建物之分ハ被下候様

願之通被下候ハ、家作之義ハ相對ヲ以粕谷沙庭江讓渡申度旨、願之通

被仰付候

一同年閏十月廿八日御用有之二付立帰東京江可罷越事、十一月十八日出立

一同年十二月十二日任一等教授兼学監 年給七十三俵

但文学掛り

一同四未四月八日藩庁御用之儀も相心得可申事

一同年同月十八日依願倅虎一へ給禄米六拾俵四斗三升六合之内式拾俵分禄

被仰付候事

米四拾俵四斗三升六合

一同月十九日任権少参事 年給九十三俵

一同年六月朔日御改正ニ付免職

一同年七月十三日任福井藩権少参事

一同年 東京府出仕、権典事ノ心得 常務掛り

一同五申正月廿八日東京府典事

一同年六月二日七等出仕

一同年九月東京府蛸殻町四番屋敷へ全戸引越送籍願済



鈴木宇左衛門

百五拾石

貞享三寅十月廿五日父宇左衛門家督無相違被下

正徳元酉五月十八日御姫様附二被仰付

同三辰八月五日御役御免、御留守番入

鈴木又左衛門

百五拾石 外役料百石

正徳四年五月五日父宇左衛門家督無相違被下

同五未五月廿五日御手廻被仰付



享保二酉六月廿六日御供目付

同四亥十二月十五日御使番被仰付、今村段右衛門跡

同六丑十月四日不応思召義有之拝知被召上、名字為相統堀新左衛門次男

才三郎へ十人フチ被下、其身蟄居

### 鈴木市右衛門 隠居

拾七人扶持

享保六丑十月四日鈴木又左衛門拝知被召上、名字為相統堀新左衛門次男

才三郎へ十人扶持被下

同九辰九月十五日表御小姓、御切米式拾五石五人被下

同十一年十一月六日中興

同十五戌六月十一日御手廻御書院番入

元文五申五月十八日御手廻御免、大番入

宝曆十一巳五月八日妻致出奔兼而家内不締り二付遠慮

同十三未四月廿四日三国湊二而右妻并男共二打果ス

安永八亥七月廿五日末ノ番外御擬作十七人扶持御直被下

### 鈴木市右衛門

拾七人扶持

天明三卯八月十六日父市右衛門隠居、家督無相違、大番入

### 鈴木市右衛門 平十郎

十七人

文化五辰二月十一日養父市右衛門家督無相違、大御番入

文政十二己丑十一月廿日寺沢藤左衛門跡、御番改役被仰付

### 鈴木市藏 与三八郎事 市右衛門

拾七人扶持

一天保十一子八月廿九日養父市右衛門家督、拾七人扶持無相違被下置、無

役御留守番組へ被入

一嘉永七寅六月十九日番改役関忠太夫跡

一同年十一月廿九日御勘定吟味役秋田左太夫跡被仰付、御留守番組へ被入

候

一安政二卯八月六日江戸詰出立

同月廿日詰中表御納戸役兼帶被仰付

一同三辰五月七日來巳ノ春迄詰越被仰付候

一安政四年閏五月四日、一昨年烈震昨秋大風雨二付、御破損所御修復御用

格別出精相勤候二付銀三枚被下置候、且又詰越出精相勤候二付御紋御上

下被下置、且又詰中表御納戸役兼帶相勤候二付金貳百疋、并諸役所向御

締り方等出精相勤候二付金百疋被下置候

一安政四巳閏五月廿五日御武備御除金係り被仰付候

一同五午七月十一日此度桜御門頼当御普請中格別出精二付御褒詞

一同年十二月十一日今度外国奉行始湊為見分御通行之節、出精二付御褒詞

一文久元酉十月五日御代官役笹倉右内跡被仰付候

一元治元子八月二日倅金弥儀隆芳院様御日柄繰違、川狩二出掛於途中心付

罷帰候得共、恐入遠慮伺之上指扣、七日御免

一同年十二月賊徒一件御留守御用御手当百匁被下

一慶応四辰閏四月十一日御代官役其儘、郡方吟味役兼勤被仰付候

一明治二巳正月四日御代官郡方吟味役其儘川方兼被仰付

一同年二月十七日今般御改革ニ付御役御免被成、御広間当番勤被仰付

一同年五月四日元御書院番組席ニ被仰付、御広間番

一同年六月廿一日市右衛門事市蔵卜改

一同年九月廿九日多年精勤之处、御藩制御改革ニ付為御慰勞金三十五兩被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更給祿米五十三俵壹斗八升貳合被下

一優待列

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱

一同四未三月十八日老年ニ付願之通隠居

鈴木金弥 明治三午三十五歳

〔士族〕

一文久二戌十月六日今度農兵御端立ニ付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候

一同年十二月十七日中将様御上京御供御用ニ付江戸表江出立之处、御都合

ニ付途中方京都江

一同三亥三月廿五日右御供ニ而京方帰着

一同年八月十日御参府之節為御警衛垂井辺迄御供被仰付候、同月廿日大垣

御泊方京都へ罷越

一元治元子三月廿九日、一昨戌十二月江戸表江罷出中将様御供ニ而京都表

江可罷越筈ニ而此表致出立候处、俄御船行相成候ニ付途中方京都へ罷出、

夫方大坂江為御迎罷越御供ニ而京都へ到着之处、失却も有之趣ニ付金壹

兩為御手当被下置候

一同年四月廿三日宰相様御供ニ而帰京

一同年七月廿五日宰相様再度之御上京中格別骨折相勤太儀ニ思召候、依之銀式枚被下置候

一同年十一月二日京都詰早速出立被仰付、同五日出立、同十二月賊徒騒乱ニ付立帰罷越

一同年十二月右同断一件出張御手当貳百匁被下

一同二丑正月十九日再上京、五月六日帰

一慶応卜改元、閏五月十八日二番之補兵隊被仰付

一同年八月十二日砲術所世話役被仰付

一同二寅三月十一日一番之補兵隊伍長被仰付候

一同年六月廿五日宰相様御登坂御供出立、十月同断帰

一同年十二月廿六日御持第三小隊指添被仰付

一同三卯十月廿二日第一遊撃隊御雇被仰付、御雇中銀三拾枚ツ、被下置候

一同月廿九日宰相様御上京御供被仰付、十一月二日出立、辰二月廿九日帰

一同四辰四月廿五日遊撃隊へ被召出五人扶持被下置候

一同年六月廿五日会征出立、十一月十七日帰、巳二月廿二日出張ニ付十三

兩被下候、外二百匁

一明治二巳二月十六日二番小隊分隊長被仰付、御書院番組江被入候、月給

十俵

一同年十一月六日農民政務局庶務方試補被仰付候事、但引立方

一月給米一年分六俵被下候事

一席吉田熊次郎次

一同月廿一日今般御改革ニ付役義被免候事

一同日民政局権少属被仰付候事

一同年十二月十七日役中給祿貳十俵高二被成下候事

一同三年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉勵二付、御賞典之内十石十ヶ年令頒授候事

一同年十二月十二日職務被免候事

一同日非役江被入候事

一同月 十六俵高御雇之処、更十式俵高伺之通

一同四未二月十四日依願御雇被免候事

一同年三月十八日父市藏家督被仰付、給禄米五拾三俵壹斗八升式合従前之通被下候事

鈴木<sup>9</sup>

鈴木弥助

式拾石四人

享保十六亥七月九日数年御奉公情ニ入相勤候ニ付御取立被成、新番入、

靈岸島御屋敷奉行其儘御徒目付御免

元文三年四月廿一日勤方御目付へ承合可相勤旨

同四未四月廿一日御留守番入

鈴木弥右衛門 休息

式拾石四人

寛保三亥八月十三日養父弥助跡目無相違被下、父之通靈岸島御屋敷奉行

延享四卯八月廿八日御部屋御広式番

寛延三年四月十五日式石御加増

宝曆四戌五月七日家内不締り其上倅幸助出奔ニ付御切米式石被減、御役

御取上、新番入

同六子四月廿日御広式番帰役被仰付、御留守番入、但帰役ニ付最前之席へ被入

鈴木弥五左衛門 病死

式拾石四人

宝曆十三未十月十五日養父弥右衛門休息、家督無相違、大番入

明和六丑四月六日御広式御用達御留守番入

同七寅四月十日役儀御免、大番入

安永九子十二月十一日年数相満相身代末

天明元丑七月廿九日靈岸島御屋敷奉行御留守番入

鈴木弥左衛門 休息

廿石四人

天明四辰十月廿二日養父弥五左衛門跡目無相違被下、大番入

文化元子八月廿九日年数相満候ニ付順席

文化四卯五月廿一日御前様御附御広式御用達御留守番入

同七午三月廿一日内願ニ付御国引越被仰付

同年六月廿五日諸木野半太夫揚家敷替被下置

同十二亥九月十一日御留守武具奉行青山次郎左衛門跡被仰付候

文政二卯二月廿日御代官横山十郎兵衛跡

鈴木丹藏 鉄五郎事

廿石四人

一文政十三寅四月親弥左衛門年寄候ニ付休息被仰付、家督廿石四人扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入

一天保五年九月三日大御番組入

一弘化二巳十月十六日御広敷御用達松山藤助跡

一同三年江戸詰、四月十三日出立

一安政二卯十月十一日玉葉奉行被仰付

一同六未二月五日御代官役瀬尾権八跡被仰付候

一元治元子十二月賊徒一件出張御手当三百匁被下

一慶応三卯二月十六日御預所御代官役鈴木藤吉跡被仰付

一同四辰四月廿日年寄候ニ付休息

### 鈴木小弥太 丹藏倅

式拾石四人

〔士族〕

安政四巳四月廿二日三ノ丸惣武芸所御集ニ付、慶増詰被仰付候

一同五年三月九日内達之趣も有之二付、廻国修行罷越候様被仰付候

一同年九月廿九日今般他国修行被仰付、太儀ニ付銀壹枚被下置候

一同六未五月廿日制産方御雇被仰付候

一文久三亥正月九日制産方御用ニ而大坂表江出立、二月廿九日帰

一同年五月十七日制産方御用ニ而信州飯田へ出立、七月廿五日帰

一元治元子四月五日御趣意ニ付製造方御雇御免被成候

一同年六月十日御含有之早速上京被仰付、五人扶持被下置、同十四日出立、

八月廿三日帰着

一同年八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌相働、其上御纏取参り候段達御聴一段之事ニ被思召、依之為御賞小柄一被下置

候

一同年十月二日京都詰中不容易御時態之処致心配候ニ付御酒被下置候

一同十一月御用有之二付早速大坂表江罷出候様被仰付立、夫方長征、丑

二月九日帰

一慶応元丑閏五月八日製造方御雇被仰付

一同年十一月十六日出精相勤候ニ付製造方御雇中三人扶持被下置候

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件ニ付公儀方被下配当金千疋、且又戦功ニ

付式千五百疋被下置候

一同年五月廿日分析方兼勤被仰付

一同年十一月晦日硝石製造之儀ニ付為取調越中表江罷越候様被仰付、十二

月六日出立、正月三日帰

一同三卯三月七日人造硝石取調方ニ付、雲州様御家来加藤宗之助致同道越

中表江罷越候様被仰付立、同月廿九日帰

一同年六月十六日出精相勤候ニ付年々銀拾枚ツ、被下置候

一同四辰四月廿日親丹藏年寄候ニ付休息被仰付、家督廿石四人扶持無相違

被下置、製造方其儘被仰付、役御番組江被入、年々銀五枚ツ、被下置候

一慶応四辰五月十六日御勘定方被仰付、役中御足充行五石壹人扶持被下置

候

但御充行被下置候ニ付、是迄被下置候銀之儀ハ已後不被下置候

一同年七月十七日殿様御供被仰付置候処、御都合ニ付御先江罷越候様被仰

付、早速出張被仰付会征出立、十二月七日帰

一明治二巳正月廿五日御厩掛り被仰付

一同年二月十七日司計局庶務方被仰付、月給十五俵、御足五石一口ハ被廢

一同月廿二日会征御用出張ニ付為御賞五百疋被下、外二十三両被下

一同年四月廿日造営小普請方材木炭薪掛り、但御厩掛是迄之通

一同年十一月朔日今般御改革二付役儀被免、御広間当番勤被仰付

一同月六日農民政務局庶務方被仰付候事、但引立方

一月給米一年分十五俵被下候事

一席坂井藤七郎次

一同年十一月廿一日今般御改革二付役儀被免候事

但附送り之義ハ追而御指図相待可申事

一同日民政局少属被仰付候事

一同月廿五日今般御改革二付、更給禄米四拾五俵壹斗四升四合被下

一同三午三月十五日松本地方之内抱地二而、是迄之拝地坪数同様振替願之通被仰付

一同月廿三日養蚕取締被仰付候事

一同年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉勵二付、御賞典之内十五石十ヶ年令頒授候事

一同年五月十五日松本地方之内笹治環抱地讓受候処、拝地坪数同様御振替、

尤自普請二仕在来之建物ハ被下候様願之通被仰付

一同年十二月十二日権少属心得勤

但民政寮出仕

一同四未六月朔日御改正二付免職

一同五申七月十九日第七区油町組副戸長



鈴木理兵衛 休息

式拾石四人

寛保元酉十二月七日於江戸二小役人方御取立、新番入、御勝手役其儘

延享二丑二月朔日式石一人扶持御加増

同三寅十月十六日御留守番入

寛延元辰十月五日休息

鈴木門左衛門 初多兵衛

拾八石三人

寛延元辰十月五日父利兵衛休息、家督式石壹人被減、新番入

安永二巳十一月廿五日御土蔵番御留守番入

天明八申七月廿五日御土蔵番相止ミ、大御番入

寛政二戌八月廿九日御留守武具奉行山田軍次跡、御留守番入

鈴木理兵衛

拾八石三人

寛政四子九月十四日養父多兵衛年寄候二付休息被仰付、家督無相違被下

置、大番組へ被入

同十午八月晦日御定之年数相満候二付相身躰末

鈴木作太夫

拾八石三人

一享和三亥二月十一日父理兵衛跡目拾八石三人ふち無相違被下置、大御番

組江被入候

一天保十一子九月五日玉藥奉行井上小左衛門跡被仰付候

一弘化二巳十月廿九日御先武具奉行岸田藤太夫跡被仰付候

一同三午正月廿日先役中心得違之趣有之御役御免被成、遠慮被仰付候

一同年八月廿九日年数満候二付順席二被仰付候

一嘉永五子八月十六日内願之通休息被仰付候

鈴木利平 定八 利兵衛

拾八石三人

一嘉永五子八月十六日養父作太夫及老年内願之通休息被仰付、拾八石三人扶持無相違、無役御留守番組へ被入候

一安政三辰九月十六日大御番組へ被入候

一同年十二月廿八日利兵衛与名替

一文久元酉六月廿九日拝領屋敷地町屋続二而火難等之節氣遣敷二付、三ツ橋地方田原下町勘左衛門与申者家作致居候地面与、是迄之坪数同様二而御振替被下、家作建物之儀も其儘被下置候様、勘左衛門建物之儀ハ相對

二致度旨願之通被仰付

但是迄上与力町也

一元治元子四月十三日上京、八月廿二日帰着

一同年八月廿六日今般長州人京師乱入、堺町御門於御固場所戦争之砌相働候段達御聴御褒詞

一同年十二月賊徒一件出張御手当三百匁被下置候

一慶応元丑十一月廿九日大坂表江出張、夫方神戸江、寅九月十五日帰

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方配当金千疋、且又戦功二付

五百疋被下置候

一同年七月五日御番皆勤二付時服被下置候

一同三卯十一月廿六日宰相様御滞京中為御備上京被仰付、同廿九日出立、

辰四月十日帰

一同四辰閏四月七日上京、九月十八日帰

一同年九月五日彈藥預り小銃取扱方兼被仰付、役御番組江被入、四番遊撃

隊江附属被仰付

一明治卜改元、十二月廿一日其隊之器械并彈藥差配方卜被仰付、製造局へ附属被仰付

但遊撃隊へ附属之儀ハ是迄之通相心得可申事

一同二巳四月九日中納言様御供東京江出立、六月十四日御人減二付帰

一同年六月廿一日利兵衛事利平卜改

一同月廿八日御広間当番勤被仰付、役義之義ハ被免候事

同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下、予備隊一同三午六月十二日養妹不埒至極之儀有之二付、長慎被仰付恐入、依之伺

遠慮、同十九日被免

一同年閏十月廿五日予備隊名目被廢非役卜唱

一同四未十月十五日倅孫次郎へ家督



鱈市郎左衛門

百石

寛文三癸卯二月廿一日養父九郎右衛門家督三百五拾石之内貳百石被下置

貞享三二統半知被下

延宝八申八月五日御代官被仰付



## 鱸九郎右衛門

百五拾石 外役料百石

正徳元卯十一月七日父市郎左衛門家督無相違被下

同五未八月二日御代官被仰付

享保三戌三月六日御留守作事奉行堀新左衛門跡

同七寅九月十三日御先作事奉行被仰付、御加増五拾石外役料被下、堀新

左衛門跡

## 鱸九郎右衛門

百五拾石

享保十巳十一月十一日養父九郎右衛門跡知無相違、大番入

同十六亥十一月五日御勘定拝借奉行今立権左衛門跡、御留守番入

元文元辰六月十五日郡奉行、役料五拾石片山与三右衛門跡

寛保二戌六月晦日御役御取揚、大番入遠慮

## 鱸半五郎

百五拾石

延享四卯十一月十六日父九郎右衛門跡知無相違、大番入

宝曆十一巳十月廿二日御手廻り御書院番入

明和四亥八月十六日御駕附

同五子八月十三日御役御免、御近習番格、席是迄之通

同六丑正月十六日若殿様御近習

安永四未二月十四日若殿様奥御納戸波々伯部平六郎跡

同七戌八月十二日若殿様御膳番

天明二寅十一月廿四日若殿様御膳番是迄之通二て、御附御近習番頭取

同四辰十一月十五日御腰物奉行山崎藤九郎跡

同七未三月十四日格別御形合被相改、万端御省略被仰候二付、格式其儘

二て役儀御免被成

同八申三月廿日御腰物奉行高江善四郎跡

## 鱸九郎右衛門

百五拾石

天明九酉正月十二日父半五郎跡知無相違、大番入

文政七申五月三日与内立合高屋善右衛門跡

同十亥九月廿五日近習番年来出精二付御紋御上下被下

同十一子正月廿八日末番外

文政十三寅二月廿九日大馬印奉行飯嶋四郎右衛門跡

天保四巳年

病死

## 鱸長左衛門 長次郎 長左衛門 九郎右衛門

百五拾石

一天保四巳六月廿九日親九郎右衛門家督百五拾石無相違被下置、大御番組

へ被入

一同五年十月十一日表御小姓相沢斧捨跡被仰付候

一同七申年江戸詰、四月十日出立

一嘉永五子九月廿日九郎右衛門卜名替

一安政元寅十一月廿八日長左衛門与改

一同二卯正月廿八日表御小姓筆頭役相沢八郎右衛門跡被仰付候

一同三辰五月九日役儀其儘格式末之番外被仰付候

一安政四巳二月廿三日御使番格二被成下、御時宜役被仰付候

一同六未二月十六日御留守物頭御鷹方兼帶相沢八郎右衛門跡被仰付候、且

又八郎右衛門罷在候御役屋敷へ替被下候

一万延二酉二月九日御先添物頭小嶋逸八跡被仰付、御役料百石被下置候、

且又家屋敷粕谷雄藏家屋敷へ替被下候

一文久二戌閏八月四日御水主頭高橋十郎兵衛跡被仰付、家屋敷是迄十郎兵衛罷在候御役屋敷へ替被下候

一同三亥九月十四日御水主頭並組共、已来三国宿浦江交代候様被仰付

一元治元子二月廿九日御先物頭埴原次郎右衛門跡被仰付、且又家屋敷稻葉

悦之助家屋敷替被下候

一同年六月廿九日早速上京被仰付、七月 出立、八月廿七日帰着

一同年十一月十六日京都堺町御固場所へ組之者召連出張、騒乱中致差配候

段御褒詞

一同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀八百匁被下置候

一慶応元丑十一月廿八日大坂表江出張

一同二寅四月廿四日堺町戦争二付公儀被下配当金千貳百疋、戦功二付五百疋被下置候

一同年九月十九日帰

一同年十月廿六日席其儘御留守組支配、御役料五拾石被下置候

一同三卯四月廿日御趣意二付夜廻り勤被仰付、御座所詰之儀ハ御免被成候

一同年八月廿七日御留守組谷嶋喜兵衛倅喜太郎御咎被仰付候処、申付方致

延引、遠慮伺之上指扣、同晦日御免

一明治二巳正月廿三日病死

シゲシ  
鱸重 金吉 衛治介 長次郎 長左衛門倅

〔士族〕

百五拾石

文久三亥三月十一日当亥年芝御陣屋御番士御雇詰被仰付、右詰中御扶持方五人扶持被下置候、同廿六日引揚被仰付出立

一元治元子七月朔日帰着

一同年七月上京出立、八月廿七日帰着

一同年十月十六日長征出立、丑二月三日帰

一慶応元丑閏五月十八日二番之補兵隊被仰付

一同二寅五月五日撰州神戸表江出立、同年帰着

一同三卯四月十二日宰相様御上京御供出立、八月九日帰

一同年九月廿七日御趣意二付補兵隊御免被成候

一同年十二月十五日補兵隊被仰付、今度御上京御供被仰付

一同四辰五月十六日遊撃隊江被召出、五人扶持被下置候

一同年六月廿五日会征出立可致処、不快二付出立不致候

一明治卜改元、十二月廿八日衛治介卜改

一同二巳三月十六日親長左衛門家督百五十石無相違被下置、遊撃隊江被入候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米八十貳俵壹斗貳升壹合被下

一同三午五月廿四日第一大隊四番小隊入被仰付候事

一同年七月十七日衛治介事長次郎卜改

一同年十二月八日常備一番隊 年給六俵

一同四未四月二日東京詰出立

一同年十月十三日解隊、十一月帰  
一同五申五月長次郎事重

杉浦

杉浦九郎右衛門 初市村九郎右衛門

百五拾石 役料百石

吉江方御扶持切米被下処

宝永二酉九月廿三日新知

享保六丑五月十五日御纏奉行東郷門太夫跡

同十八丑八月廿五日御留守物頭松尾源五左衛門跡

寛保二戌八月十六日御先物頭荒川助右衛門跡、五拾石御加増、役料百石  
被下

杉浦幸右衛門 病死

百五拾石 役料百石

元文二巳七月廿二日中奥御小姓被召出

同五申八月三日奥御小姓

同年十一月十八日新知百石

延享元子八月十三日養父九郎右衛門跡無相違、御小姓其儘、自分知ハ上  
ル

同年十一月三日御膳番

同三寅五月十一日奥加役

同四卯八月廿五日御部屋付御膳番、勤方は迄之通

同十一月七日末ノ番外高村四郎左衛門次

寛延四未五月廿五日御徒頭役料百石、小川与右衛門跡

宝曆七丑四月廿二日御側物頭萩原金兵衛跡

同十一巳七月廿五日御目付雨森作助跡

明和六丑正月十四日長袴格千本長右衛門次

同八卯三月九日席御奉行次へ御上ケ被下

安永三午六月十四日若殿様御側向締り役

杉浦源太夫

百五拾石

安永五申八月五日御小姓見習被召出、御合力銀十五枚被下

同七戌七月廿五日父幸右衛門家督無相違、御小姓本役

天明四辰七月廿四日御小姓頭取松波弥次郎跡

同五巳十月廿六日於江戸二奥御納戸格御近習番被仰付、御書院番入

同六午閏十月七日御膳番加藤惣九郎跡

寛政六寅四月十六日御膳番役是迄之通二而、御近習番頭取格被仰付於江  
戸

同年八月廿八日御時宜役格式末之番外

杉浦雄蔵 弥四郎

百五拾石

寛政七卯五月十六日父源太夫跡知無相違、大番入

同八辰十二月五日御小姓

同十一未九月十八日御附御用人支配

享和元酉六月十六日御表様御小性

文化五辰十月十九日御近習番頭取格、奥御納戸御書院番入

同十四二月七日奥御納戸其儘格式末番外、御前詰

文化十三子七月四日御近習御側勤御使番格、役料百石

文政元寅ノ六月廿四日御使番根来半兵衛跡

同五年八月五日御先物頭三浦左衛門跡、有馬御入湯御留守ニ付評定所

ニ而被仰付

文政十二丑二月十六日御側物頭笹川藤内跡

同丑八月十三日御座所預り被仰付

同十三寅十二月十日御泉水預り

天保八丁酉七月十一日御広式御用人貞照院様御附兼上月久右衛門跡被仰付候

杉浦<sup>クモン</sup>九門 金太郎 幸右衛門

百五拾石

一天保十三寅三月廿九日親雄藏家督百五拾石無相違被下置、大御番組へ被入

一弘化三年年江戸詰、四月十日出立

一嘉永二酉年江戸詰、十月十四日出立、同四亥四月帰着、詰越

一同五子六月廿五日大御番耆番之筆頭役加藤所左衛門跡

一同六丑三月御供ニ而出立、同七寅年五月十一日御供ニ而帰着

一同七寅三月廿三日御殿山へ出張ニ付、御下緒耆掛ケ被下置候

一同年十月四日今度西尾十左衛門大砲調練掛り被仰付候ニ付、右打方手続

之儀十左衛門申談取調候様被仰付候

一安政二卯江戸御供詰

一同三、四月十五日御先新物頭御供頭兼被仰付、御役料百石被下置候

一同四巳四月廿五日江戸御供詰出立

一同五午年詰越

一同六未四月十九日老年ニ相成候両親も有之候処、追々長詰ニも相成候ニ

付格別之御憐慰を以御国表江被遣、七月中出府候様被仰付、廿三日出立、

五月六日御国江到着

一同年七月廿四日御判物差添ニ而江戸表江出立

一同年九月三日右差添罷帰候ニ付、金貳百疋被下置候

一同七申三月十五日御供ニ而帰着

一万延与改元、六月廿六日御番出精ニ付御褒詞

一文久元酉三月十九日御供ニ而出立

一同二戌二月十五日老母病氣且老父大老ニ付、対面介抱として御仁評を以帰着

一同年五月廿六日御先物頭真田源左衛門跡被仰付候

一同三亥十月十三日中将様御供ニ而上京

一元治元子四月九日京都御使為御用早駆ニ而帰着

一同年六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之御酒

被下置候

一同年八月十四日席御役料其儘大砲物頭被仰付

一同年十月十三日長征出立、丑二月二日帰

一慶応元丑十一月廿八日大坂表江出張

一同二寅九月十九日帰

一同三卯十月廿七日大砲組二組御預ケ被成候

一同年十二月十五日支度出来次第上京被仰付

一同四辰正月七日今庄宿迄組之者召連出張、直二京都江、閏四月十五日帰

一同年六月十九日御役名大砲小隊頭と被仰付候

一同年九月十一日組之者共召連、支度出来次第京都詰被仰付、尾高治部之

助下致交代候様、然ル処同十四日御都合二付詰御免被成候

一明治卜改元、九月廿七日今度被仰出二付幸右衛門事九門卜改

一同二巳二月廿日今般御改革二付御役儀御免被成候

一同年九月廿九日多年精勤之処御藩制御改革二付、為御慰勞廿五金被下置

候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米八十式俵壹斗式升壹合被下候

一同三年正月十五日老年二付願之通隠居

杉浦正木<sup>マサキ</sup>

九郎太郎 九門倅 明治三年十一歳

〔士族〕

一明治二巳八月十九日信次郎様御相手御雇被仰付候

一同年十二月廿日右御相手中年々十五両被下候事

米四拾九俵壹斗六升四合

一同三年正月十五日親九門老年二付願之通隠居被仰付、家督幼年二付御規

則之通米四拾九俵壹斗六升四合被下、是迄之通信次郎様御附御相手被仰

付候事

但是迄被下候金之義ハ已後不被下候

一同月廿四日市村市十郎次男源造江代勤為致度旨願之通被仰付候、依之給

禄米八拾式俵壹斗式升壹合高二被成下候事

一同日信次郎様御附御相手勤中々金拾五両ツ、被下候事

一同三年十一月四日幼年二付代勤相願置候処、信次郎様御相手勤中不及代

勤候事

一同四未五月八日信次郎様御相手被免候事

一同日右二付給禄四十九俵壹斗六升四合被下候事

一同年五月十四日依願野村勝五郎伯父乙三郎江代勤被仰付、給禄米八拾式

俵壹斗式升壹合被下候事

一同五申七月九郎太郎事正木

須崎

須崎三郎右衛門

百石

寛文十二子二月十一日被召出、御扶持切米被下

元禄十二卯七月四日御腰物被仰付

同十一月二日新知被下

正徳六申正月廿一日郡奉行被仰付、御役料被下、蟬江刑部右衛門跡

享保六丑五月十五日御留守物頭被仰付、武曾権左衛門跡、鉄砲

須崎三太夫

百石

享保六丑五月十五日中奥御小姓被召出、御切米御扶持被下

同七寅二月廿一日表御小姓可相勤旨被仰付

同八卯八月十一日父三郎右衛門跡知無相違被下、表御小姓其儘被仰付

須崎市郎右衛門

百石

享保九辰正月廿九日養父三太夫跡目無相違、大番入

同十三申七月九日於江戸二表御小姓被仰付

同十五戌七月十三日中奥御小姓

同年十一月二日表御小姓

同十七子七月十八日中奥御小姓被仰付

同十九寅八月九日御腰物御数寄方奉行被仰付、御書院番入

須崎与助 三郎右衛門 病死

百石 外役料百五十石

元文三年十二月十六日養父市郎右衛門跡知無相違、大番入

同五申六月五日表御小姓

同年十二月六日中奥

寛保二戌九月十九日奥御小姓

延享二丑正月十五日御腰物奉行御書院番入、葛巻治部右衛門跡

同三寅五月十一日御膳番格

同四卯十月廿日本役

寛延三年八月十三日御書院番筆頭長谷川次郎左衛門跡

宝曆十一巳六月五日御徒頭高村四郎左衛門跡、役料百五十石

須崎三郎右衛門

百石 役料百五十石

宝曆十三未八月十六日養父与助跡知無相違、大番入

明和三戌七月七日表御小姓

同年十二月二日御小姓

同五子七月廿日若殿様御小姓

安永四未二月廿六日御附御小性頭取於江戸被仰付

天明三卯十月七日於江戸勤方其儘二而末之番外

同五巳六月十五日於江戸若殿様御側締り指添役水野荒次郎跡

同七未三月十四日格式其儘二而役義御免被成

同八申五月廿八日御時宜役

同九酉正月十四日大馬印奉行山崎藤九郎跡

寛政二戌十月十八日御使番津田八郎左衛門跡、御役料百五十石

同十年二月廿三日御水主頭坂井権左衛門跡

同十一未九月廿九日御先武頭浅井弁左衛門跡

文化八未二月七日御旗奉行蟹江善右衛門跡

同十四ノ六月病死

須崎三郎右衛門 権之助

百石

文化十酉八月十六日父三郎右衛門跡目家督無相違、大御番入

文政三辰六月廿三日若殿様御附御近習番、御書院番入、且又謙五郎様御

附兼

文政六未正月廿五日倅権之助身持不宜蟄居被仰付、三郎右衛門遠慮被仰

付

同七申五月十六日於江戸若殿様御附奥御納戸役

同十三寅六月廿五日末番外御時宜役被仰付候

天保四巳ノ七月五日小馬印奉行菅沼平兵衛跡



天保八酉五月廿日御留守物頭菅沼平兵衛跡  
天保九戌ノ八月病死

須崎三郎右衛門 権之助

百石

天保九戌十一月朔日親三郎右衛門家督百石無相違被下置、大御番組へ被入

須崎鸞助

百石

〔士族〕

一弘化三年七月廿五日義父三郎右衛門家督無相違被下置、大御番組江被入候

一同四未十月廿七日遠慮伺之上指扣之处御免

一安政六未五月廿四日横浜御警衛二付詰被仰付出立

一万延元申年直二江戸詰

一同年七月九日御番御供皆勤二付御紋御帷子被下置候

一文久元酉四月十四日帰着

一同三亥十月廿六日養方之弟英吉出奔二付遠慮伺之上指扣被仰付、十一月

十二日御免

一同年十二月十四日養方弟英吉儀不届之致所業令出奔候二付、立帰候得ハ

御国追放被仰付咎二候、且又其方儀も兼而締り方不参届不調法之事二候、依之遠慮被仰付急度相慎可罷在候、正月朔日御免

一同廿九日右英吉立帰候二付御国追放可被仰付之处、今般公辺方被仰出候

趣も有之二付、当分鸞助方江為慎指置候様被仰付

一同四子正月朔日右英吉手錠等二而締り附置候処捻切又々出奔、同十八日木田辺ニ而見当り召連来願之上揚り屋へ被入、右二付鸞助遠慮伺之上指扣被仰付、同廿五日御免

一元治与改元、四月十三日上京、八月廿二日帰着

一同年十二月賊徒一件出張二付御手当銀六百匁被下

一慶応元丑八月晦日与内立合水野荒次郎跡被仰付候

一同年十一月廿九日大坂表江出張、夫方神戸江、寅九月十五日帰

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀方被下配当金千足被下置候

一同三卯三月十四日与内検地奉行鈴木勘十郎跡被仰付、御留守番組江被入

一明治二巳四月廿日今般御改革二付役儀被免、御広間当番勤被仰付

一同年五月四日元御書院番組席二被仰付

一同年九月廿九日多年精勤之处御藩制御改革二付、為御慰勞式十五両被下置候

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下、優待

列

一同三年五月十四日妻儀去ル十日他行、所々相尋候得共見当り不申、且又

養弟英吉儀も同日朝罷出帰宅不仕、兩人共出奔之体、重々恐入伺之上遠

慮被仰付、同廿三日被免

一同年六月五日兼而家内締方不参届二付閉門被仰付、同廿六日被免

一同年閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱



周防伊左衛門

百石

万治三子年父伊左衛門家督貳百石被下

貞享三一等半知

宝永戊五月十六日郡奉行被仰付

正徳元卯十一月七日御留守物頭被仰付

同四年午三月五日御留守物頭役御免、此席江被仰付

周防伊左衛門

百石

元禄十六未八月十三日表御小姓被召出、御扶持切米被下

正徳六申正月廿一日父伊左衛門隠居、家督無相違、同日御腰物役須崎三

郎右衛門跡

享保四亥五月十六日御役御免、大番入

寛保三亥七月廿九日御纏奉行鈴木清八跡

延享三寅六月廿八日隠居

周防長右衛門

百石

延享三寅六月廿八日父伊左衛門隠居、家督無相違、大番入

周防三右衛門 病死

百石

宝暦元未十二月廿五日養父長右衛門跡知無相違、大番入

同三酉八月五日表御小姓

周防長兵衛

百石 役料五拾石

明和三戌二月廿九日養父三右衛門跡知無相違、大番入

安永六酉七月廿日御金奉行宮塚多内跡

寛政四子六月十七日御勘定拝借奉行、松永次郎左衛門跡、御留守番入

同十一未五月十六日御留守作事奉行真田五郎兵衛跡

寛政十二庚申七月十七日郡奉行梶川半兵衛跡、御役料五拾石

享和三亥十一月廿日御水主頭堀勘左衛門跡

文化七午十一月十七日御先物頭福田八郎右衛門跡

文化十三子三月病死

周防猪左衛門 喜三郎事 長兵衛

百石

一文化十三子四月廿九日養父長兵衛跡知百石無相違被下置、大御番組へ被入

一同年六月廿七日奥御小姓被仰付候

一同十四丑年江戸御供詰

一文政二卯年江戸御供詰

一文政四巳年江戸御供詰

一文政六未年江戸御供詰

一文政八酉年江戸詰被仰付、右越候処御凶変ニ付罷帰

一文政九戌二月廿四日威徳院様御逝去ニ付御小姓御免、大御番入

一同十二丑五月十六日御金奉行東郷平太夫跡被仰付

一同十三寅六月廿五日奥御納戸役須崎三郎右衛門跡被仰付、御書院番組へ被入

一天保二卯年江戸御供詰

一天保三辰五月廿三日御小姓頭取武曾權太夫跡被仰付

一同四巳年江戸御供詰

一同六未年右同断之处、同年天梁院様御棺御供二而罷帰、直二八月廿二日出府詰被仰付

一同年九月五日今度御代替二付御役御免被成、御側支配御近習二被差置候、勤方之義ハ追而可被仰付候、御用筋之義ハ先是迄之通可申談候

一同年同月十四日御小姓頭取被仰付候

一同七申正月十九日御小姓頭取其儘格式末之番外被仰付候

一同八酉江戸詰

一同九戌二月廿九日御徒頭被仰付、御役料五拾石被下置候、御徒頭被仰付候へ共其儘詰被仰付、詰中御供頭定介被仰付候

一同十亥四月十六日楷五郎様御附御側向頭取御使番次席高村藤兵衛跡

一同年十月十六日楷五郎様御附御広敷御用人兼帯被仰付候

一同十二丑二月五日役義其儘御役料都合百五拾石被下置候、御水主頭次席被仰付候

一同十四卯閏九月廿六日楷五郎様御逝去二付御役御免、席役料其儘御近習二被差置候

一同十五辰五月廿三日御先物頭中根新左衛門跡被仰付

一嘉永元申江戸詰被仰付、四月十一日出立

一同二酉閏四月五日御側物頭大谷儀左衛門跡被仰付候

一同三戌六月三日御座所預り被仰付候

一同年十一月廿八日御泉水預り被仰付候

一同四亥二月廿日遠慮伺之上差扣被仰付置候处、御免被成候

一同五子九月十五日公儀御出生様松平長吉郎様御名二指合候二付、猪左衛門卜改

一同安政三辰四月十五日年寄候二付隠居被仰付

一同文久二戌六月廿五日思召を以折々御機嫌伺罷出、其節々中ノ口致往来候様被仰付候

一同安政三辰四月十五日年寄候二付隠居被仰付

一同文久二戌六月廿五日思召を以折々御機嫌伺罷出、其節々中ノ口致往来候様被仰付候

周防謙介 平吉 実高間文四郎次男

〔士族〕

百石

一同安政三辰四月十五日養父猪左衛門義年寄候二付隠居被仰付、家督百石無相違被下置、大御番組へ被入候

一同四巳閏五月廿九日御製造方見習被仰付候

一同五午七月五日御製造方当分御用薄二付、勤向御用捨被成候

一同七申正月十八日御近習番被仰付、御書院番組へ被入候

一同万延与改元、十二月廿八日謙介与名替

一同文久元酉三月十九日御供二而出立

一同三亥二月十日殿様御上京御供二而出立、三月六日御供二而帰着

一同年八月十三日御参府御供出立、十二月江戸方御供二而上京

一同年十二月廿八日御書物方被仰付候

一同四子正月九日御表役被仰付候、同二月御帰国御供着

一同元治元子八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑三月帰

一同慶応二寅二月五日御小姓被仰付、但席小林勘之助次

一同年十一月十六日伺之上指扣之处十九日御免、但粕谷圭藏御咎二付如此

一同三卯三月十日御上京御供出立、四月四日帰

一同四辰八月廿四日戦地為斥候越後表へ被遣候、彼地に到着之上遊撃隊中へ  
組合場所見分之上、早々罷帰申上候様被仰付、同廿七日出立、十月三日  
帰

但一仕寄二而罷帰可申事

一五番遊撃隊江組合可申事

一明治卜改元、十二月十三日殿様御上京御供出立、巳二月六日帰

一同二巳十一月七日御家從被仰付候事

但庶務取扱

一四等官毛利元藏次

一月給米一年分十俵被下候事

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同三年十月廿八日奥詰肝煎御供頭兼被仰付候事

但席高村新造上

一是迄之通十三級

一同四未正月五日御家從被免候事

一同日非役江被入候事

### 数賀山

陶山六郎兵衛

式拾石三人

貞享三寅六月十六日父彦右衛門為跡目被下

宝永三戌八月廿九日御代官被仰付

正徳四年午十一月廿七日死去

陶山与五左衛門

拾七石三人

正徳五未正月廿一日養父六郎兵衛為跡目被下

享保七寅冬御番割之節順席被仰付

陶山彦右衛門

式拾石五人

延宝七未十月廿九日祖父之跡三人扶持被下、吉江二而六郎兵衛御扶持方

彦右衛門へ直二被下

元禄十四巳五月廿九日御切米被下

宝永六丑九月廿九日番改

享保三戌六月廿五日用水奉行

同七寅冬御番割之節順席

同九辰十一月廿九日役義御免、大番入

同十三申五月十一日御番改上坂与七跡

陶山左五太夫

式拾石五人

享保十九寅十月廿一日養父彦右衛門跡目無相違被下

元文四未四月六日病死

数賀山彦右衛門 隠居

百石 外役料百五拾石

元文四未五月廿九日養父左五太夫跡目被下、大番入

寛保二戌十二月十六日五石御加増、表御小姓

同三亥七月廿日中奥

寛延三午二月十一日中奥御免、大番入

同月十六日表御小姓

同年九月表御小姓筆頭

宝曆三酉六月十一日奥御納戸御書院番入

明和元申八月六日新知百石

同五子七月二日郡奉行渋谷五郎右衛門跡、役料五十石

同九辰九月七日御留守物頭御鷹方兼鈴木又吉跡

安永八亥九月廿日御先物頭佐久士市兵衛跡、御役料百五十石

数賀山郡平

百石

天明七未九月廿五日父彦右衛門隠居、家督無相違、大御番入

寛政四子十月十一日御部屋附御小性松江祐一郎跡

同十午五月廿八日御部屋附御近習番御書院番入

享和元酉十一月廿一日御供頭被仰付

享和二戌十二月御書物方

文化六巳正月廿八日山奉行大久保助十郎跡

文化十三子六月廿四日末之番外御時宜役川村仙右衛門次席

文政七申六月十二日御長柄奉行梁十左衛門跡、御役料百五拾石

文政十一子四月病死

数賀山彦右衛門 久米五郎

百石

文政十一子六月十六日父郡平跡知無相違、大番組へ被入

文政十三寅八月廿八日謙五郎様御附御近習番高松綱藏跡、御書院番被仰

付候

天保六未八月病死

数賀山彦右衛門 郡吉

百石

一天保六未十月廿日養父彦右衛門家督百石無相違被下置、大御番組へ被入

一同十二丑年江戸詰、三月廿三日出立

一弘化四未年江戸詰、三月十六日出立

一嘉永四亥年御供詰

一同五子五月八日御金奉行高松彦藏跡被仰付候

一同六丑五月七日江戸表江出立

一安政二卯三月十一日道奉行一柳献助跡被仰付、大御番組へ被入候

一同六未二月五日御書院番組へ被入、役儀之儀ハ御免被成候

一同年六月八日津田栄五郎留守中炮術所肝煎始頭取共申談、相弟子引立方

致心配候様被仰付候

一万延元申五月九日病死

数賀山久門<sup>ヒサト</sup> 郡吉 郡平 実林忠太夫弟

百石

〔士族〕

安政三辰十一月廿六日御含有之、来巳年江戸表江被遣、右詰中御扶持方三人扶持被下置候

一同四巳五月朔日江戸出立

一同十三日詰中炮術并劍鎗柔之内厚修行致候様被仰付候

一同六未八月五日太鼓伝習方見計被仰付、且又近来太鼓打方致心配候二付

銀三枚并為裁着地銀三拾匁被下置候

一万延元申六月廿九日養父彦右衛門家督百石無相違被下置、大御番組へ被入候

一文久二戌十月六日今度農兵御端立二付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候

一同年十一月廿六日来春殿様御上京被遊候二付為御待請出立

一同年十二月廿八日郡平与名替

一同三亥六月四日御番頭引纏上京、九月五日帰

一同年十月七日表御小姓武曾權左衛門跡被仰付候

一同年十二月廿四日先達而京都動揺之節為御守衛出張二付、朝廷<sup>カ</sup>為御褒美式百五十疋被下置候

一元治元子十二月賊徒一件二付、出張御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑閏五月十二日御附御廻り被仰付候、右二付席佐久士規之介次へ被入候

一同年十月朔日宰相様御出坂御供出立、同三日今庄<sup>カ</sup>御引戻二付帰

一同二寅二月五日御馬廻被仰付

一同三卯三月十日御上京御供出立、四月四日帰

一同年十月十八日小隊之分隊長被仰付、御書院番組へ被入候

一同四辰六月廿五日会征出立、十一月十五日帰、巳二月廿二日出張二付十

三両被下、外二千五百疋

一明治二巳十月十日東京へ出立

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同三年四月廿五日戊辰北越出張各所攻撃勉勵二付、御賞典之内十五石ツ

、廿ヶ年令頒授候事

一同年五月十一日從東京帰

一同年六月廿二日修業列被仰付候事

一同月廿八日第一大隊五番小隊第一後絶被仰付候事

一同年十二月八日軍務寮出仕、但予備分隊長勤向 年給十三俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候二付右出仕被免候事

一同五申五月軍平事久門<sup>ヒサト</sup>



杉山求馬 初源十郎 甚之助とも云

式拾五石五人

天明三卯二月十六日御部屋附御小姓見習被召出、銀拾五枚被下

同五巳十月廿六日御表様御小姓

同年十二月廿五日親市左衛門不埒至極之儀有之、父子共御暇被下候処、

市左衛門義春成院由縁有之二付、名跡次男求馬江御立被下、廿五石五人

扶持被下置、御小姓其儘

同七未四月十三日於江戸二御部屋附御小姓二被仰付

同八申二月六日御表様御小姓被仰付

同年八月十日御小姓頭取格



寛政元酉六月十九日於江戸御小姓頭取

同三亥二月四日御近習番頭取格御裏役御書院番入

同六寅三月九日格式末之番外並二被仰付、御小姓頭取

杉山八三郎

廿五石五人

寛政八辰六月廿七日養父求馬跡目無相違、大御番組へ被入

同九巳十月朔日御附御小性

文化四卯ノ六月十五日同頭取格

同六巳八月廿一日此度隆徳院様御逝去ニ付御附御小姓御免、大番組へ被入

文政五午十月病死

杉山階三郎

貳拾五石五人

文政五午十二月十九日養父八三郎跡目無相違被下置、大御番入

文政七申ノ二月廿一日若殿様御附御近習番被仰付、御書院番入

杉山源十郎 卯之助 源蔵事

百石

一文政十二丑正月廿一日養父階三郎跡目無相違、大御番入

一同十三寅四月十一日若殿様御附御小姓被仰付

一天保六未五月廿九日超倫院様御逝去ニ付御附御小姓御免被成、大御番組

へ被入

一同八酉四月十五日御内用御右筆見習被仰付

一同九戌三月十九日謹姫様御婚姻御用掛り同様ニ付、金三百疋被下

一同十二丑十二月七日御内用御右筆本役并御右筆部屋兼帶、御書院番入

一嘉永元申十二月十五日急御出府之節、御用掛り出精ニ付御褒詞

一同二酉十二月十五日今般御前様御引移御用掛り出精ニ付、御紋御上下一被下

一同五子四月十三日出精相勤候ニ付、銀三枚ツ、年々被下置候

一同六丑正月六日慎姫様御縁組ニ付、御用懸り同様被仰付

一同年二月八日遠慮伺之上御用之外指扣被仰付置候処、御免被成候

一同年十月廿日謚姫様御入輿御用掛り被仰付候

一同年十一月廿五日謚姫様御婚姻被為濟、右御用掛り出精ニ付銀三拾匁被下置候

一安政二卯四月廿日新知百石被下置候、但是迄被下置候年々銀三枚之義ハ以後不被下候

一安政五午七月七日今般御家督御相続御用掛り被仰付候

一同年十一月廿一日右御用掛り出精ニ付、御紋御上下一具被下置候

一文久元酉四月九日近來御用多之処出精相勤候ニ付、格式末之番外ニ被仰付候

一同二戌七月十九日嘉代姫様御縁組御熟談ニ付、御用掛り被仰付

同年十一月十二日右御用掛り御免

一同四子正月十五日出精相勤候ニ付役儀其儘御足高五十石被下置、御徒頭次席ニ被仰付

一慶応元丑八月廿一日御役前ニ而定府罷在候義ニ付、御扶持方被下之儀御規則以前之通別段被下置候

一同四辰正月廿五日御趣意二付御国表江引越被仰付、二月廿三日着  
一同年二月廿九日御留守組支配被仰付、御役料五拾石被下置、御使番次席  
二被仰付

但御役料被下置候二付、是迄被下置候御足高之義ハ已後不被下候

一同年四月廿九日家屋敷飯田主税罷在候於屋敷地、新規之家作被下置候  
一明治二巳二月十六日今般御改革二付御役儀御免被成、御広間当番勤被仰  
付、無程当番御用捨

一同年七月十八日病死

杉山寛<sup>ヒロシ</sup> 銀次郎 能登路 源三 源十郎 倅  
〔士族〕

百石

一万延元申六月六日剣術為修行男谷精一郎殿へ相手寄入塾罷在候処、右修  
行中御扶持方式人扶持被下置候

一文久二戌正月十五日右同断致出精失却有之趣、依之右修行中壹人扶持  
御増、都合三人扶持被下置候

一同年四月三日横浜表江臨時致出張候段、御褒詞之上金三百疋被下置候

一同三亥正月廿七日靈岸島武芸所定詰被仰付、御扶持方其儘被下置候

一同年二月廿九日芝御陣屋詰当分御雇被仰付候

一同年三月十日芝御陣屋詰当分御雇被仰付、御扶持方三人ふち并月々為失  
却金百五拾疋ツ、被下置候、但是迄被下置候三人ふち不被下候事

一同年四月三日右御雇御免被成候二付、金百五拾疋已後不被下候、但靈岸  
島御屋敷武芸所定詰是迄之通被仰付候二付、三人ふち之義ハ被下置候事  
一同月九日靈岸島御屋敷飯御台場当分大砲打方被仰付候

一元治元子 長征、丑二月五日着、同廿七日江戸表江出立

一慶応三卯十二月廿八日銀次郎事能登路卜改

一同四辰四月廿五日遊撃隊江被召出、五人扶持被下置候

一同年閏四月五日上京、九月十五日帰

一明治卜改元、十二月十三日殿様御上京御供出立、巳二月六日中納言様御  
供婦

一同二巳六月廿一日能登路事源三卜改

一同年九月九日父源十郎家督百石無相違被下、三番遊撃隊江被入候事

但島川熊三郎次

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六拾俵四斗三升六合被下

一同三年五月廿四日第一大隊二番小隊入被仰付候事

一同年十二月八日常備二番隊 年給六俵

一同四未四月十九日東京区兵増詰被仰付、五月朔日出立

一同年十月十三日解隊、十一月帰

一同五申五月源三事寛

末松

末松寛兵衛

拾八石三人

文化十五寅二月十六日御取立、新番入被仰付、御勝手役其儘

文政六未五月廿五日江戸詰中於御門外不興趣有之二付遠慮

同七申正月廿五日心得違之儀有之二付役義御免、新番格へ御下ケ遠慮被  
仰付、其後御広式添役被仰付

文政十亥三月廿五日御預ケ所御勝手役被仰付

文政十二丑七月三日新番組へ被入、御勝手役被仰付

末松寛兵衛 門次郎事

拾八石三人

一文政十三寅年正月廿五日親覚兵衛休息被仰付、家督拾八石三人扶持無相違被下置、新御番組江被入候

一天保二卯五月廿五日弟喜之助牧山運平養子被指遣候処、及離縁引取候儀不調法ニ付遠慮被仰付、喜之助義も心得方不宜候ニ付慎被仰付候

一同八酉七月廿日御借米方山田六兵衛跡被仰付候

一同十二丑四月七日小普請方嶋田九郎左衛門跡被仰付候

一弘化三年四月廿九日川除奉行被仰付候

一嘉永四亥二月十一日御台所目付被仰付

末松嘉平 久兵衛 覚兵衛 濤輔 嘉左衛門

拾八石三人

一嘉永六丑三月廿日養父覚兵衛年寄候ニ付休息被仰付、家督拾八石三人扶持無相違被下置、新御番組へ被入候

一安政元寅十二月廿八日久兵衛与改

一同二卯四月三日学問所詰被仰付候

一同年五月廿九日右ニ付講究師被仰付候

一安政三辰四月廿一日兼而文学心懸置、且明道館御端立ニ付懸り被仰付候

一安政三辰四月廿一日兼而文学心懸置、且明道館御端立ニ付懸り被仰付候

一安政三辰四月廿一日兼而文学心懸置、且明道館御端立ニ付懸り被仰付候

一同日右同断心懸生徒も有之候ニ付、昨年明道館御端立之折柄外塾之趣被

仰付候処、引立方出精ニ付御袴袴被下置候

一同四巳二月朔日外塾師被仰付候

一同五年十月五日御泉水番青木雄左衛門跡被仰付、外塾師之儀ハ御免被成候

但右ニ付御泉水御長屋へ引移候様被仰付候

一万延元申十二月廿八日覚兵衛与改

一文久二戌閏八月十七日御勘定吟味役指添被仰付、支度出来次第出府被仰付候

一同年十一月十八日遠慮伺之上指扣被仰付置候処、御免被成候

一同三亥正月四日昨年方出府罷在候処、当亥年詰被仰付候

一同年二月十七日小御充行ニ付、詰中式人扶持別段為御手当被下置候

一同年三月廿三日御前様御国表江被為入候ニ付、御道中御用達介相勤、帰着

一同年四月廿日願之趣も有之二付、新屋敷御徒屋敷地之内ニ而百七拾三坪

余拜地ニ被仰付候

一同年八月十日榊原幸八同道肥後表江罷越候様被仰付、翌十一日出立、十

二月五日肥後表江京都江立寄帰

一同四子正月廿日先達而肥後表江御直書被遣候節、為御使榊原幸八平瀬儀

作被遣候ニ付指添被仰付候処、御返書御渡有之砌、儀作江も申談早速持

参可相達儀を数十日彼表江逗留及遲滞、御先方へ対し御不都合ニ相成、

且又京都表并罷帰候節も不束之儀を申立候趣相聞、心得違至極不調法之

事候、依之御役御免被成遠慮、二月十一日御免

一元治与改元、十二月賊徒一件ニ付出張御手当銀三百匁被下置候

一慶応二寅十一月十一日京都詰出立

一同年十二月<sup>トウ</sup>濤輔与名替

一同三卯四月五日帰

一慶応三卯十月五日御城代方調役被仰付、役新御番組江被入候

一同四辰五月十一日今般御趣意二付役中御留守番組江被入候

一明治二巳二月十七日守城庶務方被仰付

一同年三月廿九日濤輔事嘉左衛門卜改

一同年六月十六日嘉左衛門事嘉平卜改

一同年八月廿一日病死

末松<sup>ヒサネ</sup>久根 忠太郎 秋之助 濤輔 濤哉 濤治 覚兵衛倅 [士族]

文久二戊閏八月朔日当秋芝御陣屋詰御番士御雇詰被仰付、右詰中御扶持方五人扶持被下置候、閏八月廿六日出立、同三亥九月廿四日帰着

一同三亥十月十三日中将様御供ニ而上京、子四月帰

一同年十二月廿八日於京都表秋之介卜改

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀ニ思召候、依之御酒被下置候

一同年十月十六日京都詰出立、十二日帰

一同年十二月賊徒一件出張、御手当貳百匁被下

一同二丑正月廿五日上京、五月七日帰

一慶応二寅十一月十一日上京

一同年十二月濤哉<sup>トウヤ</sup>与名替

一同三卯四月四日御上京御供、振替り帰

一同年八月十六日衆道之儀ニ付風儀不宜趣相聞、年若之者文武修行之妨ニ相成候間、已来相慎候様被仰付、此上心得違之儀有之候得ハ、急度可被

為御沙汰候条、此段相含可申諭旨移りを以被仰付

一同四辰七月七日今度越後表へ御出陣被仰出候ニ付補兵隊被仰付、出張被仰付候処、難渋之訳も有之二付為御手当銀七百匁被下置候

一同年九月六日補兵隊ニ而会征出立、巳二月六日帰、同廿二日右出張二付御手当五兩被下候

一明治卜改元、十一月七日濤哉事濤治卜改

一同二巳二月廿四日中納言様供奉御供被仰付、詰中一番遊撃隊御雇被仰付、御雇中月俸三口被下置候

一同年四月九日右御供ニ而東京江出立、五月廿七日親対面願之上帰、然ル処六月三日引返東京江出立、七月十八日御雇御免願之上帰

一同年八月廿二日親嘉平家督十八石三口無相違被下、予備隊江被入候

但玉村寿次キ、巳ノ廿三歳

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

一同三午五月廿四日第一大隊三番小隊入被仰付候事

一同年六月八日居屋敷地続南之方ニ御除地御座候、当時御用ニも無之候ハ、相当之地子上納ニ而拝借願之通被仰付候

一同年七月四日右拝借地被仰付候処、土居之分見除検地有之、依之右小土居共拝借願之通被仰付候

但尤地上納也

一囲之義ハ監正寮江可申談事

一同年十二月八日常備大砲隊彈藥司 年給六俵

一同四未十月十三日解隊

一同五申五月濤治事久根

杉坂

杉坂<sup>ソダチ</sup>養道 湯又藤太郎 杉坂養左衛門 養次郎

〔士族〕

拾八石三人

一安政三辰十二月廿一日養父藤兵衛義病身二付内願之通休息被仰付、家督拾八石三人扶持無相違被下置、大御番組へ被入候

一万延元申十二月廿八日杉坂養左衛門与改姓名

一文久二戌十月六日今度農兵御端立二付、西尾十左衛門申談教授手伝被仰付候

一同三亥二月十三日番頭引纏上京

一同年八月廿六日早速上京被仰付、同廿九日出立、子四月廿三日宰相様御供二而帰

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀思召候、依之御酒被下置候

一同年七月四日京都表へ出立、八月廿三日帰着

一同年十月十四日長征出立、丑正月帰

一同二丑正月廿七日賊徒警衛敦賀江出張、二月廿三日帰

一慶応卜改元、十一月廿九日従来勝手向不如意之処、誠実ニ武芸心掛候趣

奇特ニ思召銀拾枚被下置候

一同二寅二月廿九日炮術所世話役被仰付

一同年四月廿四日堺町戦争一件二付、公儀<sup>カ</sup>被下配当金千疋被下置候

一同年七月五日御番皆勤二付時服被下置候

一同年十二月廿二日砲術所世話役格別致出精候二付、銀拾枚被下置候

一同三卯三月十日御上京御供出立、直ニ御警衛詰、七月十八日帰

一同年八月廿九日階級打調方被仰付、砲術所頭取申談相勤候様被仰付、役御番組江被入候

一明治元辰十月十六日兼而勝手向難渋之処砲術格別執心二付、為御手当米八俵被下置候

一同二巳六月十六日養左衛門事養次郎卜改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

一同年十二月五日修業隊被仰付候事

一同三年六月廿二日第一大隊五番小隊入被仰付候事

一同年十二月 予備一番隊 年給式俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事

一同年十月十三日郷社可致神勤事

木部神社

一同五申五月養次郎<sup>ソダチ</sup>事養道

菅原

菅原<sup>モトハル</sup>元春 堀修蔵 元春 父鼎 未三歳

〔士族〕

一米三拾九俵四斗三合

一明治四未九月十五日家督

一同五申正月十五日元御持筒藤井源八卜給禄振替

一米式拾三俵三斗六升三合

一同年五月修蔵事元春

一同 菅原卜改姓

六  
福井藩士履歴  
せ





進次

## 仙石右近

五百石

元禄十二卯三月十三日父權右衛門為跡目三百石被下

宝曆三戌正月十一日御傍役被仰付

正徳五未八月廿一日貳百石御加増、御小姓支配被仰付

## 仙石右近

五拾人扶持

享保元申九月五日父右近為跡目被下

## 仙石万右衛門

五拾人扶持

元文二閏十一月十六日養父右近跡目無相違被下、席林主水次

## 仙石權右衛門

五拾人扶持

宝曆七丑五月廿九日養父万右衛門跡無相違、席磯野九郎左衛門次

巳三月六日病死

## 仙石三左衛門 病死

五拾人扶持

安永二巳閏三月廿五日養父權右衛門跡目無相違被下、寄合席大道寺勝之

## 仙石万右衛門

五拾人扶持 外拾人扶持御足

天明五巳二月廿五日父三左衛門跡目無相違被下、寄合席松原頼母次

文化六巳正月廿八日御用人見習被仰付、拾人扶持御足被下、且痛所在之

二付江戸詰ハ御見除

文化十三子十一月七日御鷹支配大宮彦右衛門跡

同月十二日御用人御奏者兼

文政二卯年五月病死

## 仙石万右衛門 謙吉事

五拾人扶持

一文政二卯六月廿五日養父万右衛門家督無相違被下置、寄合席稲葉式部次

一天保十二丑八月十一日無役御留守番支配西尾七兵衛跡被仰付、御役中御

足扶持七人扶持被下置候

一同十五辰二月廿九日思召有之乍格式金津奉行水野主計跡被仰付、金津御

役宅江替被下候

一弘化三年十月十七日金津奉行御免被成、是迄被下置七人扶持以後不被下

候

一同年十一月十一日御役中御役柄ニも不似合不相当之趣相聞候二付、遠慮

一嘉永三戌七月廿日村上左仲侍御削被成候二付、伺之上遠慮

一同六丑十二月十六日痛所有之步行等難儀二付、内願之通隠居被仰付候

## 仙石出石 虎熊 伯耆

〔士族〕

## 五拾人扶持

一嘉永六丑十二月十六日親万右衛門儀痛所有之歩行等難儀二付、内願之通  
隠居被仰付、家督五拾人扶持無相違被下置、寄合之席被仰付候

一安政元寅十二月廿八日伯耆与名替

一同四巳十一月廿日此度大砲科御端立相成候二付右局へ相詰、自分之講究  
ハ勿論引立方之義厚致心配候様被仰付候

一同五午十二月十一日大御番無役支配相馬一九郎跡被仰付、役中御足七人  
扶持被下置候

一文久二戌九月八日大御番無役組被相止候二付御役御免被成候、依之以来  
中ノ口往来御用人下之部屋へ罷出候様被仰出候、右御役御免被成候二付、  
御足七人扶持之儀ハ以後不被下候

一同三亥正月十九日今般農兵御派立二付、一組大谷丹下江御附被成候二付、  
其手へ属シ丹下并掛り西尾十左衛門等江厚申談致世話候様被仰付候

一同年四月五日御側役并御用人助被仰付、是迄相勤来候御用向都而其儘被  
仰付、風廻り之儀ハ御用捨被成候、且又外二役中御足七人ふち被下置候

一元治元子二月廿日今般大谷丹下儀、從公辺御運ひ次第長州為御征伐紀伊  
中納言様御始へ御内意被仰出候二付、依時宜右御出張之御方々江御加勢  
御見廻旁御附属之御人数引纏被指出儀も可有之候間、右御内意被仰出候  
用意可致度旨被仰付候、然処三月十一日御免被成、御模様次第上京被仰  
付儀も可有之旨被仰付候

一同年四月十一日大谷丹下手江御附被成候間、申談厚致世話候様被仰付候  
処、内達之趣も有之二付御免被成候

一同年七月廿二日御趣意二付御側役并御用人助御免被成候

一同年十月十日伯耆事出石与名替

一同年十二月賊徒一件二付出張、依之御手当銀六百匁被下置候

一同二丑四月五日御側役并御用人見習被仰付候、且又右二付御小姓表御小  
姓支配被仰付、役中御足七人扶持被下置候

一慶応二寅二月十六日役中御足三人扶持御増、都合拾人扶持被下置候

一同三卯正月廿二日御役御免被成調練掛り被仰付、依之以来中ノ口往来、  
御用人下ノ部屋江罷出候様被仰付

一同日御役御免被成候二付、是迄役中被下置候御扶持方之儀ハ以後不被下  
候

一同日御坂札杓枚被下置候

一慶応三卯九月廿九日調練致世話候様被仰付置候処、御免被成候

一同年十月廿五日新番組同並組支配被仰付、役中御足七人扶持被下置候

一同四辰三月十二日役御番組支配荒川十右衛門跡被仰付、役中引渡之席被  
仰付

一明治二巳二月十六日今般御改革二付役御番支配被廢候、仍御役儀御免被  
成、御近習二被指置候

一同年五月廿五日下午馬御門并三ノ丸御座所御門御警衛被仰付候、同廿七日  
三ノ丸持切

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米百式十六俵式斗五升被下

一同年十二月二日修業隊被仰付候事

一同三年十月十二日第一大隊四番小隊江被入候事

一同年十二月 予備二番隊 年給式俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事



## 仙石庄右衛門

貳拾五石五人

宝永元申十月十一日養父喜左衛門跡知百石無相違被下

享保七寅十一月与内吟味役水野藤兵衛跡

同十一年四月十六日御勘定拝借奉行稻生八郎右衛門跡

同十五戌正月十六日郡奉行、役料五拾石、稻生八郎右衛門跡

同十六亥九月五日役義御取揚

延享四卯正月廿一日知行御取上ケ、此訳ハ力丸又左衛門不所存者二付、

致義絶候段御目付へ相違、当時相勤罷在候者を右躰鹿忽之取扱二付貳拾

五石五人被下、此節逼塞

寛延元辰九月五日休息

## 仙石逸平

廿五石五人

寛延元辰九月五日養父庄右衛門休息、家督無相違、大番入

## 仙石喜左衛門

廿五石五人

安永七戌四月五日養父逸平跡目無相違、大番入

寛政五丑九月朔日番改役山田清兵衛跡

文化五辰ノ九月廿日御代官三上孫右衛門跡、御留守番入

同七年正月廿日御持武具奉行井上茂右衛門跡、御書院番入

文化九壬申七月廿日内願休息、倅弥三郎家督無相違、御留守番組被入候

## 仙石弥三郎

貳拾五石五人

文化九申七月廿日親喜左衛門病身二付内願之通休息、家督無相違、御留

守番入

同年十月十九日無役御留守番入

同十三子八月大御番入

文政六未二月廿九日弟丹三郎不埒至極二付、御国立退二付遠慮

同七申閏八月病死

## 仙石喜左衛門 運吉事

廿五石五人

一文政七申十月十一日兄弥三郎病中養子被仰付、家督廿五石五人無相違、

無役御留守番入

一天保八酉七月五日御作事改役松村久右衛門跡被仰付

一同十亥五月十一日用奉行田川清助跡

一同年九月十六日諦観院様御靈屋御普請先役中出精二付、御目録金三百疋

被下置候

一同十一子四月廿五日江戸御屋形御普請於此表切組被仰付、右御用掛り出

精二付御褒詞

一嘉永元申九月十六日表御納戸役宇貝八郎右衛門跡被仰付

一同二酉年正月十六日勸農方被仰付、御留守番組へ被入

一同四亥二月十一日御代官役横山十郎兵衛跡被仰付

一安政三辰三月十三日病死

仙石喜熊 万次郎 喜左衛門

〔士族〕

廿五石五人

一安政三辰五月三日親喜左衛門家督廿五石五人扶持無相違被下置、大御番

無役組へ被入候

一同年九月十六日大御番組へ被入候

一同年十二月廿八日喜左衛門与名替

一同四巳四月廿二日明道館内へ武芸稽古所御集被成候二付、山田伝右衛門

稽古所詰被仰付候

一同年十一月廿五日御製造方見習被仰付、山田伝右衛門稽古所詰之儀ハ御

免被成候

一同五年十一月十六日出精相勤候二付銀貳百匁被下置候

一万延元申十月廿日制産方被仰付候

一文久二戌六月十九日御作事方改役御普請方改兼帯芦田十左衛門跡被仰付候

一同三亥八月十九日今度三ノ丸御普請御用掛り被仰付候

一同四子二月十六日役前不参届儀有之、伺之上遠慮

一元治元子十月十四日長征出立、丑正月帰

一同二丑正月廿七日賊徒警衛敦賀江出張

一慶応与改元、五月廿八日御趣意二付役御番組二被仰付候

一同年七月十一日三ノ丸御座所御普請中出精二付、御目錄御紋御上下沓具

銀沓枚被下置候

一同三卯二月十一日出精相勤候二付年々銀七枚ツ、被下置候

一同年七月廿六日今度於御座所御建継御普請被仰出候二付、御用掛り被仰付

一同四辰四月五日屋敷地之内百五拾貳坪七分五厘御用地二被仰付候

一明治ト改元、十二月五日出精相勤候二付役中御足三人ふち被下置候

但是迄被下置候役米并銀七枚之儀ハ已後不被下候

一同二巳二月十五日御勘定方并造営方兼勤被仰付候、但御足扶持其儘之事

一同年四月廿日司計局承事試補被仰付、但四等官 田川乙作次

但月給米一年分廿俵

同日庶務方造営方之儀専務二取扱候様被仰付

一明治二巳六月十七日喜左衛門事喜熊ト改

一同年十一月朔日今般御改革二付役儀被免、御広間当番勤被仰付候事

但席林一四郎次

一同月廿一日民政局権少属被仰付候事

一同年十一月廿五日今般御改革二付、更給禄米五十三俵沓斗四升三合被下

一同三年四月十八日今般御改正二付権少属被免、予備隊江被入候事

一同月十九日民政寮少属被仰付候事

但引立方

一同年九月五日本官被免予備隊江被入候事、席堀彦四郎次

一同月廿九日御用有之二付越後柏崎県江可罷越事、十月九日出立

一同年十月廿九日准十四等出仕、如此柏崎県江申来ル



千本長右衛門

貳百石

貞享三年御減少之節御暇被下候処

翌四卯六月十八日被召出

元禄四未八月御長柄奉行被仰付

宝永五子三月六日依病氣御役御免

千本藤左衛門

三百石

宝永六丑八月十一日養父長右衛門家督貳百石無相違

正徳五未十月廿二日御使番野村一郎左衛門跡

享保五子七月廿一日御奉行役鈴木彦太夫跡

同十五戌八月十一日御奉行御免、御預所方御用可相勤旨

同十七子七月廿一日御奉行帰役、御役料本知ニ御直シ被下、江口次郎兵

衛跡

寛保二隠居

千本長右衛門

三百石

享保七寅十一月廿九日御手廻被召出、御書院番入

同十一年四月五日於江戸御供目付

同十八丑二月廿八日新知百石

元文三年十一月五日御腰物数寄方奉行須崎一郎右衛門跡

寛保二戌五月廿九日養父藤左衛門隠居、三人扶持被下、家督無相違、役

儀其儘自分知ハ上ル

同年六月十六日親藤左衛門隠居、扶持御取上休息

同年七月九日役義御免、大番入

延享元子十一月十五日御使番真田源太左衛門跡

同四卯正月廿一日御叱、是ハ力丸又左衛門義絶之義申達候ニ付而也、仙

石庄右衛門勤書ニ有之

寛延四未九月廿九日御先武頭大野三左衛門跡

宝曆七丑九月廿五日御持弓頭堤七太夫跡

同十三未二月十六日御旗奉行今村伝兵衛跡

明和六丑正月十四日御役御免、年来相勤候ニ付長袴格

同九辰六月十四日隠居

千本長右衛門 弥三郎

三百石

明和九辰六月十四日父長右衛門隠居、家督無相違、大番入

安永五申七月十五日御使番大野左七郎跡

同八亥九月廿九日御目付河合善十郎跡

天明四辰七月廿四日御奉行

寛政四子四月八日御役御免、格式末之番外

同年九月十四日御先物頭林久太夫跡

千本長右衛門 弥五左衛門

三百石

寛政六寅正月十六日父長右衛門病身ニ付内願有之隠居被仰付、家督無相

違、大番入

享和三亥年二月廿二日御使番鈴木甚十郎跡被仰付

文化七年十月十七日御側物頭中根新左衛門跡

文化十一年二月五日御泉水預り東郷吉藏跡

同年十一月十二日御武具支配忍之者預り、東郷吉藏代り

同十四丑正月廿一日御目付三寺与右衛門跡被仰付候

同十五寅三月五日御奉行中根新左衛門跡

文政二卯年五月江戸表ニ而病死

### 千本長右衛門 猪太郎

三百石

文政二卯八月五日養父長右衛門跡知無相違被下置、大御番組被入

### 千本東岫 藤五郎事 藤左衛門 実小林

三百石

一天保二卯五月廿五日長右衛門病中養子願之通被仰付、家督三百石無相違

被下置、大御番組へ被入

一弘化二巳十二月五日郡奉行原平左衛門跡被仰付候

一同三年七月九日御目付役田辺五太夫跡被仰付

一同四未江戸御供詰被仰付、三月十九日出立

一同年九月十二日公方様神田橋江御立寄ニ付御褒詞

一嘉永元申五月廿日御帰国御道中御供壺人ニ而相勤候ニ付、銀壺枚被下之

一嘉永三戌十二月廿三日御家流炮術御派立ニ付、右御用掛り被仰付候

一同四亥十一月三日御預所并御領分村々、丸岡領樋爪為安両村与十郷用水

路論出訴一件ニ付御褒詞

一同五子二月廿六日当子年江戸御留守詰被仰付、三月晦日出立、同六丑四月廿二日帰着

一同六丑正月六日慎姫様御縁組ニ付御用懸り被仰付候

一同年七月十五日御内用有之二付、鈴木主税立帰出府被仰付候ニ付、留守

中金津奉行飯兼帯被仰付候

一同年九月廿六日鈴木主税於江戸表致転役候ニ付、右跡役被仰付候迄飯兼

帯其儘相勤候様被仰付候

一同年十一月三日今度大砲御製造ニ付右掛り被仰付候

一同七寅正月十一日謚姫様御縁組ニ付、江戸詰中取調掛り出精ニ付金貳百

疋被下置候

一同年六月十七日去ル十三日塩町方出火之節及大火、出精ニ付御褒詞

一同年九月廿二日御軍制御改正ニ付、御備組訓練被仰出候処、御役義之事

二候間、掛り同様相心得、御内調之通御軍帳掛り申談候様被仰付候

一同年同月廿五日撰州大坂表へ異国船渡来之趣申来候ニ付、御内用有之京

都へ被遣候間、明日中致出立候様被仰付候、然ル処十月廿四日帰着

一同年十一月廿四日先達而大坂表へ異国船渡来ニ付、御内用有之京都へ被

遣太儀ニ思召候、此段申聞候様被仰出候

一安政二卯正月九日学問所御取立ニ付、御自分儀右取調掛り被仰付候

一同年同月十五日出精相勤候ニ付、長袴格御奉行次席被仰付候

一同三辰八月十四日明道館御用向取調被仰付候

一同四巳四月廿二日御製造方之義も申談相勤候様被仰付候

一同五年十月十八日今度北国筋湊々見分為御用公儀御役人被罷越候ニ付、

右御用掛り被仰付候

一安政五年十一月十一日御奉行順席ニ被成下、且又近来御用多之処出精相



勤候ニ付、銀五枚ツ、年々被下置候

一同十二月十一日今度外国奉行始湊為見分御通行之節、出精相勤候ニ付御  
褒詞

一同六未二月十六日御預所掛り被仰付候

一同十一月五日右掛り御免被成候

一万延元申十月十六日近來格別出精相勤候ニ付、御足高三拾石被下置候、  
是迄年々被下置候銀五枚之儀ハ以後不被下候事

一万延元申十月廿一日御内御用有之二付立帰出府被仰付候、十一月七日出  
立、十二月廿五日帰着

一文久二戌四月十一日雨森右膳家屋敷へ替被下候

一同年同月廿三日御内御用有之立帰出府被仰付、廿七日出立

一同年六月八日先年も立帰出府被仰付候処、又々今度立帰出府被仰付候ニ  
付、為失却金拾兩被下置候、閏八月廿六日帰

一同年九月四日御預所掛り被仰付候

一同七日農兵御取調ニ付掛り被仰付候

一同年十月廿八日近來格別出精相勤候ニ付、御足高七拾石御増、都合百石  
被下置候

一同年十二月廿五日長谷部甚平上京、留守中寺社町奉行仮兼帶被仰付候

一同三亥五月廿二日御軍帳御変革ニ付掛り被仰付

一同年七月廿三日思召有之二付御役御免被成、御先物頭次席被仰付、是迄  
年々被下置候御足高百石其儘被下置候、但伺之上指扣、同廿九日御免

一同四子二月十四日御目付役勤中本多飛驒松平主馬不容易事件及妄議候を  
等閑ニ罷過候段、役儀不相立不調法ニ付御足高百石御取揚、末之番外ニ

被仰付遠慮、三月五日御免

一元治と改元、八月十四日御側物頭加藤所左衛門跡被仰付、且又此度御上

京御供被仰付、同月廿八日出立、夫方長征

一同二丑二月廿二日於京都御旗奉行鈴木平馬跡被仰付候

一同年三月御供ニ而帰

一慶応与改元、閏五月廿一日新番頭本多政之助跡被仰付候

一同二寅十月廿二日新番並頭

一同三卯九月廿七日再応内達之趣も有之二付御役御免被成候、且又年来出  
精相勤候ニ付、席其儘御近習ニ被指置候

一明治二巳二月十六日年寄ニ付隠居

一三月朔日御手許江折々御機嫌可相伺候

一同年六月十二日藤左衛門事東岫卜改

一同三年八月九日執法勤中多年勤勞有之二付、為慰勞年々金廿五兩ツ、被  
下候事

### 千本弥三郎

〔士族〕

三百石

嘉永六丑七月廿日此度思召を以支度出来次第江戸表江罷出、砲術訓練致  
修行、御扶持方式人扶持被下置、猶委細之儀者御奉行へ可申談旨被仰付  
候

一同七寅三月廿三日品川御殿山御固場へ出張、心配罷在候ニ付御下緒一掛  
被下置、且又大砲方差配役手伝相勤候ニ付金貳朱被下置候

一同五月十三日帰着

一安政三辰四月十三日市川斎宮逗留中、御用之原書致穿鑿指出候様被仰付  
候

一同年十一月二日兵科懸り被仰付、明道館へ相詰致修行候様被仰付候

一同四巳四月十九日兵科御調御用掛り被仰付候

一同年十一月廿日大砲科御端立二付兵科局詰其儘右局へも罷越、大砲講究致心配候様被仰付候

一同五年十一月廿九日兵科取調方被仰付置候処、内達之趣も有之二付出府被仰付、右出府中御扶持方三人扶持被下置候

一同十二月廿八日制産方御用之儀も相勤候様被仰付候

一同六未十月二日立帰御用二而江戸表へ帰着、同十六日折返し出立

一同七申正月十九日肥後熊本表江御用有之江戸出立、同晦日御国表江着、御用相弁シ二月六日出立、閏三月朔日帰着

一万延与改元、五月五日兵科取調方其儘制産方手伝被仰付、銀五枚ツ、年々被下置候、且又他国御用相勤太儀二付銀壹枚被下置候

一同二酉二月十三日制産方為御用箱館表江罷越候様被仰付候、晦日出立

文久与改元、七月廿日帰着

一文久二戌三月廿九日被召出御扶持方五人扶持被下置、御書院番格二被成下、支度出来次第江戸詰被仰付、詰中修行詰頭取、且又中将様御手許御用之儀も相勤候様被仰付、御用人支配二被仰付候、且又被召出御扶持方被下置候二付、是迄年々被下置候銀五枚之儀ハ以後不被下候、四月廿日出立

一同年十二月廿九日御用有之江戸表へ着

一同三亥正月三日早駆二而折返し出立、同十九日右同断二付別段之訳を以銀五枚被下置候

一同廿三日中将様御船二而御上京被遊候二付御供、三月廿五日御供二而帰着

一同年五月五日支度出来次第上京被仰付、同九日出立、六月十日帰

一同年七月廿一日兵科掛り被仰付候

一同廿三日養父藤左衛門御役御免、御先物頭次席被仰付二付伺之上差扣、同廿六日御免

一同年八月五日御参府御供被仰付、詰中御供無息頭取、且又御手許御用之儀相勤候様被仰付、詰中御扶持方五人ふち御増被下候、八月十七日出立  
一同年十一月七日中将様御用向有之二付京都表へ罷越候様被仰付、同十二日出立

一同年同月十日引続江戸京都御国御供并臨時数ヶ度之御用相勤、今度又々京都江罷出候様被仰付二付、出格之訳を以金五兩被下置候

一同四子二月十五日中将様御役被為蒙仰候二付、公用人兼被仰付候

一元治と改元、二月十七日養父藤左衛門御咎二付、遠慮伺之上御用之外指扣、二月廿三日御免

一同年四月十日御含御用も有之二付当分滞京被仰付、滞京中月々銀三枚ツ、被下置候

一同日昨年来格別御用多相勤失却も有之二付、白銀三拾枚被下置候、五月廿一日帰

一同年五月廿五日宰相様御職務中御内用向厚相心得、格別骨折相勤御満足思召候、依之御目録御召御上下一具、御二所物被下置候

一同年六月朔日江戸御聞番役見習末之番外席、御役料五拾石被下置候、且又右役中拾七人扶持二被成下、支度出来次第長詰并御内用向取扱被仰付候、将又江戸詰中御扶持方拾人扶持并失却金三拾兩被下置候、六月十九日出立

一元治二丑二月廿五日御目付役下山彦三跡被仰付、御役料五拾石御増、都

合百石被下置候、且又跡役罷越候迄者是迄之役筋相勤候様被仰付候

一慶応与改元、五月七日帰

一慶応元丑閏五月十二日御軍制掛り被仰付候

一同年同月十七日御含御用有之二付京坂へ被差出候、早速出立致し候様、

右罷出候中京都御聞番御用向之義も相心得相勤候様被仰付、同廿日出立、

閏五月廿六日早駆二而帰

一同日近年他国御用度々相勤、今度又々京坂へ立帰御用被仰付候二付、為失却金拾五兩被下置候

一同廿八日出立

一同年七月十一日於京都先達而方病氣之处爾々無之二付、御国表江罷帰致養生度内願之上帰着

一同年十月朔日宰相様御出坂御供出立、同三日御容躰二而今庄方御引戻二付帰着

一同二寅六月四日宰相様御登坂御供被仰付候、同廿五日出立、十月同断帰

一同五日御役人順席被仰付候

一同三卯正月廿二日御軍事掛り被仰付置候处、御用多二付振退勤被仰付候

一同年二月四日御内用有之二付立帰出府被仰付、同八日出立、三月廿六日

帰

一同年六月廿五日去月之番中荒子御咎之節不念之趣有之二付伺之上指扣、

同廿八日御免

一同年七月廿日諸科他国修行生懸り被仰付候

一同四辰正月六日御内用有之二付早速上京被仰付、翌七日出立、同十一日

帰

一同月十二日思召を以急々上京被仰付、翌十三日早駆二而出立、同十九日

帰

一同年二月二日今般勅使御國中御通行之節御馳走附被仰付、同日敦賀出張、夫方大聖寺迄附廻シ

一同年三月十二日軍事掛り被仰付、振退勤之儀ハ御免被成候

一同年四月五日北陸道惣督御通行之節心配相勤候二付、御褒詞之上御召御給一被下置候

一同月十一日席其儘評定役被仰付

一同年閏四月十八日御用有之立帰上京、早速致出立候様被仰付、翌九日出立、同廿六日帰

一同年五月四日評定役其儘司計頭取被仰付、太刀目録席被仰付、御役料都合百五拾石被下置候

一同年六月二日御含御用有之二付、立帰早速上京被仰付、六日出立、十五日帰

一同年七月七日当春被仰出候通、御取締地并御預所御所務筋御用之儀取扱被仰付

一明治卜改元、十二月廿七日御用有之早春出立、一旦京都江罷出夫方東京江罷出候様被仰付、正月七日出立、巳三月六日東京方早かけ帰

一同二巳二月十六日養父藤左衛門年寄二付隠居被仰付、家督三百石無相違被下置、参政職被仰付、当職を以司計局幹事被仰出候

但月棒百二十俵、御役料ハ不被下候

一同月廿二日奥羽越御人数出張、留守中格別致心配候二付御褒詞被成下候

一同年七月廿一日毎々他国御用二付、為御手当金五十兩被下候事

一同月 御内御用有之東京表江立帰被仰付、八月廿二日出立、十月廿二

日帰

一同年十月十四日任福井藩權大參事宣下候事、同日司計局幹事被免候事

一同月廿四日今般權大參事宣下二付御取扱左之通

一五節句朔望登城之節大參事御逢、畢而直二御逢之事

但各員一同罷出事

一掌政内局定出席之事

一御門々々下座之事

一同年十一月廿五日今般御改革、更給祿米百四拾六俵壹斗壹升四合被下候

一同三午正月十日病院掛り被仰出候事

一同年四月廿五日戊辰以来多端之折柄事務担当格別尽力二付、慰其勞御賞

典之内永世三十石修身二十石、都合五十石令頒授候事

一同月廿九日小笠原大參事留守中民政掛り被仰出候事

一同年七月九日御用有之立歸東京江罷越候様被仰出候事、同廿五日出立、

九月廿九日歸

一同年十二月七日堤權大參事在京中軍務寮掛り被仰付候事

一同四未四月廿九日御用有之二付立歸東京江罷越事、五月四日昼夜兼行

出立

一同年六月八日在京中大參事同様之御取扱相成候事

一同年七月廿八日歸

一同朔日数年勤勞且御維新後藩制改革之際補助之功不尠、依之年々米三拾

俵ツ、終身被下候事、申三月廿九日御取消相成候事

一同年十一月十五日任広島縣權參事

一同月廿五日任福井縣權參事

## 妹尾

妹尾与左衛門

百石

貞享元子十一月二日御右筆並御切米被下、其前ハ御扶持斗也

正徳三已五月五日於江戸新知被下

享保八卯五月十五日御右筆部屋請込役被仰付

申九月十六日休息

妹尾次郎左衛門

百石

宝永四亥十二月廿一日表御小性被召出

正徳元卯十一月七日御手廻

同五未五月廿五日御手廻御免、大番入

享保十三申九月十六日養父与左衛門休息、跡目無相違、大番入、自分御

擬作上ル

延享五辰五月十一日与内立合

寛延四未四月廿九日山奉行横井惣右衛門跡、御留守番入

妹尾次郎左衛門

百石

宝曆三酉三月廿五日父次郎左衛門休息、家督無相違、大番入

明和五子七月五日御金奉行井上孫左衛門跡

妹尾与左衛門 病死

百石

明和六丑九月五日父次郎左衛門跡知無相違、大番入

安永八亥七月廿五日与内立合滝六藏跡

天明三卯十月廿日与内檢地奉行礒野庄吉跡、御留守番入

妹尾太郎左衛門 源藏

百石

寛政元酉三月五日養父与左衛門跡知無相違、大御番入

同十一未正月十六日定姫様御附御広式御用達、御留守番入

文化二丑五月廿九日奥御納戸望月八郎左衛門跡

文化十三子六月十日御留守物頭堀江宅平跡

文政元寅十一月十八日切手御門当番之節不参届、伺遠慮

文政三辰三月病死

妹尾与左衛門 八十次郎 病死

百石

文政三庚辰五月六日養父太郎左衛門家督百石無相違被下置、大御番入

妹尾平八 太郎吉

百石

一文政十三寅八月廿九日兄与左衛門病中養子、家督百石無相違被下置、大

御番組へ被入

一天保六未年江戸詰、三月十七日出立

一同七申八月五日養方之伯母国枝三太夫方二罷在候内、心得違之趣相聞蟄居、平八伺之上遠慮

一同九戌年江戸詰、四月十一日出立、同年十月朔日御使二而帰着

一同十三寅年江戸詰、三月廿二日出立

一嘉永元申九月十六日御広敷御用達伴五郎左衛門跡被仰付

一同二酉年江戸詰、三月廿三日御供二而出立

一安政三辰三月十五日御金奉行一柳献助跡被仰付、御書院番組へ被入候

一同年七月廿九日病身之趣二付役儀御免被成、御書院番組二其儘被指置候

一同四巳十一月廿日病身二付内願之通休息被仰付

妹尾浜三郎 太郎八

百石

〔士族〕

一安政四巳十一月廿日親平八義病身二付内願之通休息被仰付、家督百石無

相違被下置、大御番無役組へ被入候

一同六未正月十六日大御番組へ被入候

一文久元酉八月廿日太田御陣屋詰被仰付、支度出来次第出立被仰付、同廿

八日出立

一同年十二月廿七日大砲方頭取被仰付、且又二ヶ所御台場御筒を始教授方

申談取扱候様被仰付候

一同二戌四月三日太田御陣屋詰中横浜表江出張二付御褒詞

一同年十二月廿八日浜三郎与名替

一同三亥二月八日年始御規式中表御小姓御雇精勤二付、金百疋被下置候

一同年八月十七日御参府御供二而出立、同十二月江戸へ御上京御供、子二

月御帰国御供着

一元治元子三月二日上京、四月十二日帰

一同年十月十五日長征出立可致処不快ニ付居残

一同年十二月賊徒一件ニ付出張御手当銀六百匁被下置候

一慶応元丑十一月十六日製造方被仰付役御番組江被入候、但製作方被仰付

一同二寅十二月五日妻すみ不埒ニ付離縁之上蟄居被仰付、且又家内不締不

調法ニ付遠慮被仰付、同廿五日御免

一同三卯二月十一日御役御免被成、大御番組江被入候

一同年十月廿三日後拒役被仰付、其隊之上席ニ被仰付候

一同年十二月十二日急々上京被仰付十三日出立之処、御模様ニ付途中より

返シ帰

一同四辰正月八日又々急々出立、然ル処同十二日長浜駅より早かけ帰、翌十

三日上京

一同年四月廿五日六番後拒役被仰付、役中分隊長次席ニ被成下候

一同年閏四月十二日京都より帰

一同年六月廿五日会征出立可致筈之処延引、七月十二日大砲附ニ而越後江

出立

一明治ト改元、十月 出張中近藤篤太郎跡六番遊撃隊第二後拒被仰付

一同年十一月十七日会征より帰、已二月廿二日出張ニ付十三両被下候、外五

百疋

一明治二已二月十六日十三番小隊分隊長被仰付、御書院番組江被入候

月給十俵

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同三年正月十日柔術世話役被仰付候事、但支配是迄之通

一同年三月廿日一番小隊分隊長被仰付候事

但年給八俵被下候事

一席当分従前之通

一八等之御取扱

一同日支度出来次第東京詰被仰付、四月二日出立

一同年五月七日戊辰北越出張各所攻撃勉勵ニ付、御賞典之内十石十ヶ年令

頒授候事

一同廿四日柔術世話役被免候事

一同日役配中出精之段御褒詞被成下候事

一同月廿五日第一大隊八番分隊長更被仰付候事

一同年十月廿八日從東京帰

一同年十二月八日職務被免候事

一同日常備一番隊押絶 一番 軍曹ト改 年給十三俵

一同四未四月朔日東京詰出立可致処引揚、三月廿五日飛脚相勤出立

一同年十月十三日解隊、在京中は迄之通

一 東京府御用ニ而居残り 区兵小頭



関甚五右衛門

式拾石三人

元禄十丑八月十五日芦田右衛門家来より被召出、新番へ入、但御切米十七

石三人扶持被下候処

正徳三已七月廿三日三石御加増

享保十一午三月廿九日新番より大番組へ被入



同十三申九月九日休息

関甚五右衛門 初平太夫

百石

享保八卯十月九日於江戸御切米十五石三人被下、新番入、御馬方、但是迄ハ新番並ニ而三人扶持御馬方

同十三申九月十六日父甚五右衛門休息、家督貳拾石三人無相違、大番入、御馬方其儘、但自分御擬作三人扶持ハ上ル

同十五戌十一月十五日五石二人御加増

同十九寅六月五日御馬屋別当

同廿卯正月十五日新知百石

関甚五右衛門 平太夫 病死

百石 五人御足

延享元子三月二日父甚五右衛門跡知被下、御馬方其儘、大番

宝曆十一巳九月廿二日於江戸別当役塚田与次内跡

同十二年三月廿九日於江戸御書院番入

明和七寅六月十九日御近習番格

安永四未二月十四日五人御足扶持

同七戌十二月十六日末之番外

関平太夫

百石

天明七未八月廿三日於江戸養父甚五右衛門跡知無相違、大番入、御馬方

関若三郎

百石

享和二戌十一月父平太夫家督無相違被下、大御番入、御馬方  
文化七年十月病死

関与三吉

百石

文化七年十二月十一日兄若三郎病中願之通養子被仰付、家督無相違、大御番入、御馬方

関平太夫 半九郎

百石

文政三庚辰年九月十六日養父与三吉病中願之通り養子ニ被仰付、家督百石無相違被下置、大御番入、御馬方被仰付候

嘉永二酉八月 病死

関良平 雅三郎 平太夫 良太夫

百石

一嘉永二酉十月十一日親平太夫家督無相違被下置、大御番組江被入、御馬方被仰付

一同四亥年江戸御供詰右掛り被仰付候

一安政元寅十二月廿八日平太夫与改

一同二卯江戸御供詰

〔士族〕

一同年十二月良太夫与名替

一安政三辰九月十六日御厩別当役被仰付、御書院番組へ被入候

一文久元酉三月十九日御供二而出立

一同三亥二月十日殿様御上京御供、三月六日帰着

一同年十月十三日中将様御供二而上京、十二月廿九日立帰御用二而帰

一同四子正月十八日折返シ出立、四月廿三日御供二而帰

一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀ニ思召候、依之御酒被下置候

一同年十二月賊徒一件ニ付出張、御手当銀六百匁被下置候

一同二丑二月廿二日種馬掛り駒仕立方等致心配候様被仰付候

一慶応与改元、十月朔日宰相様御出坂御供出立、同三日今庄方御引戻ニ付帰

一同二寅六月廿五日宰相様御登坂御供出立、九月十日立帰り着、廿四日出立之処御帰国之御飛脚ニ付途中方帰

一同三卯八月十六日倅久馬吉御叱りニ付遠慮伺之上差扣、十九日御免

一同年十一月三日宰相様御上京御供出立、辰三月十三日帰

一同四辰三月十六日出精相勤候ニ付格式末之番外ニ被仰付候

一同日御趣意ニ付種馬掛り儀ハ御免被成候、且又是迄心配相勤候ニ付銀五枚被下置候

一明治ト改元、十月九日上京

一同二巳二月七日御馬役被仰付、且又御趣意ニ付家業之儀ハ御免被成候

一明治二巳六月良太郎事良平ト改

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米六十俵四斗三升六合被下

一同年十二月十三日当春御改正後出精相勤ニ付金拾両被下候事

一同三午三月廿日馬術世話役被仰付候事

但八等

一学校附属

一同年十一月十四日依願本官被免候事

一同日非役

一同四未三月十九日依願給禄之内廿俵二男他家士へ分禄被仰付候事

元ノ如く合禄願之通

一同五申二月廿五日病身ニ付倅諒造へ家督

関英治<sup>ヒデハル</sup> 工馬吉 工馬三郎 諒造 良平倅 明治三午廿一歳 [士族]

一文久四子正月十八日親同道上京、四月五日帰

一慶応三卯八月十六日夜行之節輕輩之者致不礼候迪、其節取糺方も可有之処、身分をも不弁理不尽之致業心得違ニ付急度御叱被成候、依之伺之上

遠慮、同廿三日御免、親良太夫伺之上指扣

一同年十二月廿八日工馬吉事工馬三郎ト改

一明治元辰九月廿五日親良太夫京都詰被仰付罷越候ニ付、馬術為修行親同道罷越候義願之通被仰付、十月九日出立

一同月廿九日在京中御馬方御雇被仰付

一同二巳九月二日軍政方伺二而予備隊江被入候事

一同三午十一月十四日四等教授手伝給禄米六俵被下候事

但馬術掛り

一下級

一同年十二月十二日給米十式俵被下候事

但年給無之事

一同月十八日工馬三郎事諒造卜改

一同四未四月廿七日准十六等 八俵高 年給九俵

一同年九月二日御改革二付免職

一同五申二月廿五日家督

一米六拾俵四斗三升六合

一同五申五月諒造事英治<sup>ヒデハル</sup>



関又十郎

七拾五石

延宝五巳七月十八日父又十郎跡目百五十石被下

貞享元子十月廿五日御大工頭<sup>ヲ</sup>御取立、新番入、御破損奉行

貞享三半減被成下

正徳三巳八月廿一日御普請方御作事方吟味役被仰付

享保三戌五月廿八日御破損奉行被仰付

関藤太夫

七拾五石

享保八卯八月十一日父又十郎跡目無相違被下、破損奉行其儘被仰付

同十一午三月廿九日本役先格之通、其外勤方奉行支配被仰付

延享三寅十二月廿一日大番二入、相身躰末

関藤左衛門 藤蔵

廿石六斗五升五人

宝曆三酉九月廿五日養父藤太夫跡知被下、養父之通破損奉行、相身躰末

明和七寅八月廿九日順席

安永四未三月五日依願拜知七拾五石、御切米御扶持方ニ如是御直シ被下

天明八申七月廿日御作事御俵約掛り被仰付、破損奉行御免被成

寛政五丑九月朔日御勘定吟味役浦井文左衛門跡、御留守番組被入

享和二戌七月廿日御代官宇都宮又左衛門跡

文化三寅

休息

関忠太夫

貳拾石六斗五升五人

文化三寅十月廿五日父藤左衛門休息、家督無相違、大御番入

文政三辰六月廿九日松沢平太左衛門跡

文政九戌十二月十六日玉葉奉行沢田助左衛門跡被仰付

関忠太夫 小善次事

廿石六斗五升五人

一文政十一子二月廿五日親忠太夫家督無相違、廿石六斗五升五人扶持、無

役御留守番入

一天保二卯六月廿五日大御番入

一嘉永元申八月十一日番改役加藤弥右衛門跡被仰付

一同七寅六月十九日内願之趣も有之二付御役御免被成

一同年関七月十六日内願之通休息被仰付候

関藤太夫 鉞吉 藤左衛門

廿石六斗五升五人

一嘉永七寅閏七月十六日養父忠太夫病身二付内願之通休息被仰付、家督式

拾石六斗五升五人扶持無相違被下置、無役御留守番組へ被入候

一安政三辰九月十六日大御番組へ被入候

一安政三辰十二月廿八日藤左衛門与名替

一同年四月十五日藤左衛門事藤太夫卜名替

一安政四巳二月十七日御製造方見習被仰付候

一同四巳四月廿七日松岡於合藥所不慮之死亡、翌廿八日為御手当銀五枚被下置候

関小善次

〔士族〕

廿石六斗五升五人

一安政四巳閏五月廿日兄藤太夫於御用先不慮之儀二而致死亡候段、達御聴

御不便二思召候、依之親類願之通藤太夫遣跡相続被仰付、幼年二ハ候得

共出格之御憐愍を以家督廿石六斗五升五人扶持無相違被下置、大御番組無

役組へ被入候

一文久二戌九月八日大御番組無役組以来被相止候二付大御番組へ被入、御番

御供御免被成候

一同四子二月七日拾七歳二相成候二付御番組御供相勤候様被仰付

一元治与改元、四月十三日上京、八月廿二日帰着

一同年八月廿六日今般長州人京師乱入堺町御門於御固場所戦争之砌、相働

候段達御聴御褒詞

一同年十二月賊徒一件出張、御手当三百匁被下置候

一慶応元丑十一月廿九日大坂表江出張、夫方神戸江出張之处、寅九月十五

日帰

一同二寅四月廿四日堺町戦争一件二付公儀方被下配当金千疋、且又戦功二

付五百疋被下置候

一同三卯十一月廿六日宰相様御滞京中為御備上京被仰付、同廿九日出立、

辰四月十日帰

一同四辰九月八日上京、十一月十六日帰

一明治二巳四月九日中納言様御供東京江出立、十月十二日帰

一同年十一月廿五日今般御改革二付、更給禄米四拾八俵壹斗三升被下

一同年七月三日修業列被仰付候事

一同三午閏十月廿五日右名目被廢非役卜唱



関幸左衛門 勇右衛門事 藤兵衛事

拾八石三人

一天保三辰中山道御道中調為御用、同年二月廿九日帰着

一同年三月七日立帰出府

一天保四巳正月廿九日御取立被成、新御番組へ被入、小普請方大谷武兵衛

跡被仰付候

一同八酉十二月五日養子及離縁候始末不参届趣有之二付、御役御免被成、

遠慮被仰付候

嘉永五子十二月十一日近年多病二相成候二付、内願之通休足被仰付候

関恒三郎

拾八石三人

一嘉永五子十二月十一日養父幸左衛門儀内願之通休息被仰付、家督拾八石  
三人扶持無相違被下置、新御番組へ被入候  
一安政六未七月五日病身内願之通休息

関百太郎 又八

拾八石三人

一安政六未七月五日親恒三郎儀病身二付内願之通休息被仰付、家督拾八石  
三人扶持無相違被下置、新御番組末席江被入候  
一文久元酉三月廿五日元席へ被入候  
一同三亥十月十三日中将様御供二而上京、子四月廿三日同断帰  
一元治元子六月廿五日昨冬以来宰相様御上京中格別繁勤太儀二思召候、依  
之御酒被下置候

一同年八月廿八日御上京御供出立、夫方長征、丑二月三日帰

一同年十二月百太郎卜名替

一慶応元丑八月五日御堀致殺生候二付、移を以御叱被成候、但過料三拾匁

但右二付遠慮伺之上指扣、同八日御免

一同年九月十七日家屋敷無之二付、百軒長屋之内年賦上納二而被下置候、  
但願之上如此

一同二寅十一月十一日京都詰出立

一同三卯四月四日御上京御供、振替り帰

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付候

一同廿五日新番組二被仰付候

一同四辰三月朔日病死

関忠次郎 実関小善次弟也

〔士族〕

拾八石三人

慶応四辰四月廿日関百太郎病中願之通養子二被仰付、家督拾八石三人扶  
持無相違被下置、新御番組江被入候

一同年五月十一日今般御趣意二付無役組二被仰付

一同月廿日無役新番組江被入候

一明治二巳八月十四日予備隊被仰付

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米三拾九俵四斗三合被下

一同三午十月三日下馬御門内二而百八十式坪坪地被下候

一同年閏十月廿五日予備隊名目被廢非役卜唱



此前代や二出、山本卜号

関竜輔 初山本正伯 蟄居

廿五石五人

宝暦十二午十月五日養父正伯跡目無相違、御目医師

明和七寅閏六月廿五日不埒之義有之、閉門

安永二巳五月廿五日不慎二付遠慮

寛政元酉着服之義二付遠慮

寛政二戌八月十六日願之上本道、頼之方へハ葉遣致療治候様

寛政三亥十一月廿七日不埒之義有之、於江戸遠慮

同六寅四月九日於江戸本道兼帯被仰付

同九巳五月十一日於江戸奥御目医師

享和元酉三月六日蟄居、御擬作之内五石被召上、廿石五人養子へ被下

此後代や二出、但再ひ山本与改



瀬尾権八 休

廿石三人

享保十六亥正月廿九日御預所御徒目付方御取立、式石御加増、用水奉行

御留守番入

寛保三亥二月廿九日御代官

宝暦七丑五月十六日相身躰末

瀬尾権八 初幸次郎

廿石三人

宝暦九卯十月五日養父権八跡目無相違、大番入、相身躰末

同十二年六月廿二日家内不締り二付御呵遠慮

天明二寅三月十一日年数相満候二付順席

瀬尾八左衛門

廿石三人

寛政四子二月十六日養父権八病身二付休息、家督無相違、大番入

瀬尾権八 権三郎事

廿石三人

一文政五年五月十六日家督無相違被下置、無役御留守番組江被入

一同十二丑 大御番入

一天保四巳三月十六日川除奉行蓮川小伝太跡

一同八酉五月廿九日用水奉行小堀伝右衛門跡

一同十亥九月廿九日御旗本武具奉行長崎七右衛門跡

一嘉永三戌十一月廿日御武具御修覆御用出精二付、金三百疋被下

一同五子八月五日御広敷御用達御留守番組へ被入候

一安政四巳二月五日御代官役勝山七右衛門跡被仰付候

一同五年六月五日山田与一郎不埒之儀有之、侍御削被成蟄居被仰付候处、

与一郎義八実子二付伺之上遠慮、同十一日御免

一同六未二月五日年寄候二付休息被仰付候

瀬尾卯之平

式拾石三人

一安政六未二月五日親権八儀年寄候二付休息被仰付、家督式拾石三人扶持

無相違被下置、大御番無役組へ被入候

一同年八月廿五日大御番組へ被入候

一同七申二月五日制産方見習合薬方被仰付候

一文久元酉十月五日制産方被仰付候

一同三亥十一月十六日御役御免被成、大御番組江被入候、右二付伺之上指

扣、同廿一日御免

一元治元子三月十六日不埒横行之所業有之趣相聞不届至極二付、急度も可被仰付处、御憐愍を以休息之上蟄居被仰付候、急度相慎可罷在候、跡目



之義ハ廿石三人ふち被下置、新番組江被入候間親類共申談相願可申候  
 一同年十二月六日蟄居被仰付置候処、今般非常之義ニ付、於家内一家対面  
 御免

一慶応二寅六月廿三日御咎御免

瀬尾現代太 雪吹現代太 実雪吹弥太郎弟

〔士族〕

廿石三人

文久三亥八月十一日当秋芝御陣屋詰御番士御雇被仰付、詰中五人扶持被  
 下置候、廿九日出立

一元治元子三月十八日瀬尾卯之平親類共願之通家督相続被仰付、御充行廿  
 石三人扶持被下置、新番組へ被入候

一同年四月十六日先達而瀬尾卯之平御咎被仰付候節、芝御陣屋詰留守之処、  
 今日罷歸遠慮伺差出、伺之通被仰付候、廿二日御免

一同年五月廿五日願之趣も有之二付揚家屋敷ニ被仰付、実家雪吹弥三郎方  
 江当分致同居度旨、願之通被仰付候

一同年八月廿八日御上京御供出立可致処不快ニ付九月廿三日出立、夫方長  
 征、丑二月八日帰

一慶応二寅十一月十二日京都詰出立

一同三卯四月四日御上京御供振替り帰

一同年七月十一日養父卯之平出奔ニ付遠慮、伺差扣

一同月十二日養父卯之平義先日他国江罷越度趣、番頭迄願書指出候得共難  
 被及御取揚段御指図有之候処、今度令出奔候義重々不屈之所業ニ付、取  
 締心得方も可有之処、不参届趣不調法ニ付遠慮被仰付、八月三日御免

一同年十月十八日第二遊撃隊被仰付

一同年十二月十二日急々上京被仰付十三日出立之処、御模様ニ付途中より  
 返帰

一同四辰正月九日急々上京、四月廿日帰

一同年四月廿五日遊撃隊江被入候

一同年閏四月五日上京、九月十五日帰

一明治ト改元、十月廿二日大砲隊被仰付役御番組江被入候、且又大砲御道  
 具預り被仰付

一同二巳二月十七日砲長試補被仰付 月給十俵

一同年十一月廿五日今般御改革、更給禄米四拾貳俵六升被下

一同三年六月廿二日第一大隊二番小隊入被仰付候事

一同年十月十日先般事實相違之妻縁願指出、其後廉々之縁談取組候始末心  
 得違至極ニ付閉門、十一月二日被免

一同年十二月 予備二番隊 年給貳俵

一同四未四月七日右解隊被仰出候事



清田文平 病死

貳拾人扶持

寛延二巳二月廿一日家業宜ニ付被召出、惣治へ被下候御擬作貳拾五石五

人扶持被下、御書院番入

同廿三日痛所有之步行太儀内願之趣有之、御医師格被仰付、表医席被入  
 宝曆四戌九月十一日奥医並

安永五申十一月十四日家業格別相心懸候ニ付格式末之番外、御擬作廿人

扶持被成下、御近習

清田謙藏

廿人

天明五巳五月廿三日於江戸養父文平跡目無相違、大番入、御儒者被仰付、江戸御耳番定助是迄之通、右二付外二十人扶持被下、御合力金ハ是迄之通四拾兩被下

同年同月廿九日御書院番入

同七未四月三日御形合被相改万端御省略二付、御耳番定助御免被成、格式末ノ番外ニ被成下、帰京被仰付

文化八未十一月六日病死

清田丹藏 梶之助

式拾人扶持

文化八未十二月廿七日養父謙藏跡目無相違、大番入、御儒者被仰付候

文政四巳ノ十月十日御書院組へ被入

天保四巳三月十五日格式末ノ番外被仰付

天保六未正月十六日御儒者

天保十一子九月四日先年御国居住被仰付候処、思召を以此度交代被仰付、其儘御近習ニ被差置候旨被仰付候

清田<sup>ハジメ</sup>基 順三郎

〔士族〕

廿人扶持

一嘉永三戌四月十一日丹藏病中願之通養子ニ被仰付、家督式拾人扶持無相

違被下置、大御番組江被入、家業之儀ハ御試之上追而可被仰付、右為修行当分其儘京住ニ被差置

一安政三辰五月朔日御用有之候間致出福候様被仰付

一同年六月九日明道館御端立二付、当分此表へ罷在同所へ相詰候様被仰付候

一同年七月廿八日此表ニ罷在候内明道館定詰句読師被仰付、猶又御趣意通厚相心得候様被仰付候

一同四巳二月朔日御国表江家内共引越被仰付、文武之儀猶又致出精候様被仰付、依之家屋敷之儀ハ追而被下置旨被仰付、同日明道館定詰被仰付、句読師之義ハ御免被成助句読師被仰付候

一安政四巳三月廿五日家屋敷故松永次郎左衛門揚家屋敷被下置候

一同年十一月八日典籍方被仰付、但典籍方御用向之外学問厚可致研業候様被仰付候

一万延元申九月朔日此度御番割有之候処、御番士人少二付当分当務繰合七御番相勤候様被仰付候

一同月廿六日典籍方御免被成学問所江罷出、厚致修行候様被仰付候

一文久元酉八月廿日藤田新左衛門家屋敷与相对替願之通被仰付候

一同二戌十一月廿五日來春殿様御上京被遊候二付為御待請出立、亥三月御供ニ而帰

一同三亥六月四日御番頭引纏上京、九月五日帰

一同年十二月廿六日京都表動揺之節為御守衛出張二付、朝廷方為御褒美式百五十疋被下置候

一元治元子八月十三日京都へ出立、夫方長征、十二月帰

一同年十二月 基卜名替

一同二丑二月朔日賊徒警衛敦賀江出張、同九日帰

一同三卯九月廿日第一級ニ相進候ニ付花葵御紋御印被下置候

一同年十一月二日宰相様御上京ニ付速見迄御見送り、然処病氣ニ付今庄宿  
ろ帰

一同月廿六日宰相様御滞京中為御備上京被仰付、同廿九日出立、辰四月十  
日帰

一同四辰閏四月七日上京、九月十八日帰

一明治二巳二月廿一日遊撃隊被免御広間当番被仰付

一同年八月廿七日准訓蒙被仰付候事

但自宅

一月給米一年分三俵被下候事

一加藤所次

一同年十一月廿五日今般御改革ニ付、更給禄米六拾俵被下

一同月廿七日御改革ニ付役儀被免

一同年十二月二日訓蒙被仰付候事 未正月年給貳拾八俵

一同三年閏十月 第三塾掛り 中ノ馬場也 伺ニ而如此

一同四未九月二日第三塾教官

七

福井藩士履歴

そ



蘭田七郎

百石

宝永四亥三月五日父善兵衛家督被下

享保七寅十二月廿五次筆頭

享保十巳四月十八日弓指南二付依願次筆頭御免

蘭田七郎

百石

寛延二巳七月廿五日父七郎跡無相違、大番入、家業之弓精出シ可申旨、

後見相沢九郎左衛門蘭田伴蔵酒井金五左衛門被仰付

宝曆七丑八月廿九日指南

蘭田七五郎

百石

安永五申十一月五日父七郎跡知無相違、大番入、家芸之儀飯嶋三五左衛

門江相手役可致出精旨

蘭田藤左衛門

百石

天明六年五月廿五日養父七五郎跡知無相違、大御番入

文化十三子閏八月十一日御金奉行

文政二卯閏四月五日病身内願二付御金奉行御免

蘭田藤左衛門 幾次郎

百石

一文政九戌十一月廿七日養父藤左衛門家督無相違被下置、大御番組江被入

一同十二丑十月六日謙五郎様御附御近習番、御書院番組江被入

一同年江戸詰、十月十二日出立

一天保四巳十月十六日若殿様御附御近習番奥御納戸高田新七郎跡

一同五年江戸詰、三月廿八日出立

一同六未六月五日超倫院様御逝去二付御役御免、大御番組江被入

一同十亥三月五日御広敷御用達川崎茂太夫跡被仰付、御留守番組へ被入

一同十三寅江戸詰、三月十六日出立

同年三月昨年公辺方御住居御入用相調指出候様被仰出、右御用掛り出精

二付金百疋被下之

一弘化三年十月十三日役儀其儘御書院番組へ被入

一同四未江戸詰、三月廿一日出立

一嘉永三戌九月十一日御腰物数寄方奉行津田友右衛門跡被仰付

一同五子七月五日末之番外御時宜役被仰付候

一安政四巳五月十六日次男房六儀不届至極之趣相聞候二付侍御削被成、御

国拾三里四方追放被仰付候、且又其方義も兼而締り方不参届趣相聞不調

法之事二候、依之遠慮被仰付、閏五月五日御免

一同五年三月十一日病身二付内願之通隠居被仰付候

蘭田豊之助

一高百石

〔略履歴〕

同五年三月十一日親藤左衛門病身二付内願之通隱居被仰付、倅豊之助江家督如此無相違被下置、大御番組江被入候

同六年十一月十六日来申年太田御陣屋詰被仰付候

文久元酉四月廿五日太田御陣屋詰中横浜表へ長々致出張候二付、銀壹枚被下置候

同三亥二月八日年始御規式中表御小姓御雇致精勤候二付、金百疋被下置候

同年七月十九日表御小姓松波敬太郎跡被仰付候

同年十月十日中将様御上京二付御供被仰付候

元治元六月廿五日宰相様御上京中格別繁勤太儀二思召候、依之御酒被下置候

慶応二寅十月廿六日御附御馬廻り被仰付

同三卯十月廿一日新撰隊教授方被仰付、役御番組江被入

同四辰五月廿八日小隊之分隊長今立權之丞跡被仰付、御書院番組江被入  
明治二巳二月十六日番外二被仰付、役儀之義ハ御免被成、但席井戸惣三

郎次





福井県文書館資料叢書『福井藩士履歴』の利用価値

―おもに「剝札」「士族」について―

高 木 不 二

はじめに

このたび福井県文書館資料叢書として『福井藩士履歴』が刊行されることになった。これは「松平文庫」の「剝札」「士族」をはじめとする福井藩の人事関係史料を活字化するもので、まずはその壮大な計画を企画し実現に向けて動き出した、福井県および県文書館の関係者の方々に敬意を表したい。というのは、筆者にはこの史料に関する特別の思いがあるからである。史料の概要や沿革については、叢書9の吉田健氏の解説「幕末維新期の福井藩人事関係資料（松平文庫）」について」を参照していただくこととして、まずは筆者とこの史料群との浅からぬ結びつきから話を始めたい。

神奈川県在住の筆者が福井藩の研究を始めたのは、三〇年以上前の学生時代のことになる。まだ福井県立図書館が御泉水の近くにあったところで、図書館の二階にあった資料室ではじめて「剝札」に接した。福井藩に研究対象を定めたのは、横井小楠に関心があったからであったが、その背景を知ろうと安政期の藩政改革関係の史料を収集するつもりであった。当時図書館には奉仕課という部署があり、担当者が松平文庫の史料をいくつか見せてくださった。そのなかの一つが「剝札」であった。

その後何度か福井を訪れて史料調査を重ね、藩校明道館の運営の推移を中心に福井藩の安政改革研究をまとめることができたが、これがその後の私の研究の出発点となった。福井藩研究が私のライフワークとなるとともに、人事関係史料の活用の可能性をみいだすことができたのである。

福井藩関係の史料は、おもに「松平文庫」におさめられているが、長州の「毛利家文庫」や薩摩の「島津家史料」などと比べると圧倒的に史料数が少なく、そのぶん研究者とくに県外の研究者には手がかりがつかみにくい状況になっている。そうしたなかで、「剥札」や「士族」などの人事関係史料は、研究をすすめるうえで貴重な材料を提供してくれる、いわば歴史データの宝庫といっても過言ではない。

筆者の場合、これらの史料を閲覧するために福井まで出向いた回数はおそらく三〇回を越えているが、その半分以上の時間はこの人事関係史料の調査・収集にあてられている。史料を筆写し、カード化しまとめた手製のファイルは、今でも筆者にとっては門外不出の貴重な財産となっている。しかし今思うと、このために要した時間と労力は計り知れない。それが今回のプロジェクトによって、インターネットなどを用いて必要な情報を遠隔地からでも容易に入手できるようになるのである。至便というほかはない。これによって福井藩の研究は県の内外で今後より精密かつ正確に進められていくことになるであろう。

このように筆者と当該史料群との結びつきは浅からぬものであるが、以下においては筆者のこれまでの研究成果をふまえて、具体的に藩士の人事履歴がいかなるかたちで活用できるのかを提示し、これから福井藩の調査・研究に関わる方たちの参考に供したい。

## 一、制産方の発見

### (1) 「制産方」の成立

文久期の三岡八郎の富国策については、『由利公正傳』以外ほとんど史料がない。そうしたなかで、「剥札」や「士族」などにみえる人事記録が、筆者に制産方というこの時期の経済政策を遂行するうえで中心的な役割をはたした組織の存在を浮かび上がらせてくれた事例を紹介したい。

制産方の元となった製造方は「戦闘必用之器械」を製作する機関として、安政四年一月に発足

した。その組織の実体は必ずしも明らかではないが、製造部門は、銃砲（城下志比口）・火薬（吉田郡松岡）・艦船（坂井郡宿浦）というかたちで工場もそれぞれ別れており、『由利公正傳』によれば志比口だけでも盛時には職工千二百人を使役するという、かなり大規模なものであったようである。また管理部門としては、当初製造方頭取二名、同吟味役三名が任命され、その他見習をふくめたスタッフが少なからずおり、志比口の場合は、敷地内に工場とは別に役員詰所が設けられ、職工を監督し、庶務・会計をつかさどる態勢がとられていたという。

しかし松岡火薬局の二度にわたる爆発事故によって、製造方は縮小の方向に向かっていった。例えば、井戸惣三郎や本多七平の場合、「旧藩制役成」によれば安政五年七月五日付で「製造方当分御用薄に付勤向御用捨」という辞令を受け取っている。そしてこの製造方が、安政五年十一月を境に大きく組織替えをしていくことになる。次の人事記録をみてほしい。

### 【三岡八郎】

安政四巳 正月十八日 御製造方頭取被仰付候

五午 三月十八日 御製造方為御用、支度出来次第出府広く取調候様被仰付

同 十一月十六日 役儀其儘格式末之番外二被仰付、役中銀三拾枚ツ、年々被下置候、  
但席佐々木権六次

六未 六月十一日 制産方御用有之ニ付、肥後熊本表へ被差越候

万延二酉 三月 三日 御奉行役見習、御役料五拾石被下置、御水主頭次席二被成下、御役人並被仰付、且又制産方頭取其儘被仰付、銀三拾枚之儀も是迄之通  
被下置候  
（剝札「略履歴」）

### 【岡嶋恒之助（恒一）】

安政四巳 正月廿八日 御製造方見習被仰付候

表 1 安政 5 年制産方関係人事表

姓 名	石 高	異動前	異動後	異動時期
米岡源太郎	17 人扶持	製造方見習	制産方	安政 5 年 11 月 16 日
渥美助左衛門	5 人扶持切米 25 石	製造方見習	制産方	安政 5 年 11 月 16 日
都筑利八郎	3 人扶持切米 20 石	製造方見習	制産方	安政 5 年 11 月 16 日
団野真之助	5 人扶持切米 25 石	製造方見習	制産方	安政 5 年 11 月 16 日

「士族」「旧藩制役成」より作成

同 四月廿二日 御製造方吟味役被仰付候

五午 十一月十六日 制産方勤向出精二付、小者給銀百五拾匁御扶持方壱人扶持被下置候

万延元 八月十四日 制産方頭取被仰付、役中御扶持方三人扶持被下置候 (「士族」)

傍線部に明らかなように、いずれの場合も御製造方から制産方に名称が変更されている。これは単なる名称変更のかたちをとっているが、調べていくと岡嶋のほかにも安政五年十一月十六日には制産方に多数のスタッフが任命されており、大幅な組織改革がなされていたことが確認できるのである。参考のためにこの時期の人事異動で確認できる事例を一覧表として掲げておく(表 1)。ちなみに武器・弾薬・艦船製造など御製造方を中心的に担ってきたと思われる頭取佐々木権六はこの日に「病氣内願」のため休職となっている。

従来は残存史料が少なく、三岡八郎の例などから製造方と制産方は同一組織とみなされ、制産方という組織がとくに注目されることはなかったが、こうした人事データをみると、これは単に武器製造部門が延長・拡大した組織ではないのではないかという疑問が起ってきた。そこでこの背景をくわしく見ていくと、この時期は中央政界において幕府大老井伊直弼が登場し、安政五年七月には彼との政争に敗れた藩主松平慶永(春嶽)が「隠居・急度慎み」を命じられるという事件が起っており、そうした藩政の閉塞状況のなかで改革派三岡八郎らは開港にともなう海外交易を視野にいった大胆な富国策を構想し、その実現に向けて動き出していたことがわかる。そのためには藩内特産物の殖産事業を担う新しい組織が必要となる。それがすなわち「制産方」であったのである。そしてやがてこれが他藩をうらやましがらせる文久期福井藩の経済政策の中核機関として発展していくことになる。

私の福井藩研究史にとってこの「制産方」の発見は一大事件であり、それをもたらしてくれたのがほかならぬ松平文庫の人事関係史料であったのである。

表 2 文久政変時制産方関係人事表

姓 名	文久政変前	文久政変時
三岡八郎	奉行・郡奉行・制産方頭取	御役御免・蟄居
岡嶋恒之助	制産方頭取	奉行役見習
平瀬儀作	勘定吟味役・制産方頭取	御役御免・遠慮のち勘定吟味役
加藤藤左衛門	制産方頭取	製造局頭取
長谷部甚平	寺社町奉行・郡方申談	御役御免・蟄居
長谷部協	制産方頭取	大御番入り・遠慮
勝木十蔵	奉行	奉行
大井弥十郎	目付	奉行
佐々木権六	御製造掛	製造局頭取のち製造奉行

「剝札」「士族」より作成

(2) 文久政変と「制産方」の解体

文久期にはいると、この制産方の動きを梃子にして、政治的にも熊本から招いた儒学者横井小楠の思想的影響を受けた人材が結集し、藩政に大きな力をもってくる。寺社町奉行長谷部甚平や奉行見習・制産方頭取三岡八郎、目付村田巳三郎らを中心とするいわゆる文久改革派である。彼らは桜田門外の変で井伊直弼が姿を消すと、前藩主の春嶽を盛り立てて藩政の主導権をにぎり、さらに文久二年幕府が朝廷からの圧力で春嶽の罪を許し、幕政への登用を求めてくると、これにのって幕政にまで参与していく。政事総裁職となった春嶽のもとで、参勤交代を緩和させ、将軍の上洛を実現させたのも横井小楠とそれを支えた彼らの力によるものであった。

しかし国内情勢は彼らの独走を許さなかった。翌文久三年上洛した将軍は朝廷・諸藩を巻き込んだ尊攘派の反撃にあつて立ち往生し、当時の春嶽や福井藩改革派のめざした朝廷・幕府・雄藩が一体となった「公共の政」を目指す構想は実現への道を阻まれる。やむなく彼らはいったん春嶽を福井に連れ帰り、あらためて兵威をもって京都を制圧し、局面を切り開こうと画策する。しかしこれは朝廷の同意が得られなければ、福井藩は朝敵となるきわめて危険な賭けであった。ここにいたって藩論は強行論と慎重論とに二分し、最後は春嶽が計画の中止を決断した。このとき京都出兵を強硬に主張した文久改革派は藩政からの退陣を余儀なくされた。文久三年七月の「文久政変」である。筆者はこの政変を幕末における福井藩政史の一大画期と位置づけているが、文久改革派の失脚は、それまでの藩政改革路線の解体・変更を意味する。ここで文久期藩政改革策の中核組織であつた「制産方」がどうなったかを確認する必要がある。

制産方は（勘定）奉行・寺社町奉行・郡奉行などを組み込んだ全藩的組織であつたため、その解体過程は当然藩政の変化を知る手がかりとなるはずである。そこで再び藩士の履歴史料を用いて、制産方頭取の行方を中心に周辺の人事異動を追ってみた。結果は（表2）に示したとおりである。ここでは制産方という呼称は消え、「製造局（方）」という名称が登場している。しかしこの



とき復活した「製造局（方）」が安政期のそれとは異質のものであったことは、文久三年十月二十四日付の岡嶋恒之助（恒一）に対する次のような藩庁からの達しをみれば、明らかである。

以来製造方<sup>レ</sup>之儀、精々不相弛候様精励可致候、且又試験之品有之節者其趣意相達指図之上取懸候様可致候事

一 豕 綿羊 やぎ 牛 鶏

右之分好候者有之節相渡可申候

一 銅山

一 山蚕

一 元結

右之分御製造方ニ而是迄之通取扱可申事

（「家譜 茂昭公」）

すなわち制産方は姿を消し、それに代わって復活した製造方は、武器・火薬製造以外に以前制産方が手がけていた銅や山蚕などの輸出向けの有力商品生産と、元結（紙製品）という国内向けの付加価値商品生産などの殖産事業を引き継いだことがわかる。人事の改造は組織の改造であり、それはまた藩政の方向を指し示す無二の指標であるのである。

## 二、文久改革派の復権と薩摩藩との交易の開始

福井藩における文久政変は、横井小楠の思想的影響力を排除して、あらためて幕府重視・富国策偏重の是正を標榜する松平春嶽専権体制の成立をもたしたが、その後文久改革派が慶応期に復権の動きを示すことは従来の研究ではほとんど看過されてきた。しかしこれも人事履歴を追うと、容易に見えてくる事実である。次の一覧表（表3）を見てほしい。

表 3 文久改革派の復権状況一覧表

姓 名	文久政変以前	文久政変時	文久政変以後
村田巳三郎	目付	側物頭	目付（元治元年 7 月）
千本藤左衛門（東岫）	目付	御役御免・遠慮	側物頭（元治元年 8 月）
牧野主殿介（小笠原幹）	番頭	隠居・逼塞	折々御機嫌伺い許さる（元治元年 12 月）
松平主馬（長沢鷗客）	家老	蟄居	御咎御免（慶応元年 4 月）
本多飛騨	家老	蟄居	御咎御免（慶応元年 4 月）
長谷部甚平	寺社町奉行	蟄居	御咎御免（慶応 2 年 6 月）
三岡八郎	奉行・郡奉行・制産方頭取	蟄居	御咎御免（慶応 2 年 6 月）

「剝札」「士族」より作成

時期の早いものから並べたが、ではこうした文久改革派復権の時期は藩政の動向とどう関わっていたのだろうか。

元治元年の禁門の変以降、幕府は尊攘派の牙城である長州を朝敵と位置づけることが可能になり、それにもなつて幕権回復への動きが加速していった。長州征討が発令され、福井藩も第一次征討に藩主茂昭が副総督として参戦したが、この戦いが長引くのを防ぐため薩摩藩や尾張藩とともに早期に長州との和議をはかり、凱旋した。しかし幕府はこれに不満を示し、長州に「容易ならざる企て」もあるとして、慶応元年長州の再征を命じたのである。これに対し副総督として第一次征長軍の撤収を指揮した福井藩は面目を失い、再征反対をうちだすとともに幕府との距離も開いていく。これにもなつて、藩内において文久改革派に対する政治的圧力が弱まるとともに、経済的にも第一次長州出兵以降悪化していた財政状況を立て直すため、富国策に実績をもつ彼らに協力を求めざるをえない状況ができたのである。

注目すべきは、こうした時期に、当時幕府がもつとも警戒していた薩摩藩とのあいだに大規模な交易がおこなわれた事実である。この交易については福井側に公式な記録がなく、わずかに福井商人三好助右衛門の略伝「三好波静略伝」（『越前史料』国文学研究資料館）に次のような記録が元治元年三月のこととして残されているにすぎない。

嶋津侯と旧藩主と産物交易のため、薩藩より先づ川南次郎左衛門、上川左太夫の両士を遣はされ、洋反物及び砂糖を蒸汽船に登載して三国港へ輸送し来る。

これは商人間の私的な取引きとも見ることができ、実際従来の研究ではまったくこの事実が注目されることはなかった。しかし筆者が鹿児島に調査に赴いた際に、偶然発見した一つの史料が目を開かせてくれた。鹿児島県立図書館にあった汾陽次郎右衛門の記録「汾陽光遠越航日記」で

ある。この汾陽という姓は「かわみなみ」と読むが、これが先の福井側の史料にあった「川南次郎左衛門」と関係があるかもしれないと思って手にとってみると、そこには汾陽が訪れた先の福井藩関係者の名前が驚くほど多く書きこまれていた。調べていくと実はこの「汾陽光遠越航日記」は、薩摩藩長崎重役である汾陽次郎右衛門が慶応二年福井に交易交渉に赴いたときの日記だったのである。慶応期における福井と薩摩の交流の事実、ここから筆者の幕末史を見る目は大きく開けたのである。

この日記に頻出する福井藩士に、内田閑平（衡）という人物がいる。まったく耳にしたことのない人物であつたが、人事履歴を調べてみると彼こそが慶応期の福井藩の財政をになつた中心人物であつたことがわかつてきた。そしてその彼を取り巻くように、文久改革時に藩政を動かしたメンバーがあらためて登用されているのである。まずは内田の経歴を追ってみよう。

安政六未 十一月十一日 家督相続、大御番組入、制産方見習被仰付

万延元申 十月 廿日 制産方被仰付候

文久二戌 正月十七日 中將様御附御近習被仰付候

文久四子 正月 九日 御附御近習番被仰付候

元治元子 二月廿五日 御奉行役見習被仰付

慶応元 七月 十日 御内用向有之二付長崎表江被遣、同廿一日出立、十一月廿八日帰

同二寅 二月 九日 産物会所掛り被仰付

同 六月 五日 御奉行本役被仰付、御役料都合百五拾石被下置候

同 七月廿二日 御内用有之二付長崎表江罷越候様被仰付候

慶応三卯 正月十六日 他国会所掛被仰付

同 五月 二日 会所奉行被仰付候

〔士族〕

これによれば内田は制産方成立とともに見習となり、万延元年本役となりその実務を担ったが、文久二年には春嶽側近の近習となっている。文久政変後の元治元年二月には奉行役となっているが、これは三岡八郎ら失脚後の穴埋めとしての意味合いが強い。その後は春嶽専権体制のもとで側近を経験した経済官僚として、奉行の勝木十蔵らをささえつつ、慶応期の藩富国策の担い手として頭角をあらわしていったとみられる。

慶応元年・二年の二度にわたる長崎出張では、薩摩藩の経済官僚である野村宗七（盛秀）と接触し商談をおこなっていたことが「野村盛秀日記」から判明する。このとき薩摩藩長崎重役であった汾陽次郎右衛門も関与していたことは間違いなからう。そして慶応二年三月、いよいよ汾陽と乗頭川上左太夫が大量の積荷とともに藩船に乗り込んで越前の三国湊に入港する。この応接にあたったのは他ならぬ内田閑平であり、彼はこの直前の二月に奉行役見習のまま、産物会所掛りに任じられている。

汾陽らは福井に入り、多くの藩士に接触していたことが先の「汾陽光遠越航日記」に記されていたことは先に述べたが、注目すべきはここに文久期に制産方頭取をつとめた平瀬儀作と加藤藤左衛門の名がみえることである。当時平瀬は勘定吟味役、加藤は製造奉行助としての顔見世であったが、彼らの経歴からしてその存在感は名目上の役職以上に大きなものがあつたであろう。このとき両藩による交易協定が策定されたものと思われるが、文久期の富国策偏重を一旦は否定した福井藩であつたが、財政再建をせまられるなかで、内田を支えるべく彼らベテランの力を借りることになったのである。

両藩による本格的な交易がはじまるのは協定締結をうけて慶応二年六月に薩摩藩見聞役である野村宗七が福井に入ったときからであるが、このときのおもな取引内容は福井藩側が藩内とその周辺地域から買い付けた生糸と茶を薩摩側が買い取ることであつた。薩摩はこれをイギリス側に売り渡し、その利益を艦船購入などにあてようとしていたようである。ちなみに福井藩はこの

とき商品買付け資金として薩摩から一七万両の融資をうけているが、これはイギリス資本を代表するジャーディン・マセソン商会がグラバーの経営するゴロウル商社（これはグラバー商会とは別に薩摩藩との交易のために設けられた商社）を通して薩摩に貸し付けたもののようで、この福井藩と薩摩藩の交易は、御用商人のおこなう藩際交易という枠を越えて、イギリス資本がからむ藩と藩のあいだの公式交易であったのである。

しかも一七万両といえど当時の福井藩の一年間の財政規模の二倍にあたる巨大な額である。慶応二年から三年にかけて、幕府がフランス資本と結んで財政再建に向かおうとしているときに、福井藩が経済的にイギリスと結ぶ薩摩側に立っていたことになる。これは薩摩藩が慶応二年一月長州と盟約を結んで討幕路線に踏み出し、一方の福井藩は同時期においてなお公武合体路線をとっていたとする従来の定説にそぐわないように見える。なぜこの時期両藩は接近したのか。この謎をとくヒントは、当時薩摩藩が公式にはまだ福井藩とともに幕府の権力回復をめざす動きに對抗して諸侯会議をおしすすめる立場に立っていたことにあると筆者は考えている。いずれにしろ、慶応二年段階の福井藩と薩摩藩の密接な交流をみると、慶応二年一月に結ばれた薩長盟約がそのまま薩摩藩の武力討幕路線に直線的に結びついたとする従来の定説を簡単に受け入れるわけにはいかなくなる。

こうした明治維新史にかかわる重大な事実を筆者に示唆してくれたのが他ならぬ福井藩研究であり、そのとき藩士の履歴史料が大いに役立った事はいくら強調してもし過ぎる事はない。

本史料が今後も順調に刊行されることを切望するとともに、本史料を活用してこれから福井藩の歴史がさらに広く深く解明されることを期待したい。

なお最後に、福井藩を代表するテクノクラート佐々木権六や、藩政改革のキーマンの一人である長谷部甚平の履歴に関して、近年地元福井の歴史家によってこのデータを基礎にして更に他の史料にも踏み込んだ詳細な伝記研究が進められていることを付記しておく（長野栄俊「佐々木権

六（長淳）に関する履歴・伝記史料の紹介」『若越郷土研究』五二の二、二〇〇八年三月、本川幹男「幕末の福井藩士長谷部甚平について」『福井県地域史研究』第一三号、二〇一二年七月）。





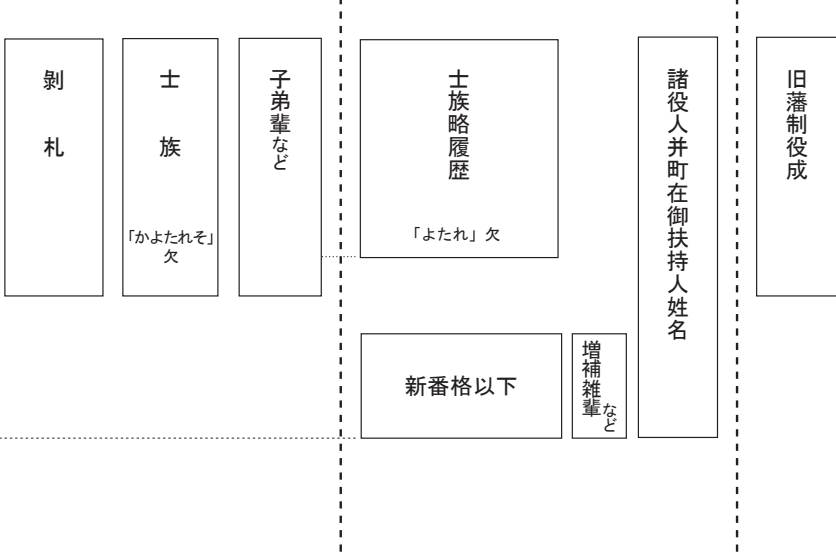
参考資料

各資料と家格などとの関係

福井藩家臣団の家格別人数  
(嘉永5年)

家 格	人 数
本多家	1
高知席	16
高 家	2
寄合席	38
定座番外席	14
番士（役番外 番など）	106
新番・新番格	495
医師・絵師など	81
	49
士分合計	802
与力	39
小役人	84
一統目見席	87
小算・坊主・下代	347
諸組(足軽)	1,341
卒合計	1,898
家臣団総計	2,700

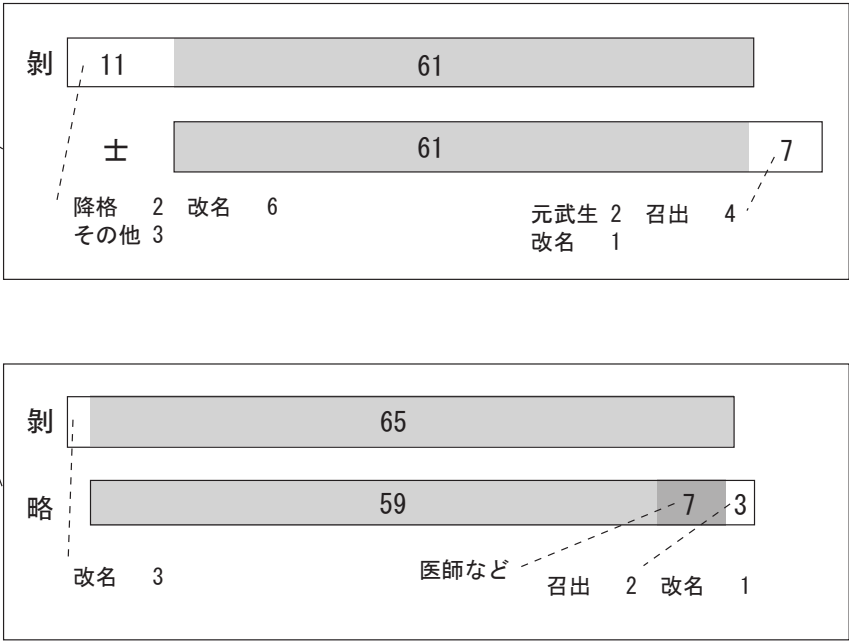
・荒子・中間等の小者973人を除く  
・舟沢茂樹氏「福井藩家臣団と藩士の昇進」  
『福井県地域史研究』創刊号 1970年による



剥札と士族・士族略履歴との連繋（い・かを例に）

資料別家数・人数

	剥	士	略	藩
あ	46	47	41	51
い	72	68	62	69
う	13	14	11	14
え	8	7	6	8
お	68	77	65	76
か	68	欠	59	75
き	12	9	7	9
く	21	25	18	24
け	2	2	2	3
こ	22	23	20	28
さ	45	47	40	47
し	19	20	18	19
す	23	27	26	29
せ	10	10	7	10
そ	1	欠	1	1
た	68	欠	欠	71
ち	2	2	6	2
つ	25	23	17	24
て	2	3	3	3
と	14	19	11	17
な	50	52	41	55
に	17	15	15	17
ね	1	1	1	2
の	12	11	10	11
は	40	46	37	52
ひ	26	23	20	23
ふ	10	9	9	10
ほ	24	26	22	28
ま	36	43	32	43
み	29	36	23	31
む	9	10	7	11
め	1	1	1	1
も	8	7	5	7
や	43	50	41	53
ゆ	2	1	2	1
よ	22	欠	欠	28
わ	10	15	8	11



- ・「剥札」「士族」は一連の資料で、幕末維新期の福井藩家臣団（士分以上）の人事記録としてはもっとも充実している。
- ・「士族」の第3冊（かよたれそ）が欠本、「（士族略履歴）」「旧藩制役成」で補完が必要。
- ・「剥札」と「士族」「（士族略履歴）」は、ほぼ連繋する。「剥札」では改名や卒への降格、「士族」「（士族略履歴）」では子弟の新規召出（戊辰戦争など）、武生家臣などの新規繰入（明治3年2月）などが不連繋の原因。
- ・資料別家数・人数の「あ」～「そ」は確定値。「た」以下は筆耕原稿などによる概数。



福井藩士履歴 3 けゝそ

福井県文書館資料叢書11

平成二十七年二月二十五日 発行

編集発行 福井県文書館

九一八―八二二三

福井県福井市下馬町五一―一一

電話〇七七六―三三三―八八九〇

印刷 創文堂印刷株式会社

九一八―八二三一

福井県福井市問屋町一―七

電話〇七七六―三三三―三三三(代)

